

第 325 図 区画 AF 土壌出土遺物 (26)

第 80 表 区画 AF 土壌出土遺物観察表 (9) (第 325 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[4.5]	0.9	0.6	4.8	SK237	黄色透明 中実	
2	硝子製品	筭	[4.1]	0.1	0.8	5.1	SK263	黄色透明 中実 被熱か	

18 は粘板岩製の携帯用硯である。側面にはノコギリ状工具痕に類似する平行する線条痕が遺存している。内面には朱墨が付着する。

第 324 図 19 は凝灰岩製硯で、内面に刃物傷が多数みられ、研具へ転用されている。

22 は粘板岩製の硯で、黒色塗布物がみられる。表面に削り痕、側面には刃物傷状の線条痕がみられ、研具へ転用されている。

⑦区画 AG の土壌

区画 AG は第 6 号杭列より南に位置する。南端は調査区外であり、区画の幅は不明である。『絵図』にみえる「明地・明家 / 平八持」、『営業便覧』にみえる「菅谷藤二郎」である

土壌は 39 基検出され、建物跡との重複はみられない。区画中央から西側にかけて密に分布する。平面形態はおおよそ隅丸長方形を呈するものが多く、長軸方向は西側の土壌は日光道中と平行する傾向がある。

第 81 表には位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は第 194・203・261・262・264 号土壌である。第 326・337 図に遺構図、第 327～355 図に各遺構の出土遺物を示した。

非抽出となった土壌は第 356・357・358 図に遺構図、第 359～371 図に各種別ごとの出土遺

物を示した。

第 194 号土壌 (第 326・327～329 図)

F 7-G 8 グリッドに位置し、第 264 号土壌より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.6 m、短軸 0.6 m、深さ 0.2 m を測る。長軸方位は N-72°-E を指す。

第 264 号土壌の中に掘り込まれており、出土遺物も明確な時期差はみられないが、土層の堆積状況から別遺構と考えられる。短期間の間に廃棄が繰り返されたのであろう。覆土は焼土を含むシルト質土を主体とする。

下層には貝類がみられ、ハマグリとサルボウが出土している。その他の自然遺物ではモモの種子がみられる。遺物は、陶磁器類が多く出土している。磁器の湯呑形碗を主体とし、瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形そり皿 (第 327 図 9) を最新期とする。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 327～329 図に出土遺物を図示した。第 327 図 1・2 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。1 は大型で口縁部の反りが弱く、2 は小型で口縁部の反りが強い。3 は肥前系、4 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。3 は大型で高台高が低く、内外面に染付がみられる。4 は小型で、外面は染付である。

5 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。高台が「ハ」

字状に開き、外面は染付である。

6は肥前系磁器の卵殻手坏である。輪高台で、内面に赤・黒・緑・黄色で上絵付が施される。

9は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形そり皿である。内面に型押し陰刻文がみられる。最新期の陶磁器である。

10は肥前系磁器の大皿である。口縁部は輪花

状で、内面に鯉を描いた染付がみられる。鱗部分は陽刻状である。高台内に釘書き「八」がみえる。第203号土壇出土破片と接合関係にある。

13・14は陶器灯明皿のいわゆる油受皿である。受け口の切込みは「V」字状を呈し、地方窯系と考えられる。胎土は緻密、硬質である。

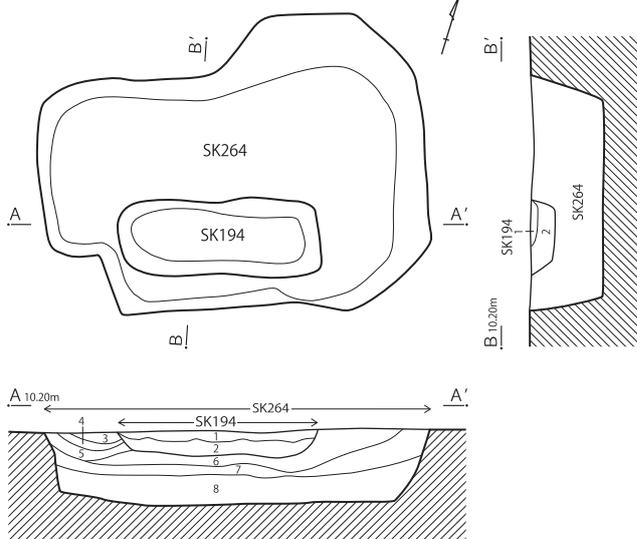
15は地方窯系陶器の香炉である。高台内に白

第81表 第一面区画AG土壇一覧表

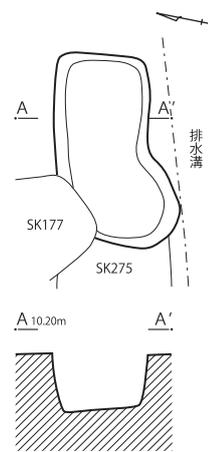
単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
163	F7-G7	隅丸長方形	1.25	0.80	0.15	N-68° -E	SK203と重複	356
168	F7-G7	隅丸長方形	1.05	0.55	0.20	N-11° -W	SK183・203より新	356
174	F7-G7	不明	1.00	(0.65)	0.50	計測不能	SK188・203より新	357
176	F7-G7	円形	0.55	0.50	0.15	N-49° -W	SK331と重複	356
177	F7-G7	楕円形	0.90	0.80	0.40	N-40° -W	SK261・275と重複	356
178	F7-G7	不明	0.80	[0.80]	0.25	計測不能	SK203より新	356
179	F7-G7	隅丸方形	1.10	1.00	0.20	N-21° -W	焼土遺構1・SK203より新 SK208と重複	356
183	F7-G7	隅丸長方形	1.00	0.70	0.05	N-77° -E	SK168より古 SK203より新	356
184	F7-G7	隅丸長方形	0.85	0.60	0.40	N-84° -E	SK185より新 SK262と重複	356
185	F7-G7	楕円形	1.00	(0.40)	0.30	N-57° -E	SK184より古 SK262と重複	356
186	F7-G8	円形	0.65	0.60	0.40	N-17° -W		356
187	F7-G7	円形	0.40	0.35	0.15	N-51° -W		356
188	F7-G7	楕円形	(1.10)	0.80	0.50	N-12° -W	SK174より古 SK202・203より新	357
189	F7-G7	隅丸長方形	2.75	0.70	0.20	N-13° -W	SK204・焼土遺構1より新 P19と重複	357
190	F7-G8	隅丸長方形	1.25	0.55	0.20	N-15° -W		356
191	F7-G8	長楕円形	1.10	0.55	0.30	N-12° -W		356
192	F7-G8	隅丸長方形	1.20	0.75	0.25	N-14° -W	SK193・231と隣接	356
193	F7-G8	隅丸方形	0.85	0.75	0.20	N-13° -W	SK231と重複 SK192と隣接	356
194	F7-G8	隅丸長方形	1.60	0.60	0.20	N-72° -E	SK264より新	326
195	F7-G7	楕円形	0.55	0.40	0.20	N-37° -W		356
202	F7-G7	隅丸長方形	(1.05)	0.80	0.25	N-13° -W	SK188より古 SK242より新 SK203・262と重複	357
203	F7-G7	不整形	4.50	3.90	0.70	N-86° -E	SK168・174・178・179・183・188より古 SK291より新 SK163・202と重複	337
204	F7-G7	不明	0.60	(0.35)	0.05	N-13° -W	SK189より古	357
208	F7-G7	円形	1.05	1.00	0.40	N-50° -E	焼土遺構1より新 SK179・331と重複	357
231	F7-G8	楕円形	0.70	(0.50)	0.15	N-48° -W	SK193と重複 SK192と隣接	356
240	F7-G7	円形	0.80	0.75	0.45	N-48° -W		356
242	F7-G7	不明	(0.25)	0.40	0.15	N-13° -W	SK202より古	357
243	F7-F・G8	楕円形	3.00	1.95	0.50	N-32° -W	SK244と重複	357
244	F7-G8	不整形	1.60	1.20	0.45	N-89° -W	SK243と重複	357
250	F7-G8	楕円形	1.50	(0.70)	0.25	N-72° -E		358
251	F7-G8	楕円形か	0.80	(0.35)	0.30	N-79° -E		358
254	F7-G8	隅丸方形	0.65	0.60	0.30	N-67° -E		358
261	F7-G7	不整形	1.55	0.90	0.45	N-80° -E	SK177・275と重複	326
262	F7-G7	不明	(0.70)	0.60	0.30	N-72° -E	SK184・185・202と重複	326
264	F7-G8	不整形	3.10	2.35	0.60	N-73° -E	SK194より古	326
275	F7-G7	不明	(0.95)	1.05	0.40	N-67° -E	SK291より新 SK177・261と重複	358
291	F7-G7	楕円形	1.15	0.90	0.25	N-75° -E	SK203・275より古	358
309	F7-G8	不整形	1.25	0.95	0.10	N-75° -W		358
331	F7-G7	隅丸長方形	(1.30)	0.70	0.45	N-15° -W	SK176・208と重複	357

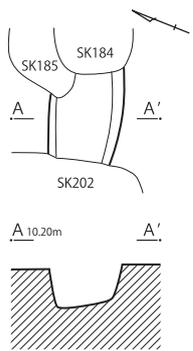
S K 194・264



S K 261



S K 262



S K 194 (1, 2)・S K 264 (3～8)

- | | | | | | |
|---------|------|---------------|----------|-------|------------|
| 1 灰褐色土 | シルト質 | 焼土を層状に含む | 5 暗褐色土 | シルト質 | 均質 |
| 2 暗灰褐色土 | シルト質 | 焼土粒子少量 貝類含む | 6 青灰色土 | 均一 | 木片含む |
| 3 暗黄褐色土 | シルト質 | 均質 | 7 褐色有機物層 | 均一 | 破碎した木質か |
| 4 暗褐色土 | シルト質 | 炭化物(φ1～2mm)少量 | 8 青灰色土 | やや不均一 | 木片多量 ラミナ発達 |



第 326 図 区画 AG 土壌 (1)

化粧がみられ、内面上位から外面にかけて白化粧後に鉄絵を施し、施釉している。内底面には重ね焼き痕がみられる。胎土は緻密、硬質である。挿図は接点のない上下2片から復元した。

16 は産地不詳陶器の香炉である。胎土は光沢のある石英質である。外面に鎬文と鉄釉がみられる。底部には墨書がみられるが、判読できなかった。

19 は瀬戸美濃系陶器の植木鉢である。外面上位に段が付き、口縁部の形状は近・現代的な様相を呈する。弱く被熱している。

21 は瓦質土器の蓋である。火消壺の蓋で、口縁部に布目痕が残る漆喰が付着する。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。

23 は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、丸みが弱く、扁平な器形である。体部下位にケズリがみられ、胎土は角閃石が一定量含まれる。在地産と推定される。

24 はかわらけの中皿である。底部は糸切痕がナデ消され、二次穿孔がみられる。胎土は細粒な

雲母を含む粉質である。栗橋宿では小皿が主体で、中皿以上の大きさのかわらけは稀である。第 264 号土壇出土破片と接合関係にある。

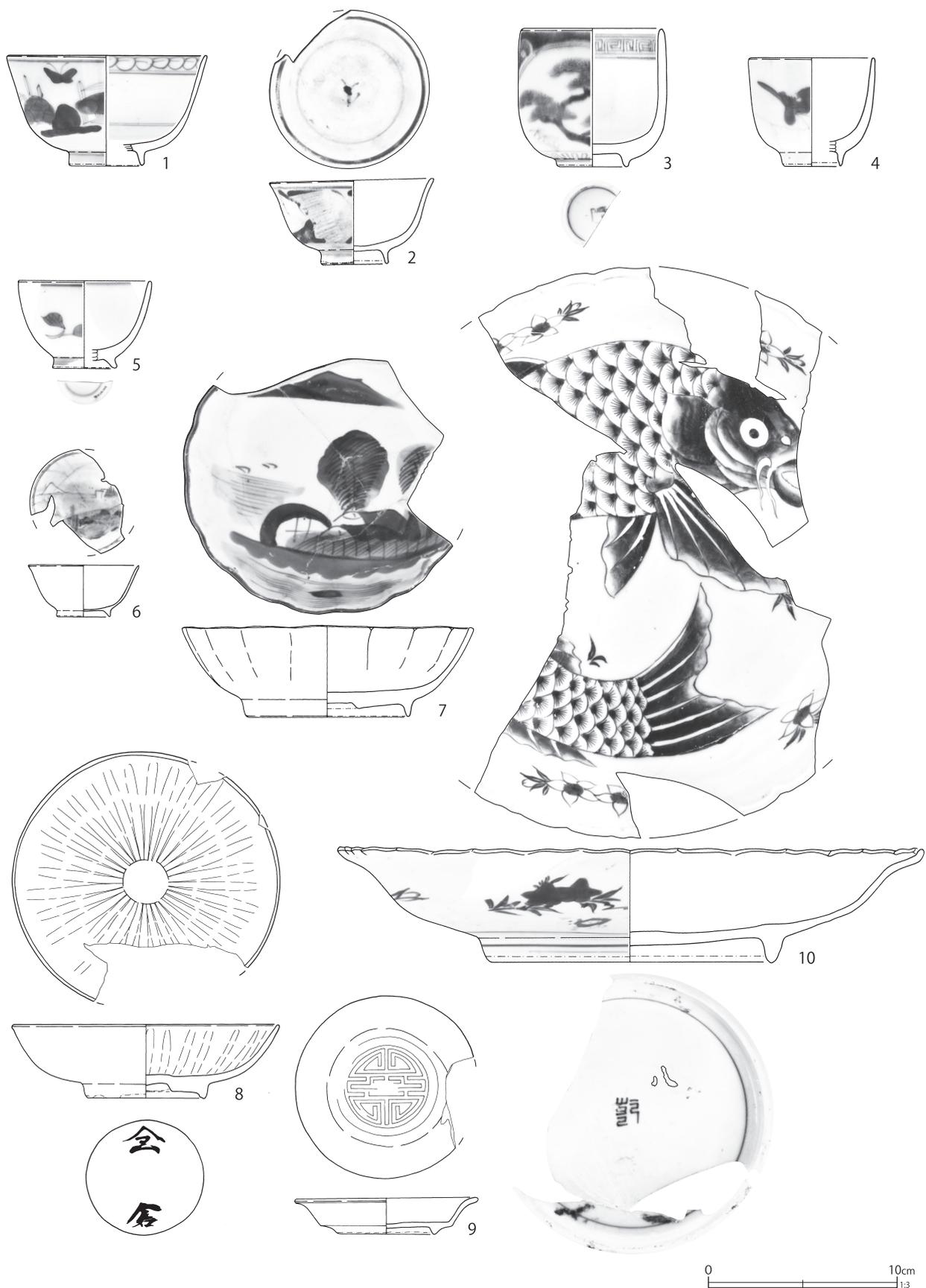
第 329 図 25 は須恵器の坏である。栗橋宿では、遺構の覆土や整地層などに古代以前の遺物が含まれる。遺構そのものは確認できないものの、栗橋宿周辺に古代以前の遺跡の存在が示唆される。胎土の様相から東金子産の可能性はある。9 世紀中葉頃の所産である。

26 は轆の羽口である。内面はシワ状痕がみられ、胎土に多量の赤色粒子が含まれる。第三面の第 497・500 号土壇では多量の羽口が出土している。

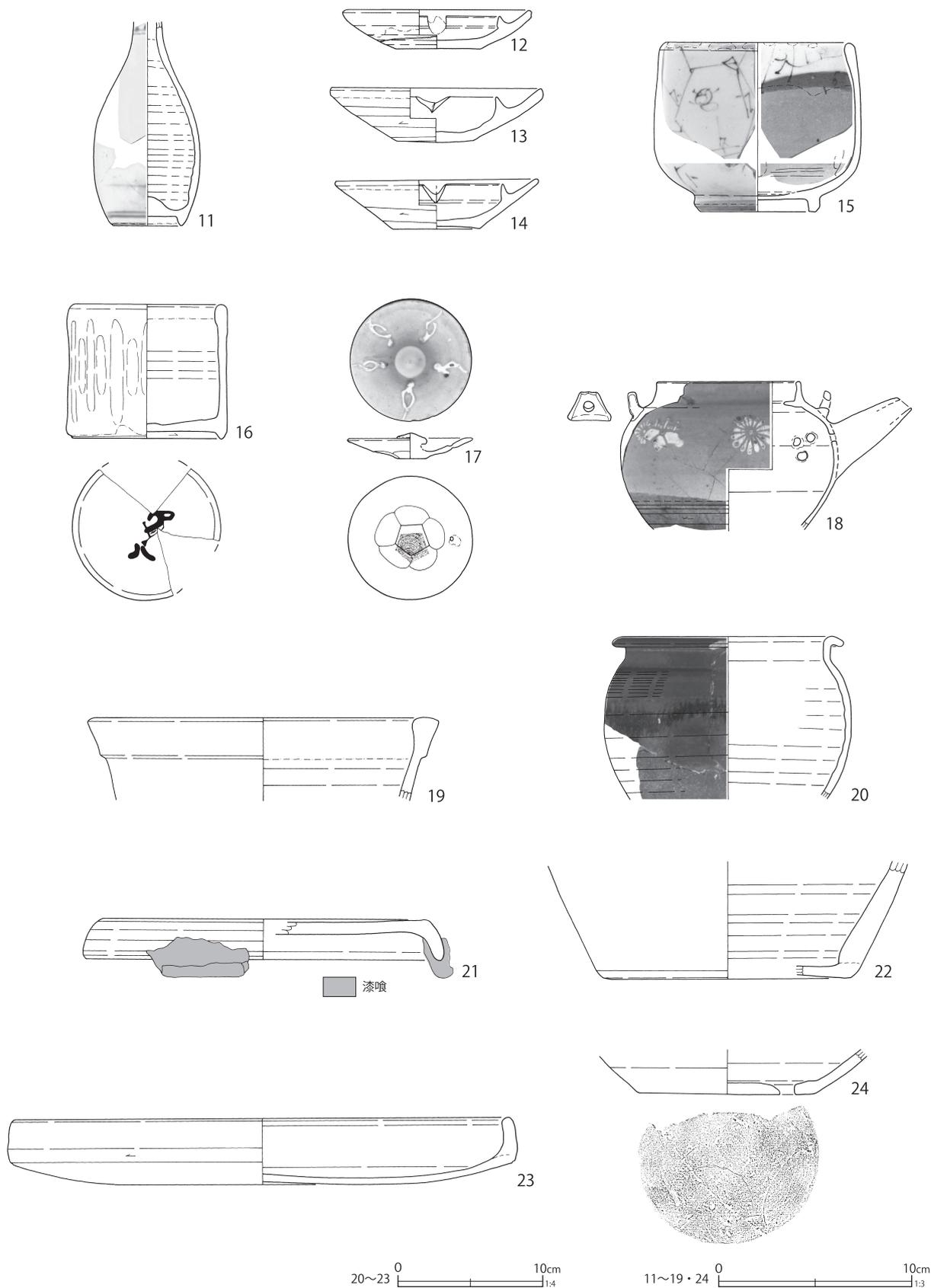
27 は土製品の芥子面である。型成形で作られている。

28 は隅切りが残る棧瓦である。凹面に刃物傷が多数みられ、転用が示唆される。29 は袖瓦である。

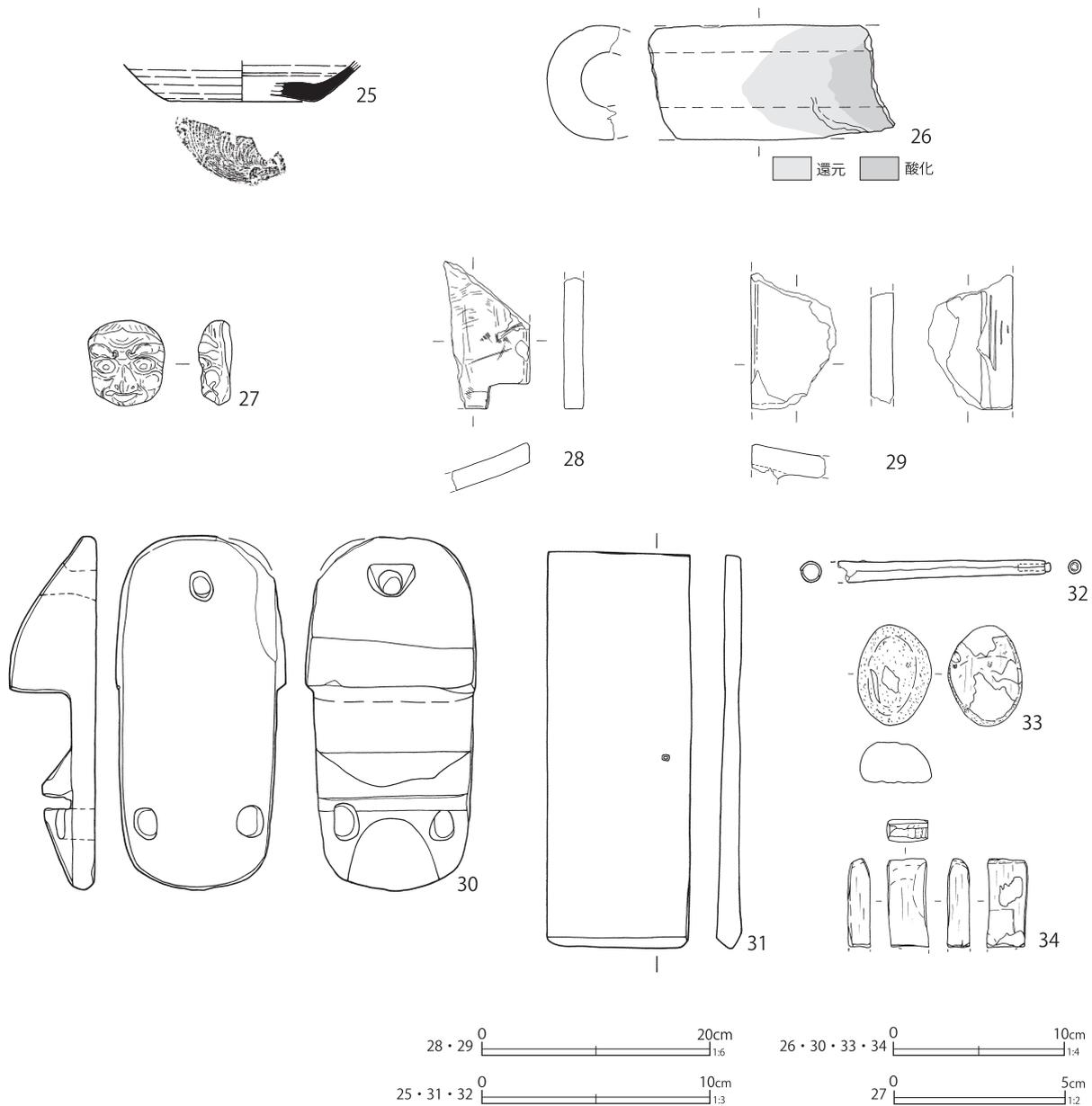
30 は木製品の後歯下駄である。被熱によるものか、焼け焦げがみられる。31 は木札である。



第 327 图 第 194 号土壙出土遺物 (1)



第 328 図 第 194 号土壙出土遺物 (2)



第 329 図 第 194 号土壌出土遺物 (3)

墨書「新 / [無類] / 台安」、「㊦」等が見えるが、意味するところは不明である。

32 は用途不明の銅製品である。中空で、端部に栓のようなものが接続する。

33 は多孔質の角閃石安山岩製磨石である。下面は平坦で、断面形が半円状を呈する。自然面は大きく残されている。

34 は緑色気味の流紋岩製砥石である。側面、裏面に工具痕が遺存する。

第 261 号土壌 (第 326・330・331 図)

F 7-G 7 グリッドに位置し、第 177・275 号土壌と重複する。平面形は不整形で、長軸 1.55 m、短軸 0.9 m、深さ 0.45 m を測る。長軸方位は N-80°-E を指す。覆土の状況は確認できなかった。

遺物は一定量出土している。自然遺物ではヤマトシジミ、ハマグリ、モモの種子が出土している。陶磁器類は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏が最新期である。灯明皿が多く出土しており、すべて瀬戸美濃系である。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

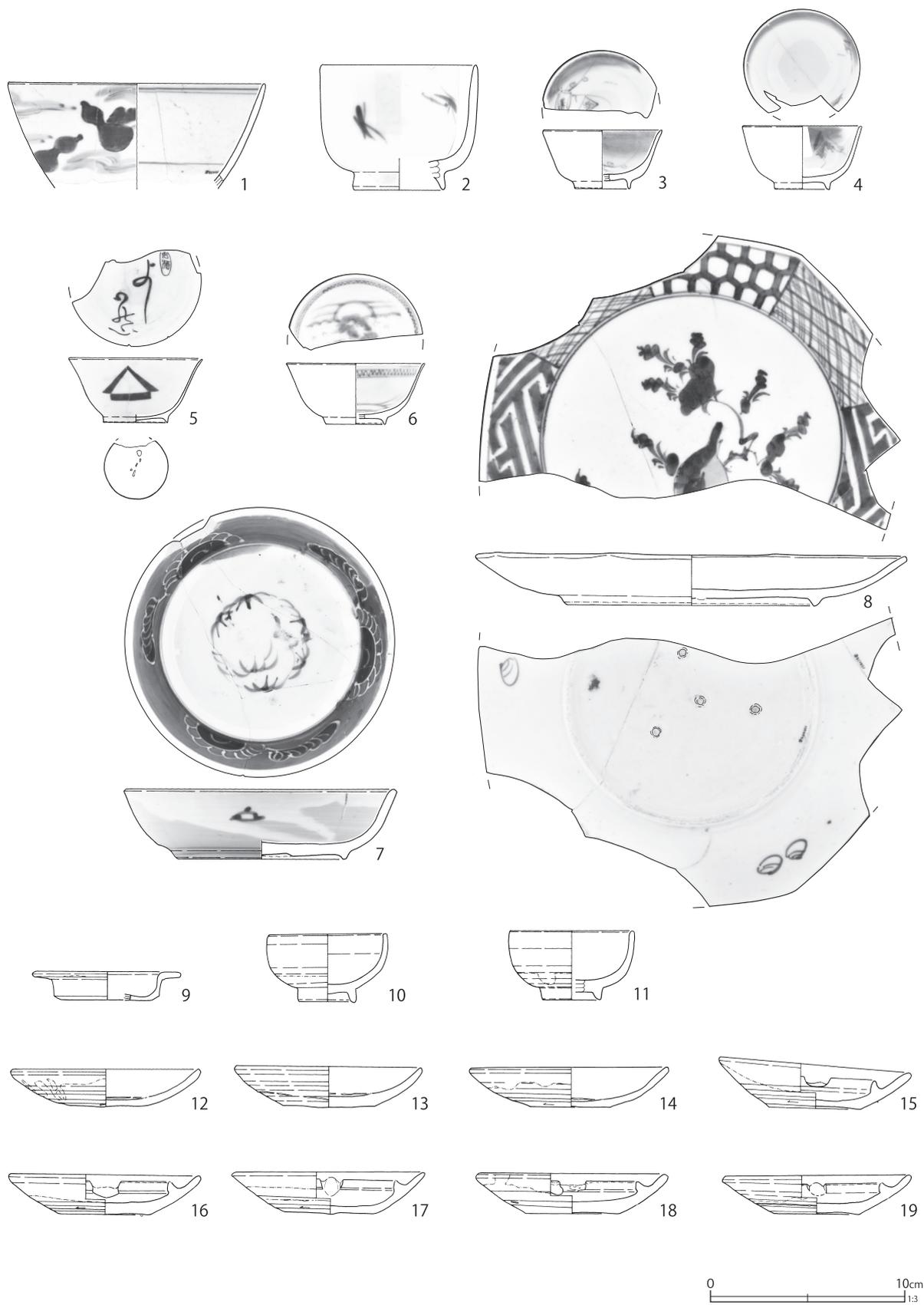
第 82 表 第 194 号土壙出土遺物観察表 (第 327 ~ 329 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.4)	5.8	(3.8)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	8.4	4.4	3.3	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱	
3	磁器	碗	(7.6)	7.3	3.5	K	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	(6.4)	5.7	(3.0)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
5	磁器	碗	(6.8)	4.6	(3.2)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
6	磁器	坏	(5.7)	2.7	(2.7)	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 (赤・緑・黒・黄)	
7	磁器	皿	(15.0)	4.8	8.4	—	75	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 SK196 と接合	
8	磁器	皿	13.8	3.9	6.0	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押施文 口紅 高台内墨書	76-7
9	磁器	皿	9.4	1.9	5.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文	
10	磁器	皿	(30.6)	6.0	14.7	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 内面陽刻施文 高台内釘書「八」SK203 と接合	
11	磁器	德利	—	[10.5]	3.5	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付	
12	陶器	灯明皿	9.2	2.0	4.3	K	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕	
13	陶器	灯明皿	10.7	2.8	4.0	EIK	95	良好	にぶい橙	内外面施釉	
14	陶器	灯明皿	10.3	2.5	4.5	IK	90	良好	灰白	内外面施釉	
15	陶器	香炉	(9.4)	8.7	5.9	K	40	良好	黄灰	内外面白化粧後鉄絵・施釉 高台内白化粧 内底面重焼痕 接点のない上下2片から復元	
16	陶器	香炉	(7.5)	6.9	7.6	EIK	45	良好	灰白	外面鏝・鉄釉 高台内墨書	
17	陶器	蓋	—	1.4	1.5	K	100	良好	灰白	底部糸切痕・鏝 上面施釉・イッチン描き文 孔は釉で塞がる 最大径 6.4 cm	
18	陶器	土瓶	(7.2)	[7.6]	—	K	55	良好	灰白	外面灰釉・盛絵 内面煤付着	
19	陶器	植木鉢	(18.0)	[4.3]	—	IK	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面施釉 被熱 (弱)	
20	陶器	甕	(14.4)	[11.3]	—	EIK	70	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 外面漆黒釉薬流し掛け	
21	瓦質土器	蓋	—	[2.8]	(24.5)	CHIK	35	普通	にぶい橙	上面砂目 体部上端ケズリ 燻す 口縁部漆喰付着 (布目痕あり)	
22	瓦質土器	火消壺	—	[8.0]	(17.0)	CHIK	20	普通	にぶい黄橙	砂目底 体部下端ケズリ 燻す 内面白物質付着 外面被熱 (剥落)	
23	土師質土器	焙烙	(34.0)	4.6	(34.6)	CHIK	35	普通	にぶい黄橙	砂目底 体部下位弱いケズリ 底部端部～体部・内底面煤付着	
24	かわらけ	中皿	—	[2.2]	9.2	AHIK	50	普通	にぶい黄橙	底部糸切後ヘラナデ 胎土粉質 二次穿孔 1 遺存 SK264 と接合	
25	須恵器	坏	—	[1.7]	(6.3)	DEI	20	普通	灰	東金子産か 9 c 中葉	
26	土製品	羽口	長さ [13.3] 外径 6.2 内径 3.2 重さ 272.3			CFHI	40	普通	明褐灰	内面シワ状痕 外面ケズリ 胎土赤色粒子多量	
27	土製品	芥子面	長さ 2.5 幅 2.2 厚さ 1.0 重さ 4.5			AHK	—	良好	橙	一枚型成形 中実	122-13
28	瓦	棧瓦	長さ [13.1] 幅 [7.6] 厚さ 1.7 高さ [4.3]			AIK	—	普通	灰白	燻す 刃物傷あり	
29	瓦	袖瓦	長さ [12.0] 幅 [7.5] 厚さ 2.8 高さ [3.5]			AIK	—	普通	灰白	燻す	123-20
30	木製品	下駄	長さ 20.8 幅 9.0 高さ 5.1							板目 後歯下駄 一部炭化	
31	木製品	木札	長さ 17.4 幅 6.3 厚さ 1.1							板目 表面墨書 樽の側板転用	146-2
32	銅製品	不明	長さ [9.4] 径 0.9 厚さ 0.1 重さ 9.6							中空 端部に栓カ	
33	石製品	磨石	長さ 5.9 幅 4.3 厚さ 2.4 重さ 32.8							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面 1	140-3
34	石製品	砥石	長さ [5.2] 幅 2.4 厚さ 1.3 重さ 31.0							流紋岩 (緑色) 側・裏面幅広工具痕カ 砥面 4	

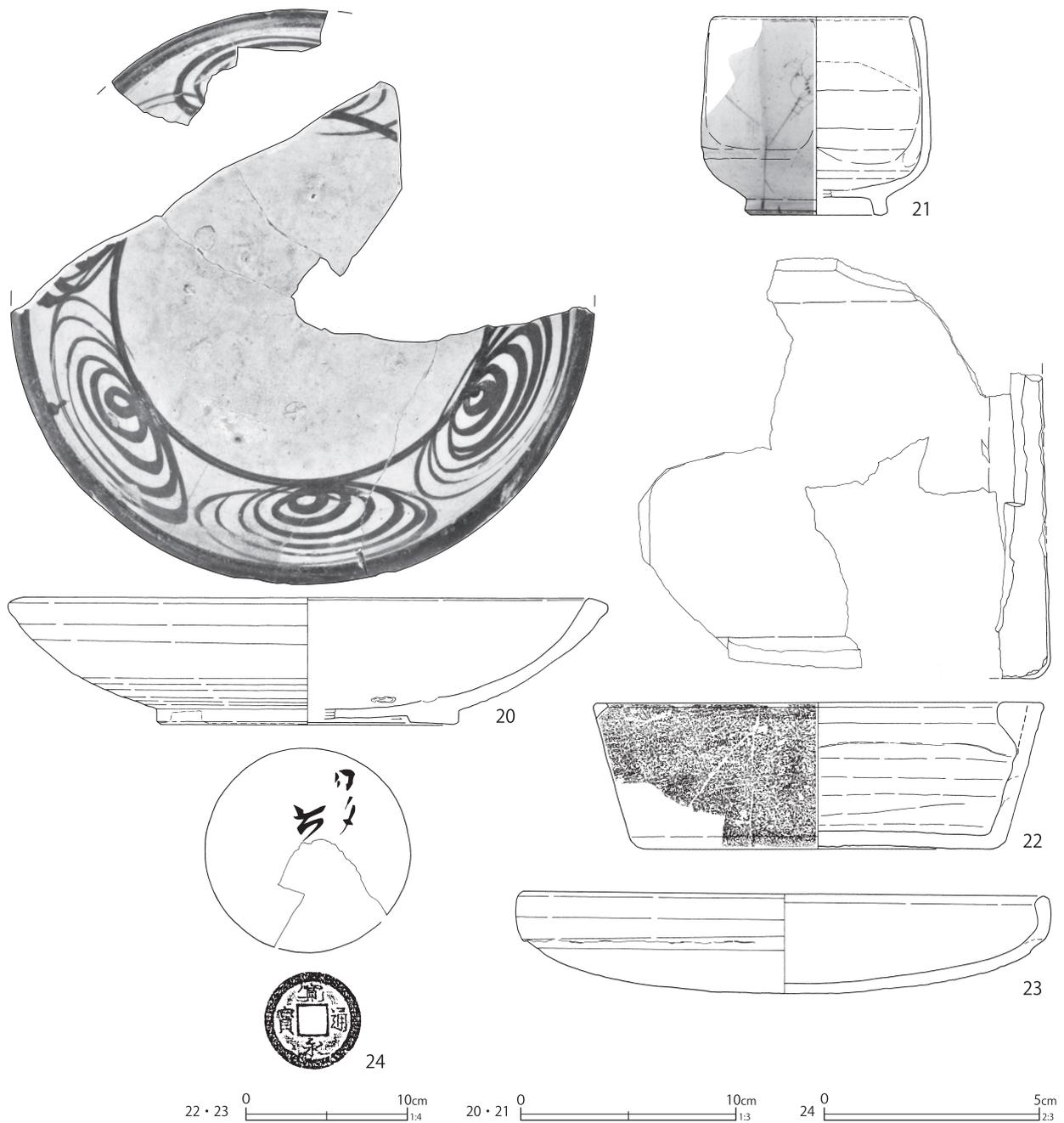
第 330・331 図に出土遺物を図示した。第 330 図 1 は肥前系磁器の広東碗である。内外面に染付が施され、焼継痕がみられる。2 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に染付がみられる。3・4 は瀬戸美濃系磁器の端反形坏である。内面に染付がみられ、4 は薄手である。

5 は瀬戸美濃系、6 は肥前系磁器の卵殻手坏である。高台は輪高台を呈し、5 は赤と緑で上絵付が施され、外面に「△」、内面に文字がみえる。焼継痕がみられ、高台内には焼継印が認められる。6 は内面に染付が施される。

7 は肥前系磁器の五寸皿である。高台高の低い



第 330 图 第 261 号土壙出土遺物 (1)



第 331 図 第 261 号土壌出土遺物（2）

蛇ノ目凹形高台で、内底面は笹文の染付がみられる。内側面は墨弾き染付である。

8は肥前系磁器の中皿である。内外面に染付が施され、平面は八角形と推定される。高台内に窯道具痕が4箇所みられる。

9は糠白釉がかかる落とし蓋で、大堀相馬系陶器の可能性ある。

10・11 瀬戸美濃系陶器の坏である。内外面に

灰釉が施釉され、ナデ高台である。

12～19は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。12～14は油皿で、外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。12・14は内面、13は内外面に輪状重ね焼き痕がみられる。15～19は油受皿である。受け口の切込み形状は15～17・19は「U」字状、18は角形である。外面下位から底部にかけて釉が拭き取られ、17～19は外面

第 83 表 第 261 号土壌出土遺物観察表 (第 330・331 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	(13.0)	[5.4]	—	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり	70-9	
2	磁器	碗	(7.8)	6.4	(4.6)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付		
3	磁器	坏	(6.0)	3.0	(2.8)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付		
4	磁器	坏	6.0	3.3	2.7	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付		
5	磁器	坏	(6.8)	3.3	3.3	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(緑・赤)「△」焼継痕あり 高台内焼継印(赤)		
6	磁器	坏	(7.0)	3.1	(3.0)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付		
7	磁器	皿	13.6	3.6	8.4	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施釉(外面刷毛目釉状)・染付		
8	磁器	皿	(21.8)	2.6	12.7	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡4あり		
9	陶器	蓋	(7.6)	1.4	(4.6)	K	35	良好	灰白	大堀相馬系カ 上面糠白釉		
10	陶器	坏	(6.0)	3.5	2.8	IK	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉		
11	陶器	坏	(6.2)	3.5	(2.9)	EIK	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉		
12	陶器	灯明皿	9.5	1.9	4.0	IK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕(径4.4cm)		
13	陶器	灯明皿	9.4	2.1	4.7	IK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り・輪状重焼痕		
14	陶器	灯明皿	10.0	2.1	4.2	IK	100	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕(径3.3cm)		
15	陶器	灯明皿	9.6	2.5	4.7	IK	95	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部下位重焼痕 SK275 と接合		
16	陶器	灯明皿	9.6	2.0	4.6	IK	30	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り		
17	陶器	灯明皿	9.7	2.3	4.7	IK	100	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕(径6.8cm)		
18	陶器	灯明皿	9.4	2.0	4.8	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕		
19	陶器	灯明皿	9.4	2.0	4.4	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕 17 痕(径6.8cm)		
20	陶器	皿	(26.0)	[5.9]	13.5	EIK	65	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面鉄絵・目跡5 遺存 高台内墨書「ワノメ/六」		
21	陶器	香炉	(8.9)	9.2	(6.0)	IK	25	良好	灰黄	内外面白化粧後施釉 外面鉄絵 高台内白化粧 内底面輪状重焼痕 六角形		
22	瓦質土器	火鉢	27.6	[9.1]	21.8	CIK	50	普通	灰白	砂目底 外面ヘラナデ 口縁部敲打痕 剥落著しい 脚部欠失		
23	土師質土器	焙烙	32.2	6.2	32.2	CFGHK	80	普通	にぶい橙	底部シワ状痕 体部煤付着		
24	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.6									寛永通寶(新)

に輪状重ね焼き痕がみられる。

第 331 図 20 は瀬戸美濃系陶器の馬目皿である。灰釉が施釉され、内面は鉄絵である。高台内に墨書「ワノメ/六」がみえる。「六」の下は欠失している。馬目皿の大きさ、もしくは値段を意味するのであろうか。

21 は産地不詳陶器の六角形を呈する香炉である。第 194 号土壌出土製品(第 328 図 15) と同一個体の可能性がある。高台内に白化粧がみられ、内面上位から外面にかけて、白化粧後に鉄絵を施し、施釉している。

22 は瓦質土器の角火鉢である。底部無調整の砂目底で、体部はヘラナデ調整である。口縁部は

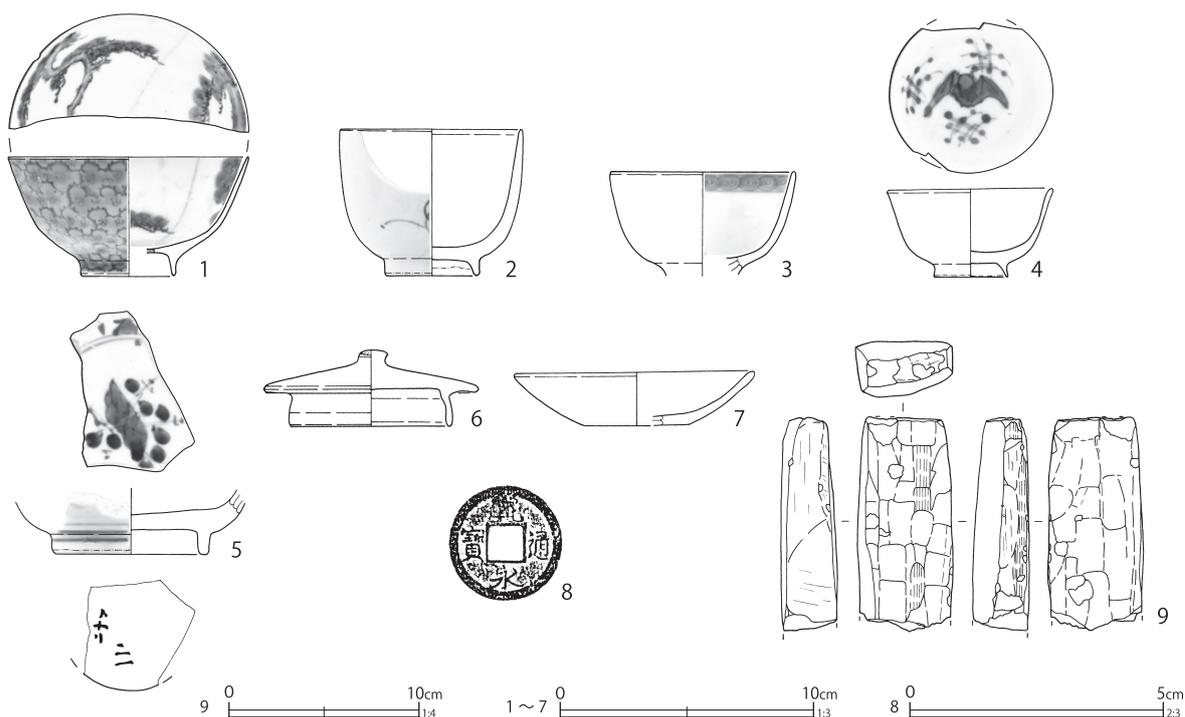
敲打による剥落が著しい。四脚の脚部は欠失している。23 は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整でシワ状痕が残る。底部の丸みは顕著で、器高が高い。

24 は銅製の新寛永通寶である。

第 262 号土壌 (第 326・332 図)

F 7-G 7 グリッドに位置し、第 184・185・202 号土壌と重複する。平面形は、重複により東西端が壊されており、不詳である。検出長軸は 0.7 m、短軸 0.6 m、深さ 0.3 m を測り、長軸方位は N-72°-E を指す。覆土は確認することができなかった。

出土遺物は少量だが、瀬戸美濃系磁器の湯呑形



第 332 図 第 262 号土壙出土遺物

第 84 表 第 262 号土壙出土遺物観察表 (第 332 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	(9.3)	4.7	(3.6)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
2	磁器	碗	(7.0)	5.8	3.5	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付		
3	磁器	碗	(7.2)	[4.0]	—	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面瑠璃釉) 内面染付		
4	磁器	坏	6.4	3.5	2.8	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付		
5	磁器	鉢	—	[2.6]	(5.8)	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内 焼継印 (赤) 被熱	77-10	
6	陶器	蓋	(8.5)	3.0	(6.2)	K	60	普通	灰白	大堀相馬系カ 上面糠白釉 被熱カ		
7	施釉土器	灯明皿	(9.4)	2.1	(4.0)	AIK	20	普通	橙	江戸在地系 底部糸切痕 胎土粉質 内外面施釉 (剥落) 口縁部煤付着		
8	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.2 重さ 2.5								寛永通寶 (新)	
9	石製品	砥石	長さ [11.3] 幅 5.1 厚さ 2.9 重さ 248.8								流紋岩 (緑色) 表・側・裏面楯歯状工具痕 砥面 1	139-14

碗、瑠璃釉の小碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 332 図に出土遺物を図示した。1 は肥前系磁器の丸碗である。内外面に丁寧な染付が施され、極めて薄手である。

2～5 は瀬戸美濃系磁器である。2 は外面に染付が施される湯呑形碗である。3 は外面瑠璃釉の小碗で、内面に染付がみられる。4 は端反形坏で、内面に染付がみられる。5 は八角鉢と考えられ、内外面に染付がみられる。焼継痕があり、高台内に焼継印が認められる。

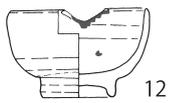
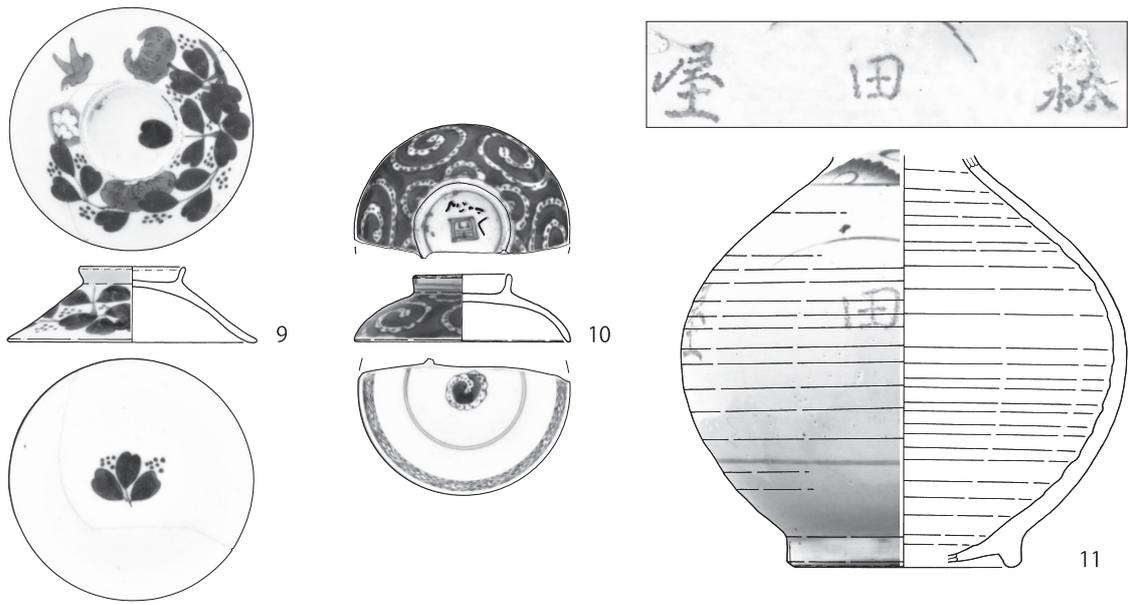
6 は上面に糠白釉が施釉されている土瓶の蓋である。大堀相馬系陶器の可能性はある。

7 は江戸在地系施釉土器の灯明皿である。底部に糸切痕がわずかに遺存し、胎土は粉質である。透明釉が施釉されるが、著しく剥落している。口縁部には使用痕と思われる煤が付着する

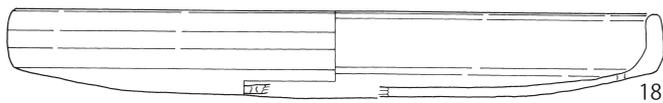
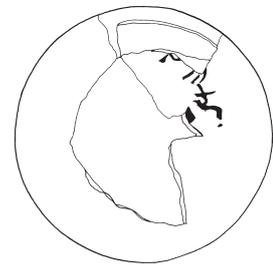
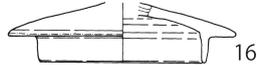
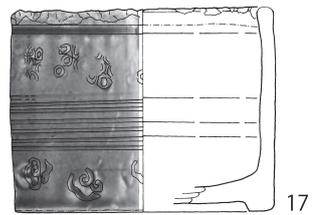
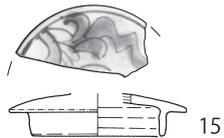
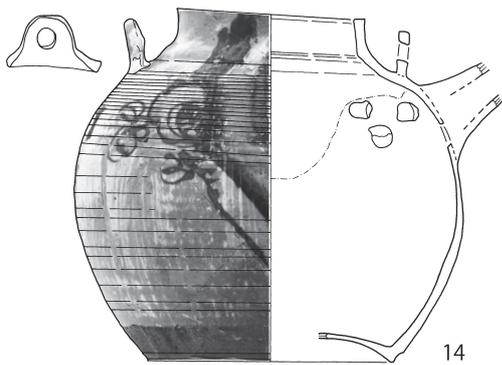
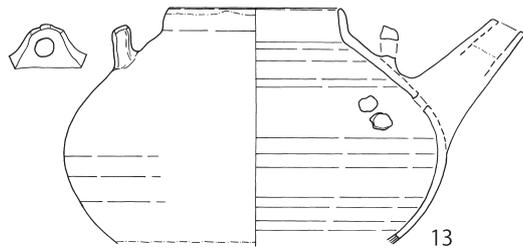
8 は銅製の新寛永通寶である。9 は緑色を呈する流紋岩製砥石である。表面、右側面に楯歯状工具痕がみられる。裏面も同様の工具痕と推定されるが楯歯状の条線が不明瞭である。左側面砥面となっている。



第 333 図 第 264 号土壙出土遺物 (1)



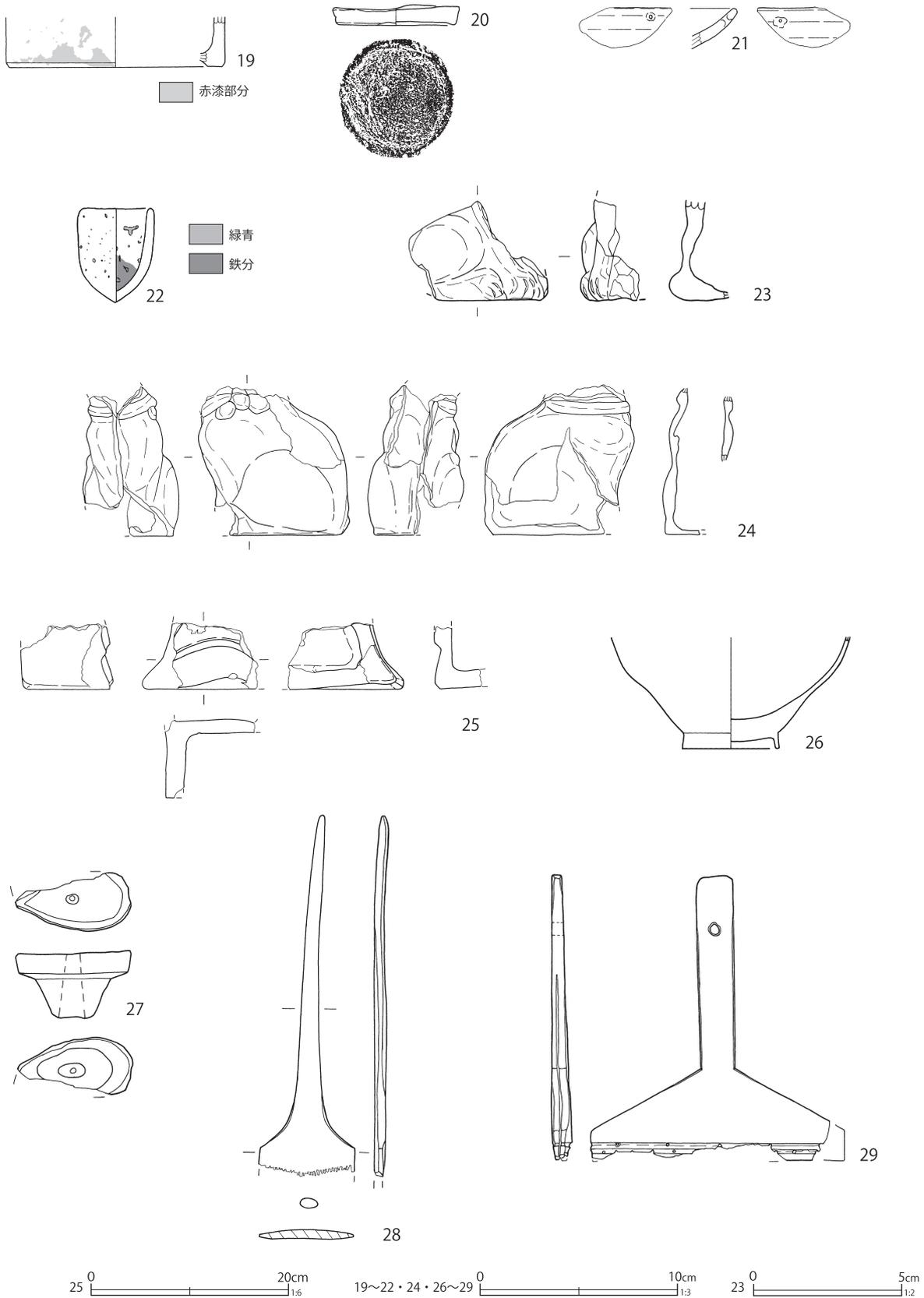
■ タール状物質



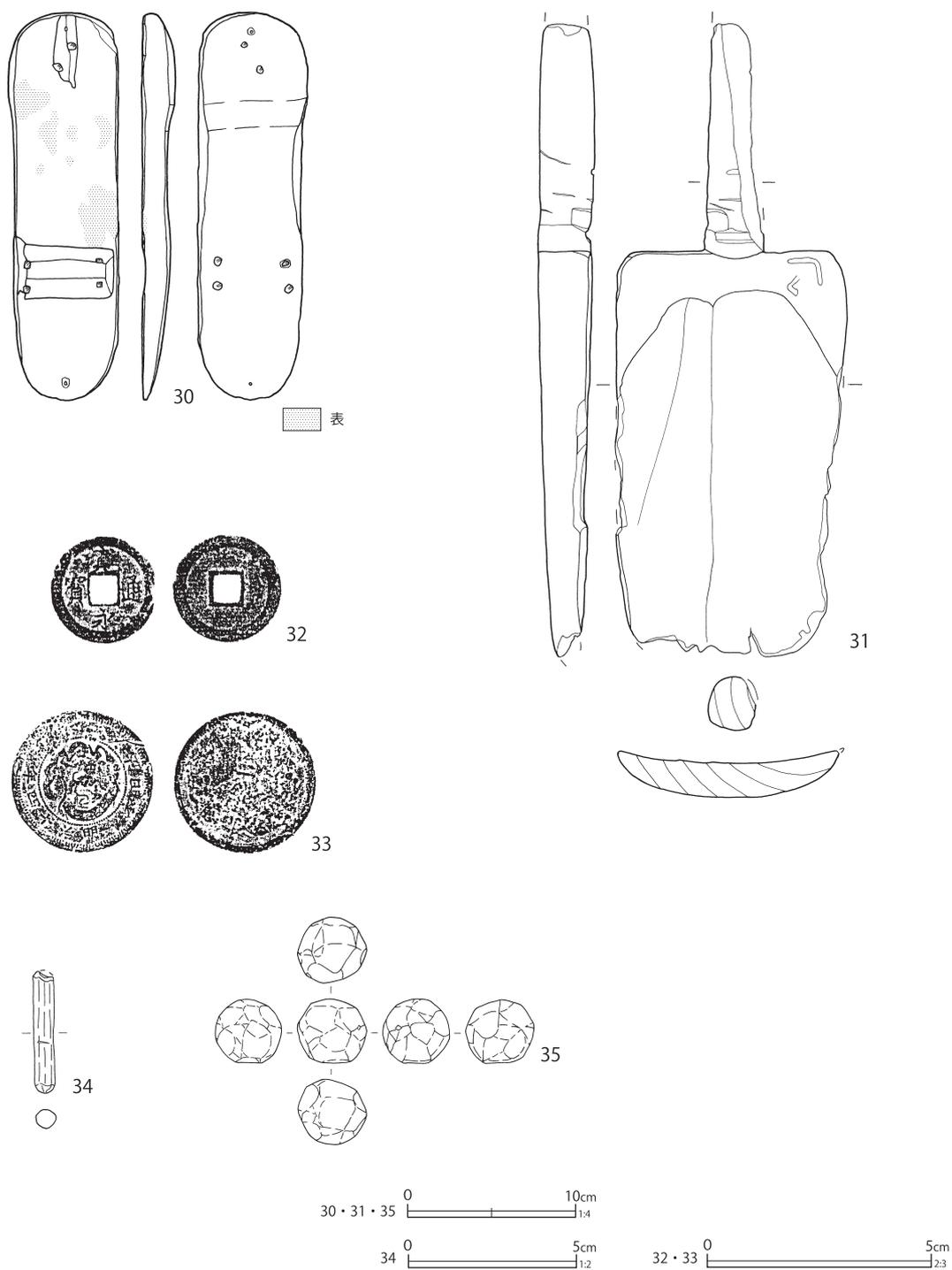
0 10cm
18 1:4

0 10cm
9~17 1:3

第 334 図 第 264 号土壙出土遺物 (2)



第 335 図 第 264 号土壙出土遺物 (3)



第336図 第264号土壙出土遺物(4)

第264号土壙(第326・333～336図)

F7-G8グリッドに位置し、第194号土壙より古い。平面形は不整形で、長軸3.1m、短軸2.35m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-73°-Eを指す。

第196・197・205・211・212号土壙と重複関係にあったが、時期差のない出土遺物の様相や覆土の状況から第264号土壙に統合した。出土遺物は第264号土壙出土として扱った。

覆土は大部分が木片等の木質で構成され、上層

第 85 表 第 264 号土壌出土遺物観察表 (第 333 ~ 336 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	7.0	6.0	3.3	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
2	磁器	碗	6.8	6.0	3.3	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
3	磁器	碗	7.2	6.2	4.1	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
4	磁器	碗	(6.1)	4.3	(2.5)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
5	磁器	碗	(6.0)	4.1	2.8	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
6	磁器	坏	—	[2.2]	2.3	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付 (青) 被熱 (強・釉剥落)	
7	磁器	皿	28.8	4.7	16.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡 7	
8	磁器	鉢	17.1	9.2	8.3	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	磁器	蓋	4.1	2.9	9.7	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
10	磁器	蓋	8.3	2.6	3.7	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕 高台内焼継印 (赤)	
11	磁器	徳利	—	[16.3]	8.5	K	45	良好	白	肥前系 外面施釉・染付・釘書「森田屋」	77-12
12	陶器	坏	5.3	3.5	2.7	EIK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 口縁欠失部にタール状物質付着	
13	陶器	土瓶	(6.7)	[9.4]	—	IK	20	良好	灰白	外面青緑釉	
14	陶器	土瓶	7.4	13.9	(9.6)	EIK	80	良好	灰	内外面施釉 外面白土刷毛塗状・鉄絵	
15	陶器	蓋	7.0	[1.6]	(5.0)	K	25	良好	にぶい黄橙	上面白化粧・鉄絵・緑色彩・施釉	
16	陶器	蓋	8.4	[2.3]	(6.4)	K	45	良好	灰白	上面青緑釉	
17	陶器	香炉	9.7	8.0	8.4	DEIK	70	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面緑釉・陰刻施文 底部墨書 口縁部敲打痕	
18	土師質土器	焙烙	33.7	[4.5]	33.8	CHIK	55	普通	にぶい黄橙	砂目底 補修痕 4 遺存 底部周縁・内底面煤付着	
19	土師質土器	鉢カ	(10.6)	[2.5]	—	AHIK	15	良好	にぶい橙	外面漆状塗布物付着・下端部黒色付着物	
20	土師質土器	蓋	6.2	1.0	5.7	ADHIJK	95	普通	にぶい橙	上面板状圧痕 焼塩壺の蓋	
21	かわらけ	中皿	—	[2.0]	—	AHIK	5	普通	にぶい橙	江戸在地系 胎土粉質 二次穿孔 1 遺存	
22	土器	埴埴	3.4	4.8	—	—	100	普通	灰白	内面緑青僅か・鉄分付着 外面被熱 (発泡・ガラス化)	
23	土製品	人形	長さ [3.4] 幅 [4.7] 厚さ 1.1 重さ 41.5			AHIK	—	良好	にぶい橙	江戸在地系 狐 左右合二枚型成形 中空	
24	土製品	人形	長さ [7.6] 幅 [7.6] 厚さ 0.7 重さ 52.8			AIK	—	良好	橙	犬 左右合二枚型成形 中空 胎土粉質	120-14
25	瓦	鬼瓦	長さ [9.7] 幅 [11.6] 厚さ 5.5 高さ [8.7]			AIK	—	普通	灰	弱く銀化 穿孔あり	124-12
26	木製品	漆椀	高さ [5.6] 底径 4.9							横木取り 内面赤漆 外面黒漆	
27	木製品	脚カ	長さ 3.4 幅 5.8 厚さ [2.9]							椀目	
28	木製品	櫛	長さ 4.8 幅 [18.4] 厚さ 0.6							板目	
29	木製品	刷毛	長さ 14.4 幅 (12.8) 厚さ 0.8							椀目	
30	木製品	下駄	長さ 23.2 幅 6.5 高さ 2.0							椀目 無眼下駄 表残存	
31	木製品	鋤	長さ [37.9] 幅 13.7 厚さ 3.2							板目 柄に工具痕多数 鉄釘残存 焼印	130-5
32	銅製品	銭貨	径 24.1 厚さ 0.9 重さ 2.2							寛永通寶 (新)	
33	銅製品	銭貨	径 32.0 厚さ 2.3 重さ 13.2							二銭銅貨 明治一四年	
34	石製品	石筆	長さ [3.5] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 2.9							滑石 両端使用	
35	石製品	砥石カ	長さ 3.8 幅 4.1 厚さ 3.9 重さ 75.4							砂岩 (細粒) 全面砥面で多面体を呈する	138-10

はシルト質土で、一部炭化物が含まれる。

出土遺物は極めて多く、陶磁器類は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗を主体とし、江戸絵付けの卵殻手坏を最新期とする。明治十四年鑄造の二銭銅貨は後世の混入である。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 333 ~ 336 図に出土遺物を図示した。第 333 図 1 ~ 3 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。1・

2 は外面に同文の染付がみられる。3 は内外面に染付が施され、焼継痕がみられる。高台内には焼継印が認められる。

4・5 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。内外面に同文の染付がみられる。

6 は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏で、最新期の陶磁器である。内面に江戸絵付けがみられ、高台畳付けは内側に段が付く。強く被熱しており、釉の

剥落が著しい。

7は肥前系磁器の内面に一枚絵の染付が施される皿である。口径28.8cmを測り、大皿に近い大きさである。口縁部は輪花状に成形され、高台内には窯道具痕が7箇所みられる。

8は肥前系磁器の八角鉢である。口縁部に反りがみられる大型製品で、高台は輪高台である。

第334図9・10は肥前系磁器の蓋である。9は端反形碗の蓋で、薄手で口縁部の反りは弱い。内外面に染付が施される。10は丸碗の蓋である。内外面に染付が施され、焼継痕とつまみ内に焼継印がみられる。

11は肥前系磁器の大型長頸壺である。外面に染付が施され、釘書き「森田屋」がみえる。「森田屋」は第7地点(『栗橋宿跡IV』)に集中的してみられ、「森吉」、「森田屋」等の文字資料がみえる。

12は瀬戸美濃系陶器の坏である。灰釉が施釉され、口縁部に「V」字状の欠失がみられる。欠失部には、タール状物質が付着している。灯火具への転用が示唆される。

13は産地不詳陶器の青土瓶である。外面に青緑釉が施釉され、把手は型成形である。器形は胴部が張り、ソロバン形に近い形状である。注口部は鉄砲口である。

14は産地不詳陶器の土瓶である。内外面が施釉され、外面には刷毛塗状に塗布された白土と鉄絵がみられる。器形は球状で、注口部は鉄砲口である。

15は産地不詳陶器の三彩土瓶の蓋である。上面を白化粧後に鉄絵と緑釉彩を施す。

16は産地不詳陶器の青土瓶の蓋である。上面に青緑釉が施釉される。

17は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉である。外面に陰刻文と櫛歯状施文がみられ、緑釉が施釉される。底部に墨書がみられるが、判読できない。口縁部には敲打痕がみられる。

18は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無

調整の砂目底で、丸みが弱い。補修痕である二次穿孔が4箇所遺存する。底部と内底面に使用痕と思われる煤が付着する。

第335図19は鉢の可能性が考えられる土師質土器である。外面に著しく剥落した漆状の塗布物が付着し、下端部には黒色の付着物がみられる。

20は土師質土器の蓋である。焼塩壺の蓋で、断面形は逆台形を呈する。下面に圧痕がみられる。胎土は極めて多様な鉱物がみられ、白色針状物質も特徴的にみられる。

22は砲弾形を呈する土製埴塙である。緑青が僅かに付着し、内底面には鉄分の付着も認められる。第8地点では埴塙の出土が多く、金属生産と関わりが深いと考えられる。

23は狐を模したと推定される江戸在地系の土製人形である。右側面の手足が遺存する。左右合わせの二枚型成形で、中空である。

24は犬を模した土製人形である。大型の中空製品で、左右合わせの二枚型成形である。下面は型合わせの痕に沿って欠損している。

25は鬼瓦である。角にあたる部分と考えられ、燻しにより弱く銀化する。

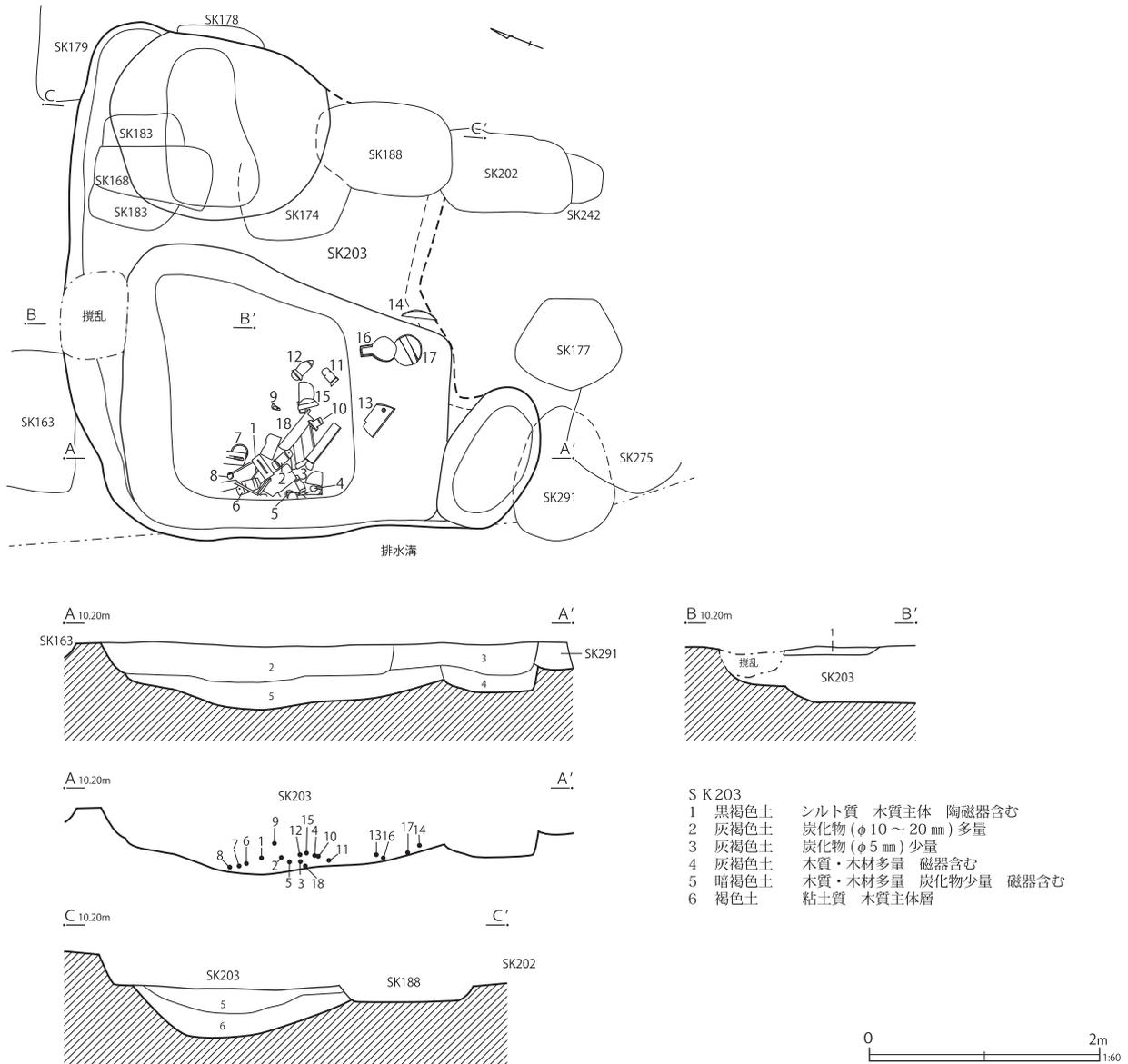
26は木製の漆椀である。内面に赤漆、外面に黒漆が塗布される。器形は瀬戸美濃系陶器の天目碗に類似する。

第336図30は木製の無眼下駄である。表が部分的に遺存する。

31は木製の鋤である。柄に工具痕が多数みられ、鉄釘が遺存する。焼印がみられるが、判読できない。

35は砥石の一種と思われる多面体状の石製品である。石材は細粒な砂岩で、使用により多面を形成し、面は滑らかである。球状に近い形状となっている。豊島区の町人地である巢鴨遺跡ハーモニーハイツ地区(豊島区2007)で多く出土しており、球状石製品と報告されている。民俗資料から鍛冶と関係する遺物の可能性が考えられるが、

S K 203



第 337 図 区画 AG 土層 (2)

ハーモニーハイツ地区では、埋設桶からの出土がほとんどである。なお、ハーモニーハイツ地区では鍛冶炉が検出されている。

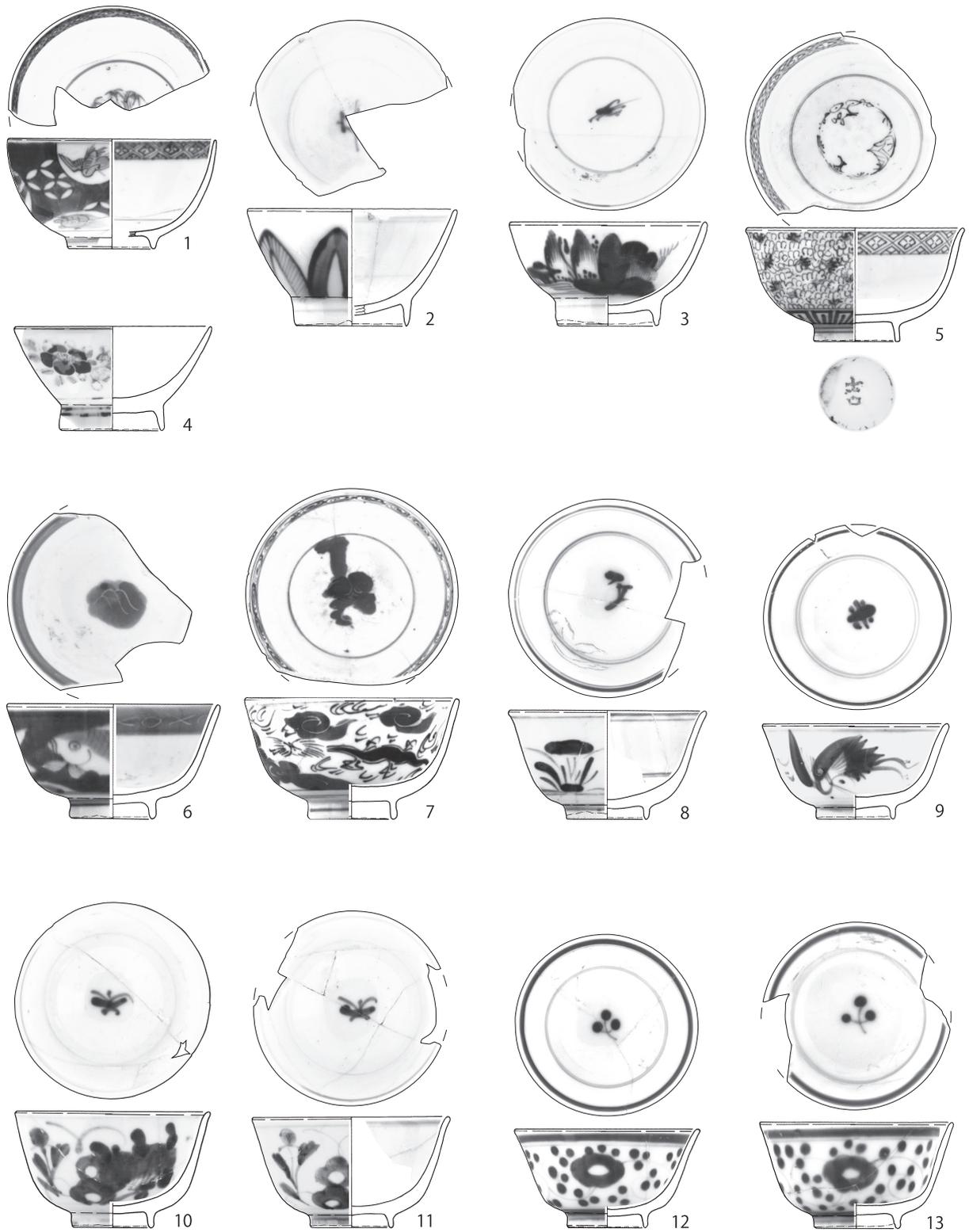
第 203 号土層 (第 337 ~ 355 図)

F 7 - G 7 グリッドに位置する。第 168・174・178・179・183・188 より古く、第 291 号土層より新しい。さらに、第 163・202 号土層と重複する。平面形は不整形で、長軸 4.5 m、短軸 3.9 m、深さ 0.7 m を測る大型の土層である。長軸方位は N - 86° - E を指す。

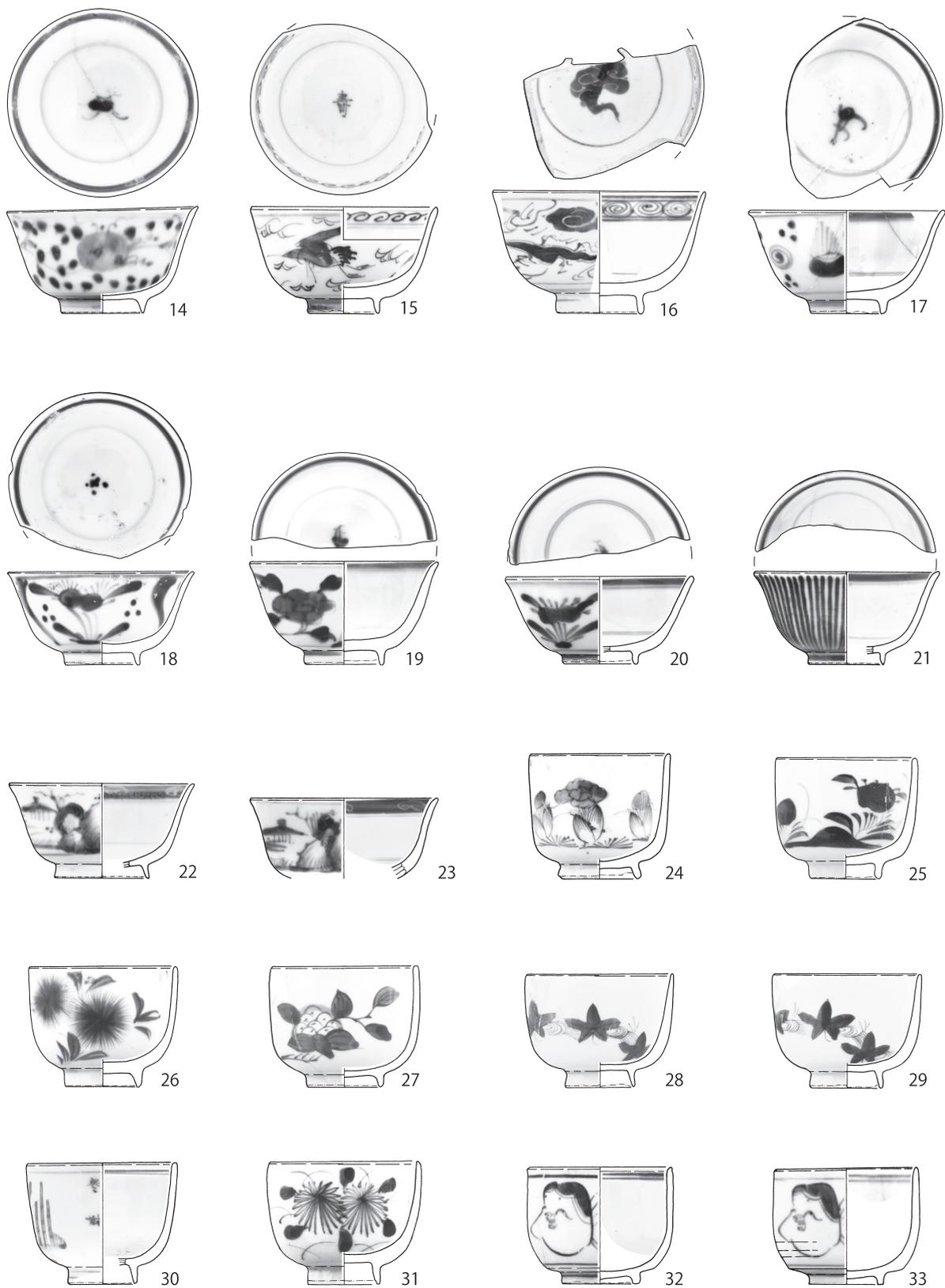
第 206・279・290・326・327 号土層は、覆土の状況と、出土遺物に混入や時期差がないことから第 203 号土層に統合し、遺構番号は欠番とした。複数回にわたる廃棄が推定される。

覆土は下層に木材等の木質が多量に投棄されており、それらを覆うように炭化物が多量に含まれる灰褐色土が堆積している。

極めて多量の遺物が出土しており、碗、坏、中皿、鉢、土瓶を主体としている。飲食系の商売性が高い器種組成である。しかし、『絵図』では「明



第 338 图 第 203 号土壙出土遺物 (1)

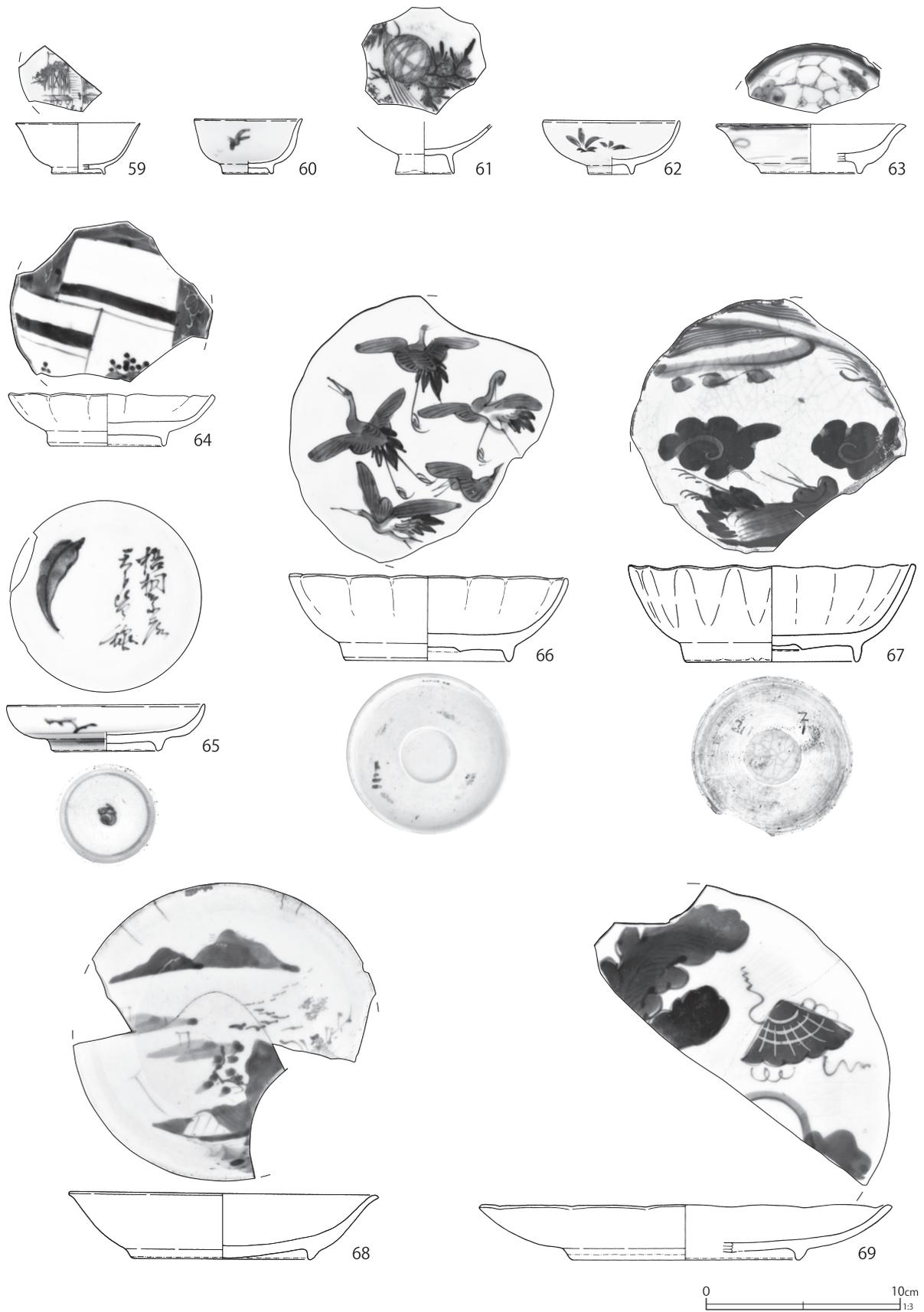


0 10cm
1:3

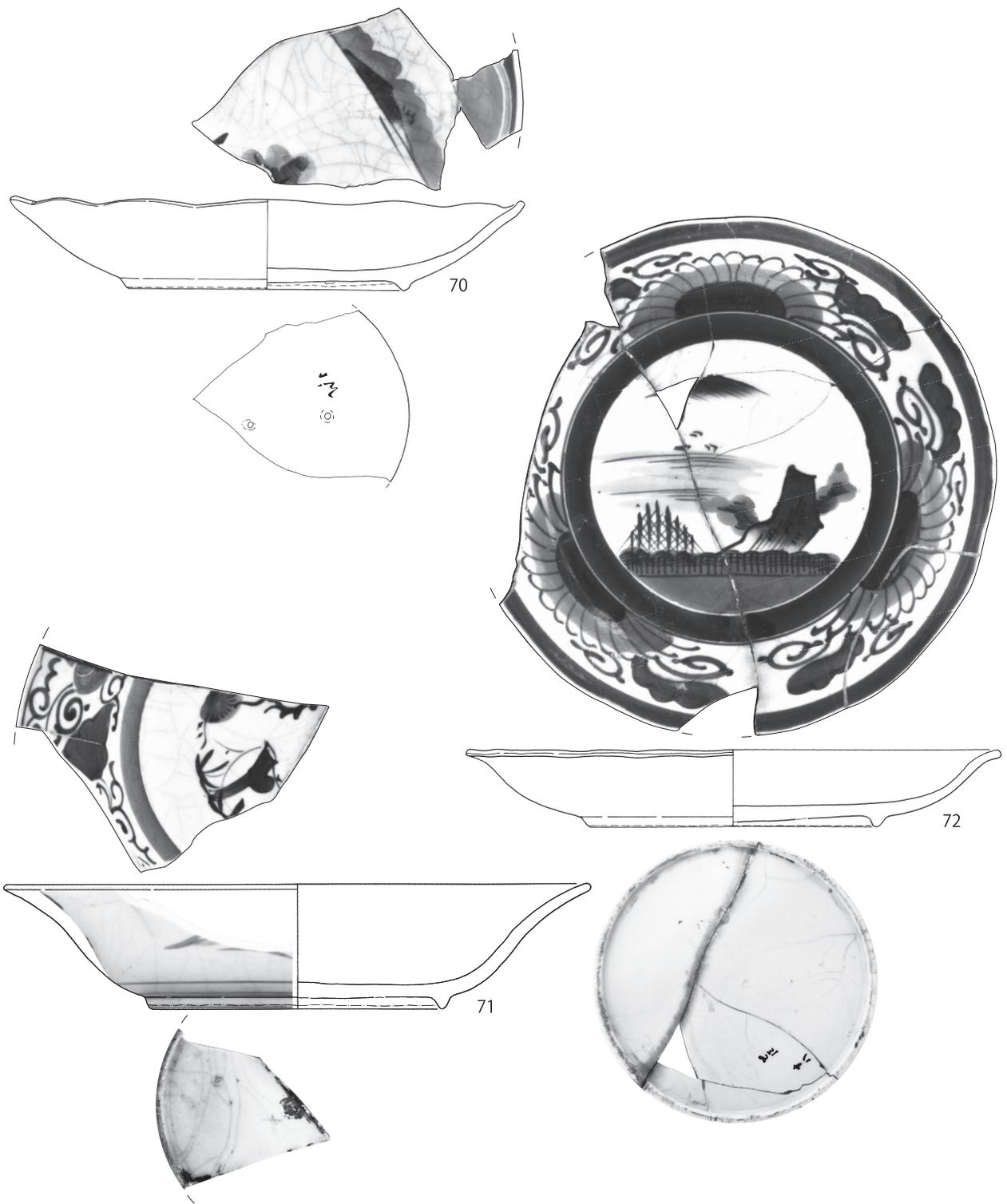
第 339 图 第 203 号土坑出土遗物 (2)



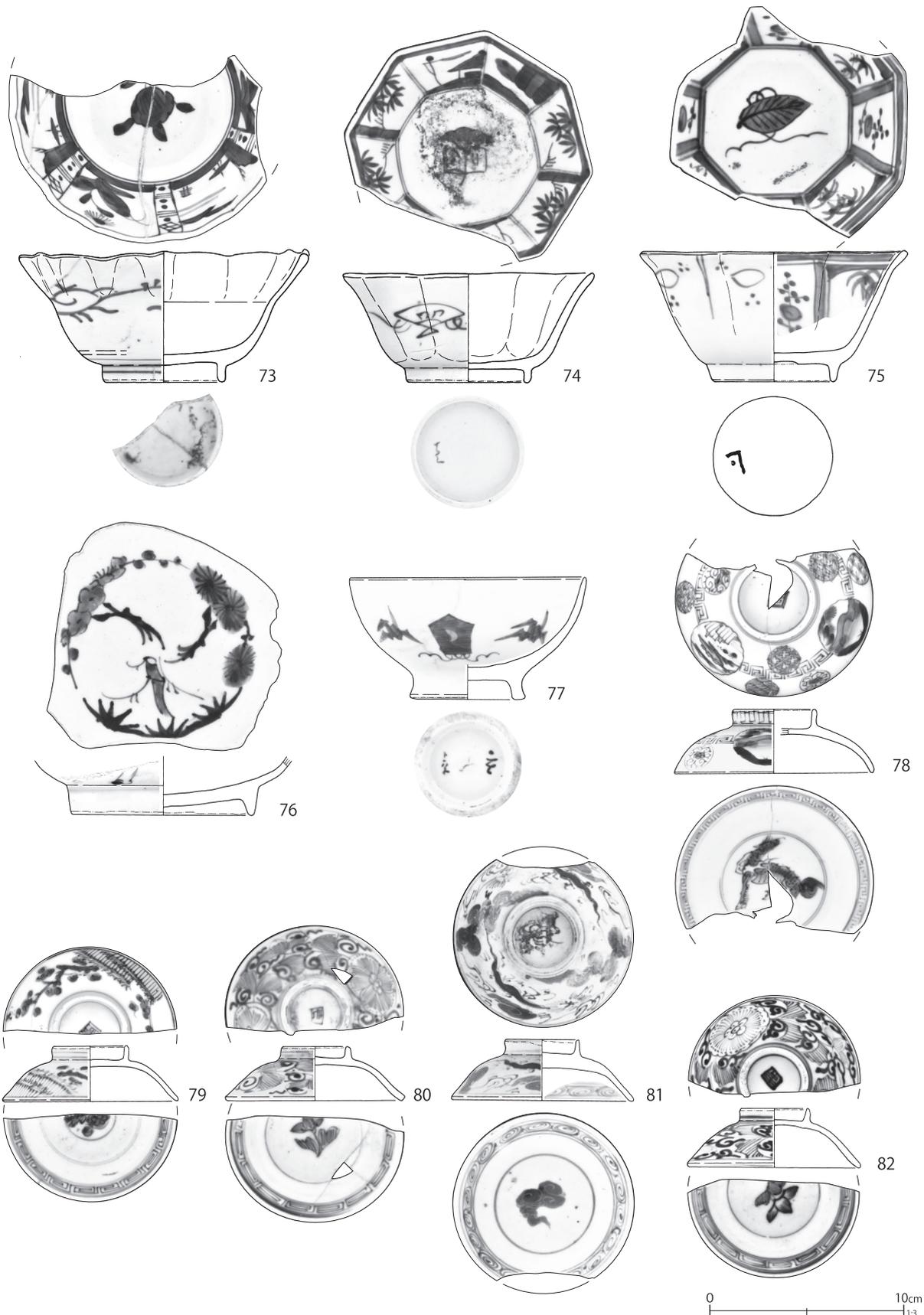
第 340 图 第 203 号土壙出土遺物 (3)



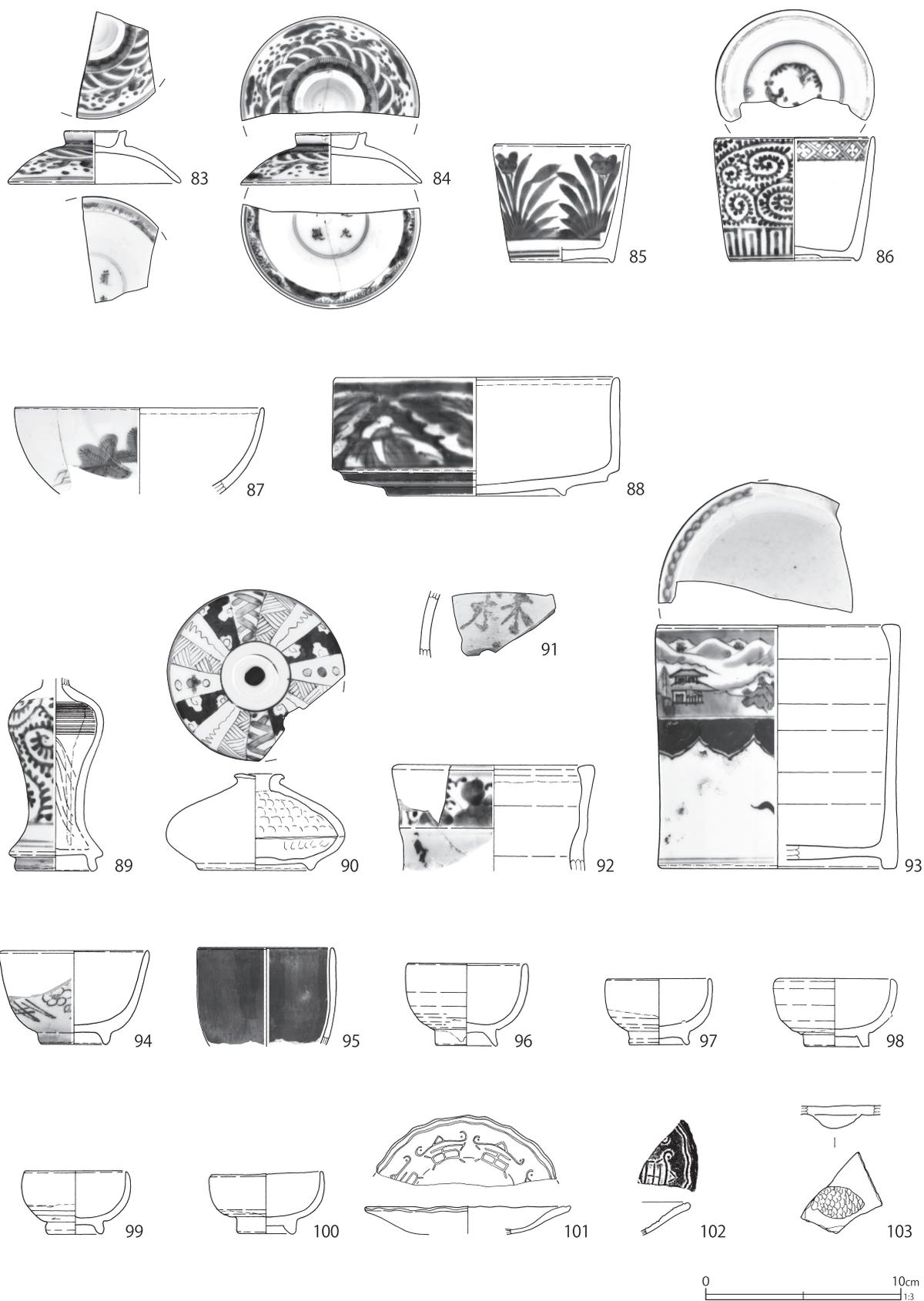
第 341 图 第 203 号土坑出土遗物 (4)



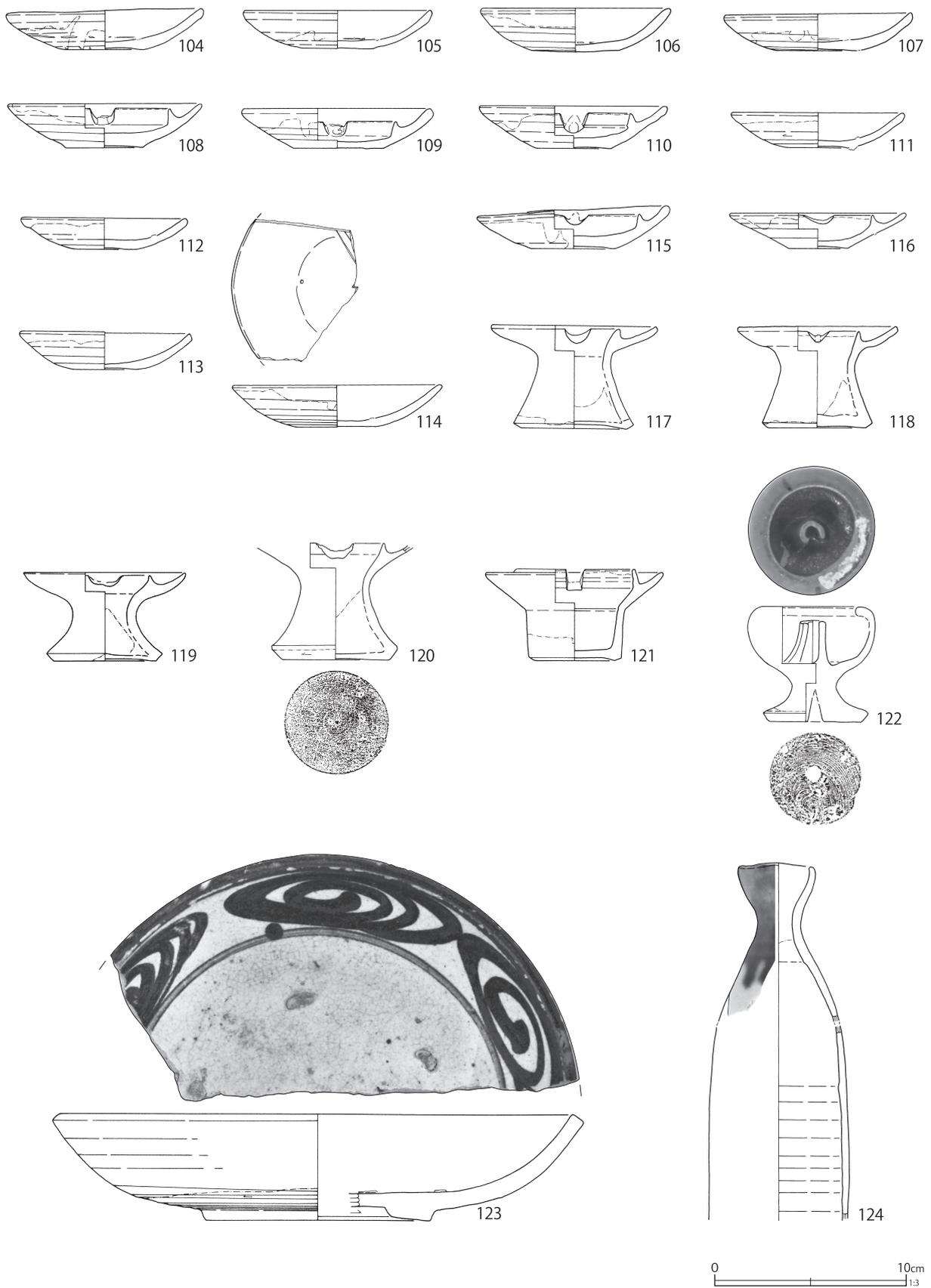
第 342 図 第 203 号土壙出土遺物 (5)



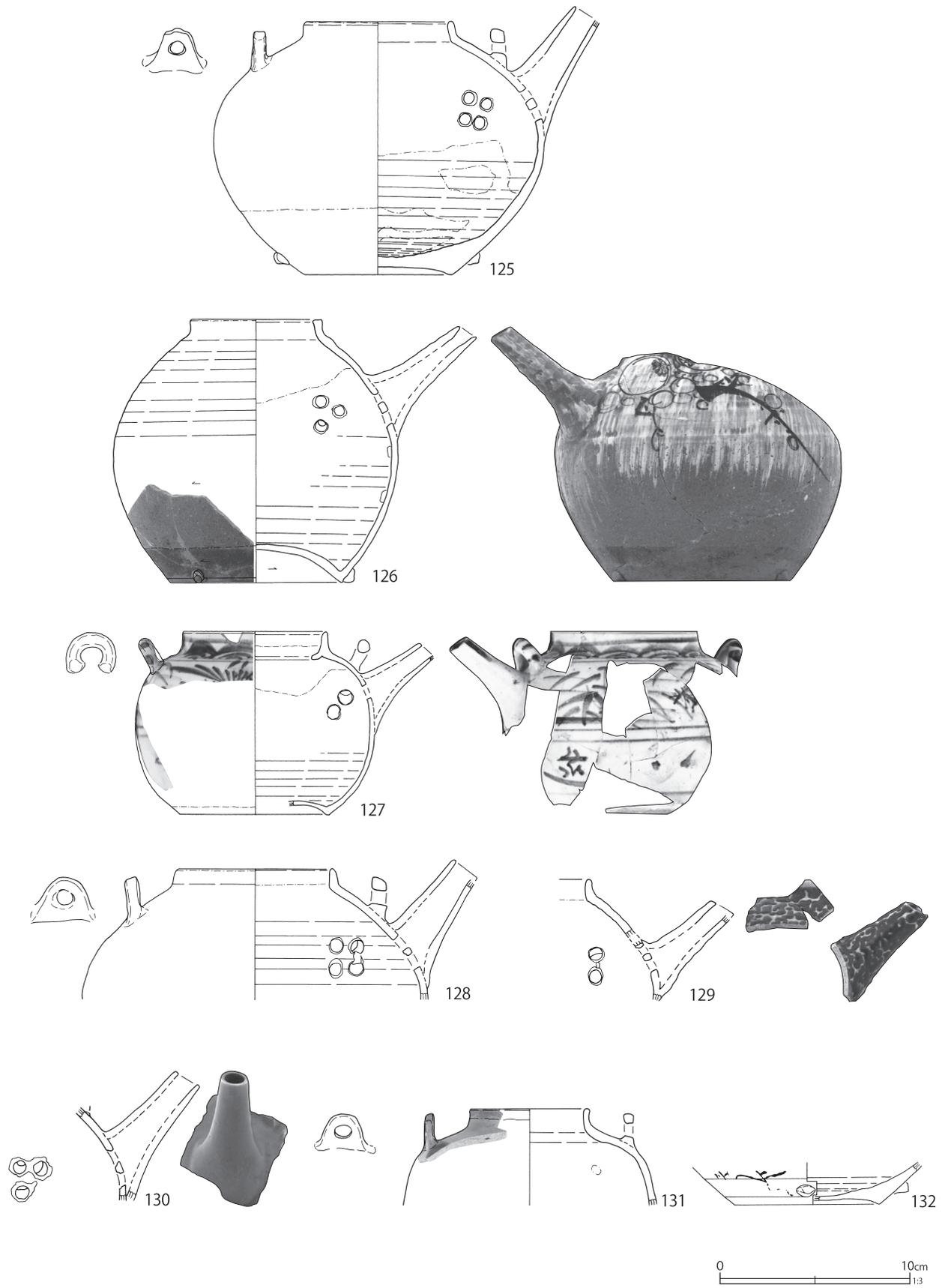
第 343 图 第 203 号土壙出土遺物 (6)



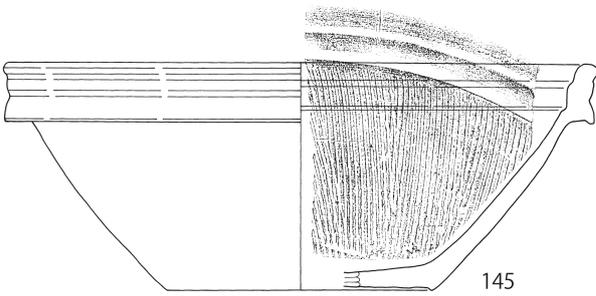
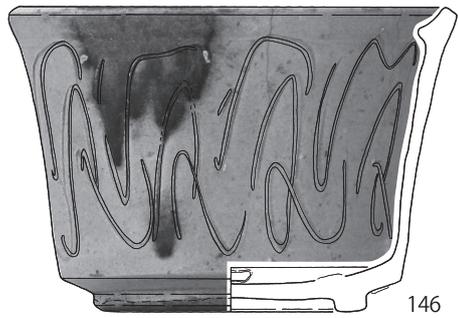
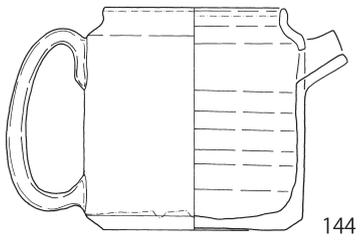
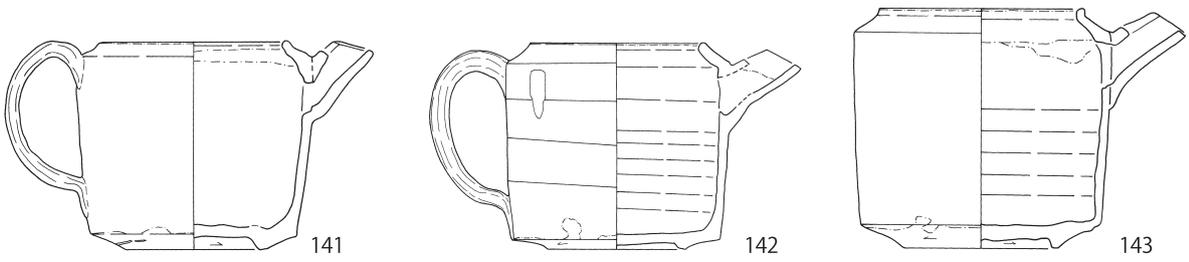
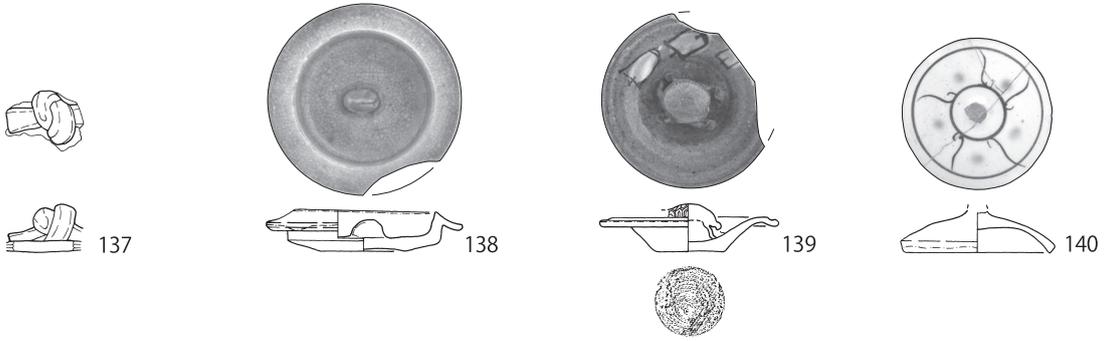
第 344 图 第 203 号土壙出土遺物 (7)



第 345 图 第 203 号土壙出土遺物 (8)



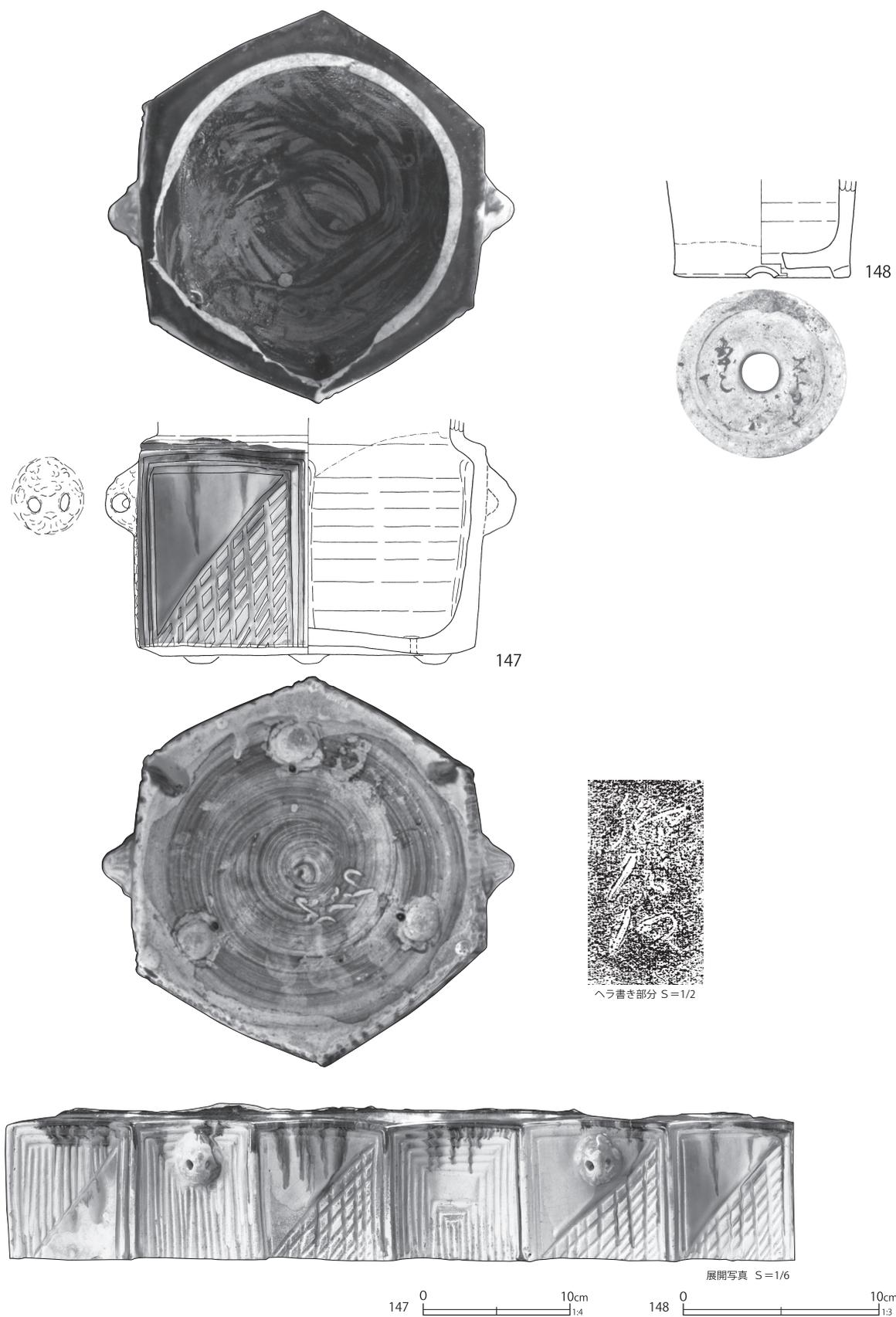
第 346 图 第 203 号土壙出土遺物 (9)



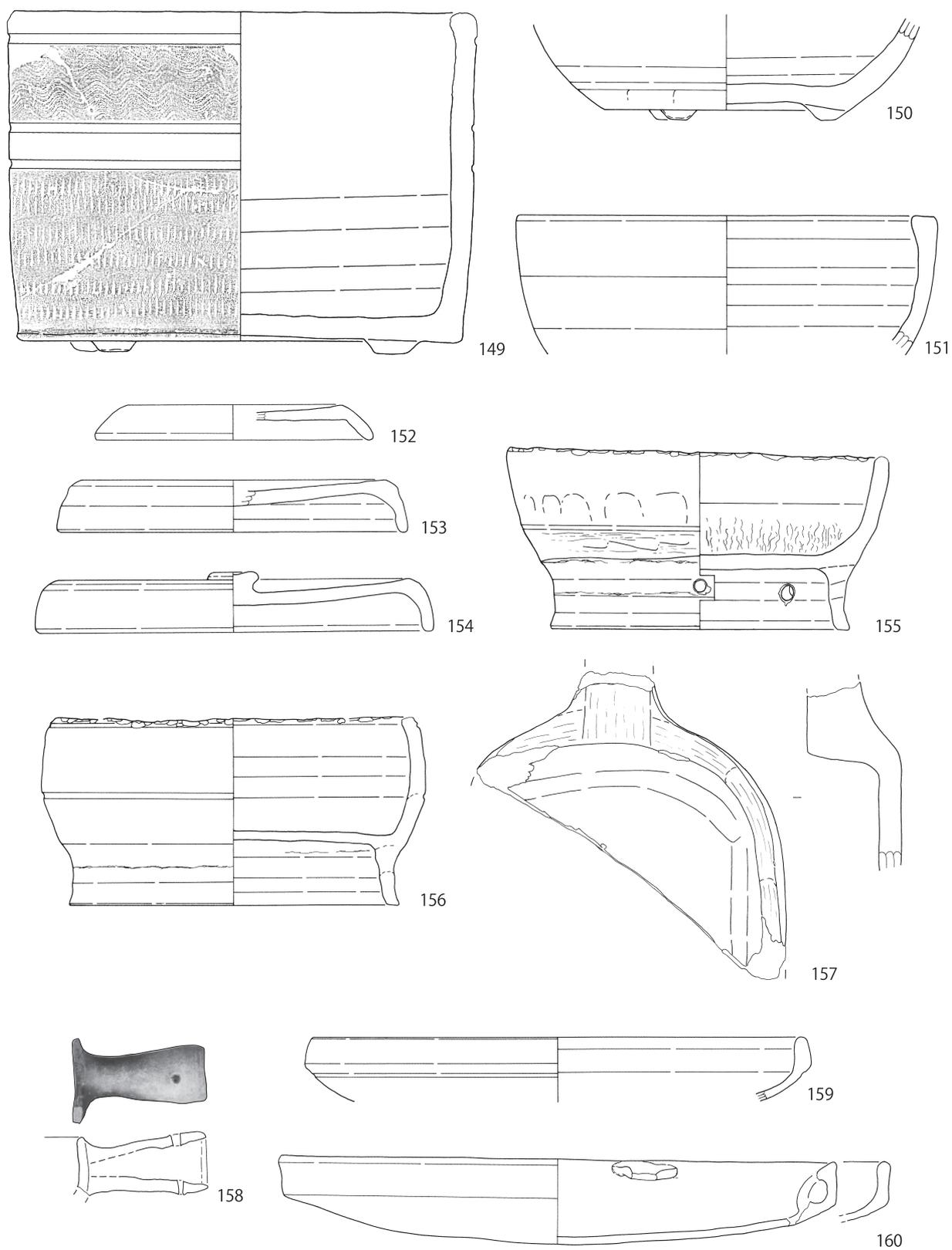
145·146 0 10cm 1:4

133~144 0 10cm 1:3

第 347 图 第 203 号土壙出土遺物 (10)

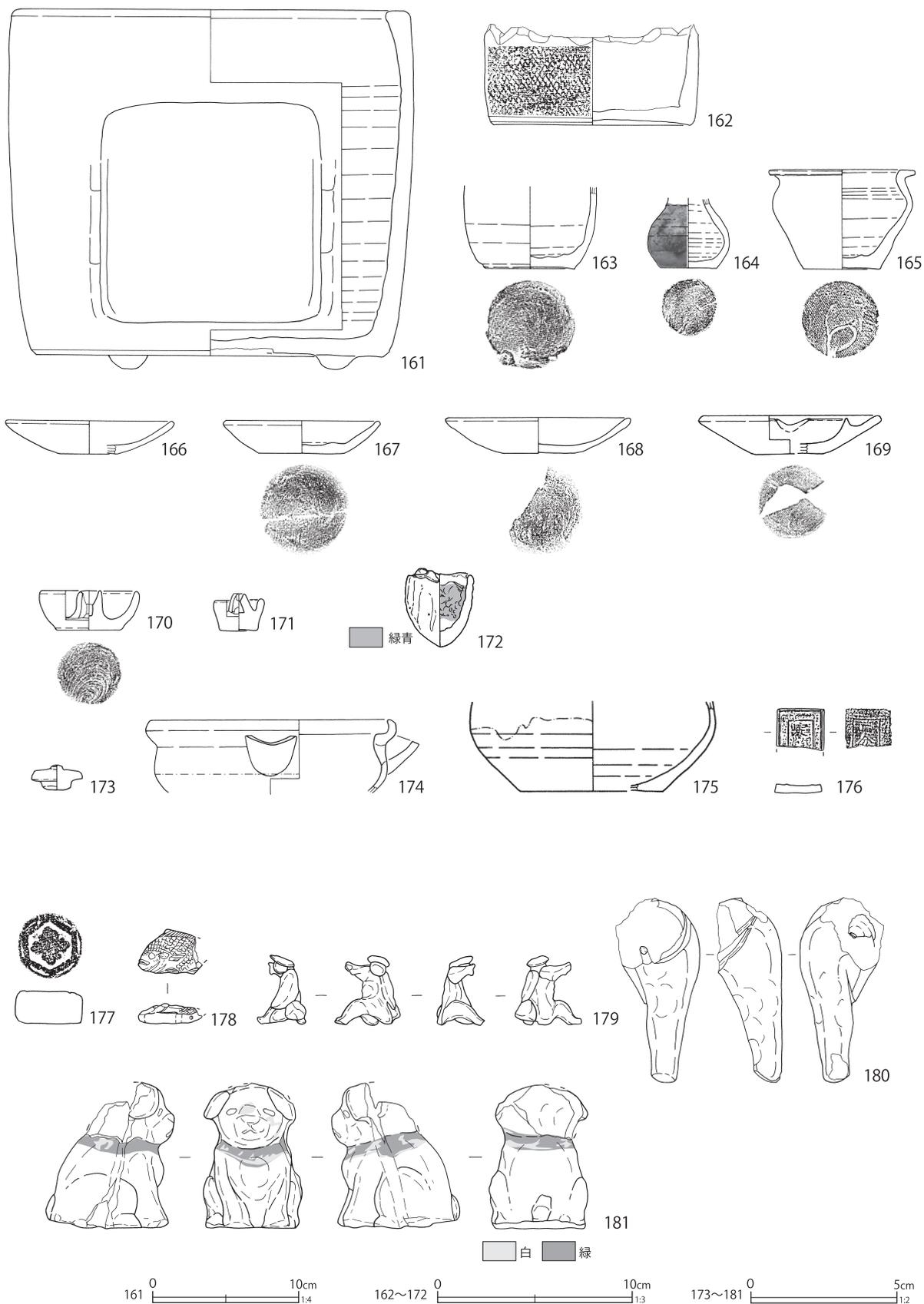


第 348 図 第 203 号土壙出土遺物 (11)

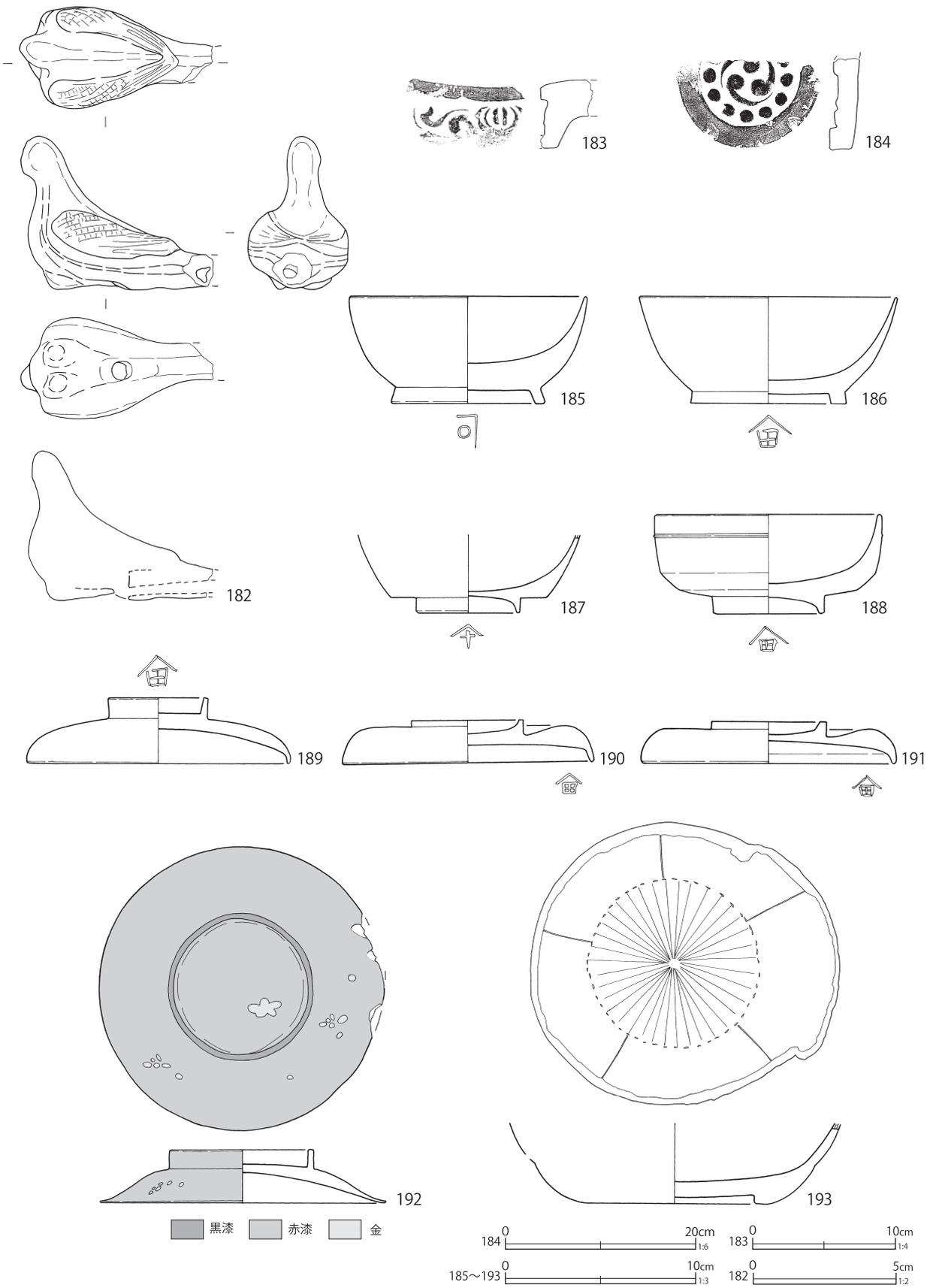


152~156 · 159 · 160 $\frac{10\text{cm}}{1:4}$ 149~151 · 157 · 158 $\frac{10\text{cm}}{1:3}$

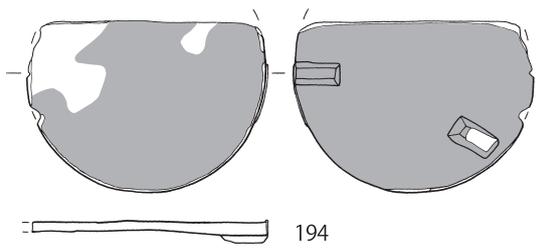
第 349 图 第 203 号土壙出土遺物 (12)



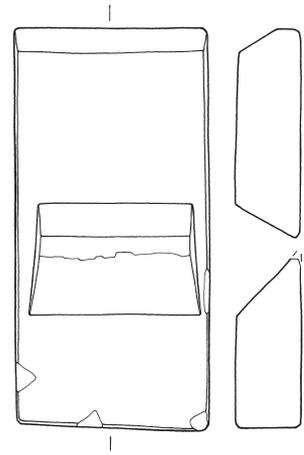
第 350 図 第 203 号土壙出土遺物 (13)



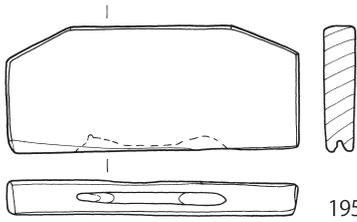
第 351 図 第 203 号土壙出土遺物 (14)



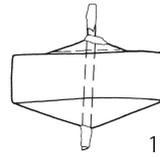
194



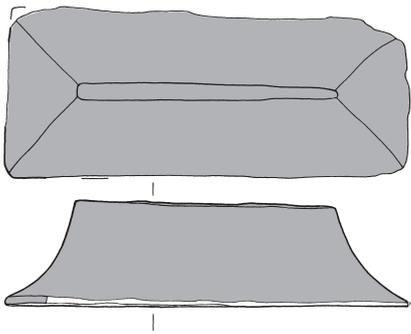
197



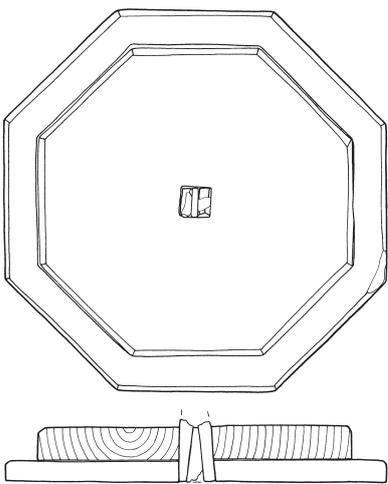
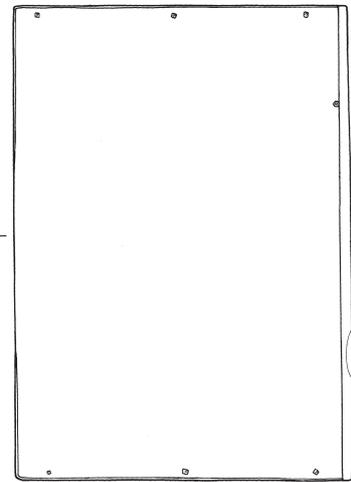
195



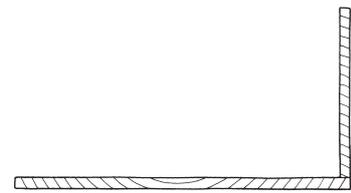
196



198



200

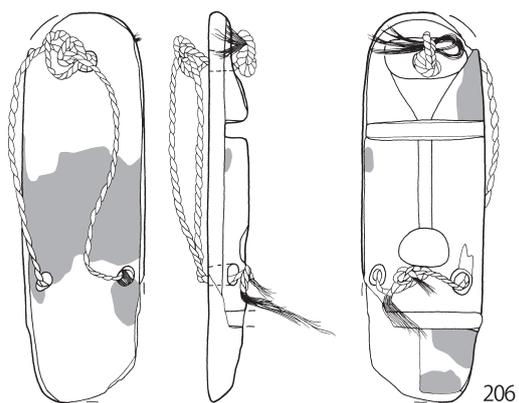
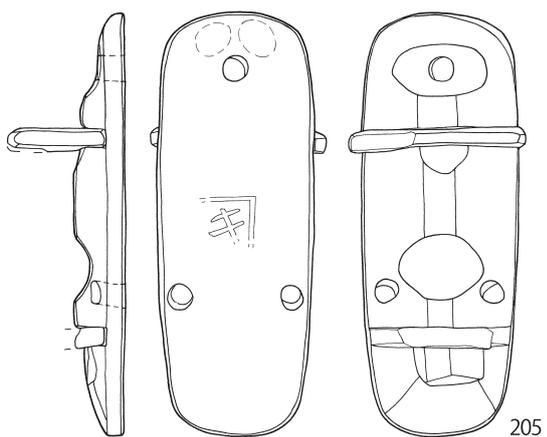
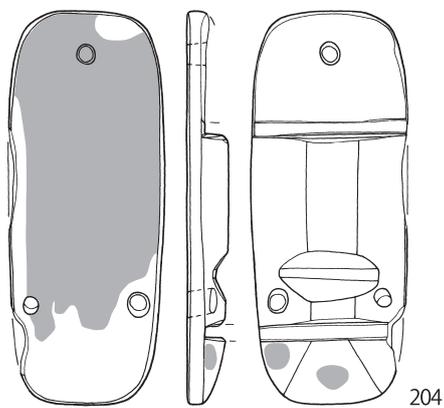
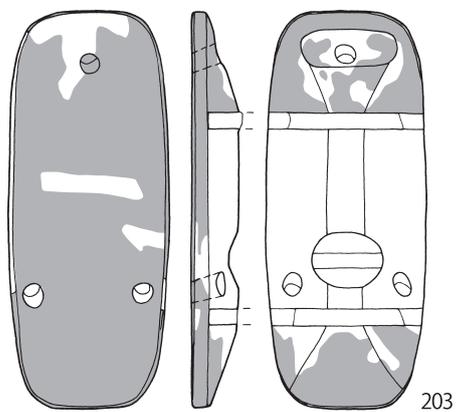
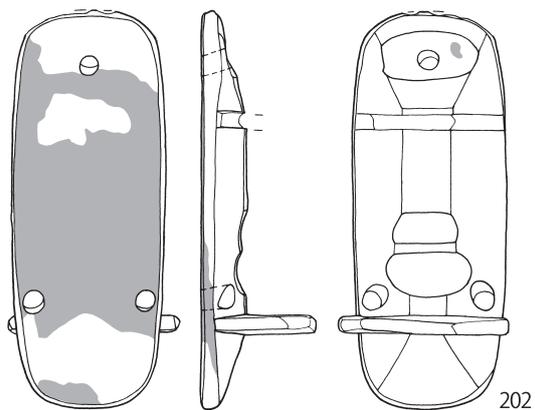
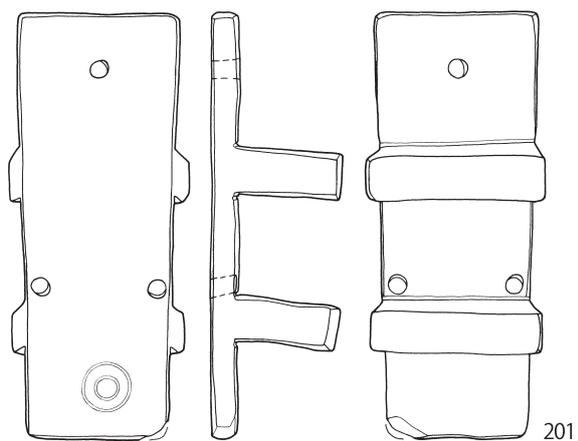


199



■ 黒漆

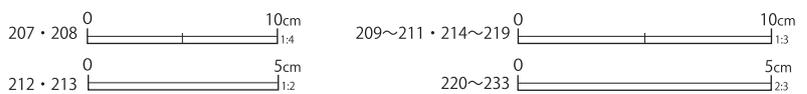
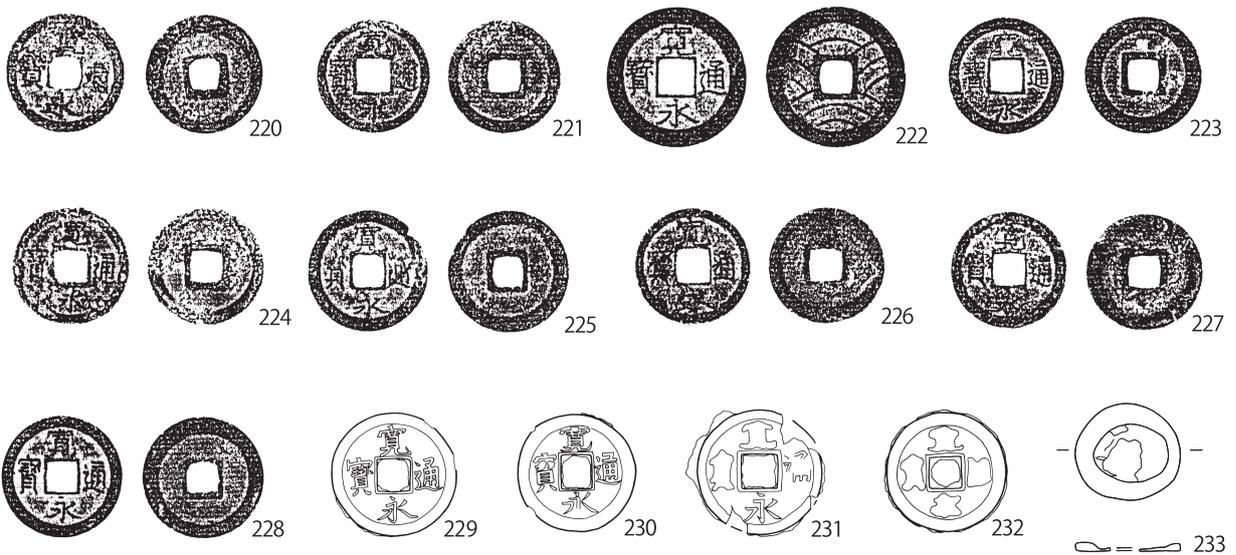
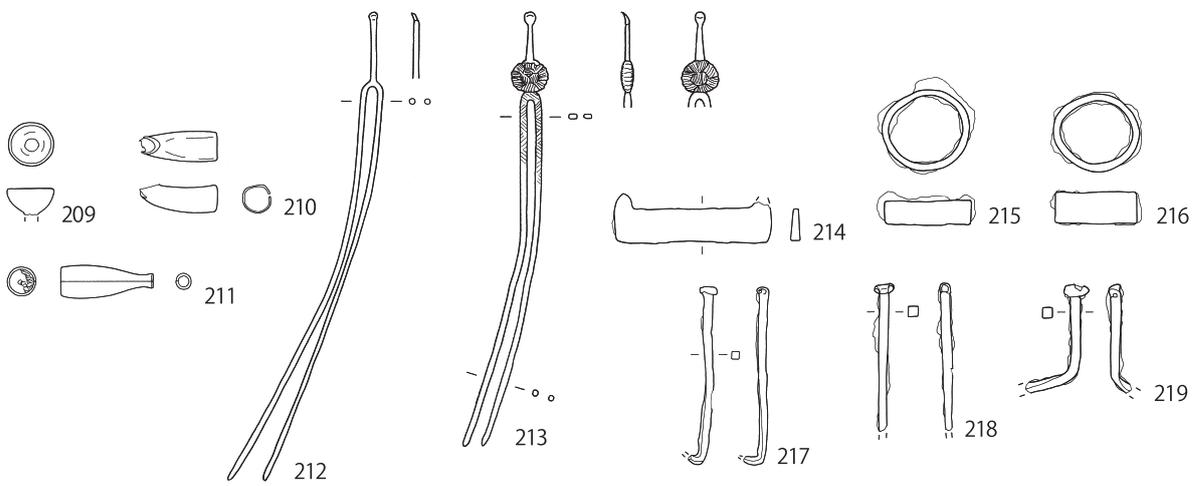
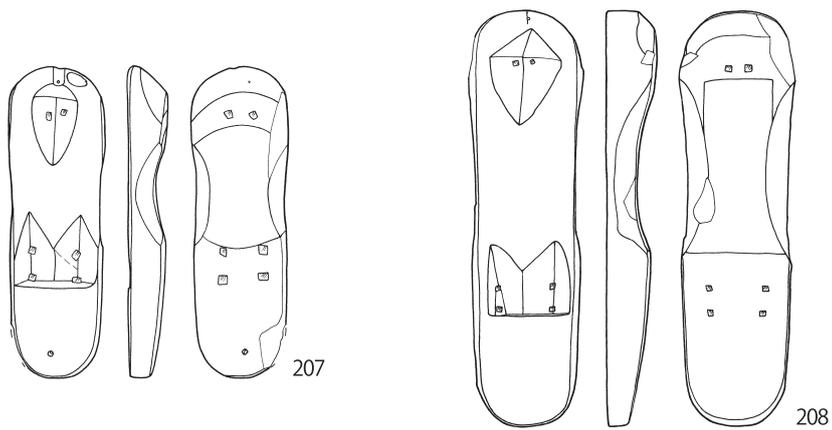
第 352 図 第 203 号土壙出土遺物 (15)



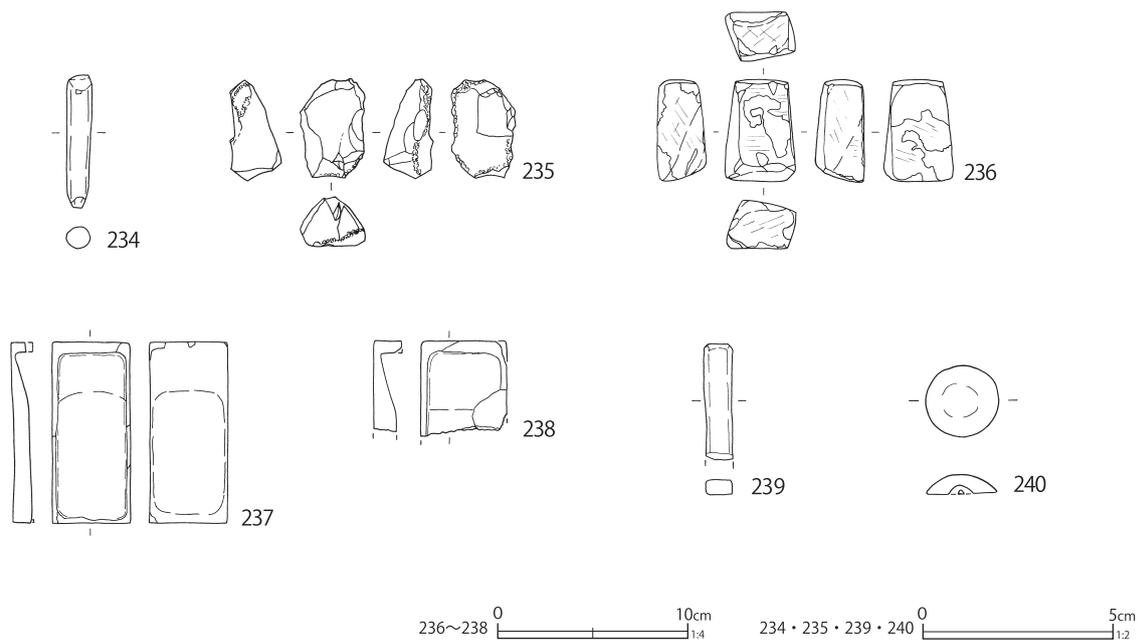
■ 黒漆

0 10cm
1/4

第 353 図 第 203 号土壙出土遺物 (16)



第 354 图 第 203 号土壙出土遺物 (17)



第 355 図 第 203 号土壌出土遺物 (18)

地 / 平八持」の区画であり、実態と異なる。陶磁器類は、磁器の端反形碗、湯呑形碗、卵殻手坏を主体とし、卵殻手坏が最新期である。なお、非掲載遺物の型紙摺絵染付磁器は混入である。自然遺物では、ハマグリ、アサリが少量出土している。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 338 ～ 355 図に出土遺物を図示した。第 338 図 2 ～ 4 は瀬戸美濃系磁器の広東碗である。栗橋宿では出土量が少ない。2 ・ 3 は染付で、4 は外面に赤 ・ 黒 ・ 緑色の上絵付が施される。

5 ～ 7 ・ 16 は肥前系磁器の端反形碗である。5 は高台内に釘書き「吉」がみえる。7 は非掲載遺物に同文製品が 1 個体みられる。16 は第 343 図 81 の身である。いずれも染付が施され、口縁部の反りは弱い。

8 ～ 15 ・ 17 ～ 23 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。12 ・ 13 は同文製品で、非掲載遺物に別個体が 1 点みられる。20 も非掲載遺物に同文製品が 1 点みられる。厚手で、口縁部の反りが強いものが多い。

第 339 図 27 ・ 32 ・ 33、第 340 図 35 ・ 38 ・ 39 ・

43 ・ 44 は肥前系磁器の湯呑形碗である。32 ・ 33 は同文 ・ 同形態である。腰部が張り、高台畳付けは幅広である。

第 339 図 24 ～ 26 ・ 28 ～ 31、第 340 図 34 ・ 36 ・ 37 ・ 40 ～ 42 ・ 45 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。28 ・ 29 は 35 の肥前系磁器と同文の染付である。34 ・ 36 ・ 41 は外面に陰刻文染付がみられる。43 ・ 44 は高台が蛇ノ目状である。45 は器高が低く、腰部が張る。

46 ・ 47 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。卵殻手坏と共伴することが多い。

第 340 図 50 ～ 58、第 341 図 59 は磁器の卵殻手坏で、最新期の陶磁器である。50 ・ 51 ・ 53 ・ 59 は瀬戸美濃系、52 ・ 54 ～ 58 は肥前系である。高台畳付けに段をもつ製品がなく、すべて輪高台状である。多くは内面に多色の上絵付が施されるが、54 ・ 55 は染付のみである。また、59 は江戸絵付けが施される。

61 は瀬戸美濃系磁器の坏である。高台が高く、体部が浅い角度で開く。盃状の器形である。内面に江戸絵付けが施される。

第 86 表 第 203 号土壙出土遺物観察表 (第 338 ~ 355 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.2)	5.4	(4.2)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	76-11
2	磁器	碗	10.2	5.8	5.4	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
3	磁器	碗	9.6	5.2	4.8	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	9.6	5.2	5.0	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色絵 (赤・黒・緑)	
5	磁器	碗	(10.6)	5.6	4.0	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内釘書「吉」	
6	磁器	碗	10.3	5.7	4.0	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
7	磁器	碗	10.4	6.0	4.0	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体 1あり	
8	磁器	碗	9.6	5.4	3.9	—	75	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱 (弱)	
9	磁器	碗	9.0	4.7	3.7	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
10	磁器	碗	9.5	5.7	3.7	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
11	磁器	碗	9.4	5.5	3.9	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
12	磁器	碗	9.0	4.9	3.8	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 非掲載に同文別個体 1あり	
13	磁器	碗	9.4	5.3	4.0	—	70	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 非掲載に同文別個体 1あり	
14	磁器	碗	9.3	5.2	4.0	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
15	磁器	碗	9.1	5.3	3.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
16	磁器	碗	(10.4)	6.2	4.0	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 第 343 図 81 の身	
17	磁器	碗	9.6	5.1	3.5	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
18	磁器	碗	(9.0)	4.6	3.6	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 白色物質付着	
19	磁器	碗	(9.2)	5.1	(3.7)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
20	磁器	碗	(9.2)	4.3	(3.5)	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 同文別個体 1あり	
21	磁器	碗	9.0	4.6	3.6	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
22	磁器	碗	(9.0)	4.7	(4.6)	—	20	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
23	磁器	碗	(9.2)	[4.0]	—	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
24	磁器	碗	7.0	6.3	3.8	—	95	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
25	磁器	碗	6.8	6.1	3.3	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 No. 8	
26	磁器	碗	(7.2)	6.0	3.5	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
27	磁器	碗	(7.1)	6.0	3.6	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
28	磁器	碗	7.2	5.6	3.3	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
29	磁器	碗	7.2	5.7	3.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
30	磁器	碗	7.3	6.1	(3.2)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
31	磁器	碗	7.2	6.1	3.5	—	100	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
32	磁器	碗	7.0	5.8	3.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	
33	磁器	碗	6.9	5.8	3.7	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
34	磁器	碗	7.2	6.1	3.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付・陰刻文	
35	磁器	碗	(7.4)	5.6	(3.3)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
36	磁器	碗	7.0	6.0	3.7	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
37	磁器	碗	(7.6)	6.1	(3.6)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
38	磁器	碗	6.9	5.9	3.7	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
39	磁器	碗	6.8	6.0	3.2	—	40	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
40	磁器	碗	(7.4)	6.1	3.8	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
41	磁器	碗	(7.6)	5.7	(4.2)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
42	磁器	碗	(6.9)	5.8	(3.6)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
43	磁器	碗	6.6	5.8	4.2	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
44	磁器	碗	6.4	4.9	3.6	—	55	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
45	磁器	碗	(6.8)	4.8	3.2	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
46	磁器	碗	(7.0)	5.0	(3.0)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
47	磁器	碗	6.6	[3.4]	—	—	75	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
48	磁器	坏	6.0	2.9	1.9	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
49	磁器	坏	6.3	3.0	2.6	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 (赤・黄・緑)	
50	磁器	坏	(6.8)	3.0	2.8	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (金・赤) 口唇部上絵付 (金)	
51	磁器	坏	—	[2.2]	2.5	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (赤・黄・金・灰) 色飛びあり	
52	磁器	坏	6.1	2.8	2.5	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉	
53	磁器	坏	6.1	3.0	2.6	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (被熱により黒化・色飛び)	
54	磁器	坏	5.9	2.8	2.4	—	75	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
55	磁器	坏	(6.0)	2.7	2.6	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	
56	磁器	坏	5.8	2.8	2.4	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 (白・赤・黄)	
57	磁器	坏	6.1	2.6	2.5	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 (緑・赤・金) 内面被熱 (変色・色飛び)	
58	磁器	坏	5.9	2.7	2.5	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉	
59	磁器	坏	(6.3)	2.6	(2.6)	—	10	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青) 口縁部金彩	
60	磁器	坏	(5.4)	2.8	2.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
61	磁器	坏	—	[2.4]	2.9	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青・金)	
62	磁器	坏	6.9	2.8	2.2	—	90	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
63	磁器	皿	(9.4)	2.5	(5.0)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
64	磁器	皿	10.3	2.7	5.7	—	65	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅	
65	磁器	皿	10.0	2.4	5.2	—	85	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	69-1
66	磁器	皿	14.1	4.4	8.4	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	76-11
67	磁器	皿	(14.2)	5.0	8.7	—	25	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤) 2あり	
68	磁器	皿	15.6	3.4	9.0	—	80	普通	灰白	肥前系 内外面施釉 内面染付・釘書 SK327 と接合	
69	磁器	皿	(21.0)	2.8	(11.6)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡1 遺存	
70	磁器	皿	(25.0)	4.5	(13.5)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡2 遺存・焼継印 (赤) 焼継痕あり 被熱 輪花は推定	
71	磁器	皿	(28.6)	6.2	(14.2)	—	10	普通	灰白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡2 遺存 焼継痕・漆継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
72	磁器	皿	26.1	3.8	14.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡3 遺存 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
73	磁器	鉢	14.8	6.7	5.9	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
74	磁器	鉢	12.6	5.6	5.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤) 内面被熱 (弱)・煤付着	76-12
75	磁器	鉢	(13.5)	6.7	6.1	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 内面釘書「ㄇ」	
76	磁器	鉢	—	[3.0]	9.2	—	30	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	
77	磁器	蓋物	12.0	6.3	4.9	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤) 2あり	
78	磁器	蓋	10.1	3.3	4.4	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 SK206 と接合	
79	磁器	蓋	8.8	2.8	3.9	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
80	磁器	蓋	9.0	2.8	3.6	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	
81	磁器	蓋	9.2	3.1	3.7	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 第339 図16 の蓋	
82	磁器	蓋	9.0	3.0	3.6	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	
83	磁器	蓋	(8.6)	2.7	(3.2)	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
84	磁器	蓋	9.1	2.6	3.6	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	68-12
85	磁器	猪口	6.8	6.0	5.0	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
86	磁器	猪口	7.9	6.3	6.2	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
87	磁器	蓋物	(12.6)	[4.4]	—	—	45	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり	
88	磁器	段重	(14.4)	6.0	9.0	—	40	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
89	磁器	德利	—	[9.9]	3.9	—	60	普通	白	肥前系 外面施釉・染付	
90	磁器	油壺	2.1	4.9	5.6	—	80	普通	白	瀬戸美濃系 上下合二枚型成形 外面施釉・色絵 (赤・緑・黄)	
91	磁器	德利	—	[3.3]	—	—	5	良好	灰白	肥前系 外面施釉 釘書「森口」	76-13
92	磁器	香炉	9.8	[5.3]	—	—	10	良好	白	肥前系 外面上位施釉・染付・下位青磁釉	
93	磁器	火鉢	(11.0)	12.5	(10.8)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
94	陶器	碗	(7.4)	4.8	(3.3)	K	15	普通	灰	内外面白化粧後施釉 外面鉄絵	69-2
95	陶器	碗	(6.8)	[5.0]	—	—	30	普通	黄灰	内外面施釉 (下位うのふ釉気味)	
96	陶器	坏	5.9	4.2	3.0	EK	50	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 高台内墨痕カ	
97	陶器	坏	5.2	3.4	2.8	EIK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面ピン痕3	
98	陶器	坏	5.7	3.4	3.0	IK	100	良好	灰	京都信楽系 内外面灰釉 体部中位重焼痕	
99	陶器	坏	5.1	3.2	2.6	EIK	100	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
100	陶器	坏	5.5	3.2	2.7	EK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
101	陶器	皿	(10.4)	[1.4]	—	—	30	普通	灰赤	備前系 胎土炆器質 内面型押陽刻文 口縁部塗土	
102	陶器	皿	—	[1.7]	—	—	5	普通	にぶい赤褐	備前系 胎土炆器質 内面型押陽刻文 口縁部塗土	
103	陶器	皿	—	[1.1]	—	I	5	普通	灰白	底部布目痕 内面型押陽刻文 内外面施釉 松ぼっくりに緑釉	
104	陶器	灯明皿	10.0	2.1	4.1	IK	100	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕	68-10
105	陶器	灯明皿	9.6	2.0	3.6	IK	25	良好	明褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕	
106	陶器	灯明皿	9.6	2.1	4.7	IK	100	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕 口縁部タール状物質付着	
107	陶器	灯明皿	9.6	1.9	4.1	I	100	良好	灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内外面輪状重焼痕	
108	陶器	灯明皿	9.9	2.2	3.9	IK	100	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕	
109	陶器	灯明皿	9.6	2.0	4.6	I	100	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 重焼痕	
110	陶器	灯明皿	9.6	2.2	3.9	I	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り	
111	陶器	灯明皿	8.8	1.8	3.1	I	65	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 内面ピン痕3 外面下位胎土付着 外面タール状物質付着	
112	陶器	灯明皿	8.4	1.6	3.0	K	50	普通	灰白	京都信楽系 内外面施釉 内面ピン痕1 遺存 被熱・煤付着	
113	陶器	灯明皿	8.6	1.9	3.3	K	65	普通	灰白	京都信楽系 内外面施釉	
114	陶器	灯明皿	(10.8)	2.2	3.9	K	20	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 内面ピン痕1・櫛描2条遺存	
115	陶器	灯明皿	9.7	2.2	4.3	DIK	99	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り	
116	陶器	灯明皿	8.9	1.8	3.0	K	55	普通	灰白	京都信楽系 内外面施釉 体部中位重焼痕 煤付着	
117	陶器	灯火具	8.4	5.3	5.5	K	90	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉	
118	陶器	灯火具	8.1	5.3	5.0	—	65	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 被熱 (黒化)	
119	陶器	灯火具	8.3	4.6	5.3	EK	95	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 No.5	
120	陶器	灯火具	—	[6.1]	5.4	K	70	普通	灰白	京都信楽系 内外面施釉 被熱 (弱)	
121	陶器	灯火具	9.0	4.8	4.0	I	100	良好	灰白	大堀相馬系 内外面鉄釉	
122	陶器	乗燭	5.1	6.0	4.7	K	100	良好	灰白	底部糸切痕 (右) 内外面鉄釉 口縁部重焼痕 (口縁歪む)	
123	陶器	皿	(26.4)	5.5	(11.6)	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面鉄絵 内面目跡3 遺存	
124	陶器	爛徳利	4.0	[18.7]	—	K	20	普通	灰白	京都信楽系 外面施釉・緑釉流し掛け 接点のない2片から復元	
125	陶器	土瓶	7.5	14.1	7.7	K	100	普通	灰白	外面青緑釉 内面施釉 内外面煤付着	
126	陶器	土瓶	(6.8)	13.8	9.0	EIK	60	良好	灰	外面白土刷毛塗状・鉄絵 内外面施釉 内面下位胎土付着 体部下位煤付着	
127	陶器	土瓶	7.5	8.6	(7.8)	K	50	普通	灰	内外面施釉 外面白土染付	
128	陶器	土瓶	8.2	[7.3]	—	K	40	普通	灰白	大堀相馬系カ 胎土磁質 外面糠白釉 内面施釉	
129	陶器	土瓶	—	[6.4]	—	K	5	普通	灰白	外面鮫肌釉 内面下位施釉 接点のない3片から復元	
130	陶器	土瓶	—	[6.8]	—	K	5	良好	灰白	外面青緑釉 把手僅かに遺存	
131	陶器	土瓶	6.1	[5.1]	—	K	25	普通	白	京都信楽系 外面施釉・青緑釉流し掛け	
132	陶器	土瓶	—	[2.2]	(7.6)	K	5	良好	灰白	内面施釉 外面墨書 被熱・煤付着	
133	陶器	蓋	8.2	3.3	5.6	K	100	普通	黄灰	上面青緑釉	
134	陶器	蓋	(9.4)	3.7	(6.6)	K	25	良好	灰白	上面青緑釉	
135	陶器	蓋	8.4	3.1	6.0	K	50	普通	灰白	上面青緑釉	
136	陶器	蓋	7.8	3.0	5.2	K	55	普通	灰白	上面青緑釉	
137	陶器	蓋	—	[1.8]	—	K	40	普通	灰白	上面青緑釉	
138	陶器	蓋	7.6	1.6	3.2	K	90	良好	淡黄	京都信楽系 上面施釉 体部下位重焼痕	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
139	陶器	蓋	7.0	1.8	2.7	EIK	65	普通	灰	底部離し糸切痕(左) 上面施釉・白釉・鉄絵 口縁端部白化粧 亀のツマミ	
140	陶器	蓋	6.0	[1.6]	—	K	90	普通	にぶい黄橙	上面白化粧・三彩・施釉	
141	陶器	水注	7.2	8.2	5.1	IK	95	普通	褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 内底面・外面下位輪状重焼痕 口縁欠失部摩耗	
142	陶器	水注	6.7	8.1	5.4	IK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉 内面黒色付着物あり	
143	陶器	水注	8.0	9.4	6.0	IK	50	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位輪状重焼痕	
144	陶器	水注	7.0	8.7	7.1	—	100	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 外面黒色付着物	
145	陶器	播鉢	30.6	12.0	19.6	DEIKL	20	普通	にぶい橙	堺明石系 内面挿目	
146	陶器	水甕	22.7	16.1	11.6	DEK	100	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面赤釉流し掛け・ヘラガキ状施文 内面目跡4 外面下位目跡1 高台内墨書	
147	陶器	瓶掛	—	[16.7]	20.1	EK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉・緑・白釉流し掛け 底部柿釉 刷毛塗状 内面柿釉拭き取り・目跡5あり 底部ヘラ書き・貫通孔3(鉄製品付)	76-15
148	陶器	植木鉢	—	[4.9]	7.7	DEK	30	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 高台挟り1 底部墨書	76-16
149	瓦質土器	火鉢	(22.4)	[17.4]	22.0	CFHI	70	普通	橙	砂目底 外面上位櫛歯状施文・中位ミガキ・下位トビガンナ状施文 燻す 内面上位・口縁部剥落 胎土中心灰色	
150	瓦質土器	火鉢	—	[5.2]	12.4	CHIK	30	普通	灰黄	底部ヘラナゲ 体部下位ケズリ やや酸化焙焼成	
151	土師質土器	火鉢	(21.0)	[7.6]	—	AHI	5	普通	浅黄橙	胎土粉質 体部上位ケズリ 内面上位・口縁部黒色塗布	
152	瓦質土器	蓋	(18.4)	[2.4]	—	AHI	5	普通	淡黄	上面ヘラナゲ 体部ミガキ 燻す	
153	瓦質土器	蓋	23.6	[3.6]	—	CFHIK	65	普通	灰白	上面砂目 燻す 内面煤付着	
154	瓦質土器	蓋	26.8	4.1	—	HIK	80	普通	灰白	上面砂目 内底面ランダムなナゲ 燻す 内面煤付着	
155	瓦質土器	火鉢	25.0	12.6	20.2	CEFHI	60	普通	灰白	砂目底 体部中位弱いケズリ 外面下位黒色塗布 内面下位火箸傷 口縁部敲打痕 内面中位・口縁部煤付着	69-3
156	瓦質土器	火鉢	(24.5)	12.8	(22.4)	CHIK	40	普通	灰白	砂目底 やや酸化焙焼成 口縁部敲打痕 内面中位煤付着	
157	瓦質土器	十能	長さ[15.7] 幅[15.8] 高さ4.8			CEI	40	普通	灰	下面シワ状痕 把手上面ヘラナゲ 燻す	
158	土師質土器	焙烙	—	[3.3]	—	CHIK	3	良好	灰白	把手 内面・把手下面煤付着	
159	土師質土器	焙烙	(33.4)	[4.4]	(35.6)	CEFH	15	普通	浅黄橙	底部シワ状痕 胎土粉質 体部煤付着 SK204と接合	
160	土師質土器	焙烙	37.5	5.9	37.5	CHIK	70	普通	灰白	底部シワ状痕 内面円周状のナゲ 内耳2遺存 底部端部～体部煤付着	
161	瓦質土器	竈	(24.6)	24.7	(23.8)	CFHI	45	普通	灰	砂目底 体部下端ケズリ 燻す 内面上位・下端部・外面上位煤付着 窓部は推定	
162	瓦質土器	火鉢	—	[5.2]	10.0	AHIK	45	普通	橙	江戸在地系 底部ヘラナゲ 外面スタンプ施文 燻す 上端部敲打痕・摩耗 被熱(剥落)	
163	土師質土器	植木鉢カ	—	[4.2]	4.5	ADHIJK	30	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左)	
164	施釉土器	小壺	—	[3.6]	2.8	HIK	70	普通	浅黄橙	底部糸切痕 胎土粉質 外面施文・施釉	69-4
165	土師質土器	甕	(7.4)	5.1	3.9	AHK	45	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	
166	施釉土器	灯明皿	(8.4)	1.7	(3.0)	AHI	25	普通	橙	江戸在地系 底部糸切痕遺存 胎土粉質 内外面施釉(剥落)	
167	かわらけ	小皿	(7.8)	1.7	4.5	AFHIJ	60	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左)	
168	施釉土器	灯明皿	(9.1)	1.8	3.6	AIK	30	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面施釉(剥落) 口縁部煤付着	
169	施釉土器	灯明皿	9.0	2.0	3.5	IK	70	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面施釉	
170	施釉土器	乗燭	4.8	2.0	3.2	I	100	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 内外面施釉 芯立煤付着	
171	土師質土器	乗燭	2.3	1.8	1.9	CHI	100	普通	浅黄橙	芯立部煤付着	
172	土器	埴塙	3.1	4.1	—	—	100	—	—	内面緑青付着 外面ガラス化	
173	土製品	ミニチュア	1.7	0.9	0.4	AK	—	良好	にぶい橙	蓋 型成形 上面施釉 重さ1.7 g	119-2
174	土製品	ミニチュア	(8.2)	[2.5]	—	HIK	—	良好	にぶい橙	行平鍋 胎土粘質 内外面白化粧・施釉 重さ8.2 g	
175	施釉土器	ミニチュア	—	[3.1]	(4.8)	HK	10	普通	橙	江戸在地系 鍋 胎土粉質 外面下位・底部白化粧 外面上位施釉 重さ11.2 g	
176	土製品	ミニチュア	長さ[1.4] 幅1.6 厚さ0.3			AK	—	良好	橙	江戸在地系 銭貨 型成形 雲母付着 重さ0.9 g	119-3
177	土製品	泥面子	径1.3 厚さ1.1			AHIK	—	良好	橙	一枚型成形 中実 摩耗著しい 重さ7.4 g	122-11
178	土製品	人形	長さ1.6 幅[2.2] 厚さ0.7			A	—	良好	にぶい橙	鯛 一枚型成形 中実 雲母付着 重さ1.7 g	119-4
179	陶器	人形	長さ2.4 幅1.7 厚さ2.3			—	—	普通	灰白	京都系 手捻り成形 右手焼成前穿孔1あり 緑釉 弱く被熱 重さ2.7 g	119-5
180	陶器	人形	長辺[6.4] 短辺[2.8] 厚さ[0.9~2.1]			IK	—	普通	灰白	京都系 手捻り成形 焼成前穿孔1あり 重さ32.5 g	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
181	土製品	人形	長さ5.0 幅3.4 厚さ0.7			AIK	—	良好	にぶい橙	江戸在地系 犬 前後合二枚型成形 中空 外面施釉・白土・緑釉 重さ27.2 g	119-6
182	土製品	鳩笛	長さ[6.8] 幅3.5 厚さ5.4			IK	—	良好	橙	江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 外面施釉・上面白土・緑釉 重さ32.1 g No.9	119-7
183	瓦	軒棧瓦	長さ[3.8] 幅[9.0] 厚さ2.5 高さ[5.4]			AIK	—	普通	灰白	江戸式 弱く銀化 燻す 胎土中心部灰色	
184	瓦	軒丸瓦	幅15.3 厚さ2.6 高さ[10.1] 径15.3			ADHIK	—	良好	灰白	右巻十四連珠三巴文 銀化	123-21
185	木製品	漆椀	口径12.2 高さ5.6 底径7.8							横木取り 内面赤漆 外面緑漆 高台内黒で「㊦」	128-18
186	木製品	漆椀	口径13.4 高さ5.6 底径8.2							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 高台内赤で「㊦」	129-1
187	木製品	漆椀	高さ[4.1] 底径5.2							横木取り 内外面黒漆 高台内赤で「㊦」	
188	木製品	漆椀	口径11.6 高さ5.2 底径5.5							横木取り 内外面黒漆 高台内赤で「㊦」	
189	木製品	漆椀蓋	口径13.7 つまみ径5.2 高さ3.5							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 つまみ内赤で「㊦」	129-2
190	木製品	漆椀蓋	口径12.9 つまみ径5.8 高さ2.2							横木取り 内外面黒漆 内面赤で「㊦」	129-3
191	木製品	漆椀蓋	口径(13.0) つまみ径6.0 高さ2.2							横木取り 内外面黒漆 内面金で「㊦」	129-4
192	木製品	漆椀蓋	口径14.9 つまみ径7.5 高さ2.8							横木取り 内面黒漆 外面赤漆 金で花文様 つまみ縁黒漆	129-5
193	木製品	漆鉢	高さ[4.3] 底径9.6							横木取り 内面茶漆 金で文様 外面茶漆 高台内黒漆	
194	木製品	曲物	口径(9.5) 高さ[0.9]							板目 底板 表裏黒漆 一部側板残存 脚2	
195	木製品	火打金	長さ11.4 幅4.9 厚さ1.2							板目 柄 表裏炭化 金属一部残存	129-6
196	木製品	独楽	口径6.0 高さ5.7							板目 鉄芯 上面同心円の削り	129-7
197	木製品	匏台	長さ15.9 幅7.6 厚さ2.6							板目	129-8
198	木製品	枕	長さ21.3 幅9.0 厚さ5.6							板目 全面黒漆	129-9
199	木製品	箱	長さ25.2 幅17.7 高さ9.6							板目 側板1 残存 表面墨書	146-5
200	木製品	行灯	長さ20.3 幅20.0 厚さ[3.4]							板目 台部鉄釘残存 表面一部炭化 中央部1.8×1.6cmの方形孔	
201	木製品	下駄	長さ22.6 幅8.5 高さ6.9							板目 連歯下駄 刻印「◎」	
202	木製品	下駄	長さ21.1 幅8.1 高さ6.1							板目 陰卯下駄 黒漆	
203	木製品	下駄	長さ21.0 幅8.5 高さ[2.7]							台板目 歯不明 陰卯下駄 黒漆	
204	木製品	下駄	長さ20.8 幅8.1 高さ[2.2]							板目 陰卯下駄 表裏面黒漆	
205	木製品	下駄	長さ22.4 幅8.2 高さ6.2							板目 陰卯下駄 鼻緒	
206	木製品	下駄	長さ20.6 幅6.5 高さ[2.2]							板目 陰卯下駄 全面黒漆 鼻緒残存	
207	木製品	下駄	長さ16.4 幅5.1 高さ2.1							板目 無眼下駄 木釘残存	
208	木製品	下駄	長さ22.0 幅5.7 高さ2.7							板目 無眼下駄	
209	銅製品	煙管	火皿径1.8 重さ2.6							雁首火皿	
210	銅製品	煙管	長さ3.1 小口径1.1 重さ3.7							雁首 火皿欠失	
211	銅製品	煙管	長さ3.6 小口径1.1 口付径0.6 重さ6.3							吸口 内部に羅字残存	
212	銅製品	簪	長さ12.4 幅0.6 厚さ0.1 重さ2.7								
213	銅製品	簪	長さ11.5 幅1.0 厚さ0.3 重さ4.7							玉に花 綾杉文	
214	鉄製品	火打金	長さ2.0 幅6.2 厚さ0.4 重さ17.2								
215	鉄製品	環金具	径3.4×3.2 幅0.9 厚さ0.3 重さ11.6								
216	鉄製品	環金具	径3.4×3.0 幅1.2 厚さ0.3 重さ11.1								
217	鉄製品	釘	長さ7.0 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.4								
218	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.8								
219	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.7								
220	銅製品	錢貨	径23.3 厚さ0.9 重さ2.2							寛永通寶(古)	
221	銅製品	錢貨	径22.7 厚さ0.8 重さ1.8							寛永通寶(古)	
222	銅製品	錢貨	径28.2 厚さ1.2 重さ4.6							寛永通寶(新) 11波	
223	銅製品	錢貨	径23.2 厚さ1.0 重さ2.3							寛永通寶(新)	
224	銅製品	錢貨	径23.3 厚さ1.4 重さ2.3							寛永通寶(新)	
225	銅製品	錢貨	径24.2 厚さ1.2 重さ2.6							寛永通寶(新)	
226	銅製品	錢貨	径23.2 厚さ0.9 重さ2.4							寛永通寶(新)	
227	銅製品	錢貨	径23.2 厚さ0.8 重さ1.9							寛永通寶(新)	
228	銅製品	錢貨	径24.3 厚さ1.2 重さ2.7							寛永通寶(新)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
229	銅製品	銭貨	径 24.4	厚さ 1.0	重さ 2.4					寛永通寶(新)	
230	鉄製品	銭貨	径 23.6	厚さ 1.2	重さ 2.2					寛永通寶(新)	
231	鉄製品	銭貨	径 25.3	厚さ 1.8	重さ 1.6					寛永通寶(新)	
232	鉄製品	銭貨	径 24.2	厚さ 1.5	重さ 3.4					寛永通寶(新)	
233	銅製品	雁首銭	径 20.8 × 19.2	厚さ 1.6	重さ 2.1						
234	石製品	石筆	長さ 3.5	幅 0.6	厚さ 0.6	重さ 2.4				滑石(灰色) 両端使用	
235	石製品	火打石	長さ 2.6	幅 1.7	厚さ 1.3	重さ 6.2				玉髓 稜の潰れ著しい	
236	石製品	砥石	長さ 5.4	幅 3.7	厚さ 2.6	重さ 72.5				流紋岩 砥面 6	
237	石製品	硯	長さ 9.6	幅 4.1	器高 1.1	重さ 90.0				粘板岩 赤褐色 裏面刻書	141-2
238	石製品	硯	長さ [5.0]	幅 4.5	器高 1.5	重さ 33.2				凝灰岩 内面墨付着	
239	硝子製品	筭	長さ [3.1]	幅 0.7	厚さ 0.4	重さ 3.3				被熱(白色化) 中実	142-1
240	骨製品	ボタン	径 1.9	厚さ 0.5	重さ 1.7					黒色塗付物付着	142-13

62 は肥前系磁器の坏である。体部が丸く、扁平な器形で、高台径が小さい。紅坏や紅皿等の器形に類似する。

66・67 は肥前系磁器の皿である。高台が高い蛇ノ目凹形高台で、口縁部は輪花状に成形される。両者ともに焼継痕と高台内に焼継印がみられる。

第 341 図 69、第 342 図 70・72 は肥前系磁器の中皿である。内面に一枚絵の染付が施され、口縁部は輪花状に成形されている。70・72 には焼継痕と高台内に焼継印がみられる。

71 は肥前系磁器の皿である。見込みは深く、口縁部は強く反る。推定口径は 28.6cm を測り、大皿に匹敵する大きさである。焼継痕、漆継痕がみられ、高台内に焼継印が認められる。漆継痕は栗橋宿では稀である。

第 343 図 74・75 は肥前系磁器の八角鉢である。74 は輪高台で、焼継痕と高台内に焼継印がみられる。75 は蛇ノ目凹形高台で、高台内に釘書き「㊦」の屋号がみえる。この屋号は 18 世紀中葉に比定される第 6 地点(『栗橋宿跡Ⅲ』埤埋文 2019c) 第 73 号土壌出土の徳利でのみ確認されている。

第 343 図 78～82 は肥前系、第 344 図 83・84 は瀬戸美濃系磁器碗の蓋である。78 は丸碗の蓋で、79～84 は端反形碗の蓋である。81 は第 339 図 16 とセットである。83・84 は同文の製品で、つまみ端部は幅広である。内面に「道光年製」の

銘がみえる。清朝における道光年間(1821～1850 年)である。

88 は肥前系磁器の段重である。腰部に露胎の段が付き、中段と考えられる。

90 は瀬戸美濃系磁器の油壺である。上下合わせの型成形で、中位に接ぎ痕がみられる。外面は赤・緑・黄色の上絵付である。

91 は肥前系磁器の大型長頸壺の体部破片である。釘書き「森」がみえ、第 264 号土壌で出土している「森田屋」(第 334 図 11)の可能性がみえる。

94 は産地不詳陶器の碗である。緻密で硬質な胎土を呈し、白化粧後に外面に鉄絵を施し、施釉している。地方窯系の可能性がみえる。

95 は産地不詳陶器の碗である。湯呑形を呈し、外面下位の釉調はうのふ気味である。

101・102 は同文の備前系陶器の煎餅皿である。型成形で、内面は陽刻文である。口縁部に塗土がみられる。19 世紀前半に出現する器種である(鈴木 2014)。

第 345 図 104～110・115 は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。104～107 は油皿で、108～110・115 は油受皿である。いずれも外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。油受皿の受け口切り込みは「U」字状を呈する。

111～114・116 は京都信楽系陶器の灯明皿である。114 は胎土が磁質で、内面に窯道具痕が 1 箇所遺存し、櫛描状の刻みがみられる。116 は油

受皿で、体部中位に輪状重ね焼き痕がみられる。

117～120は京都信楽系陶器の灯火具である。

121は大堀相馬系陶器の灯火具である。鉄釉が施釉され、体部下半は筒形を呈する。

第346図125は産地不詳陶器の青土瓶である。外面は青緑釉で、把手は型成形である。内外面に煤が付着する。126は産地不詳陶器の土瓶である。外面には刷毛塗状の白土と鉄絵がみられる。

128は糠白釉が施釉されている土瓶である。大堀相馬系陶器の可能性はある。胎土は磁質である。

第348図147は瀬戸美濃系陶器の瓶掛である。六角形で、両側面に獅子頭が付く。外面の施文は4種類みられる。灰釉に緑釉・白釉が流し掛けられている。底部は柿釉刷毛塗状で、内面は柿釉が拭き取られている。底部に貫通孔が3箇所みられ、一部棒状鉄製品が差し込まれている。底部にはヘラ書きがみられる。

第349図155・156は瓦質土器の脚付火鉢である。輪高台状の脚部が付く。口縁部には敲打痕がみられ、155の内面下位に火箸による使用痕が遺存する。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。

158は土師質土器の把手付焙烙である。把手は水平に付き、焼成前穿孔が2箇所みられる。内面と把手下面に使用痕と考えられる煤が付着する。

159・160は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残る。160には内耳が遺存する。159は胎土が粉質である。いずれも角閃石が含まれ、160は在地産と推定される。

第350図161は瓦質土器の竈である。底部は無調整の砂目底で、体部下端にケズリ状調整がみられる。挿図では窓部を推定復元した。

162は江戸在地系瓦質土器の筒形火鉢である。底部にヘラナデ調整がみられ、外面はスタンプ文が施文される。口縁部は敲打により欠失しており、灰落としの可能性が推定される。

164は施釉土器の小壺である。頸部がすぼまる

器形で、底部に糸切痕が遺存し、外面には僅かに施文がみられる。透明釉が施釉される。

172は砲弾形を呈する土製坩堝である。内面に緑青が付着する。

176は銭貨を模した江戸在地系のミニチュアである。型成形で、雲母が付着する。表面に「定／銀／堂」、裏面に「一分」の陽刻文字がみえる。

179は京都系の人形である。手捻り成形で、緑釉が施釉される、胎土は陶器質である。右手に焼成前穿孔があり、別作りの釣竿があったと考えられる。

180は京都系の人形類と推定される。手捻り成形で、焼成前穿孔がみられる。ぶら人形の手足のようパーツの一部の可能性が推定される。

181は犬を模した江戸在地系の土製人形である。前後合わせの二枚型成形で、中空である。透明釉が施釉され、白土、緑釉で彩色されている。

第351図182は江戸在地系の鳩笛である。上下合わせの二枚型成形で、外面に透明釉が施釉される。上面は白土と緑釉で彩色されている。

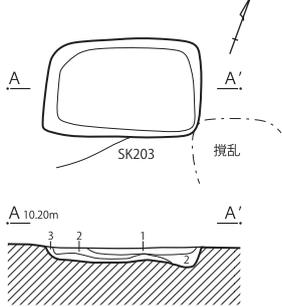
183は江戸式に類似する軒棧瓦である。

185～188は漆椀、189～192は漆椀の蓋である。屋号が書かれているものが多く、185は「可」、186・188・189～191は「冨」、187は「全」である。「冨」は第8地点では多く出土している。192は端反形を呈し、外面は赤漆、内面は黒漆が塗布されている。外面は金彩模様が描かれる。

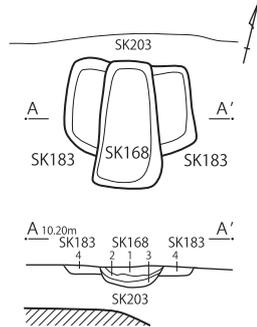
第352図195は火打金の木製柄である。金属が一部遺存する。火打金の金属部分も出土しており、第354図214に図示した。第8地点では火打石は一定量出土するが、火打金の出土量は少ない。

第354図213は銅製の簪である。玉に花、綾杉文がみられる。217～219は鉄製の頭巻釘である。220～232は銭貨の寛永通寶である。220・221は古寛永、222は新寛永の四文銭である。223～229は新寛永で、230～232は鉄銭である。

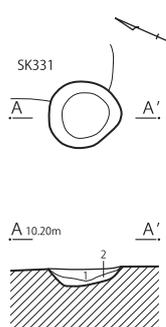
S K 163



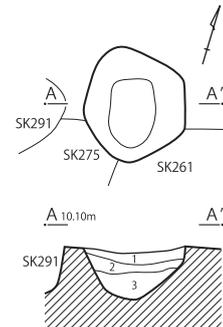
S K 168・183



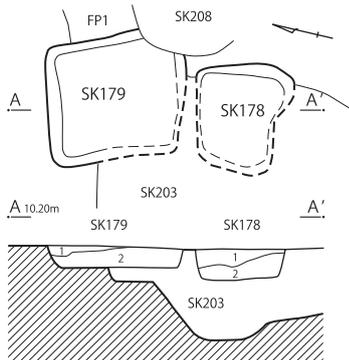
S K 176



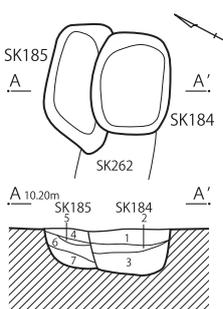
S K 177



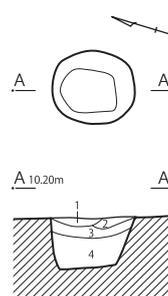
S K 178・179



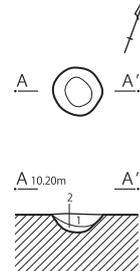
S K 184・185



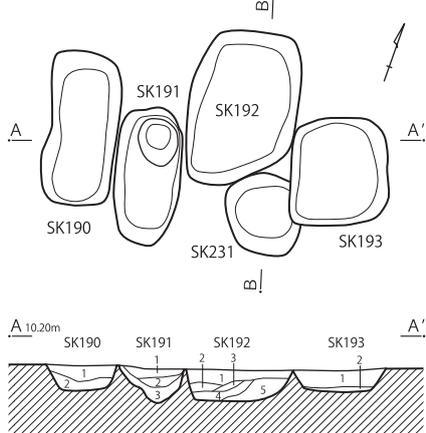
S K 186



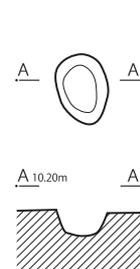
S K 187



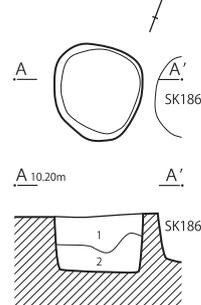
S K 190 ~ 193・231



S K 195



S K 240



S K 163
1 暗褐色土 細粒砂質 灰褐色粒子少量
2 灰褐色土 砂粒主体
3 暗灰褐色土 砂粒主体

S K 168 (1~3)・S K 183 (4)
1 暗褐色土 シルト質 炭化物主体
黄色土ブロック含む
2 黄褐色土 シルト質
3 暗黄褐色土 シルト質 均質
4 明灰褐色土 シルト質 均質 陶磁器含む

S K 176
1 暗灰褐色土 シルト質 砂粒多量
2 暗灰褐色土 シルト質 均質

S K 177
1 明灰褐色土 細粒砂質 酸化鉄多量
2 暗灰褐色土 細粒砂質 板状の木片多量
3 明灰褐色土 細粒砂質 木製品含む

S K 178
1 暗灰褐色土 木片多量
2 灰褐色土 均質

S K 179
1 明灰褐色土 均質 しまり強
2 暗灰褐色土 砂粒多量

S K 184 (1~3)・S K 185 (4~7)
1 暗灰褐色土 シルト質 炭化物少量
2 暗褐色土 シルト質 木質・陶磁器少量
3 灰白色土 シルト質
4 明灰褐色土 細粒砂質 炭化物少量
5 暗褐色土 細粒砂質 炭化物少量
6 明灰褐色土 細粒砂質 炭化物少量 酸化鉄少量
7 暗灰褐色土 細粒砂質 炭化物少量 木片少量

S K 186
1 暗灰褐色土 シルト質 しまり強
2 黄褐色土 砂粒主体
3 暗灰褐色土 黄色粒子少量 木片混入
4 暗褐色土 均質 黄色粒子少量

S K 187
1 灰褐色土 シルト質 灰多量 炭化物若干
焼土粒子微量
2 暗灰褐色土 均質 シルト質

S K 190
1 灰褐色土 シルト質 砂粒含む 炭化物少量
2 灰褐色土 粘土質 炭化物少量 酸化鉄多量
磁器片含む

S K 191
1 褐色土 粘土質 木質多量
2 黄褐色土 粘土質 酸化鉄少量
3 灰褐色土 粘土質 酸化鉄少量

S K 192
1 灰色土 シルト質 木質・酸化鉄含む
2 砂 砂粒(φ0.5mm)含む 酸化鉄少量
3 灰褐色土 粘土質 木質多量 酸化鉄少量
4 灰褐色土 粘土質 粘性強 木質含む
5 灰黄褐色土 粘土質 木質微量

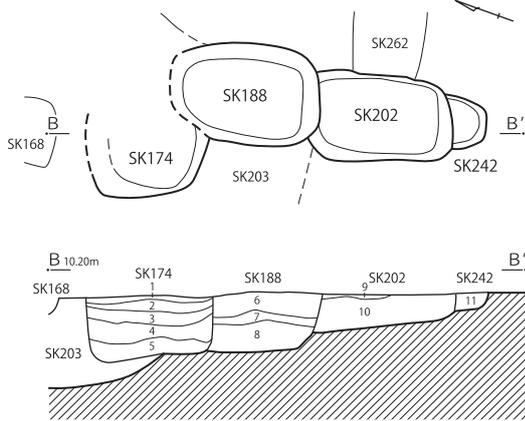
S K 193
1 黒褐色土 砂質 パウダー状 炭化物多量
2 灰黄色土 粘土質 粘性強

S K 231
1 炭化物層 炭化物混入 若干炭化した木片含む
2 灰黄褐色土 粘土質 木質含む
3 灰茶褐色土 シルト質 木質・砂微量

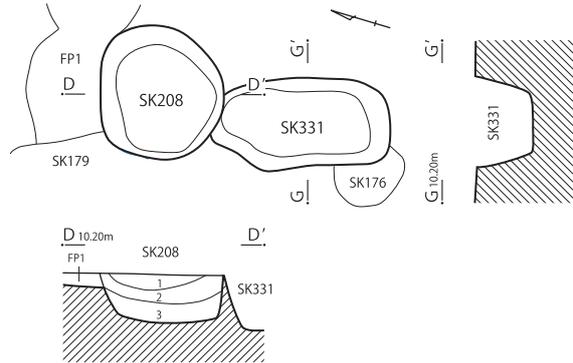
S K 240
1 暗黄灰色土 シルト質 均一 炭化物(φ2~5mm)
少量 酸化鉄含む
2 灰黒色土 シルト質 均一 炭化物微量

第 356 図 区画 AG 土 壙 (3)

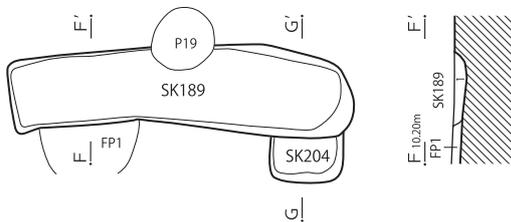
S K 174・188・202・242



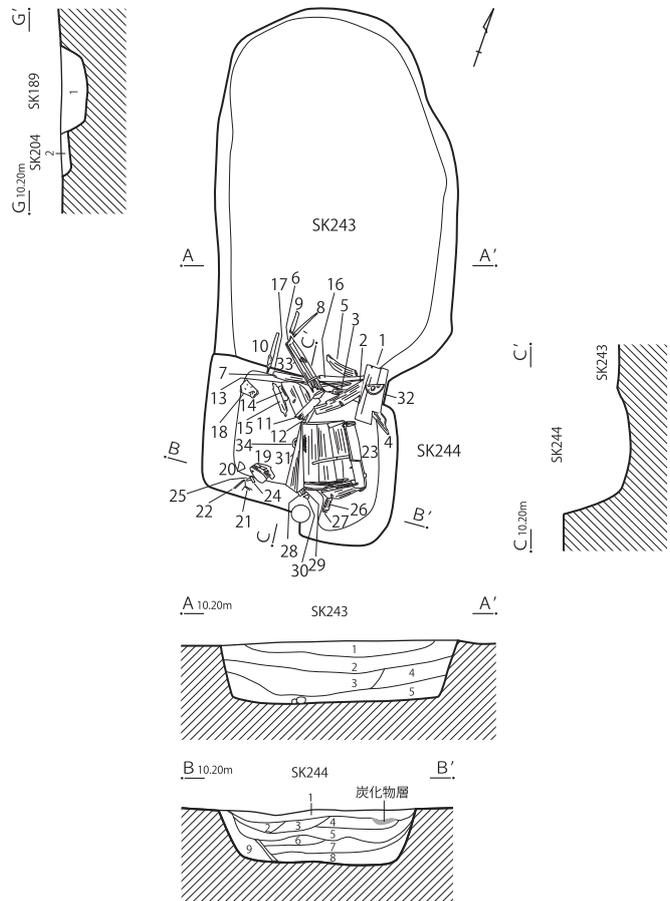
S K 208・331



S K 189・204



S K 243・244



S K 174 (1~5)・S K 188 (6~8)・S K 202 (9、10)・S K 242 (11)

- 1 灰褐色土 シルト質 均質
- 2 黒褐色土 シルト質 炭化物多量
- 3 暗灰褐色土 シルト質 炭化物微量 陶磁器含む
- 4 黒褐色土 シルト質 均質 木片少量
- 5 黒褐色土 シルト質 炭化物多量 木片多量
- 6 灰褐色土 シルト質
- 7 暗灰褐色土 シルト質 木片少量
- 8 暗灰褐色土 シルト質
- 9 細粒砂
- 10 シルト シルト質 黄色土ブロック (φ 20 mm) 少量
- 11 暗灰褐色土 酸化鉄多量 炭化物 (φ 10 mm) 多量

S K 189 (1)・S K 204 (2)

- 1 灰褐色土
- 2 暗灰褐色土 シルト質 炭化物 (φ 10 ~ 20 mm)・焼土 (φ 10 mm) 多量

S K 208

- 1 灰褐色土 シルト質 黄色土ブロック (φ 20 ~ 30 mm)・炭化物少量
- 2 暗灰褐色土 シルト質 炭化物 (φ 10 mm) 多量
- 3 灰褐色土 シルト質 均質 しまり強

S K 243

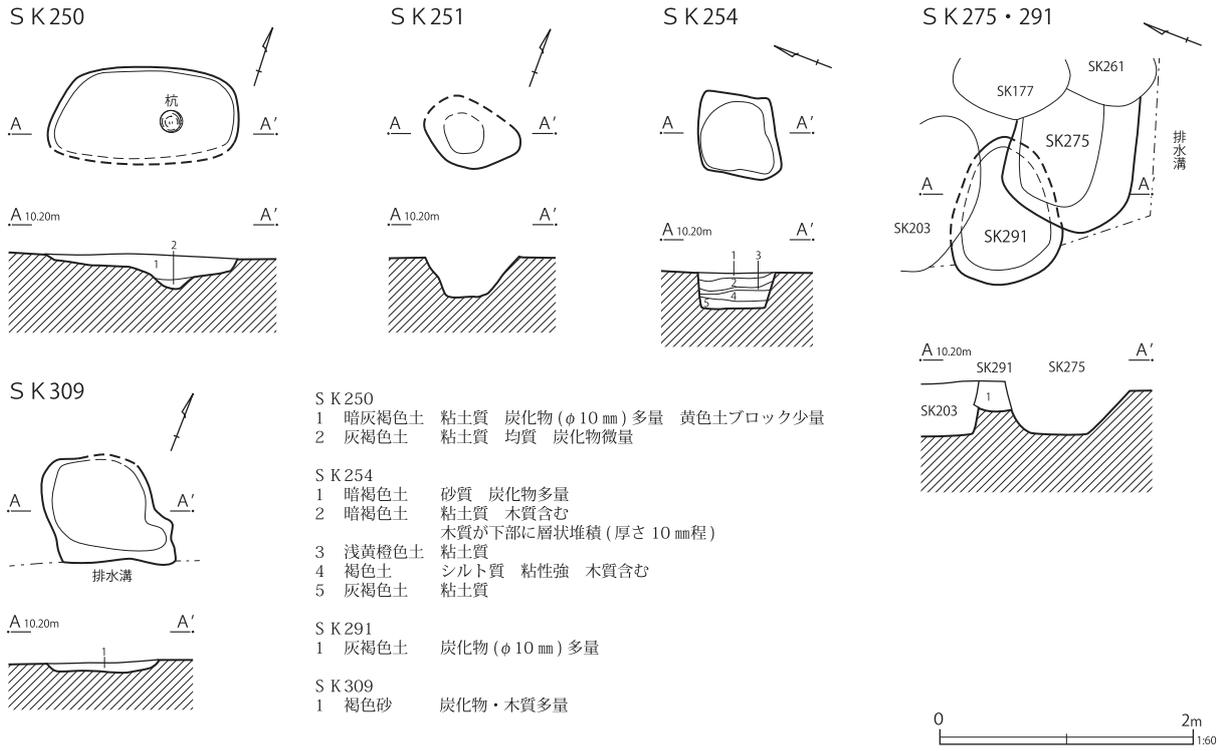
- 1 暗褐色土 粘土質 黄色粒子少量
- 2 暗灰褐色土 粘土質 黄色粒子多量 炭化物 (φ 10 mm) 少量
- 3 暗灰褐色土 粘土質 炭化物層状に含む
- 4 灰褐色土 粘土質 木片多量
- 5 灰白色土 砂質

S K 244

- 1 暗褐色土 砂質 木質・炭化物多量
- 2 暗褐色土 シルト質 粘性強 炭化物少量
- 3 灰褐色土 粘土質 炭化物微量
- 4 白色土 砂層 粗粒子
- 5 黄褐色土 シルト質 粘性強 木質多量 木製品含む
- 6 黄褐色砂 木質微量 (上層の混入)
- 7 灰土 粘土質 木質多量 木製品多量
- 8 暗灰色土 粘土質
- 9 黄褐色土 粘土質 炭化物少量



第 357 図 区画 AG 土 壤 (4)



第358図 区画AG土壌(5)

第355図234は滑石製の石筆で、混入と考えられる。235は玉髓製の火打石である。236は白色の流紋岩製砥石である。全面を砥面としている。237は赤褐色を呈する粘板岩製硯である。裏面に刻書がみえる。

以上に取り上げた土壌の他にも特徴的な遺物が出土しており、以下に記述する。

第359図2は地方窯系と推定される陶器で、大型のこね鉢である。内外面に灰釉が施釉され、外面に青緑釉が流し掛けられている。胎土は緻密で硬質である。

4は瀬戸美濃系磁器で、端反形碗の蓋である。つまみ端部が幅広で、内面に「道(光)年(製)」の染付銘がみられる。

8は土瓶と推定される漆塗の陶器である。器形はソロバン形を呈する。第139号土壌で類似する製品が出土しており(第300図2)、「陶胎蒔絵」、「陶漆器」、「漆陶器」等と呼ばれる陶器と考えられる。代表的なものでは、江戸時代後期に軟質陶器を焼いた名古屋の「豊楽焼」や「慶楽焼」等が

ある(矢部ほか2002)。

上下合わせの型成形で、接ぎ痕がみられる。外面上位は陽刻状施文で赤漆が塗布される。下位は黒漆が塗布されているが、脆く、著しく剥落している。外面上位には把手が付いていたと考えられる欠失部がみられる。

第360図13は備前系陶器の壺・甕類と推定される。胎土は炆器質で、外面に施釉状の光沢がみられる。被熱している。

14は瓦質土器の火鉢である。大型の丸火鉢と推定され、外面にミガキ調整とスタンプ施文がみられる。表面は燻しにより灰～黒色を呈する。

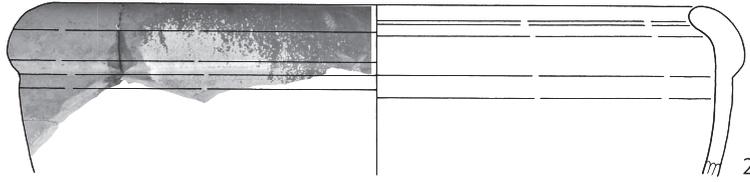
15は瓦質土器の植木鉢である。体部の開きが大きく、器高が低い。底部は糸切痕がナデ消されている。燻しにより表面の色調は灰色である。胎土に細粒な雲母が含まれる。

21は地方窯系陶器と推定される片口鉢である。灰釉が施釉され、体部下位に鑄状文がみられる。内面に台形の目跡が5箇所みられる。被熱により釉は白色化し、胎土は橙色化している。底部に墨

SK 168

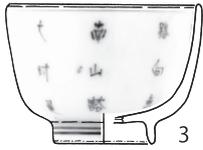


1

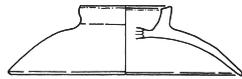


2

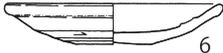
SK 174



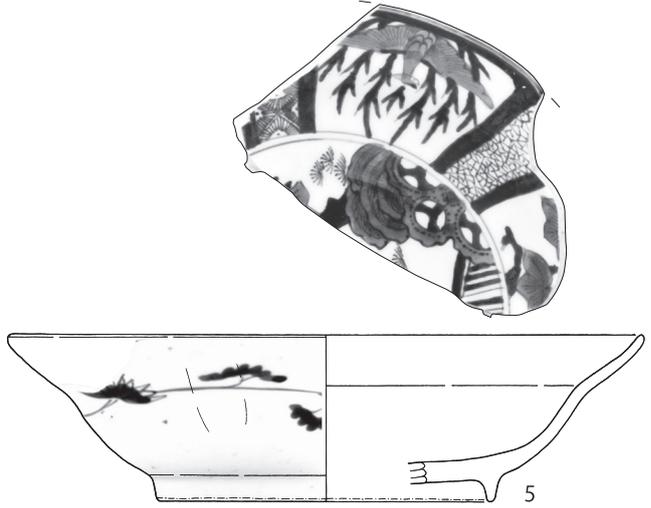
3



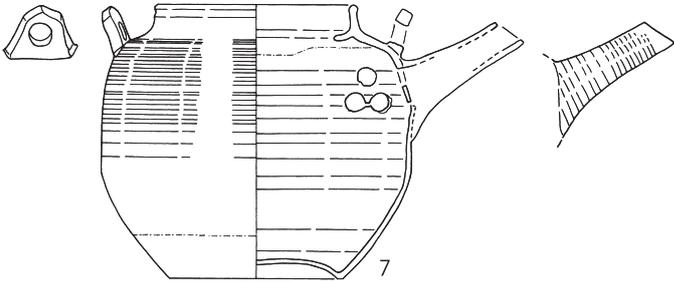
4



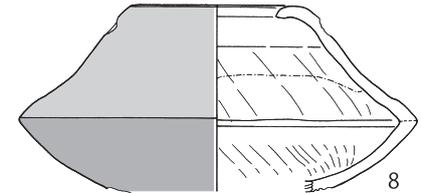
6



5

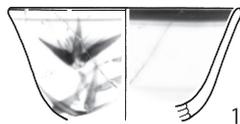
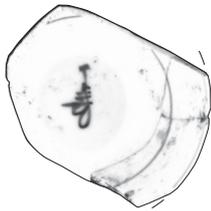


7

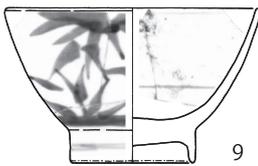


8

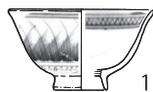
SK 177



10



9



11

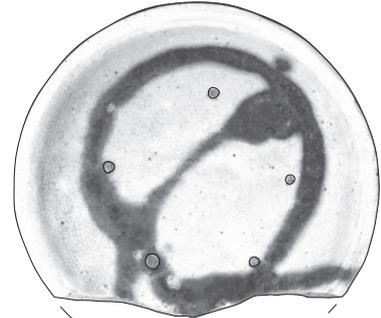
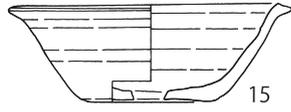
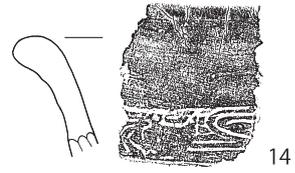
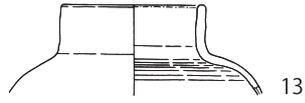
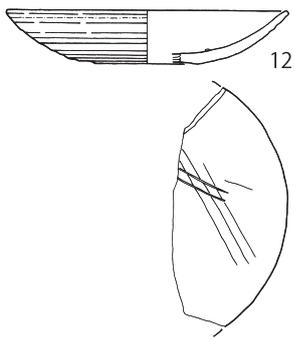
赤漆 黒漆

0 10cm
2 1/4

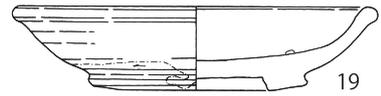
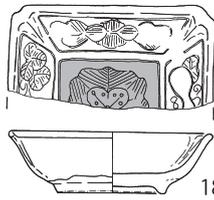
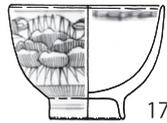
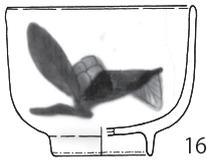
0 10cm
1・3~11 1/3

第 359 図 区画 AG 土壙出土遺物 (1)

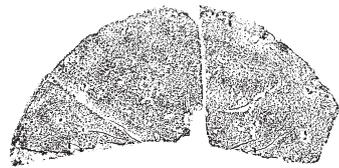
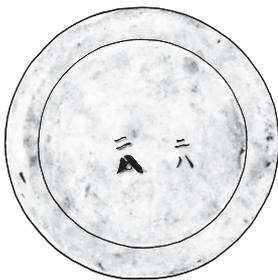
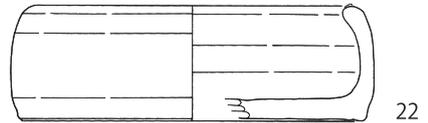
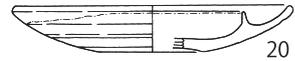
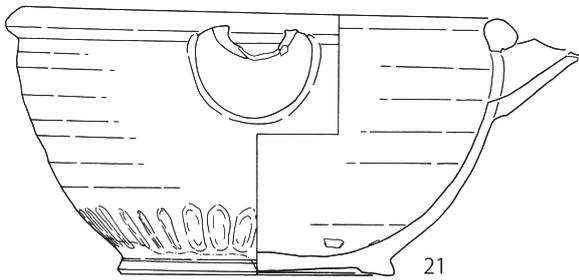
SK178



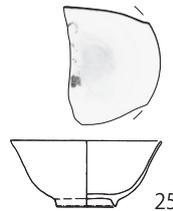
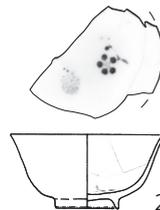
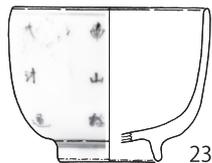
SK185



■ 染付

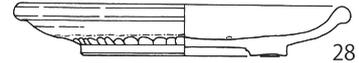
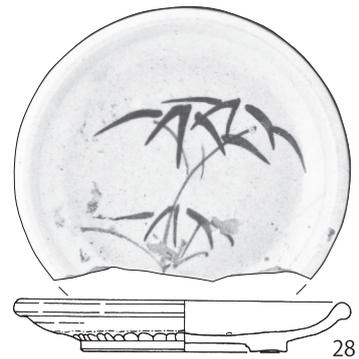
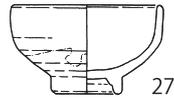
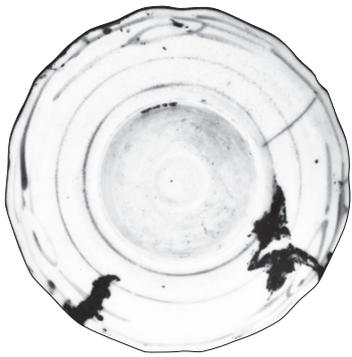
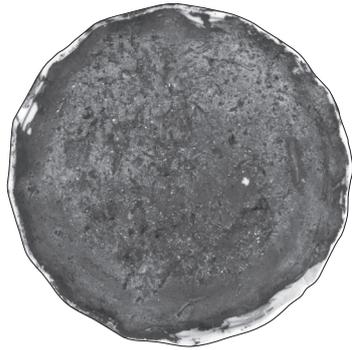


SK188

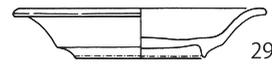


第360図 区画AG土壙出土遺物(2)

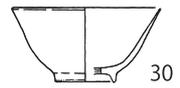
S K 188



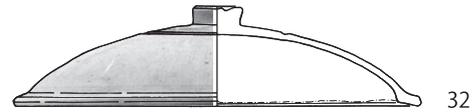
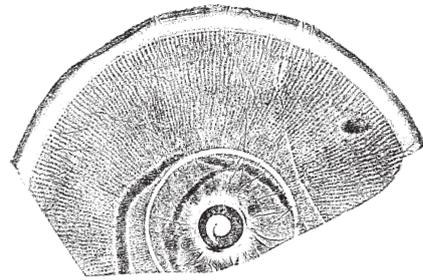
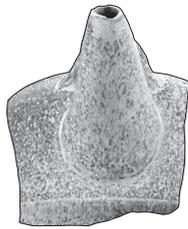
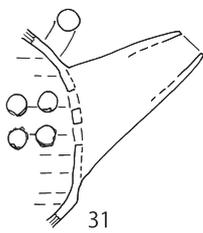
S K 190



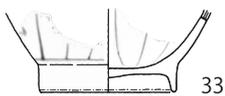
S K 202



S K 208

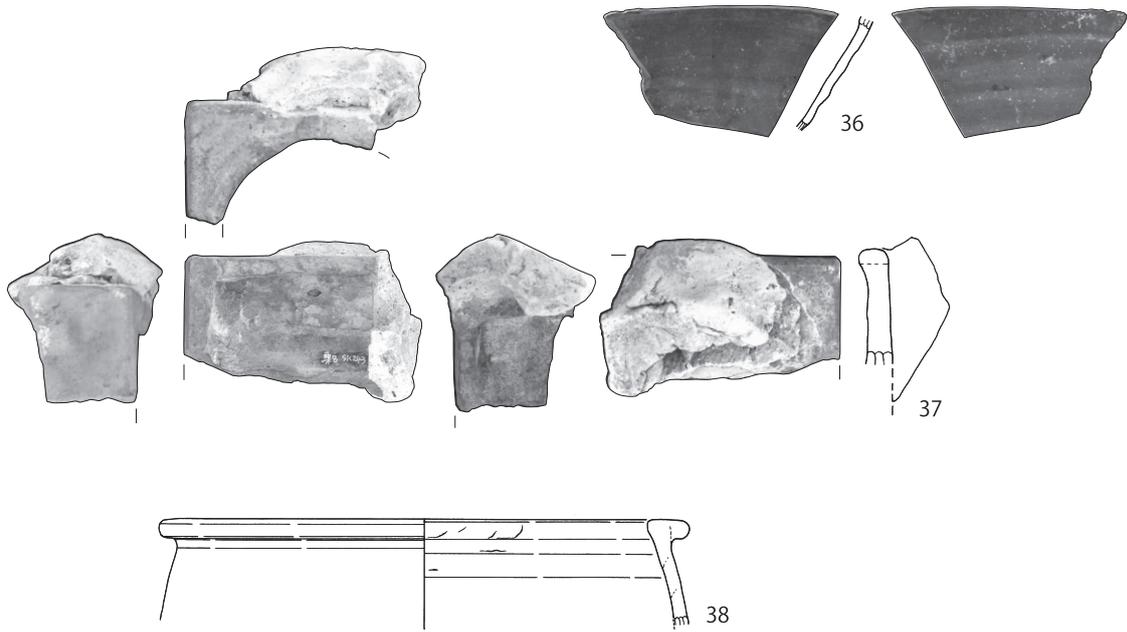


S K 243

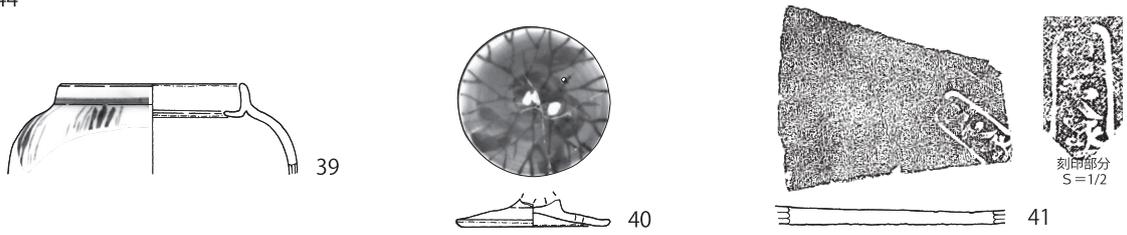


第 361 図 区画 AG 土壙出土遺物 (3)

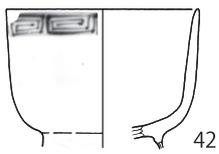
S K243



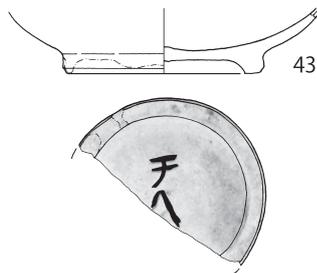
S K244



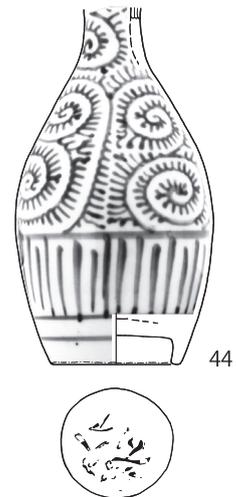
S K275



S K309



S K331



38 0 20cm 1/8 36・37・39~44 0 10cm 1/3

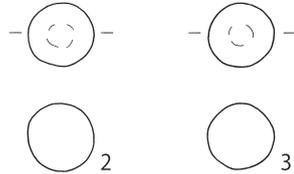
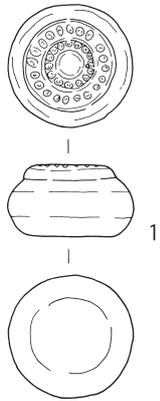
第 362 図 区画 AG 土壙出土遺物 (4)

第 87 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (1) (第 359 ~ 362 図)

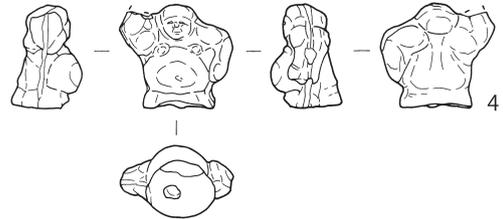
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	戸車	3.6	0.7	3.6	—	95	良好	白	SK168	肥前系 側面施釉	
2	陶器	こね鉢	(34.0)	[9.0]	—	IK	5	良好	灰白	SK168	内外面灰釉 外面上位青緑釉流し掛け 被熱	
3	磁器	碗	(7.4)	5.5	(3.8)	—	45	普通	白	SK174	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
4	磁器	蓋	(3.3)	2.7	(9.1)	—	40	良好	白	SK174	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
5	磁器	鉢	(24.8)	6.6	(13.0)	—	25	普通	白	SK174	肥前系 内外面施釉・染付	
6	陶器	灯明皿	(8.4)	1.6	(3.0)	K	45	普通	灰白	SK174	京都信楽系 外面上位・内面施釉 内面ピン痕 2 遺存 外面上位煤付着	
7	陶器	土瓶	(7.8)	[11.0]	6.8	IK	40	普通	灰黄	SK174	外面施釉・鉄絵・白土絵付 内面下位施釉 接点のない 3 片から復元	
8	陶器	土瓶	(6.0)	[7.4]	—	K	20	普通	にぶい橙	SK174	上下合型成形 内面下位鉄釉 外面上位陽刻文・赤漆塗布 外面下位黒漆塗布 耳・脚痕あり SK266・279 と接合	
9	磁器	碗	(9.8)	6.1	4.3	—	35	普通	白	SK177	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
10	磁器	碗	(9.0)	[4.4]	—	—	15	普通	白	SK177	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
11	磁器	坏	(5.6)	3.1	(1.8)	—	15	普通	白	SK177	肥前系 内外面施釉・染付	
12	陶器	灯明皿	(10.9)	2.1	(4.0)	K	40	普通	灰白	SK178	京都信楽系 胎土磁質 外面上位・内面施釉 内面楯目・ピン痕 1 遺存 外面上位煤付着	
13	陶器	壺甕類	5.6	[3.5]	—	IK	15	普通	灰黄褐	SK178	備前系 胎土炆器質 外面施釉 被熱(弱)	
14	瓦質土器	火鉢	—	[4.7]	—	ACHIK	5	普通	明褐灰	SK178	外面ミガキ・スタンプ施文 燻す 被熱・煤付着	
15	瓦質土器	植木鉢	10.0	3.9	4.9	AI	85	普通	灰	SK178	底部糸切痕をナゲ消し 燻す	
16	磁器	碗	(7.3)	5.9	3.8	—	45	普通	白	SK185	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
17	磁器	碗	(5.9)	4.5	2.8	—	50	普通	白	SK185	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 SK188 と接合	
18	磁器	皿	口縁長 8.1 短 [4.1] 高さ 2.4 底部長 4.3 短 [2.3]			—	50	普通	白	SK185	瀬戸美濃系 型成形 内面陽刻文・染付	
19	陶器	皿	13.9	3.3	8.5	EIK	85	普通	灰黄	SK185	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面青緑釉流し掛け 目跡 5 あり 被熱	
20	陶器	灯明皿	(11.0)	[1.8]	(4.0)	K	30	良好	灰白	SK185	京都信楽系 胎土磁質 外面上位・内面施釉	
21	陶器	片口鉢	18.8	10.6	10.8	IK	90	普通	灰	SK185	内外面灰釉 体部下位鏝 内面台形目跡 5 あり 被熱(釉白色化・胎土橙色化) 底部墨書	
22	施釉土器	鉢	(12.4)	4.6	(13.4)	AHIK	30	普通	にぶい橙	SK185	底部静止糸切痕 内外面施釉 底部鉄化粧 口縁部重焼痕	
23	磁器	碗	(7.8)	6.1	3.8	—	45	普通	白	SK188	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
24	磁器	坏	(5.9)	2.9	2.4	—	20	普通	白	SK188	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(黒化・金)	
25	磁器	坏	(5.9)	2.6	(2.3)	—	35	普通	白	SK188	肥前系 内外面施釉 内面上絵付(赤)	
26	磁器	皿	13.7	2.7	6.5	—	95	普通	白	SK188	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 内面黒色付着物	
27	陶器	坏	(5.8)	3.5	(2.4)	IK	45	普通	黄灰	SK188	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
28	陶器	皿	12.7	2.0	8.0	IK	85	普通	にぶい黄橙	SK188	体部下位鏝状 内外面灰釉 内面鉄絵・ピン痕 7 遺存	
29	磁器	皿	9.4	2.0	5.0	—	95	普通	白	SK190	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文	
30	磁器	坏	(5.7)	2.9	(2.3)	—	30	良好	白	SK202	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 被熱	
31	陶器	土瓶	—	[8.6]	—	I	10	良好	にぶい橙	SK208	外面鉄釉(飴釉気味)	
32	陶器	蓋	—	3.9	(15.8)	IK	55	良好	灰白	SK208	体部トビガンナ施文・青緑釉散らし	
33	磁器	碗	—	[3.2]	(5.2)	—	20	普通	白	SK243	肥前系 内外面施釉・染付 高台内焼継印(赤)	
34	磁器	碗	(10.3)	4.8	(3.6)	—	45	普通	白	SK243	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
35	磁器	急須	—	[1.5]	(7.0)	—	5	普通	白	SK243	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部同心円状の沈線 外面焼継印	
36	陶器	壺甕類	—	[4.4]	—	I	5	普通	明赤褐	SK243	備前系 胎土炆器質 外面一部に釉が垂れる	
37	土師質土器	風口	長 [9.3] 短 [6.8] 高さ [6.5]			CIK	10	普通	にぶい橙	SK243	板作り成形 漆喰付着	
38	瓦質土器	甕	(63.2)	[13.9]	—	CHIK	10	普通	にぶい褐	SK243	やや酸化焙焼成 胎土中心灰色 内面・口唇部白色物質付着	
39	磁器	土瓶	(7.0)	[3.5]	—	—	10	普通	白	SK244	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
40	磁器	蓋	—	[1.0]	5.5	—	95	普通	白	SK244	瀬戸美濃系 上下面施釉 上面酸化コバルト染付 最大径 6.0 cm	
41	瓦質土器	焙烙	—	[0.7]	—	CHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK244	底部シワ状痕 やや酸化焙焼成 内面光沢・刻印「大極上」カ	77-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
42	磁器	碗	(7.6)	[5.5]	—	—	15	良好	白	SK275	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
43	陶器	鉢	—	[2.6]	7.7	IK	40	良好	灰黄	SK309	内外面灰釉 高台内墨書	
44	磁器	德利	—	[14.1]	5.0	—	95	良好	白	SK331	肥前系 外面施釉・染付 高台内墨痕	

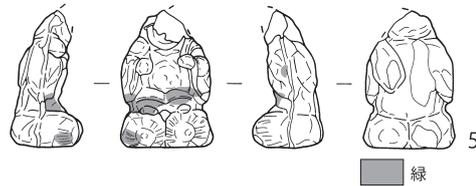
S K 168



S K 174



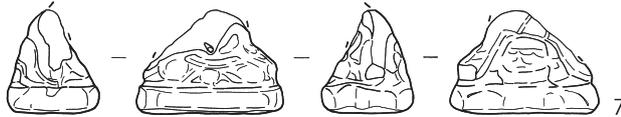
S K 189



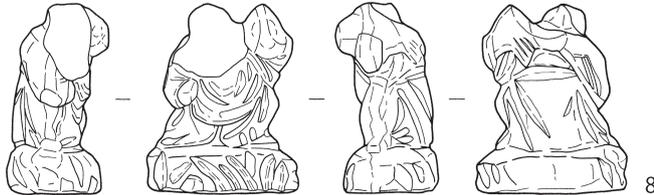
S K 202



S K 208



S K 244



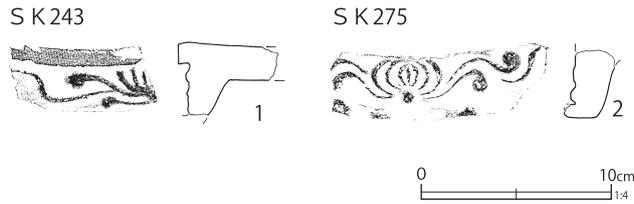
S K 275



第 363 図 区画 AG 土壌出土遺物 (5)

第 88 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (2) (第 363 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	ミニチュア	—	3.3	1.9	11.4	AK	普通	灰白	SK168	京都系 型成形 中空	118-16
2	陶器	土玉	1.7	1.7	—	5.2	—	普通	灰白	SK168	手捻り成形 露胎 硬質	118-17
3	陶器	土玉	1.7	1.8	—	5.2	—	普通	灰白	SK168	手捻り成形 露胎 硬質	118-17
4	土製品	人形	2.7	3.0	1.9	8.1	AHK	良好	橙	SK174	前後合二枚型成形 中実	118-18
5	土製品	人形	[3.6]	2.4	1.9	12.0	IK	良好	灰白	SK189	京都系 大黒 前後合二枚型成形 中実 外面施釉 緑釉	118-19
6	土製品	人形	2.2	1.7	1.0	2.8	AK	良好	橙	SK202	江戸在地系 一枚型成形 中実 雲母付着	119-1
7	土製品	人形	[2.4]	3.9	2.4	17.2	AHIK	良好	にぶい橙	SK208	天神様 前後合二枚型成形 中実	119-8
8	土製品	人形	5.0	4.0	2.7	34.1	AHIK	良好	にぶい橙	SK244	恵比須様 前後合二枚型成形 中実 胎土 小礫含む	119-15
9	土製品	泥面子	—	2.4	0.9	6.0	AIK	良好	橙	SK275	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11



第 364 図 区画 AG 土壌出土遺物 (6)

第 89 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (3) (第 364 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[9.2]	2.1	4.0	—	AIK	良好	灰白	SK243	銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	—	12.4	2.3	[4.0]	—	AIK	普通	灰白	SK275	江戸式 弱く銀化 燻す	

書がみられる。

22 は施釉土器の鉢である。器高が低く、口縁部は内湾する。透明釉が施釉され、底部には静止糸切痕が遺存する。底部に鉄化粧、口縁部に重ね焼き痕がみられる。

第 361 図 26 は瀬戸美濃系磁器の皿である。蛇ノ目凹形高台で、酸化コバルト染付が施される。内面全面に黒色物質が厚く付着する。

28 は地方窯系陶器と推定される皿である。蛇ノ目高台で、体部下位に鎬状文がみられる。口縁部は玉縁状を呈する。灰釉が施釉され、内面は鉄絵である。内面には窯道具痕が 7 箇所みられる。

32 は産地不詳陶器の蓋である。行平鍋の蓋と考えられ、外面にトビガンナ施文がみられ、青緑釉が散らされている。

第 362 図 36 は備前系陶器の壺甕類と推定される。薄手の胴部破片で、大型製品と推定される。外面の一部に釉の垂れがみられる。

37 は土師質土器の風口である。焜炉のオプションやパーツの一部で、付着している漆喰は組み合わせ時に固定するためのものと推定される。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と考えられる。

38 は瓦質土器の大甕で、常滑系大甕に類似する器形を呈している。やや酸化焰焼成で、表面は橙色気味である。内面と口唇部に白色物質が付着する。江戸遺跡で便槽として検出された甕や桶には白色物質が付着していることから、尿を貯蓄

した可能性が指摘されている (江戸遺跡研究会 2001)。

41 は瓦質土器の平底焙烙である。底部破片で、内面に光沢と「大極上」と推定される刻印がみられる。「大極上」の刻印は平底焙烙の底部にみられることが多い。

44 は肥前系磁器の鶴首形御神酒徳利である。外面は蛸唐草文染付が施され、底部に墨痕がみられる。

第 363 図 1 は素焼きの京都系陶器のミニチュアで、モチーフは不明である。型成形で中空である。

2・3 は陶器製の土玉である。手捻り成形で、硬質な素焼である。栗橋宿では磁器製、土製はみられるが、陶器製は稀である。

4 は力士を模した土製の人形である。前後合わせの二枚型成形で、中実である。胎土に細粒な雲母が含まれる。

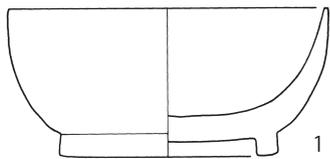
5 は大黒を模した京都系の土製人形である。前後合わせの二枚型成形で、中実である。透明釉が施釉され、一部緑釉彩色が施される。

7 は天神様を模した土製人形である。前後合わせの二枚型成形で、中実である。

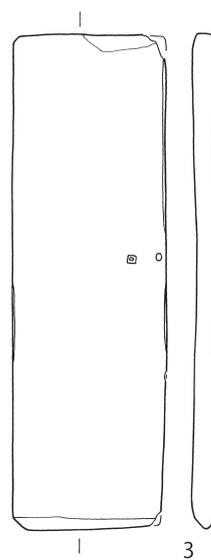
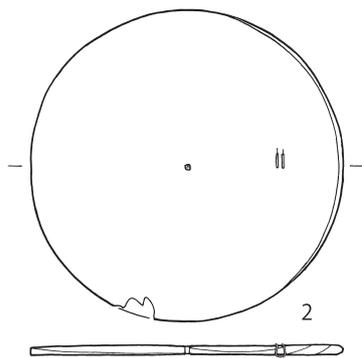
8 は恵比須様を模した土製人形である。前後合わせの二枚型成形で、中実である。胎土に小礫が含まれている。

9 は江戸在地系の泥面子である。型成形で、胎

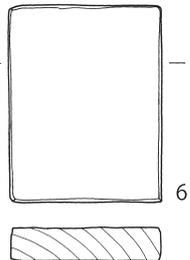
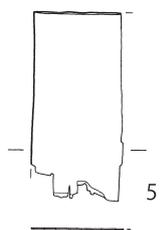
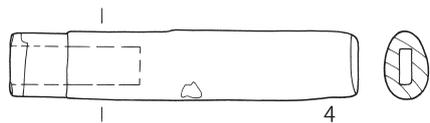
S K 179



S K 185



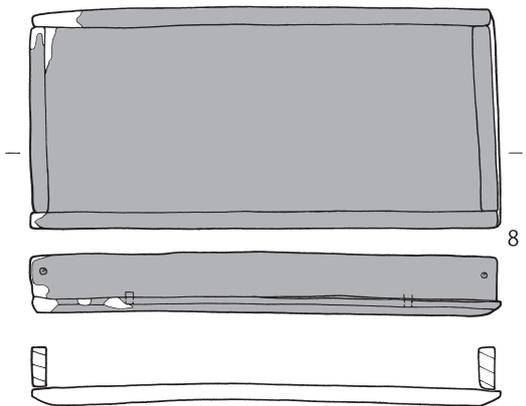
S K 188



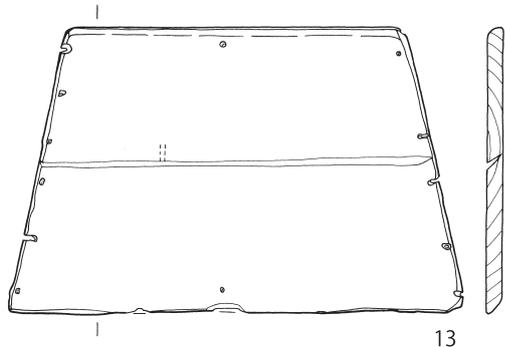
S K 195



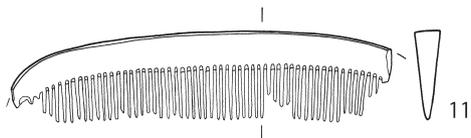
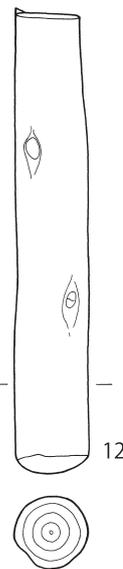
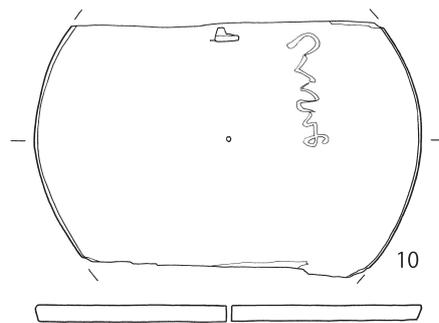
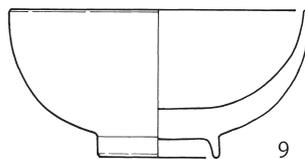
S K 240



■ 黒漆



S K 243

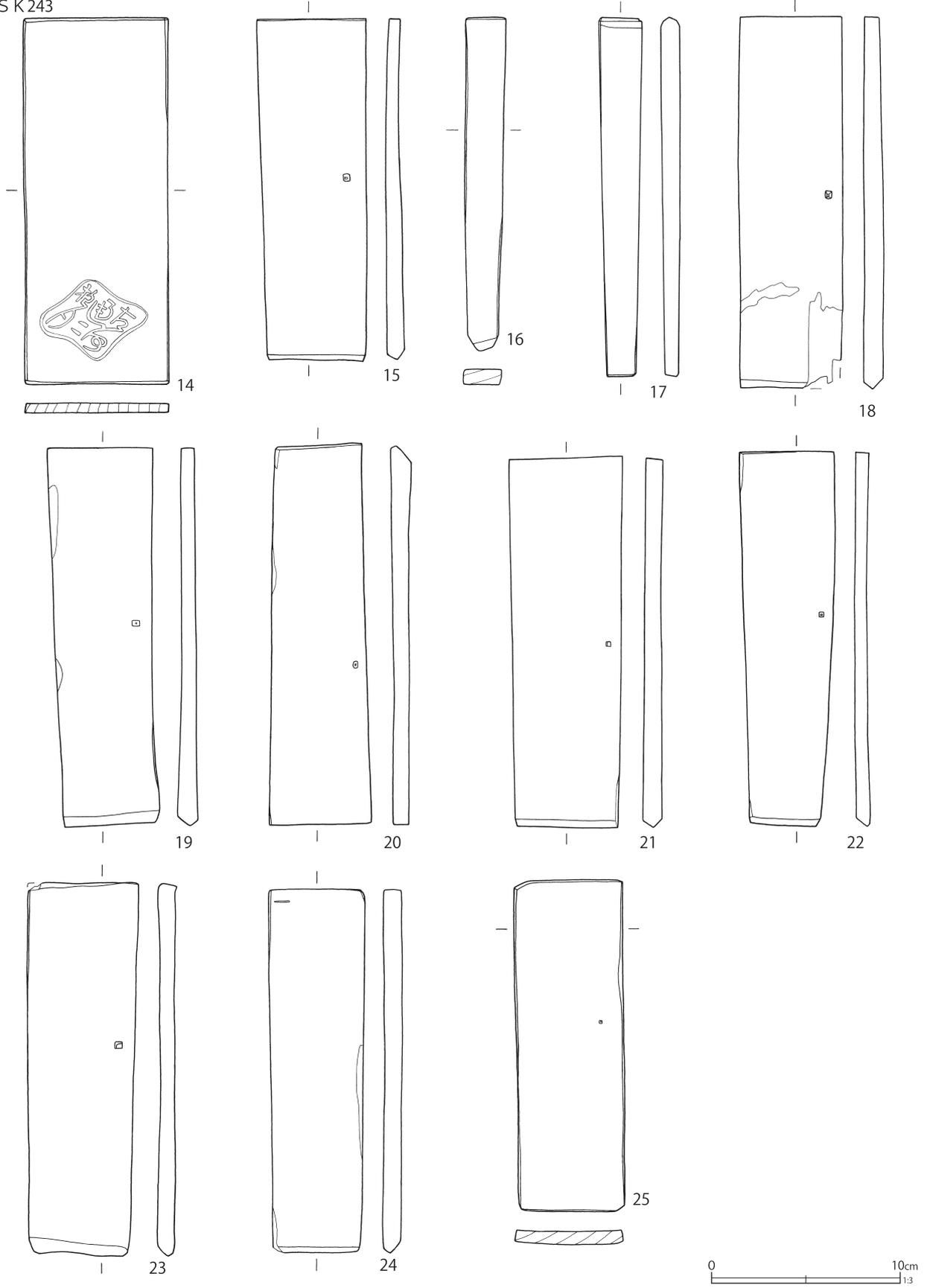


2・12・13 0 10cm 1/4

1・3~11 0 10cm 1/3

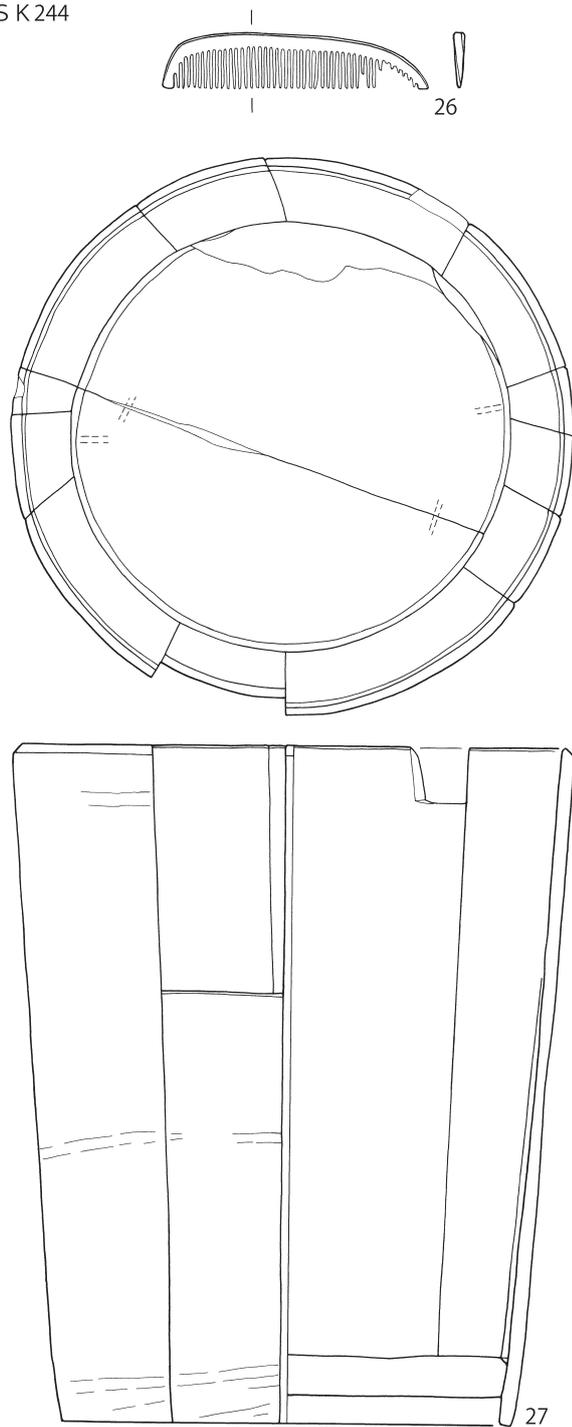
第 365 図 区画 AG 土壙出土遺物 (7)

S K243

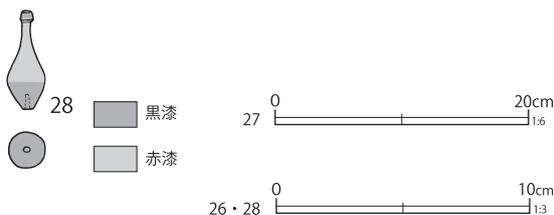


第 366 図 区画 AG 土壇出土遺物 (8)

S K 244



S K 250



第 367 図 区画 AG 土壇出土遺物 (9)

土に細粒な雲母が含まれる。三巴文がみられる。

第 364 図 1・2 は江戸在り系に類似する軒棧瓦である。いずれも銀化状の光沢がみられる。2 は唐草文の巻きが強い。

第 365 図 1 は漆椀で、体部の腰に丸みを持つ。高台径は 8.6 cm で、高台の大きな器形である。2 は蓋である。曲物の蓋と考えられる。樹皮紐の先端が欠けて一部が残存する。3 は木札である。下部は斜めに削り落されており、樽側板の転用と考えられる。中央には穴が 2 箇所あけられている。4 は刃物柄である。側面には断面長方形の穴があけられている。5 は経木で、ごく薄い。墨書で「十一□□」の文字が書かれる。6 は木札である。「□□管」の文字が書かれる。7 は守り札である。表面に墨書で不動三尊の梵字が書かれ、裏面に焼印で「成田山」とある。8 は漆塗りの箱で、高さ 2.3 cm と浅型である。底板は、角を斜めに落とされている。9 は漆椀で、内面赤漆、外面黒漆塗りである。外面は腰の位置が明瞭ではなく丸みを持つ。高台は 5.8 cm と小形である。10 は蓋である。樹皮紐が残る。焼印で「つくたに」の文字が押されている。11 は櫛である。背の左右端に角を持たない形状である。櫛の目はやや粗い。12 はすりこぎである。上部に紐穴がなく、切断の痕跡がある。上部 1/3 程度が切り落とされていると考えられる。表面に節が残り、丸木をほとんど削らずに作られる。13 は箱枕としたが、長さ 15.1 cm、幅 23.9 cm と大型で、外周に鉄釘が残ることから、他の器種の可能性がある。平面形は台形で、上下辺の角を斜めに削り落とす。

第 366 図 14 ~ 25 は木札である。14 の下部には焼印で「古河□□抱月」の文字が押される。15 ~ 24 は木札で、いずれも第 243 号土壇から出土した。樽の側板を転用している。長さはいずれも 20 cm 前後である。端部は斜めに削り落とされ、中央部に方形の穴があけられる。15 には「無類幸手支□」、18 には「無類／白捨」、19 には「無

第90表 区画AG土壙出土遺物観察表(4)(第365～367図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	—	—	—	12.6	5.8	8.6	横木取り	SK179	内面赤漆 外面黒漆	128-15
2	木製品	蓋	—	—	0.5	16.4	—	—	板目	SK185	樹皮紐残存 木釘残存	
3	木製品	木札	19.6	6.0	0.9	—	—	—	板目	SK185	表面墨書 樽の側板転用カ	145-20
4	木製品	刃物柄	13.6	2.7	1.7	—	—	—	板目	SK188		
5	木製品	経木	[7.4]	[3.5]	0.06	—	—	—	柱目	SK188	表面墨書「十一□□」	145-21
6	木製品	木札	7.8	5.9	1.3	—	—	—	板目	SK188	表裏面墨書「□□管」	128-17 146-1
7	木製品	木札	5.2	3.0	0.3	—	—	—	柱目	SK195	守り札 表面墨書梵字「不動三尊」裏面焼印「成田山」	146-3
8	木製品	漆箱	8.8	18.4	—	—	2.3	—	柱目	SK240	全面黒漆 歪み有	
9	木製品	漆椀	—	—	—	11.7	5.8	4.6	横木取り	SK243	内面赤漆 外面黒漆	129-13
10	木製品	蓋	—	—	0.7	15.2	—	—	柱目	SK243	中央に孔 焼印「つくたに」 樹皮紐残	
11	木製品	櫛	[15.0]	3.5	1.0	—	—	—	板目	SK243		
12	木製品	すりこぎ	24.8	—	—	3.8	—	—	芯持材	SK243		
13	木製品	箱枕	15.1	23.9	0.8	—	—	—	板目	SK243	表面墨書 外周に釘穴 鉄釘残存	147-13
14	木製品	木札	19.4	7.6	0.5	—	—	—	柱目	SK243	焼印「古河□□抱月」	
15	木製品	木札	18.2	5.7	0.9	—	—	—	板目	SK243	表面墨書 樽の側板転用	146-17
16	木製品	木札	17.7	2.1	0.8	—	—	—	板目	SK243	墨書	147-1
17	木製品	木札	19.0	2.2	1.0	—	—	—	柱目	SK243	表墨書 樽の側板転用 裏文字不明瞭	147-2
18	木製品	木札	19.8	5.4	1.0	—	—	—	板目	SK243	表墨書 樽の側板転用 孔2	147-3
19	木製品	木札	20.2	5.5	1.1	—	—	—	板目	SK243	表面墨書 朱書 樽の側板転用 孔1	147-4
20	木製品	木札	20.3	5.9	1.1	—	—	—	板目	SK243	表面墨書 樽の側板転用 孔1	147-5
21	木製品	木札	19.8	6.0	1.0	—	—	—	板目	SK243	表墨書 樽側板転用 一部炭化 孔1	147-7
22	木製品	木札	19.9	5.0	0.7	—	—	—	板目	SK243	表墨書 樽の側板転用 孔1	147-8
23	木製品	木札	19.8	5.7	1.0	—	—	—	板目	SK243	墨書 樽の側板転用 孔1	147-10
24	木製品	木札	19.2	5.0	1.0	—	—	—	板目	SK243	表面墨書 樽の側板転用	147-11
25	木製品	木札	17.6	5.7	0.7	—	—	—	板目	SK243	表裏面墨書 木釘残存	147-12
26	木製品	櫛	10.4	2.2	0.4	—	—	—	板目	SK244		
27	木製品	樽	—	—	0.8～ 1.4	44.0	53.4	—	側板板目 底板板目	SK244	側板12枚(1枚短い 2枚に鉄釘孔1ヶ所ずつ 内鉄釘残1) 底板木釘孔2 鉄釘孔2 墨書	152-7
28	木製品	浮子	3.9	1.5	—	—	—	—	不明	SK250	赤黒漆塗り	129-15

類/二月/白玉」、20には「武州/無類/□玉/⊕/幸手」、23には「ザラメ/⊕」、24には「サラ/⊕/武州幸手町」の墨書が見られる。屋号は二種見られ、15・18・19には「□」、20～24には「⊕」が書かれる。出土遺構が異なるが、第365図3にも「⊕」の屋号が見られる。25は転用品ではないが、15・18～23の木札と同様に方形の穴があげられている。表面に「武州栗橋河岸正出/海老寿屋様行」、裏面に「拾八年四月廿二日/改式千四百入」と書かれている。

第367図26は櫛で、髪を結う結櫛である。背の外形が左右で異なる。27は樽で、径44.0cm、高さ53.4cmと細長い樽である。側板は12枚、底板は2枚をつないでいる。底板に墨書で「幸

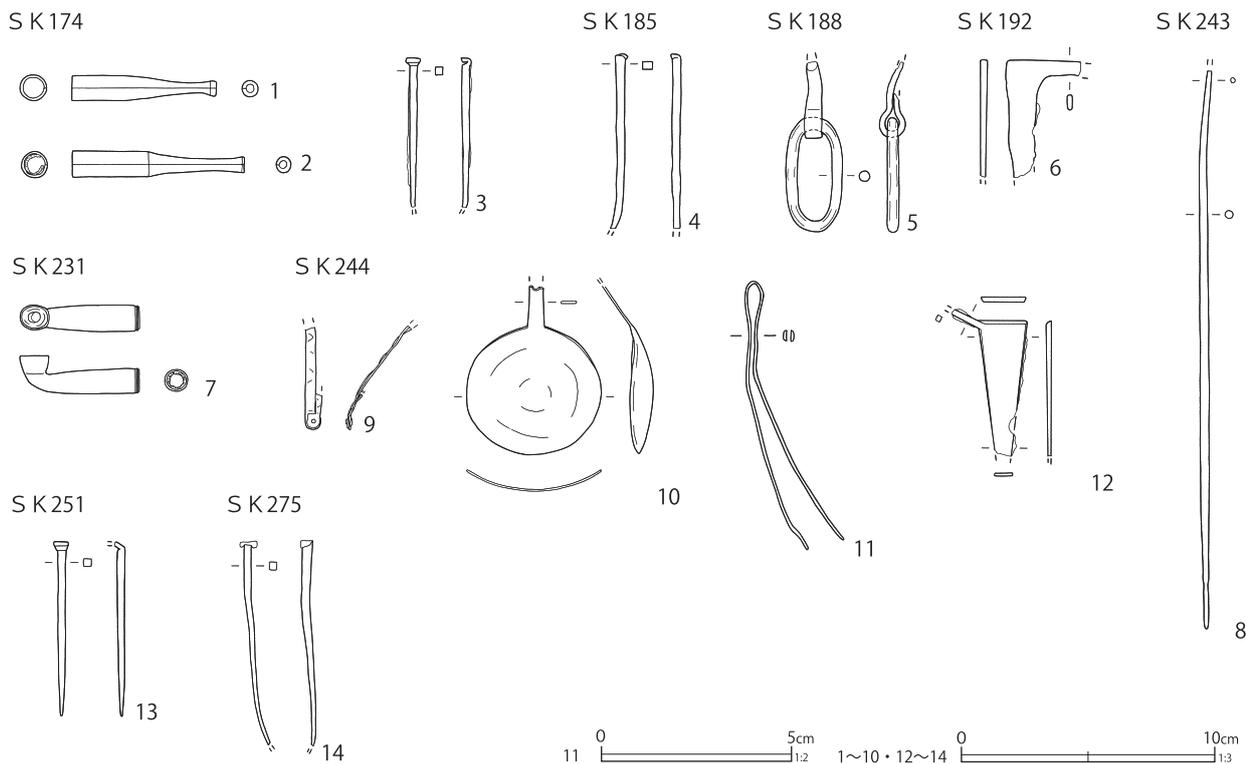
の文字が書かれる。箍の痕跡が3段残る。28は浮子である。上半が細く括れ、上端に膨らみがある。

第368図1・2・7は銅製煙管である。1・2は吸口、7は雁首である。吸口は薄い板状の銅を曲げて作られ、中心に素材の端部がみえる。

3・4・13・14は鉄製の頭巻釘である。建材等に使用されたと考えられる。

5は用途不明の鉄製品で、吊金具である。先端が環状を呈する棒状鉄製品に長楕円形の環状鉄製品が接続する。

11は扁平な棒状銅製品が曲げられ、二又状となっている。簪の可能性が推定されるが、飾りや文様がみられず、質素である。



第 368 図 区画 AG 土壌出土遺物 (10)

第 91 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (5) (第 368 図)

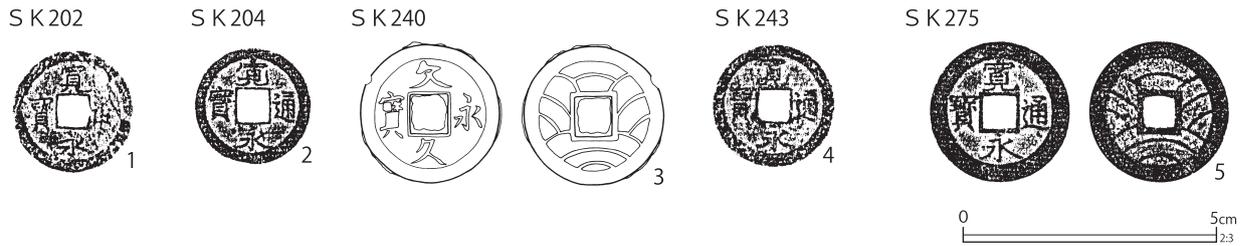
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ 5.7 小口径 1.0 口付径 0.6 重さ 7.3	SK174	吸口	
2	銅製品	煙管	長さ 6.8 小口径 1.0 口付径 0.6 重さ 12.4	SK174	吸口	
3	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.4	SK174		
4	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 3.7	SK185		
5	鉄製品	吊金具	径 4.5 × 2.2 縦 [6.7] 厚さ 0.4 重さ 11.8	SK188		
6	鉄製品	不明	縦 [4.7] 横 [2.9] 厚さ 0.3 重さ 6.1	SK192		
7	銅製品	煙管	長さ 4.7 火皿径 1.1 × 1.0 小口径 0.9 重さ 12.4	SK231	雁首	
8	鉄製品	不明	長さ [22.2] 厚さ 0.3 重さ 9.1	SK243		
9	銅製品	不明	長さ [4.1] 幅 0.6 厚さ 0.03 重さ 1.2	SK244	端部で 2 枚鋸留	
10	銅製品	匙	長さ [6.7] 幅 5.3 厚さ 0.1 重さ 7.9	SK244		
11	銅製品	簪カ	長さ 7.1 幅 0.1 厚さ 0.3 重さ 1.8	SK244		
12	鉄製品	不明	縦 [5.8] 横 3.0 厚さ 0.2 重 9.4	SK244	桶中	
13	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.6	SK251		
14	鉄製品	釘	長さ [8.2] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.5	SK275		

第 369 図 1 ~ 5 は銅製の錢貨である。多くは新寛永通寶である。3 は文久永寶で、5 は背面 11 波の四文錢である。

第 370 図 1 は軽石製、2 は多孔質の角閃石安山岩製磨石である。1 は自然面が大きく遺存する。裏面は使用面となっており、平坦である。刃物傷がみられる。2 は大部分に使用痕がみられ、自然

面は部分的に遺存している。主要な使用面は裏面で、そのほかは部分的な使用で多面が形成されている。利根川中流域の中・近世遺跡で特徴的な遺物であり、近年埼玉県内における発掘調査で資料が急増している。

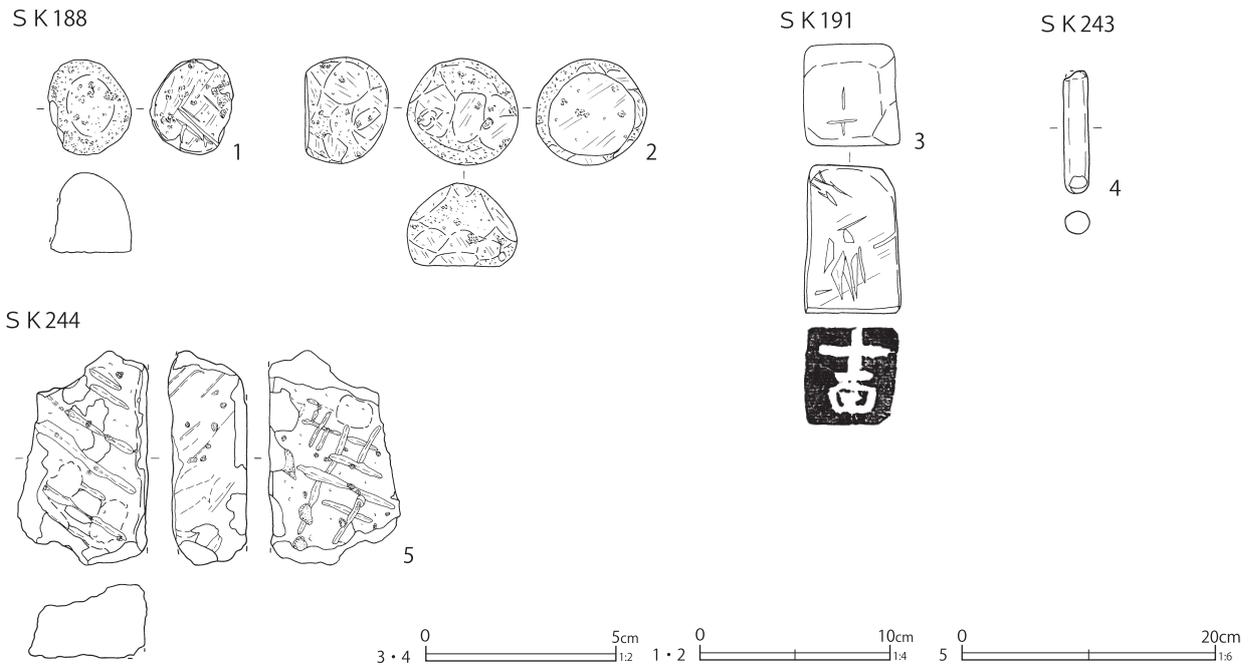
3 は滑石製の印章である。下面に刻書「吉」がみえる。4 は滑石製の石筆である。筆記具であり、



第 369 図 区画 AG 土壌出土遺物 (11)

第 92 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (6) (第 369 図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 24.2 厚さ 1.1 重さ 1.9	SK202	寛永通寶 (新)	
2	銅製品	銭貨	径 23.2 厚さ 0.9 重さ 1.8	SK204	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	銭貨	径 27.3 厚さ 1.2 重さ 3.3	SK240	文久永寶	
4	銅製品	銭貨	径 24.4 厚さ 1.4 重さ 2.8	SK243	寛永通寶 (新)	
5	銅製品	銭貨	径 28.3 厚さ 1.4 重さ 5.3	SK275	寛永通寶 (新) 11 波	

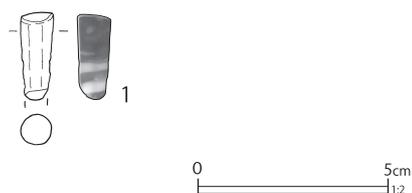


第 370 図 区画 AG 土壌出土遺物 (12)

第 93 表 区画 AG 土壌出土遺物観察表 (7) (第 370 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	5.0	4.4	4.2	32.5	軽石	SK188	自然面遺存 使用面 1	140-3
2	石製品	磨石	5.6	5.8	4.4	88.5	角閃石安山岩	SK188	多孔質 自然面部分的遺存 使用面多数	140-3
3	石製品	印章	3.9	2.5	2.7	61.1	滑石	SK191	刃物・研磨痕多数 下面刻書「吉」	138-8
4	石製品	石筆	[3.2]	0.65	0.6	2.5	滑石 (白)	SK243	両端使用	
5	石製品	切石材	[17.2]	[10.4]	6.3	815.9	凝灰岩	SK244	大谷石 表・裏面ツルハシ状工具痕 側面幅広工具痕 No. 18	138-9

SK179



第 371 図 区画 AG 土壙出土遺物 (13)

第 94 表 区画 AG 土壙出土遺物観察表 (8) (第 371 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[2.3]	0.9	0.9	2.4	SK179	青に白を練り込み 中実	142-1

栗橋宿では多く出土している。

5は軽石質凝灰岩製の切石材である。栃木県大谷町で採掘される大谷石と推定される。栗橋宿では土蔵跡の基礎と考えられる蝸燭地業建物跡の基礎石として用いられることが多い。表・裏面には切石材に特徴的なツルハシ状工具と推定される幅の狭い溝状の削り痕がみられる。側面の工具痕は刃幅の広い工具痕に類似する。

第 371 図 1 は硝子製の筭である。青を基調に白の硝子が練り込まれている。中実である。

(10) ピット (第 372・373 図)

ピットは 19 基検出された。区画ごとの内訳は、区画 AB に 7 基 (ピット 1～6・9)、区画 AC に

3 基 (ピット 7・8・10)、区画 AE に 4 基 (ピット 11・12・13・15)、区画 AF に 3 基 (ピット 16・17・20)、区画 AG に 2 基 (ピット 18・19) である。

単独のものがほとんどであり、建物跡を想定するような等間隔な並びは認められなかった。ただし、ピット 1～4 は直線上に並んでおり、1・2・3 の径がかなり小さいため、後世の杭跡の可能性はある。

第 95 表に位置・規模等の基本情報、第 372 図に遺構図、第 373 図に出土遺物を図示した。

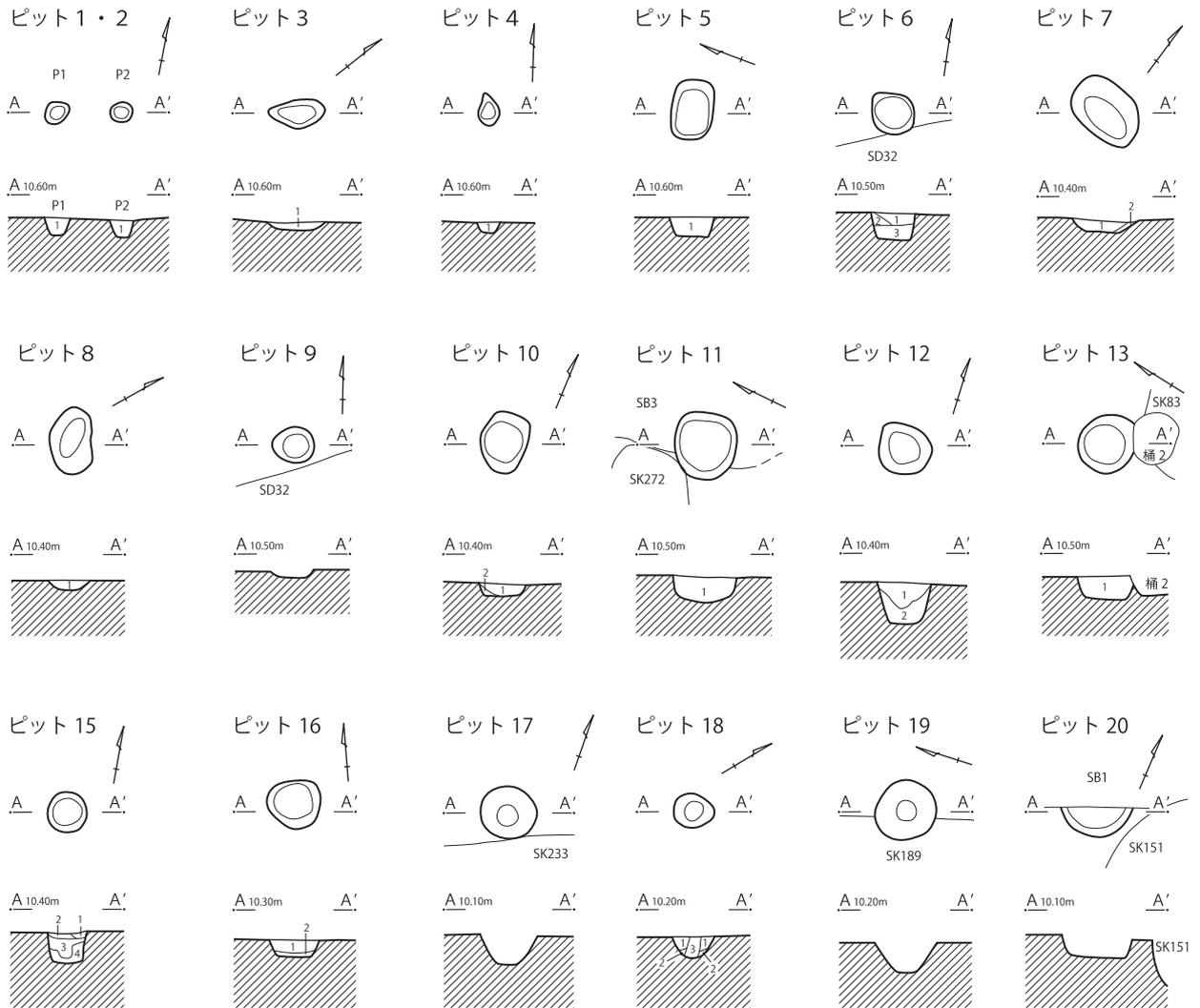
ピット 5 (第 372・373)

F 7-C 5 グリッドに位置する。平面形は隅丸

第 95 表 第一面ピット一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	AB	F7-B5	円形	0.22	0.18	0.13	
2	AB	F7-B5	円形	0.19	0.17	0.14	
3	AB	F7-B5	楕円形	0.47	0.24	0.07	
4	AB	F7-B6	楕円形	0.28	0.18	0.09	
5	AB	F7-C5	隅丸長方形	0.50	0.35	0.16	
6	AB	F7-C6	円形	0.35	0.34	0.22	SD32 と重複
7	AC	F7-C6	隅丸長方形	0.62	0.43	0.09	
8	AC	F7-C6	不整形	0.51	0.39	0.08	
9	AB	F7-C6	円形	0.35	0.30	0.07	
10	AC	F7-C7	不整形	0.51	0.38	0.11	
11	AE	F7-D6	円形	0.52	0.51	0.21	SB3 と重複 SK272 と重複
12	AE	F7-D6	円形	0.43	0.42	0.34	
13	AE	F7-E6	円形	0.49	0.46	0.21	桶 2 より古 SB3 より新
15	AE	F7-E6	円形	0.34	0.33	0.25	
16	AF	F7-F6	円形	0.45	0.40	0.14	
17	AF	F7-F7	円形	0.46	0.44	0.23	SB1 と重複 SK233 と重複
18	AG	F7-G7	円形	0.34	0.29	0.18	
19	AG	F7-G7	円形	0.50	0.49	0.26	SK189 と重複
20	AF	F7-F8	不整形	(0.60)	(0.25)	0.15	SB1 と重複



ピット 1
1 灰色土 炭化物微量

ピット 2
1 灰黄色土 炭化物微量

ピット 3
1 灰色土 炭化物微量

ピット 4
1 灰色土 炭化物極多量

ピット 5
1 黒褐色土 しまり弱

ピット 6
1 灰黄褐色土 黄褐色土少量 砂質
2 暗黄褐色土
3 暗褐色土 しまり強

ピット 7
1 黒褐色土 植物質多量
2 暗灰黄褐色土

ピット 8
1 暗灰褐色土 炭化物・焼土微量

ピット 10
1 黒褐色土 炭化物多量
2 灰黄褐色土 黄褐色土微量 砂質

ピット 11
1 褐色土 砂粒子・炭化仏粒子・焼土粒子含む 瓦片含む

ピット 12
1 帯黄灰色土 シルト層 均一 同水準の地山を基とし 炭化物(φ2~3mm) 微量 鉄がしみ下位に多い
2 灰色土 シルト層 均一 同水準の地山を基とし 炭化物(φ2~3mm) 微量 鉄のしみ全体的

ピット 13
1 褐色土 砂粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む 陶磁器含む

ピット 15
1 灰白色土 砂質 炭化物含む
2 灰黄褐色土 砂質 炭化物微量
3 褐色土 シルト質 炭化物微量
4 灰黄褐色土 粘土質 方形の黄褐色粘土ブロックを含む(φ10mm程)

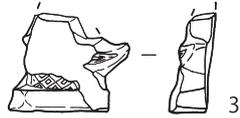
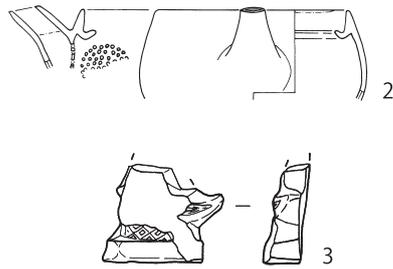
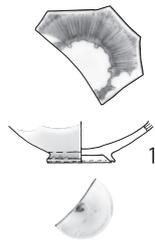
ピット 16
1 褐色土 砂質 炭化物微量
2 灰黄色土 粘土質

ピット 18
1 灰褐色土 粘土質 炭化粒子微量
2 灰色土 粘土質
3 褐色土 粘土質 木質・炭化物微量 杭跡か

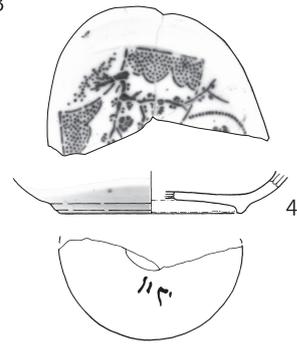


第 372 図 ピット

P 5



P13



1・2・4 0 10cm 1:3 3 0 5cm 1:2

第 373 図 ピット出土遺物

第 96 表 ピット出土遺物観察表 (第 373 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	—	[1.6]	(2.6)	—	30	良好	白	P5	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上位上絵付 (青)	
2	陶器	急須	(7.5)	[3.5]	—	K	10	良好	灰白	P5	外面施釉・上絵付	
3	土製品	人形	長さ [2.6] 幅 3.2 厚さ 1.2 重さ 6.4			AHK	—	良好	橙	P5	江戸在地系 一枚型成形 中実 雲母付着	
4	磁器	皿	—	[1.6]	(7.2)	—	10	良好	白	P13	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型紙摺絵染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	

長方形で、長軸 0.5 m、短軸 0.35 m、深さ 0.16 m を測る。覆土は単層で、しまりの弱い黒褐色土である。推定廃絶期は 19 世紀後葉である。

出土遺物は極めて少なく、第 373 図 1～3 陶磁器を図示した。1 は瀬戸美濃系磁器の坏である。外面に酸化コバルト染付、内面に江戸絵付けがみられる。2 は産地不詳陶器の急須である。外面に施釉と上絵付がみられる。3 は江戸在地系の土製人形である。一枚型成形で、中実である。表面には型離れをよくするための雲母が付着する。

ピット 13 (第 372・373 図)

F 7-E 6 グリッドに位置する。第 3 号建物跡より新しく、第 2 号埋設桶より古い。平面形は円形で、長軸 0.49 m、短軸 0.46 m、深さ 0.21 m を測る。覆土は単層で、炭化物や焼土粒子、砂粒子を含む褐色土である。推定廃絶期は 19 世紀後葉である。

出土遺物は極めて少なく、第 373 図 4 に陶磁器を図示した。4 は瀬戸美濃系磁器の型紙摺絵染

付皿である。焼継痕と高台内に焼継印がみられる。

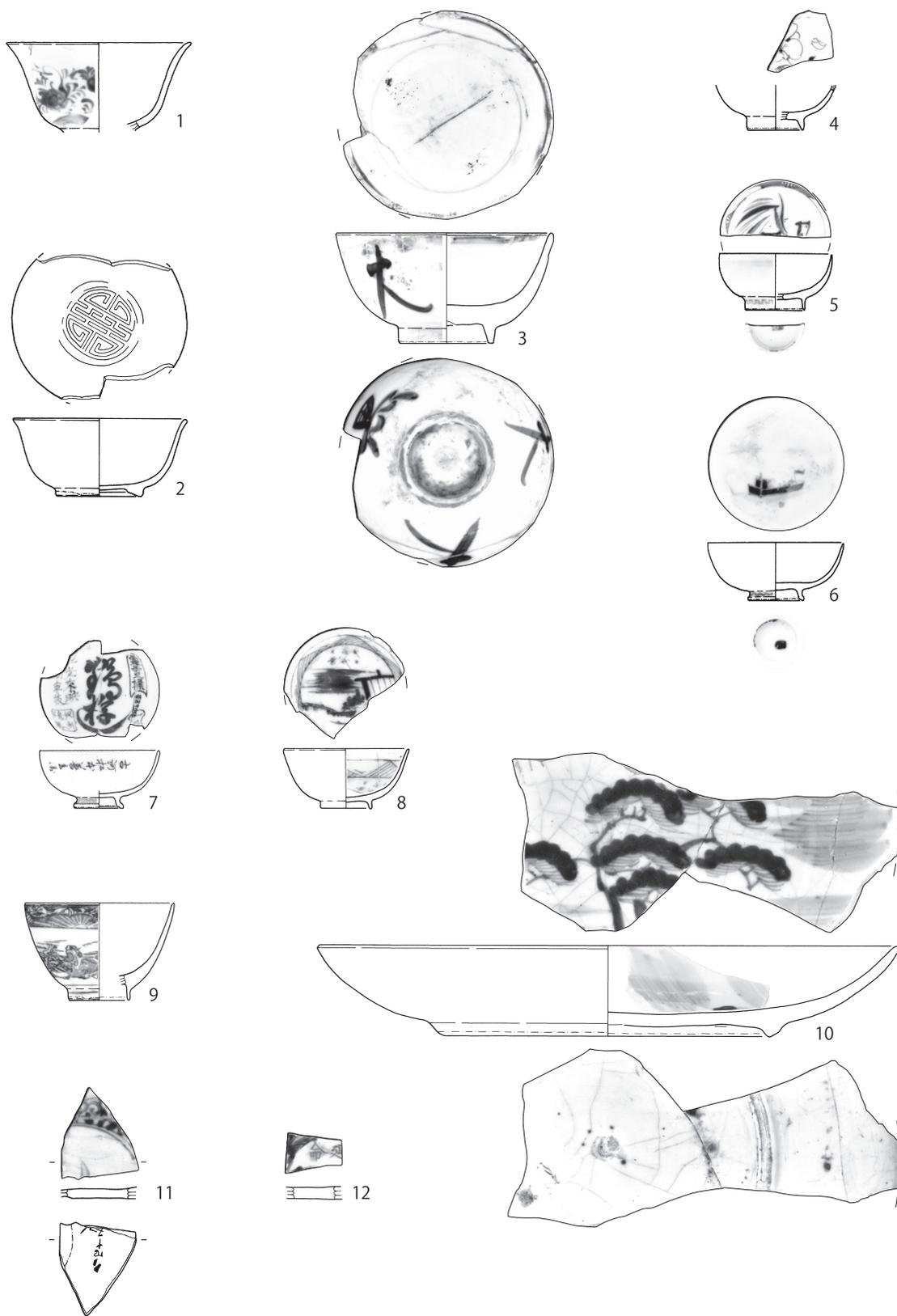
(11) 遺構外出土遺物 (第 374～383 図)

第 374～383 図に第一面までの掘削時、遺構確認作業に伴って出土した遺物を示した。なお、掘り込みが確認できなかった杭列の出土遺物は、遺構に伴うものか判断することができないため、遺構外出土遺物として扱った。遺物は文字資料と特徴的な製品を中心に抽出した。

第 374～376 図に陶磁器類、第 377・378 図に小型器種の陶磁器類と土製品、第 379 図に瓦、第 380・381 図に木製品、第 382 図に金属製品と銭貨、第 383 図に石製品を示した。

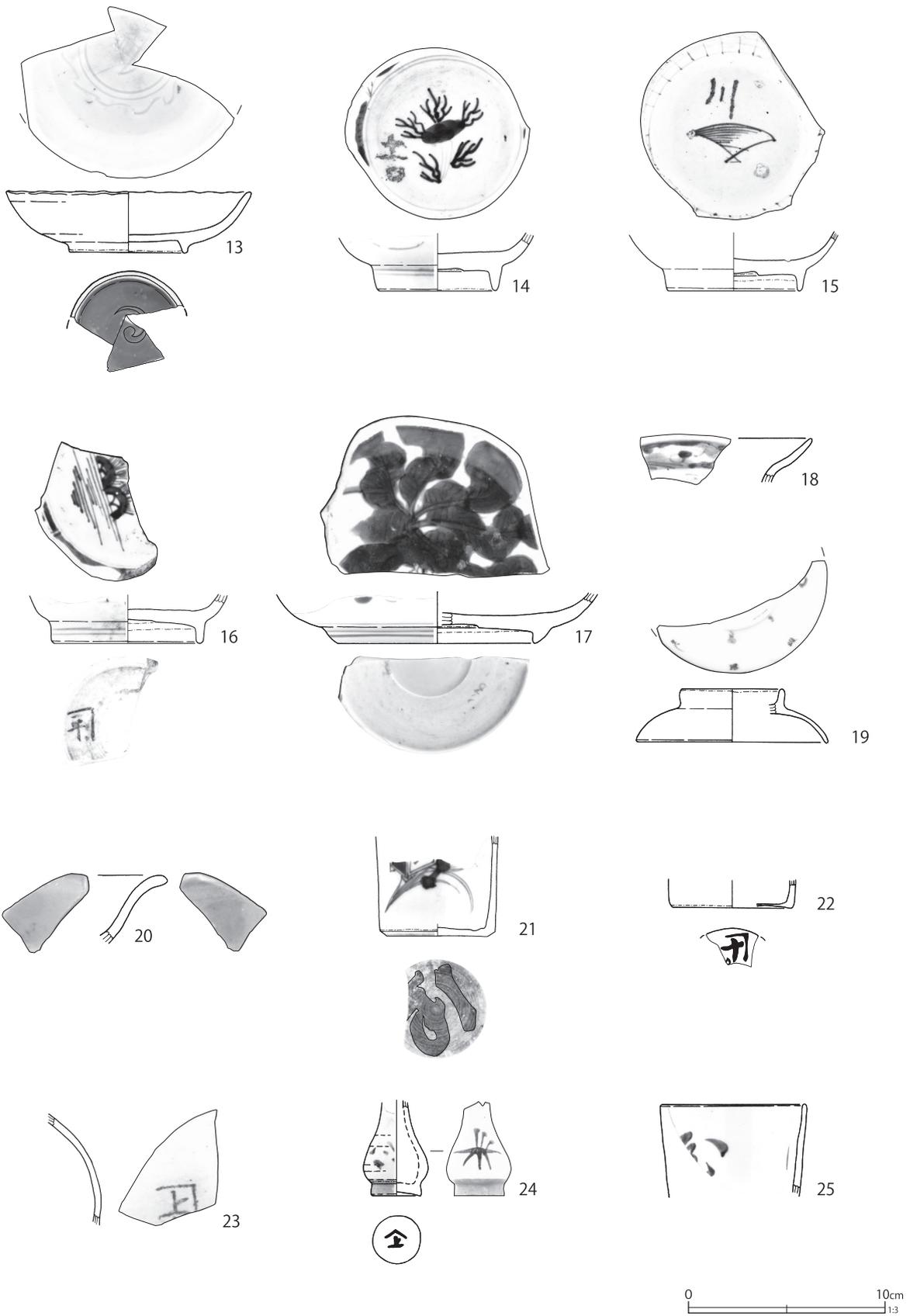
第 374 図 3 は瀬戸美濃系磁器の丸碗である。厚手で、外面に酸化コバルト染付文字で「大大黒」と書かれている。焼継痕がみられる。被熱し、煤の付着もみられ、高台や畳付けに金属質の付着物がみられる。

7 は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。外面に染付、内外面に江戸絵付け文字がみられる。外面

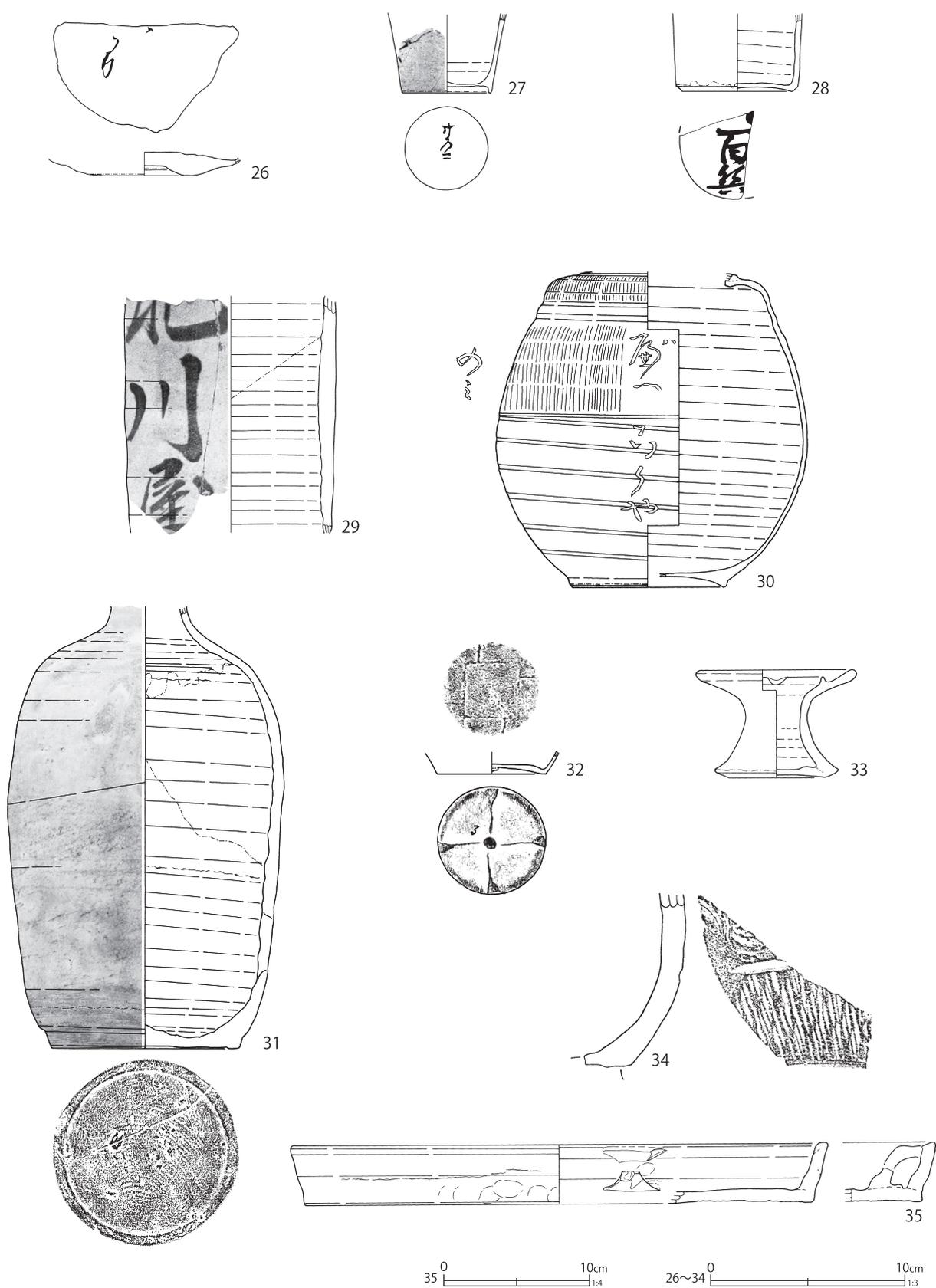


0 10cm
1:3

第 374 図 遺構外出土遺物 (1)



第 375 図 遺構外出土遺物 (2)



0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

第 376 図 遺構外出土遺物 (3)

第 97 表 遺構外出土遺物観察表 (1) (第 374 ~ 376 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(8.9)	[4.4]	—	—	10	良好	白	—	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり	
2	磁器	碗	8.5	3.8	4.0	—	80	良好	白	—	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文	
3	磁器	碗	10.4	5.4	4.5	—	80	良好	白	F7-C6	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 外面染付文字「大大黒」 焼継痕あり 被熱・煤付着 高台・畳付に金属質の付着物 高台内凹み状の欠損	
4	磁器	坏	—	[2.2]	(2.8)	—	20	良好	白	—	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青)	
5	磁器	坏	(5.4)	2.7	2.9	—	40	良好	白	—	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上位上絵付(青)	
6	磁器	坏	6.6	2.9	2.6	—	95	普通	白	—	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
7	磁器	坏	5.8	2.8	2.3	—	70	良好	白	杭列 5	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付・上絵付 (青)「古河松本善□□」内面上絵付 (青・金) 口唇部金彩カ	
8	磁器	坏	(6.0)	2.8	2.4	—	65	良好	白	杭列 3	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青)	
9	磁器	坏	(7.2)	4.7	(2.9)	—	30	良好	白	杭列 3	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅板転写染付	
10	磁器	皿	(28.0)	4.4	(15.6)	—	15	良好	白	杭列 3	肥前系 内外面施釉 内面染付 底部ハリ支跡 5 遺存	
11	磁器	皿	—	0.6	—	—	5	良好	白	杭列 3	肥前系 内外面施釉 内面染付 蛇ノ目凹形高台 焼継痕・焼継印 (赤)	
12	磁器	皿	—	0.6	—	K	5	良好	白	杭列 3	肥前系 内外面施釉 内面型押陰刻文・染付	
13	磁器	皿	(12.2)	3.1	(5.8)	—	40	普通	白	—	瀬戸美濃系 内面陰刻文 内外面青磁釉 高台内鉄釉	
14	磁器	鉢	—	[2.9]	5.8	—	5	良好	白	杭列 1	肥前系 内外面施釉・染付 内面釘書「吉」No.36	
15	磁器	鉢	—	[3.0]	6.6	—	20	良好	白	杭列 5	肥前系 内外面施釉 内面染付・ハリ支跡 3 あり・釘書「川」	
16	磁器	鉢	—	[2.4]	7.4	—	10	良好	白	F7-D7	肥前系 内外面施釉・染付 高台内墨書	
17	磁器	鉢	—	[2.5]	(10.0)	—	15	普通	白	—	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
18	磁器	鉢	—	[2.2]	—	—	5	普通	白	—	肥前系 内外面施釉 内面染付 被熱	
19	磁器	蓋	(5.2)	2.7	(9.6)	—	30	普通	白	—	肥前系 内外面施釉 外面染付	
20	磁器	鉢	—	[3.5]	—	—	5	普通	白	—	肥前系 内外面瑠璃釉	
21	磁器	爛德利	—	[5.1]	5.1	—	5	普通	白	杭列 5	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 底部墨書	
22	磁器	爛德利	—	[1.4]	(6.0)	—	5	良好	白	—	瀬戸美濃系 内面施釉 外面酸化クロム青磁釉 底部墨書「干」[]	
23	陶器	德利	—	[5.6]	—	—	5	普通	灰白	F7-C6	肥前系 外面施釉・釘書「王」「△」カ	
24	磁器	德利	—	4.8	2.4	—	90	普通	白	—	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底部墨書「全」	
25	磁器	猪口	(7.2)	[4.7]	—	—	15	普通	白	—	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「□[田]屋」	
26	陶器	香炉	—	[1.2]	4.4	—	10	普通	白	杭列 5	肥前系 外面青磁釉 内面白色物質付着・墨書	
27	陶器	猪口	—	[4.1]	4.5	EIK	20	普通	灰白	F7-C6	大堀相馬系 内外面施釉 外面鉄絵 高台内焼継印 (赤) 破断面朱付着	
28	陶器	爛德利	—	[4.0]	5.6	IK	10	普通	灰白	杭列 5	京都信楽系 外面灰釉 底部墨書「[八]百兵」	
29	陶器	德利	—	[12.2]	—	EIK	15	普通	褐灰	F7-C5	胎土極硬質 内面鉄釉 外面灰釉・呉須文字 (酸化コバルト)「□川屋」被熱	
30	陶器	德利	—	[16.3]	7.7	K	70	良好	灰白	F7-C5	体部上位トビガンナ状施文 外面灰釉・釘書 (正面・背面)	
31	陶器	德利	—	[22.8]	9.6	IK	95	良好	灰白	—	瀬戸美濃系 外面灰釉 外面下位・底部釉拭き取り 底部糸切痕遺存 体部下位二次穿孔	
32	陶器	急須	—	[1.1]	5.6	K	10	普通	灰白	F7-C6	板作り成形 胎土極硬質 内側面布目痕 底部墨書「る」	
33	陶器	灯火具	(7.8)	5.5	4.9	K	60	普通	灰白	杭列 3	京都信楽系 内外面施釉 口縁部歪み 被熱	
34	瓦質土器	火鉢	—	[8.0]	—	CIK	10	普通	灰白	杭列 3	外面施文 燻す	
35	瓦質土器	焙烙	(36.0)	[4.1]	(34.4)	CHIK	20	普通	灰白	杭列 3	底部シワ状痕 燻す 口縁歪む 胎土中心部灰色	

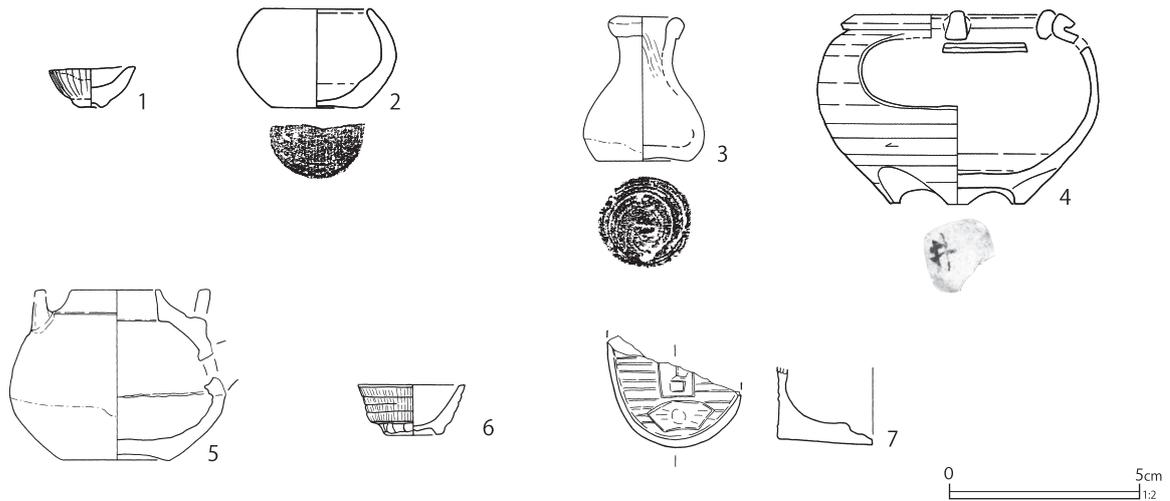
には「古河松本善□□」書かれる。古河の酒屋等
に
関係する坏と推定される。

第 375 図 14・15・16 は肥前系磁器の八角鉢で
ある。蛇ノ目凹形高台で、14 は内面に釘書き「吉」、
15 は内面に釘書き「川」、16 は底部に墨書がみ

られる。

23 は肥前系磁器の大型長頸壺の体部破片であ
る。釘書き「王」がみえ、板屋の屋号「 王 」の可
能性が高い。

24 は瀬戸美濃系磁器の小型御神酒德利である。



第 377 図 遺構外出土遺物（4）

第 98 表 遺構外出土遺物観察表（2）（第 377 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	紅坯	2.2	1.0	0.6	3.9	—	良好	白	表採	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉	121-15
2	土師質土器	小壺	(2.8)	2.6	2.4	10.0	AHIK	普通	にぶい黄橙	表採	底部糸切痕 胎土粉質	121-14
3	陶器	ミニチュア	1.5	3.8	2.3	25.2	EIK	良好	灰黄	F7-C8	瀬戸美濃系 底部糸切痕（中心）内外面灰釉	121-3
4	陶器	ミニチュア	(5.4)	5.1	3.5	65.9	K	良好	灰白	—	焼き締め 胎土磁質 外面火襷 高台挟り 4 底部墨書 SK259 と接合	70-1
5	土製品	ミニチュア	2.1	4.5	2.8	43.1	AHIK	良好	橙	F7-C6	江戸在地系 土瓶 上下合二枚型成形 内外面白化粧・施釉 外面緑釉流し掛け・鉄絵	121-1
6	土製品	ミニチュア	2.8	1.3	1.4	3.5	K	良好	灰白	F7-C6	京都系 鉢 型成形 内外面施釉 口縁部緑釉	121-2
7	土製品	ミニチュア	[2.9]	1.5	0.8	11.5	AK	良好	にぶい黄橙	杭列 1	Tr 小判 一枚型成形 開口 被熱	

外面は酸化コバルト染付である。底部に墨書「全」がみえる。宿内で用いられている屋号と考えられるが、栗橋宿では初出であり、詳細は不明である。

25 は肥前系磁器の蕎麦猪口である。外面に染付文字「□（田）屋」がみえる。「吉田屋」可能性が高く、区画 AE の『絵図』にみえる「旅籠屋 / 太左衛門」に関わる遺物と推定される。

第 376 図 27 は大堀相馬系陶器の猪口である。粗粒な胎土で、外面に走馬文と考えられる鉄絵がみられる。底部に焼継印がみられ、破断面には朱が付着している。

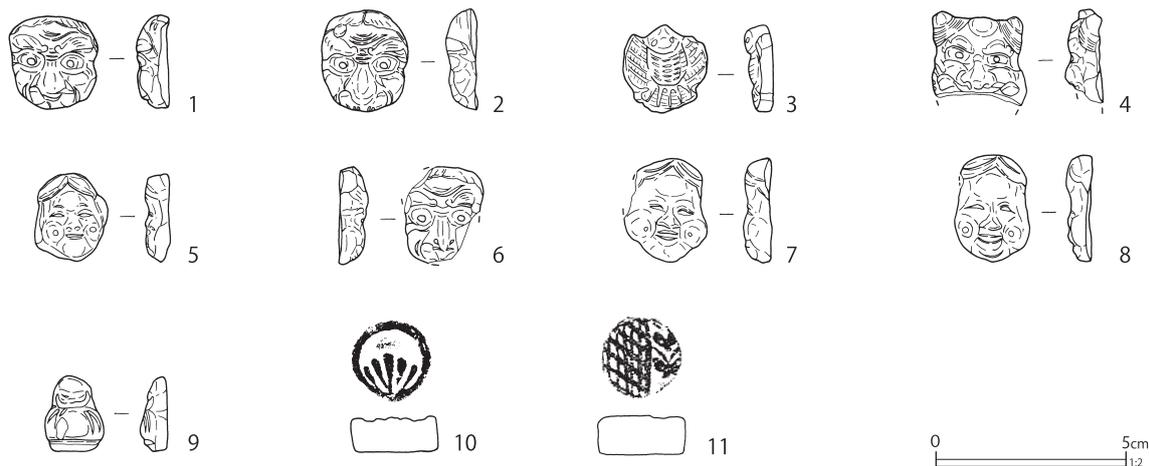
28 は京都信楽系陶器の爛徳利である。外面は灰釉で、底部に墨書「□百兵」がみえる。「八百兵」と考えられ、第 8 地点ではよくみられる墨書である。第 8 地点周辺に居住する人物を指す可能性が

ある。

29 は産地不詳陶器の徳利である。厚手で、胎土が炆器質に近く、極めて硬質である。外面に灰釉、内面に鉄釉が施釉さる。外面には酸化コバルトの呉須で、「□川屋」の文字がみえる。宿内もしくは対岸の中田宿にある店名を指すと推定される。

30 は東北・北関東地方を中心に分布する「すず徳利」である。極めて薄作りで、外面上位にトビガンナ状施文、下位には沈線がみられる。外面は灰釉が施釉される。上端部の破断面には頸部と体部を接いだ痕跡がみられる。体部には釘書きが 2 箇所みられる。

31 は瀬戸美濃系陶器の灰釉一升徳利である。底部に糸切痕が遺存し、外面下位から底部にかけ



第 378 図 遺構外出土遺物 (5)

第 99 表 遺構外出土遺物観察表 (3) (第 378 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	芥子面	2.4	2.3	0.9	4.2	AHK	良好	橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
2	土製品	芥子面	2.7	2.3	0.8	4.4	AHK	良好	橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
3	土製品	芥子面	2.3	2.2	0.7	2.6	AK	良好	橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
4	土製品	芥子面	[2.5]	2.5	1.0	4.5	AHK	良好	にぶい橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
5	土製品	芥子面	2.3	1.9	0.7	2.1	AK	良好	橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
6	土製品	芥子面	2.6	[2.1]	0.7	3.4	AK	良好	にぶい橙	杭列 1	Tr 江戸在地系 一枚型成形	122-13
7	土製品	芥子面	2.8	2.2	0.7	3.2	AHK	良好	にぶい橙～橙	F7-D7	一枚型成形 被熱(赤化)	122-13
8	土製品	芥子面	2.8	1.9	0.7	3.1	AK	良好	橙	F7-F7	一枚型成形	122-13
9	土製品	芥子面	2.0	1.5	0.7	1.7	AHK	良好	にぶい褐	F7-C2	江戸在地系 一枚型成形 被熱か	122-13
10	土製品	泥面子	—	2.3	0.9	5.5	AHK	良好	橙	F7-C6	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11
11	土製品	泥面子	径 1.3	—	1.0	6.1	AHK	良好	橙	杭列 1	江戸在地系 一枚型成形 中実 雲母付着	122-11

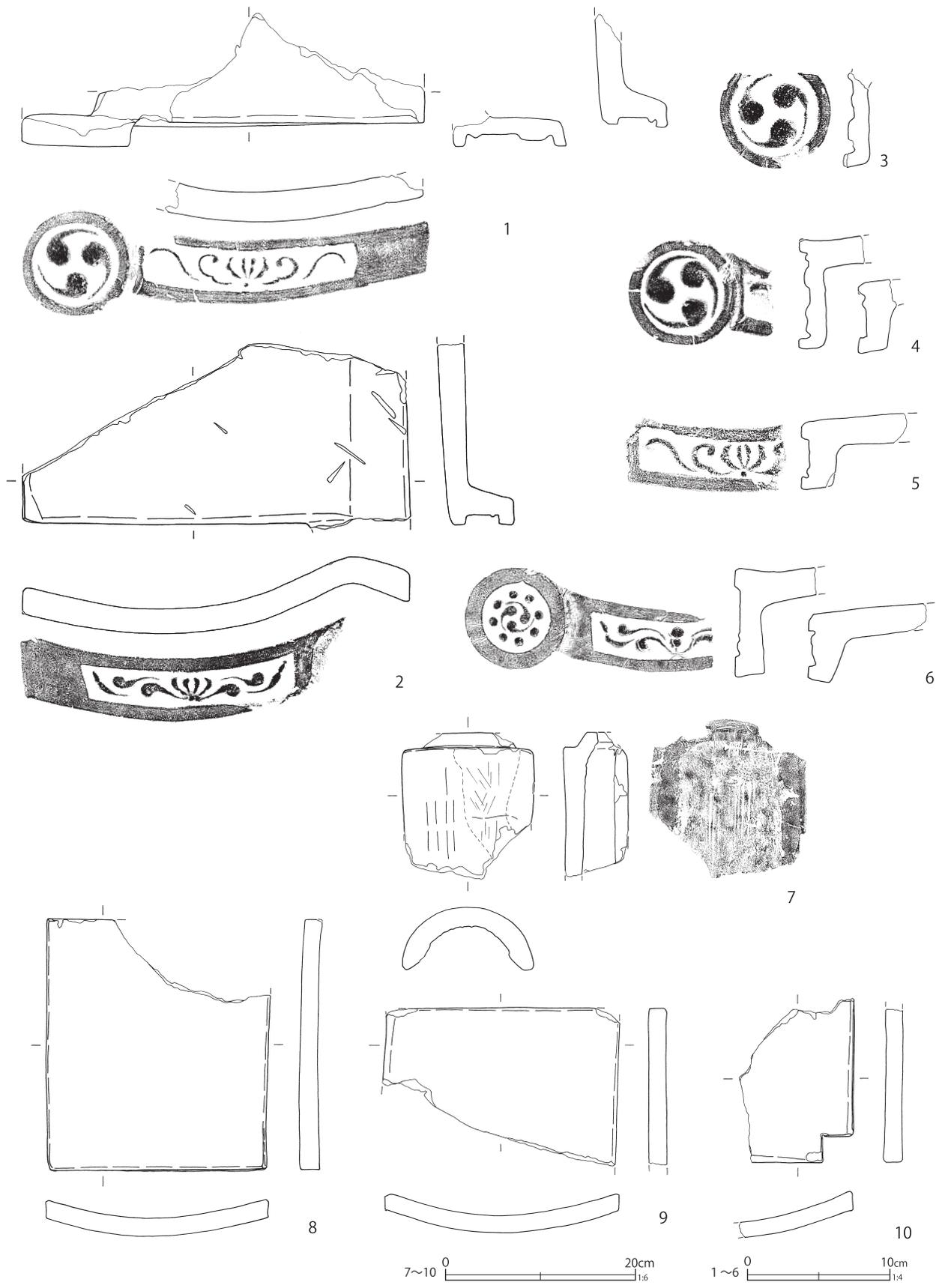
第 100 表 遺構外出土遺物観察表 (4) (第 379 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[8.4]	28.2	2.3	[4.6]	7.6	AIK	普通	灰白	表採	左巻三巴文 燻す 銀化	
2	瓦	軒棧瓦	[13.0]	27.2	2.1	5.4	—	AIK	良好	灰白	杭列 5	江戸式 胎土粗雑 銀化 燻す	
3	瓦	軒棧瓦	—	—	1.1	[7.6]	7.5	AIK	良好	灰白	表採	左巻三巴文 燻す	
4	瓦	軒棧瓦	[5.9]	[10.7]	2.0	[7.7]	7.4	ACIK	普通	灰白	表採	左巻三巴文 弱く銀化 上面部分的に摩耗	
5	瓦	軒棧瓦	[7.6]	[14.4]	2.3	[17.7]	—	ACIK	普通	灰白	表採	弱く銀化 燻す 摩耗著しい	
6	瓦	軒棧瓦	[11.1]	[17.7]	2.8	[7.6]	7.2	AIK	良好	灰白	表採	江戸式 右巻八連珠三巴文 銀化 燻す	
7	瓦	丸瓦	[15.7]	[14.0]	2.2	6.8	—	AIK	普通	灰白	—	上面ヘラナデ 燻す 一部二次利用(擦痕) 下端部 欠質部摩耗	
8	瓦	平瓦	27.0	23.9	1.9	4.1	—	AIK	良好	灰	—	燻す 被熱(一部酸化)	
9	瓦	棧瓦	[16.9]	[25.1]	1.9	[4.1]	—	AHIK	普通	灰白	—	弱く銀化 燻す	
10	瓦	棧瓦	[17.5]	[12.2]	1.9	[4.9]	—	AK	普通	灰	—	弱く銀化 燻す	

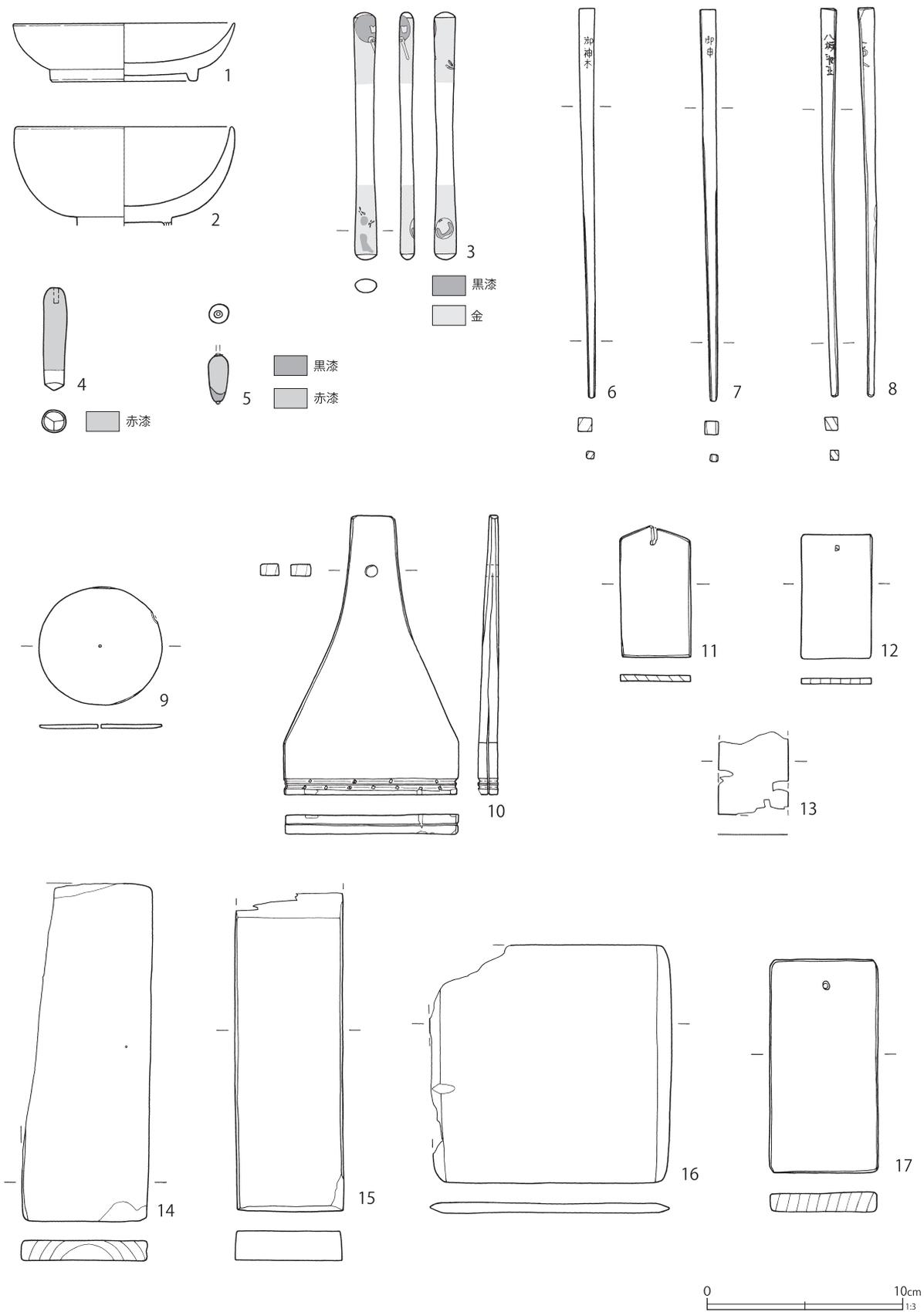
て釉が拭き取られている。体部下位には二次穿孔がみられ、転用が示唆される。

34は瓦質土器の火鉢である。輪高台状の脚部が付くと推定される。外面はトビガンナに類似する施文がみられる。

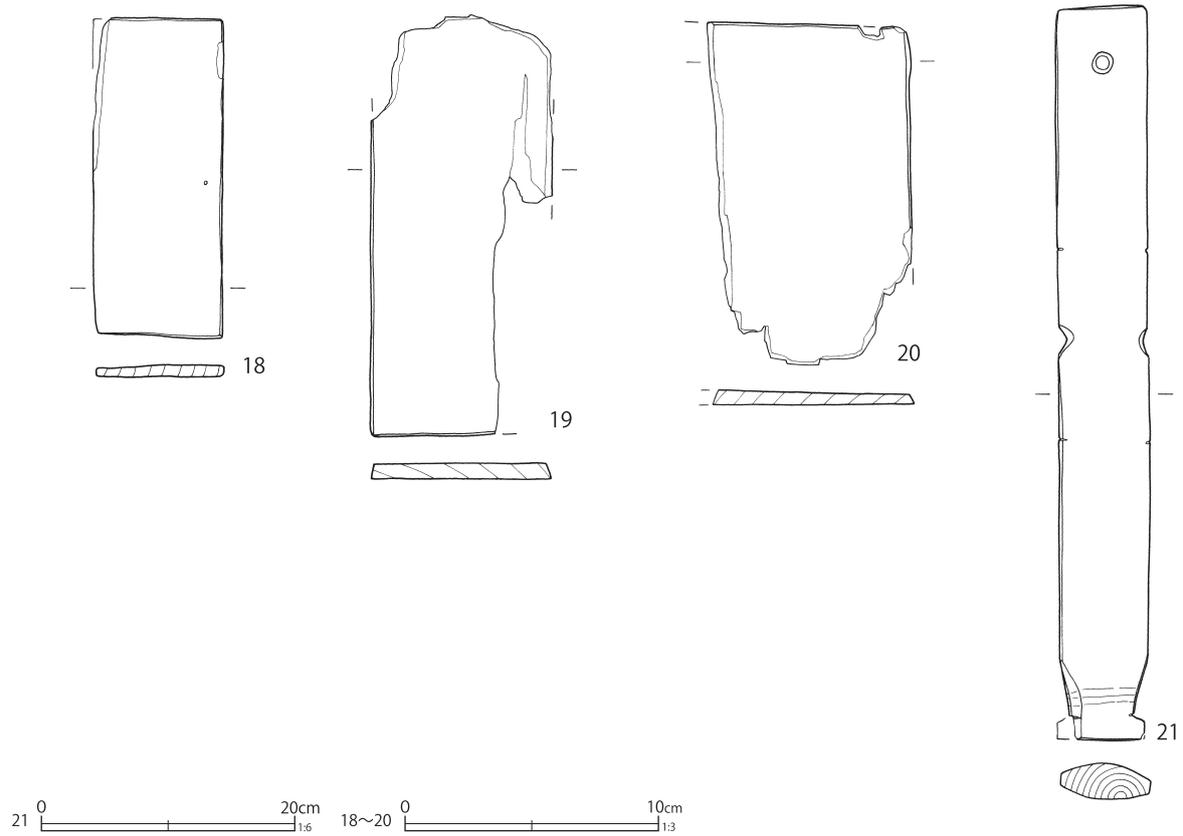
35は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕がみられ、外面はナデ調整である。器高が低く、口縁端部は丸みを帯びる。19世紀以降の所産であろう。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。



第 379 図 遺構外出土遺物 (6)



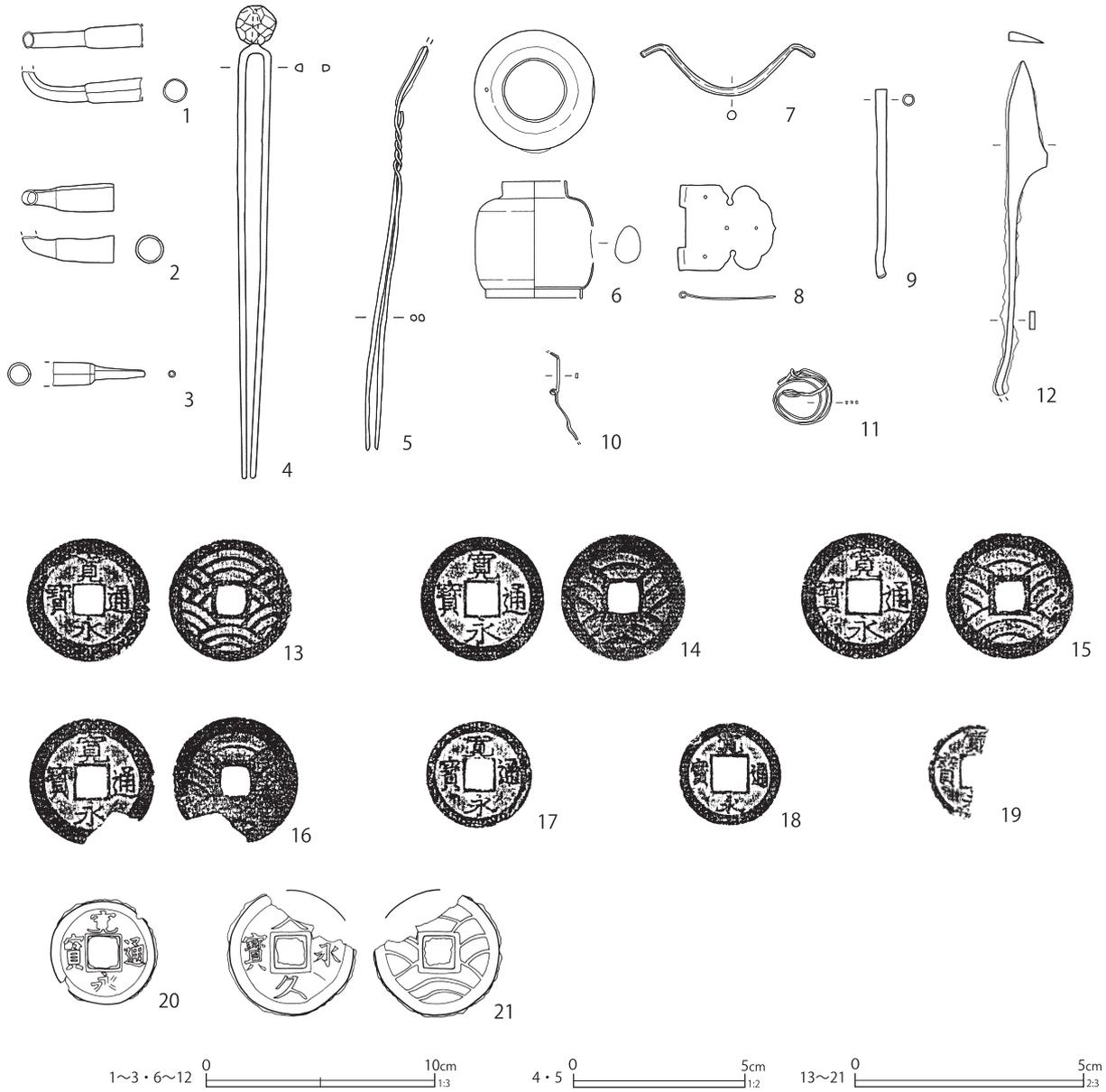
第 380 図 遺構外出土遺物 (7)



第 381 図 遺構外出土遺物 (8)

第 101 表 遺構外出土遺物観察表 (5) (第 380・381 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	—	—	—	11.2	2.9	7.3	横木取り	—	内面赤漆 外面黒漆	
2	木製品	漆椀	—	—	—	11.0	[5.0]	—	横木取り	杭列 6	外面黒漆 内面赤漆	
3	木製品	筭	12.7	1.1	0.7	—	—	—	不明	F7-C6	団扇と蝶の文様	
4	木製品	取手カ	5.2	1.2	1.2	—	—	—	榫目	F7-C6	孔あり 赤漆	
5	木製品	浮子	[2.6]	1.0	1.0	—	—	—	榫目	F7-G8	1Tr 赤漆・黒漆 下部金属	
6	木製品	箸	19.9	0.8	0.7	—	—	—	削出し	F7-C6	焼印「御神木」7 と同一	
7	木製品	箸	20.0	0.8	0.7	—	—	—	削出し	F7-C6	焼印「御神」6 と同一	
8	木製品	箸	19.9	0.8	0.7	—	—	—	分割棒状	杭列 5	刻印 表「八坂神社」裏「□□□」F7-E8	
9	木製品	曲物	—	—	0.2	6.2	—	—	榫目	表採	○中央に孔 プリント	148-6
10	木製品	刷毛	14.3	8.9	1.0	—	—	—	板目	F7-C6	表スタンプ 孔 1 木釘孔 1 1 内木釘残 1	148-13
11	木製品	木札	6.7	3.6	0.3	—	—	—	板目	F7-C5	表裏面墨書 釘穴	148-10
12	木製品	投薬札	6.3	3.6	0.3	—	—	—	板目	F7-C5	孔 1 表スタンプ 右側面錆付着	148-11
13	木製品	経木	[3.7]	3.5	0.03	—	—	—	榫目	F7-C6	スタンプ「商標」「八尺□鳥」の絵柄	
14	木製品	木札	17.3	6.4	1.0	—	—	—	板目	F7-G8	1Tr 表面墨書	148-16
15	木製品	木札	[16.3]	5.4	1.5	—	—	—	板目	F7-C6	表面墨書	148-12
16	木製品	木札	12.1	12.3	0.6	—	—	—	板目	—	表裏面墨書	147-18
17	木製品	木札	10.8	5.5	1.0	—	—	—	板目	表採	表裏面墨書	148-7
18	木製品	木札	12.6	5.0	0.5	—	—	—	板目	杭列 5	表裏面墨書	148-5
19	木製品	木札	[16.6]	7.1	0.6	—	—	—	板目	表採	表面墨書	148-8
20	木製品	木札	[13.5]	[8.0]	0.6	—	—	—	板目	表採	表面墨書	148-9
21	木製品	不明品	58.9	7.3	2.9	—	—	—	板目	表採	孔 1 側面に切り込み 6	



第 382 図 遺構外出土遺物 (9)

第 377 図 1 は瀬戸美濃系磁器の極小紅坯である。型成形で、外面に縦縞の文様が施文される。

2 は京都系「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。底部に糸切痕が遺存し、胎土は粉質である。器形は胴部が張るように丸い。

3 は瀬戸美濃系陶器で、徳利のミニチュアである。灰釉が施釉され、底部は離し糸切痕がみられる。栗橋宿での出土は稀である。

4 は焼き締め陶器で、焜炉のミニチュアである。胎土は磁質で、外面に火襷がみられる。高台は 4

箇所挟りがあり、中心部に墨書「井」がみえる。

7 は小判を模した土製ミニチュアである。一枚型成形で、下面は開口する。栗橋宿では一定量の出土がみられる。第 378 図 1 ～ 9 は土製の芥子面、10・11 は泥面子である。

第 379 図 1・3 ～ 5 は同文の軒棧瓦である。瓦当文様は、第 8 地点で多くみられるが栗橋宿では稀な形態である。三巴文は極めて大きく、3・4 は 1・5 と同様の瓦当文様であると考えられる。2 は江戸式の軒棧瓦で、巴文の部分は右側につく。

第 102 表 遺構外出土遺物観察表 (6) (第 382 図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ [5.2] 小口径 1.0 重さ 4.9	杭列 1	No. 34 雁首 火皿欠失	
2	銅製品	煙管	長さ [4.0] 小口径 1.2 重さ 6.9	杭列 5	F7-E7-4 火皿欠失	
3	銅製品	煙管	長さ [4.0] 小口径 1.0 口付径 0.3 重さ 3.6	F7-G8	吸口	
4	銅製品	簪	長さ [13.9] 幅 1.0 厚さ 0.2 重さ 7.1	F7-C6	玉簪 玉は硝子製	
5	銅製品	簪	長さ [11.9] 幅 0.4 厚さ 0.2 重さ 2.3	F7-C7		
6	銅製品	不明	口径 2.8 高さ 5.1 底径 4.2 厚さ 0.1 重さ 45.7	表採	胴部に 1.6 × 1.1cm の卵形の窓あり	
7	銅製品	把手	縦 2.2 横 7.6 厚さ 0.4 重さ 5.9	杭列 3	F7-C6-4	
8	銅製品	蝶番	長さ 3.8 幅 4.3 厚さ 0.05 重さ 4.4	表採		
9	銅製品	不明	長さ 8.2 厚さ 0.5 重さ 4.4	表採	中空	
10	銅製品	不明	長さ [3.8] 幅 0.1 厚さ 0.2 重さ 0.4	表採		
11	銅製品	針金	縦 2.5 横 2.6 厚さ 0.1 重さ 1.7	杭列 3	F7-C6	
12	鉄製品	握鋏	長さ [14.8] 刃幅 1.5 背幅 0.4 重さ 19.2	杭列 5	F7-E7	
13	銅製品	銭貨	径 27.5 厚さ 1.3 重さ 3.7	杭列 3	F7-E7 寛永通寶 (新) 21 波	
14	銅製品	銭貨	径 27.7 厚さ 1.0 重さ 3.4	F7-C3	寛永通寶 (新) 11 波	
15	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.4 重さ 4.9	F7-E7	寛永通寶 (新) 11 波	
16	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.3 重さ [4.4]	F7-C5	寛永通寶 (新) 11 波 一部欠	
17	銅製品	銭貨	径 23.6 厚さ 1.5 重さ 3.3	杭列 6	F7-F8-4 寛永通寶 (新)	
18	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.0 重さ 2.1	F7-B7	寛永通寶 (新)	
19	銅製品	銭貨	径 21.7 厚さ 1.1 重さ [0.8]	杭列 3	F7-E7 寛永通寶 (新) 半欠	
20	鉄製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.1 重さ 1.7	F7-E6	寛永通寶 (新)	
21	銅製品	銭貨	径 27.0 厚さ 1.2 重さ [3.2]	杭列 6	F7-F8-4 文久永寶 1/4 欠	

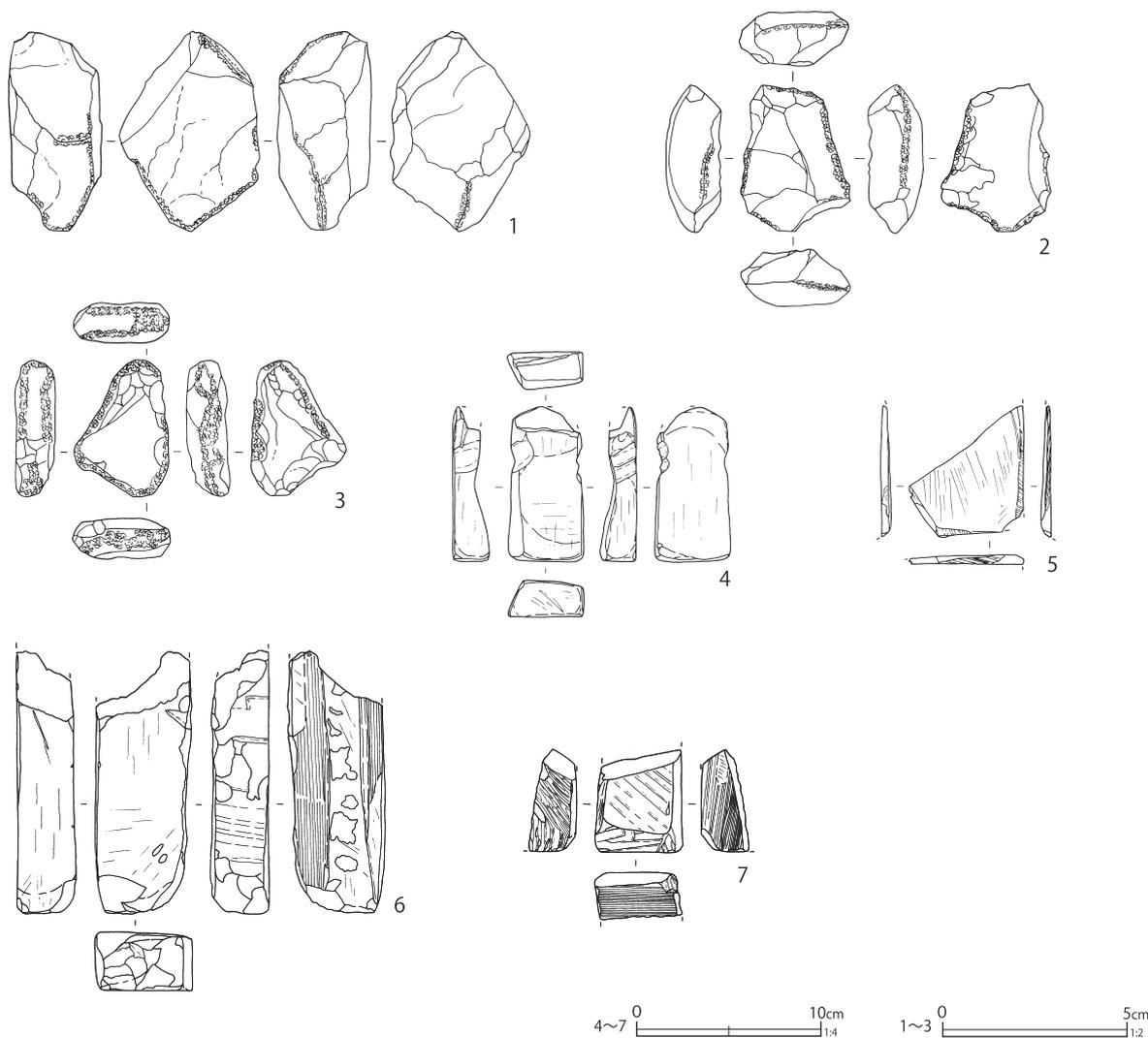
栗橋宿での出土は極めて稀である。胎土は粗雑である。

第 380 図 1 は漆椀で、内面赤漆、外面黒漆塗りである。やや浅いことから、蓋の可能性も考えられる。2 は漆椀で内面赤漆、外面黒漆塗りである。外面の腰の位置は低く、丸みを持つ。3 は筭である。中央部がわずかに括れ、断面は楕円形である。両端には文様が描かれ、金に黒漆で団扇と蝶が描かれる。4 は把手と考えられる。下端は尖り、漆がないことから、他材とつないだ部分と考えられる。5 は浮子である。下部に金具が残存する。6～8 は箸である。6 には「御神木」、7 には「御神」の文字が刻まれ、6・7 で一組と考えられる。8 の表面には「八坂神社」の文字が刻まれる。9 は曲物の底板である。10 は刷毛である。一枚の板で作られる。下部に毛先を挟む切込みを入れている。表裏面下部に毛を固定するための穴が二列あけられている。上部には紐を通すか、壁にかけるためか、円形の穴があけられている。「㊦」利の文字が残る。11 は木札である。

上部は欠損しているが、丸い穴があけられていたと考えられる。12 は投薬札で、「内用」の文字などが残る。上部に丸い穴があけられ、右側面には錆が付着する。13 は経木でごく薄い。14～20 は木札である。14 には「栗橋 [仲] 町 / 酒屋屋 / 東京深川 / 万年町式 [] / 大石吉 []」の文字が見られる。16 は、左右片が斜めに削られており、容器の蓋の可能性はある。「大和屋 / □ □」の墨書が見られる。17 には「灯燧」「瀧太郎」の文字が残る。

第 381 図 18 の表面には「信 [州] 上伊那郡」「日製糸場」、裏面には「武州栗橋町 / 吉田屋作 □ □ / 白鳥 [団] 治殿行」の墨書が見られる。21 は不明品だが、長さ 58.9 cm であり、部材と考えられる。上部には丸い穴があり、中央部は他材と合わせるための括れがある。下部の両側面には切込みが入る。

第 382 図 4・5 は銅製の簪である。5 の上部は振じって成形している。4 は硝子製の飾り玉がみられる。



第383図 遺構外出土遺物 (10)

第103表 遺構外出土遺物観察表 (7) (第383図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	5.5	3.8	2.5	56.9	石英	—	使用痕あり	
2	石製品	火打石	4.0	3.0	1.5	18.8	玉髓	—	稜の潰れ著しい	
3	石製品	火打石	3.7	2.6	1.1	13.2	玉髓	—	稜の潰れ著しい	
4	石製品	砥石	8.5	4.1	2.0	94.7	流紋岩	—	砥面6 側面溝状使用痕あり	
5	石製品	砥石	[7.2]	[6.2]	0.5	23.4	粘板岩 (灰色)	—	側面ノコギリ痕 表面端部削痕 砥面1	
6	石製品	砥石	[14.4]	5.3	3.2	384.2	流紋岩	杭列1	裏面ノコギリ痕 側面幅広工具痕 砥面2 刃物痕あり	
7	石製品	砥石	[5.8]	4.5	[2.5]	97.7	ホルンフェルス	F7-C7	表面幅広工具痕 側面ノコギリ痕・刃ならし痕多数	

第383図1は石英、2・3は玉髓製の火打石である。3は特に使い込まれており、稜の潰れと丸みが強い。6は白色の流紋岩製砥石である。裏面には中央に段の付くノコギリ状工具痕がみられる。側面には刃幅の広い工具痕がみられる。7は

ホルンフェルス製の砥石である。側面に密なノコギリ状工具痕、左側面に多数の刃ならし痕がみられる。表面には刃幅の広い工具痕がみられる。裏面は全面欠損しているが、砥面だった可能性が推定される。

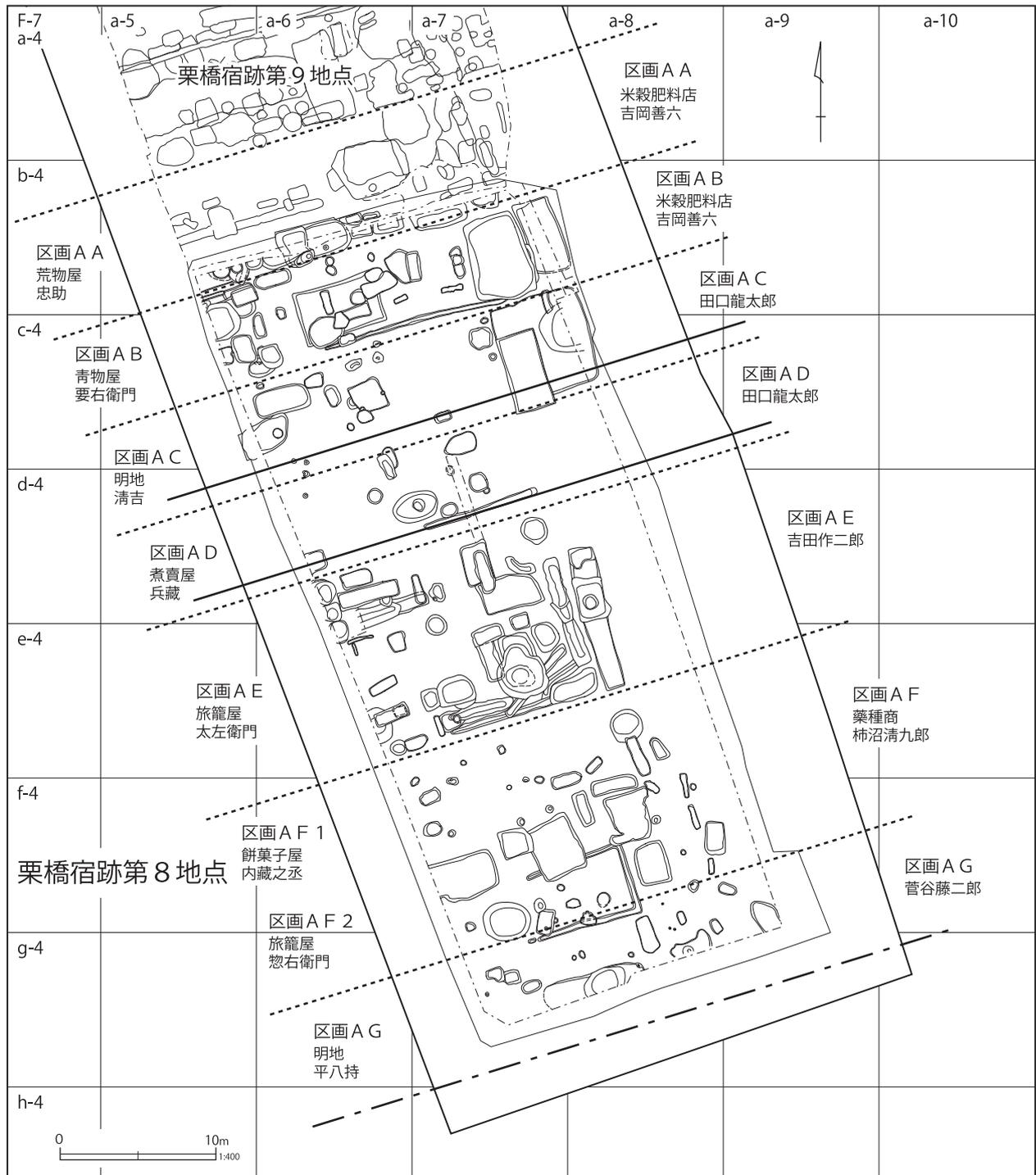
2. 第二面の遺構と遺物

第二面から検出された遺構は、建物跡1棟、埋設桶6基、井戸跡8基、溝跡6条、性格不明遺構2基、土壇154基、ピット26基である。

第二面では、第一面のように明確な区画施設が検出されていない。そのため、『絵図』との対比

が非常に困難である。また、第二面の遺構群は、18世紀後半から19世紀前半を中心とすることから『絵図』の年代以前であり、対比可能な史料がない。

そこで、第二面では敷地範囲の変動がない区画

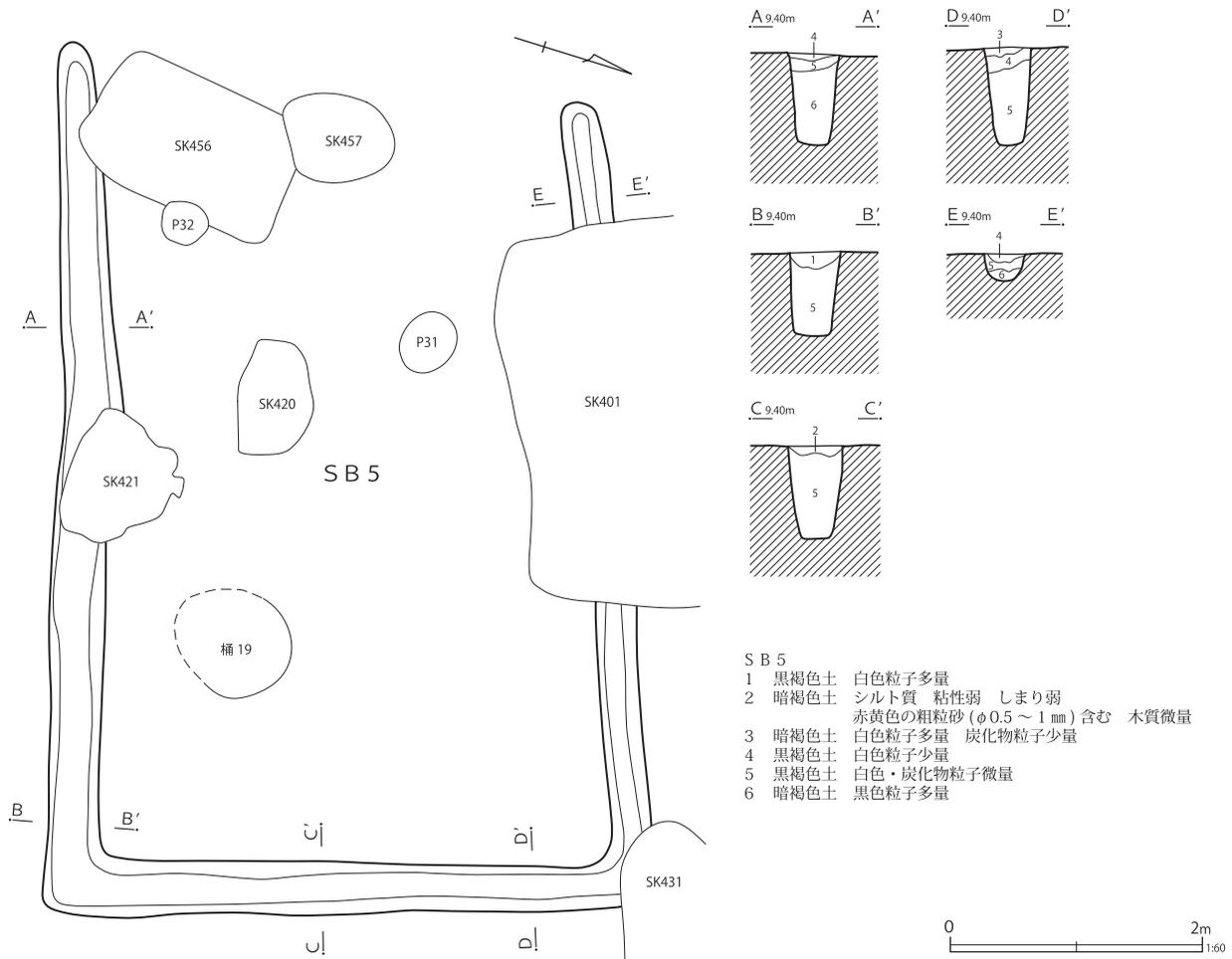


第384図 第二面区画参考図

第 104 表 第二面建物跡一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	桁行（長軸）	梁行（短軸）	桁行推定	梁間推定	深さ	方位	備考
5	AF/AG	F7-F・G7・F8	7.05	4.85	6.65	4.40	0.76	N-72°-E	SK401・421・431・456 より古 桶 19 と重複



第 385 図 第 5 号建物跡

の存在を想定したうえで、出土文字資料等の対比を行うことができるように、第一面と同様に区画に即して資料の提示を行う。

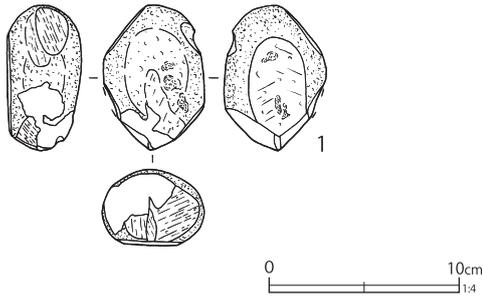
各遺構が属する区画については、第 8 地点区画案（第 18 図）を用いて、第一面の区画施設直下に位置する場所に敷地境を示した（第 384 図）。第 384 図は 19 世紀中葉に比定される第一面の区画を基に作成した区画参考図である。そのため、検出されている遺構が必ずしも実態に即しているわけではないことを留意したい。

（1）建物跡（第 385・386 図）

F 7-F・G 7、F 8 グリッドに位置し、区画 AF・AG にまたがる。第 401・421・431・456 より古く、第 19 号埋設桶と重複する。現地調査では第 15 号溝跡として調査されたが、建物跡の布掘基礎状に溝がクランクしていることから第 5 号建物跡として扱った。西辺は検出されていない。

検出された長軸は 7.05 m、短軸 4.85 m、深さ 0.76 m を測る。セクション E-E' 付近は浅く、深さ 0.21 m を測る。下層は極めて厚い堆積

SB5



第 386 図 第 5 号建物跡出土遺物

第 105 表 第 5 号建物跡出土遺物観察表 (第 386 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	石製品	磨石	長さ 7.6 幅 5.4 厚さ 4.0 重さ 73.3							角閃石安山 多孔質 自然面遺存 使用面 4 線条痕あり	141-1

層で、上層は薄い。溝の幅は、第一面で検出された建物跡より狭い。

出土遺物は極めて少なく、陶磁器類は常陸系土師質土器の焙烙と在地産かわらけの破片のみである。重複遺構の出土陶磁器も少ないが、新旧関係から遺構の時期は 18 世紀前半以前と推定される。

出土遺物は第 386 図に石製品を示した。

(2) 埋設桶 (第 387 ~ 392 図)

埋設桶は 6 基検出された。位置・規模等の基本的な情報は第 106 表に示した。

埋設桶の分布は区画 AA・AE に集中し、複数基が隣接して直線状に並ぶ傾向にある。第一面とは異なる分布状況を示す。第 19 号埋設桶は、第 5 号建物跡内に重複し、関連性が示唆される。

第 16 号埋設桶 (第 387・390 図)

F 7-D・E 6 グリッドの区画 AE に位置し、第 17 号埋設桶より新しい。

桶底板・側板共に良好に遺存するが、埋設桶上半部は削平されている。側板には箍が 4 本巻きつき、底板は 3 本一組の合釘で留めてある。内底面では陶磁器類や木材、瓦等が出土している。掘り方は桶より一回り以上大きな円形で、重複する第 17 号埋設桶より深い位置で設置されている。

陶磁器類の出土は少量だが、瓦が 3350.0g 出土している。非掲載遺物の瀬戸美濃系陶器柿釉灯明皿が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は 18 世紀後半である。

第 390 図 1 ~ 7 に出土遺物を図示した。6・7 は銅製の新寛永通寶で、7 は掘り方出土である。

第 17 号埋設桶 (第 387・390 図)

F 7-D 6 グリッドの区画 AE に位置し、第 16 号埋設桶より古い。

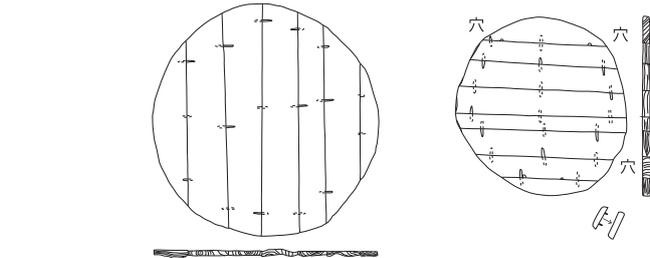
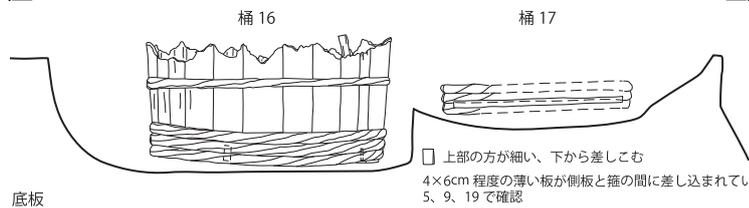
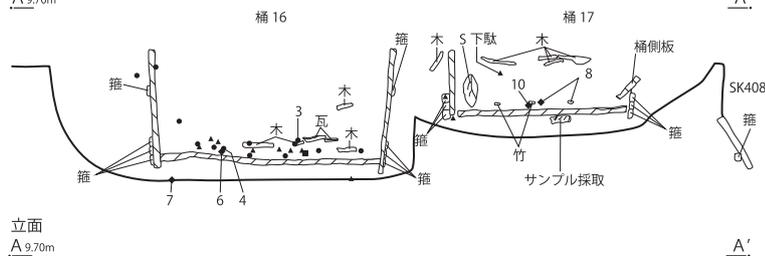
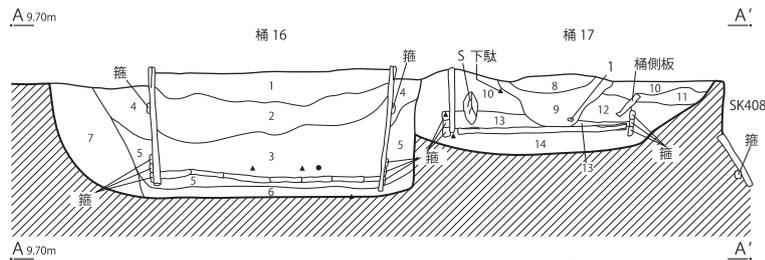
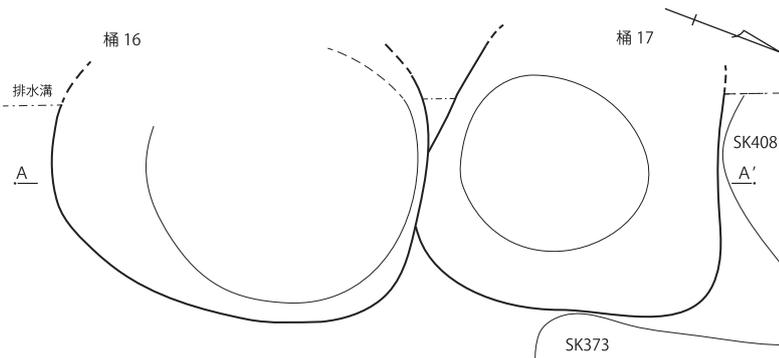
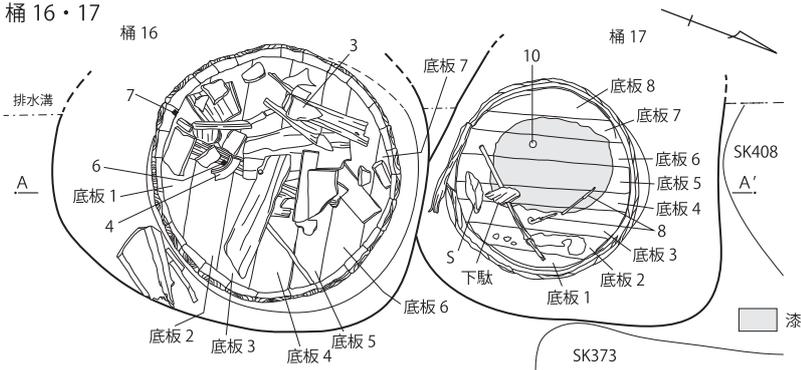
側板・箍の遺存状態は悪く、箍は最下部で三重に巻かれている。底板は良好に遺存しており、3

第 106 表 第二面埋設桶一覧表

単位: m

番号	区画	グリッド	外径	高さ	内法		掘り方径	深さ	備考
					内径	深さ			
16	AE	F7-D・E6	0.96	0.48	0.90	0.40	1.46	0.50	桶 17 より新
17	AE	F7-D6	0.74	0.26	0.68	0.24	1.24	0.30	桶 16 より古
19	AF	F7-F8	0.60	0.14	0.58	0.11	0.84	0.14	SB5 と重複
20	AA	F7-B5・6	0.82	0.65	0.76	0.40	1.10	0.40	SK487・506 より新
21	AA	F7-B5	—	—	—	—	1.10	0.40	SK491・492・511 より新
22	AA	F7-B5	—	—	—	—	0.74	0.16	SK491・492・506・511 より新

桶 16・17



埋桶 16

- 1 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまりやや強
炭化物粒子若干
- 2 褐色土 砂質 粗粒砂 円形の粘土ブロック (φ10~30mm) 含む
- 3 褐色土 砂質 粘性なし しまり弱
木質・木片含む
- 4 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまり強
- 5 黒褐色土 シルト質 粘性強 しまり強
桶の裏込
- 6 灰色土 粘質
- 7 暗褐色土 粘土質 灰褐色粘土ブロック (中) 少量 埋戻し土

埋桶 17

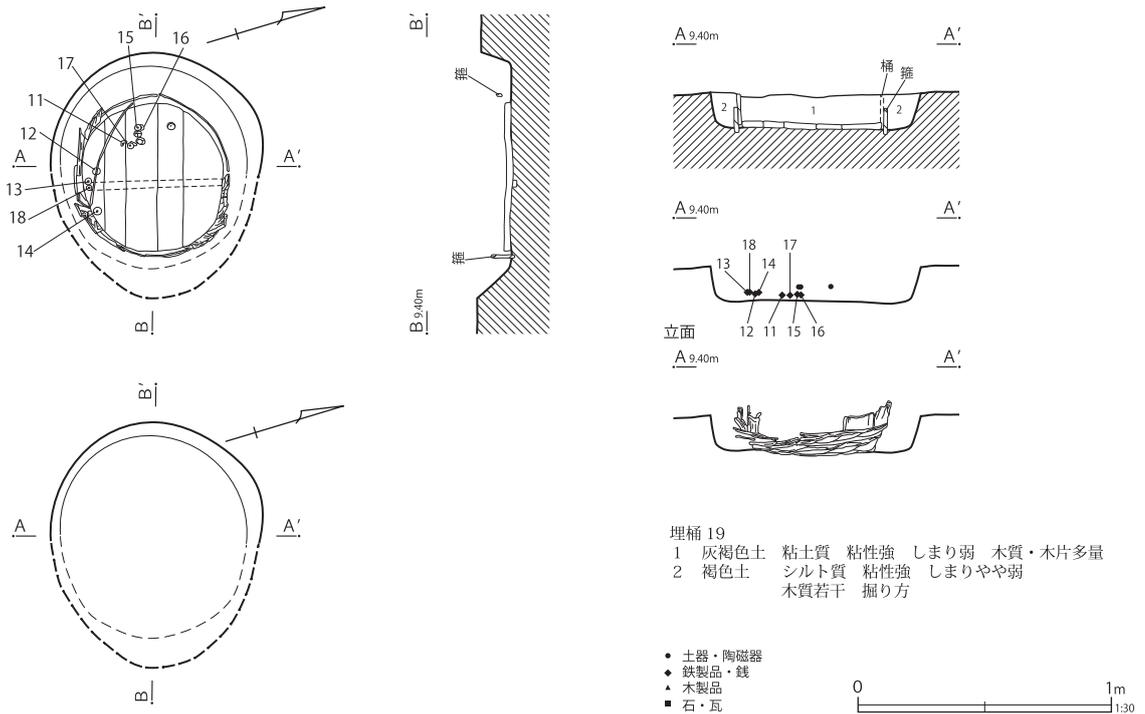
- 8 褐色土 砂質 粘性なし しまり弱 木片 多量
- 9 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱
炭化物粒子微量
- 10 黒褐色土 シルト質 粘性強 しまりやや強
炭化物粒子・木質・焼土多量
- 11 黄色土 シルト質 粘性強 しまりやや弱
炭化物粒子・木質微量
- 12 灰黄色土 シルト質 粘性強 しまり弱
炭化物粒子含む
- 13 灰色土 砂質 粗粒砂 粘性なし しまり弱
- 14 灰色土 シルト質 粘性強 しまり強
炭化物粒子微量

- 土器・陶磁器
- ◆ 鉄製品・銭
- 木製品
- 石・瓦



第 387 図 埋設桶 (1)

桶 19



第 388 図 埋設桶 (2)

本一組の合釘で接合してある。内底面には漆が塗布してあり、水漏れを防ぐ役割があると推定される。掘り方は、桶より一回り以上大きな不整形で、第 16 号埋設桶より底面の位置が高い。

陶磁器類の出土は極めて少なく、土器類片が僅かに出土しているのみである。推定廃絶期は、遺構の重複関係から 18 世紀後半以降である。

第 390 図 8～10 に出土遺物を図示した。9 は古寛永通寶、10 は新寛永通寶である。

第 19 号埋設桶 (第 388・390 図)

F 7 - F 8 グリッドの区画 AF に位置し、第 5 号建物跡と重複する。

側板・箍の遺存状態は悪く、下端部が僅かに検出されている。箍は三重に巻かれている。底板は、各板材に直交するように、下面中央に角材状の細い木材で留めてある。掘り方は、桶より一回り以上大きい円形である。

陶磁器や瓦などの出土はなく、底面に銭貨が集中して出土している。他の埋設桶と比べると特異な出土状況である。推定廃絶期は不明である。

第 390 図 11～18 に出土遺物を図示した。12 は古寛永、13～17 は新寛永通寶である。13 は背文である。18 は銅製の雁首銭である。

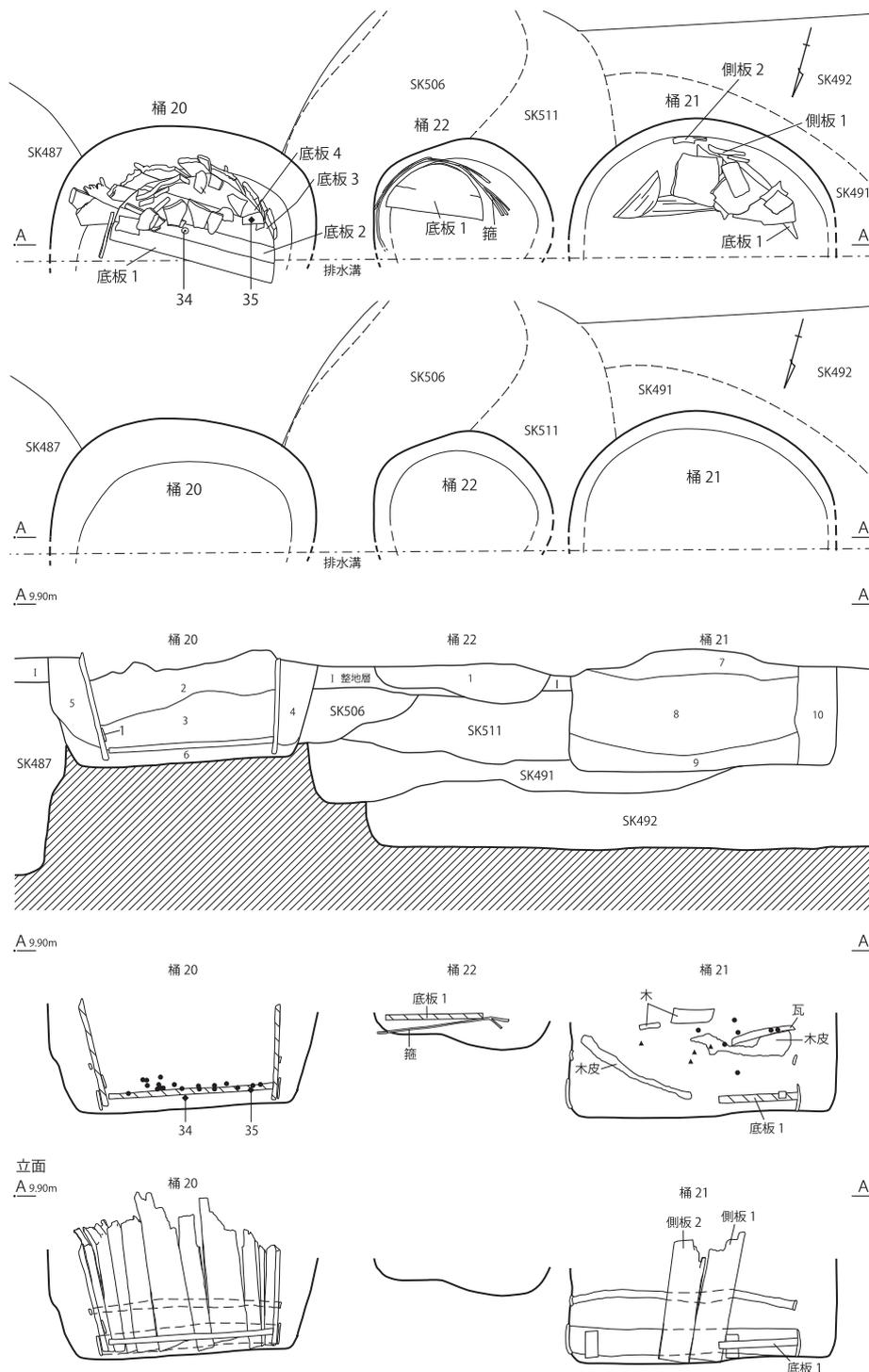
第 20 号埋設桶 (第 389・391 図)

F 7 - B 5・6 グリッドの区画 AA に位置し、第 487・506 号土壌より新しい。第 9 地点 (『栗橋宿跡 VII』) との境に位置し、北半部は検出されていない。第 21・22 号埋設桶とは東西方向に一定間隔で直線状に並ぶ。第 21 号埋設桶とは、底面の深さがほぼ同じであり、それほど時期差がない可能性が高い。また、第 22 号埋設桶とは底面の比高差が 0.25 m 以上あり、第 22 号埋設桶より先行するものと考えられる。

側板・底板の遺存状態は比較的良好だが、箍は著しく剥落している。

陶磁器の出土量は少ないが、桶内から 4921.8g もの瓦が出土している。桶内出土陶磁器の最新期は、肥前系磁器の端反形碗の蓋 (第 391 図 20) で、19 世紀前半以前の所産である。一方、桶掘り方出土陶磁器の最新期は、産地不詳陶器の蓋物

桶 20・21・22



埋桶 20 (2.3.4.5.6)・21 (7.8.9.10)・22 (1)

- 1 暗褐色土 粘土質 褐色・白色粒子少量 しまり強 粘性弱 整地層
- 2 暗灰褐色土 粘土質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 しまり強 粘性弱
- 3 灰色土 シルト質 褐色粒子少量 しまりあり 粘性弱
- 4 暗褐色土 粘土質 褐色・白色粒子少量 しまりあり 粘性弱 竹等の有機物少量
- 5 暗褐色土 粘土質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 しまりあり 粘性あり (掘り方)
- 6 暗褐色土 粘土質 褐色・白色粒子多量 炭化物粒子少量 しまり強 粘性弱 (掘り方)

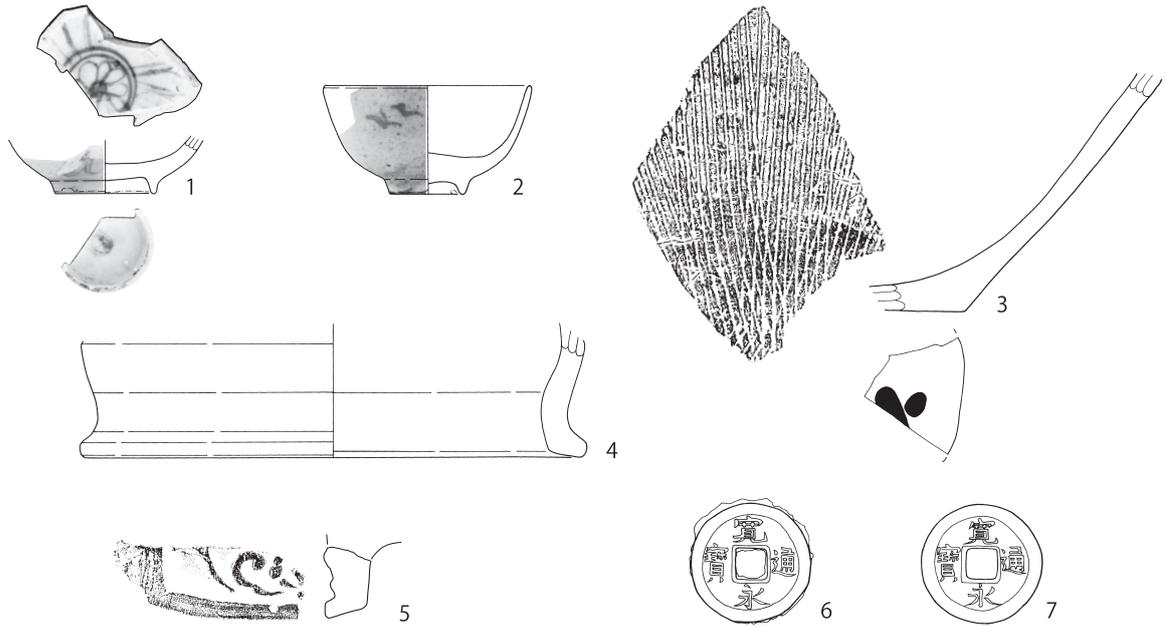
- 7 暗褐色土 砂質 褐色・白色粒子多量 粘土ブロック多量 しまりあり 粘性弱 (掘り方)
- 8 暗褐色土 粘土質 褐色・白色粒子少量 しまりあり 粘性弱 木材・陶磁器含む
- 9 黒褐色土 粘土質 褐色・白色粒子少量 しまり弱 粘性あり 瓦・木材(木皮)等の有機物多量
- 10 暗褐色土 砂質 褐色・白色粒子多量 しまりあり 粘性なし 粘土質 褐色・白色粒子・炭化物粒子多量 しまり強 粘性あり(掘り方)

● 土器・陶磁器 ▲ 木製品
◆ 鉄製品・銭 ■ 石・瓦

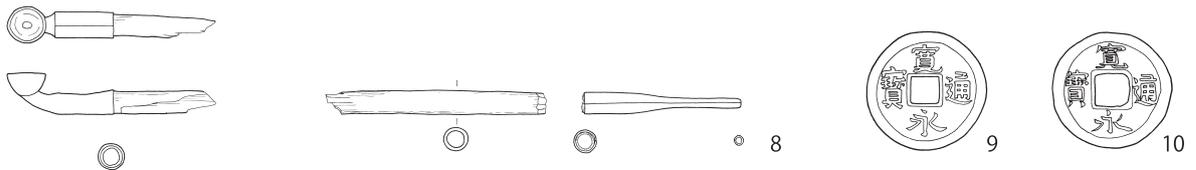
0 1m 1:30

第 389 図 埋設桶 (3)

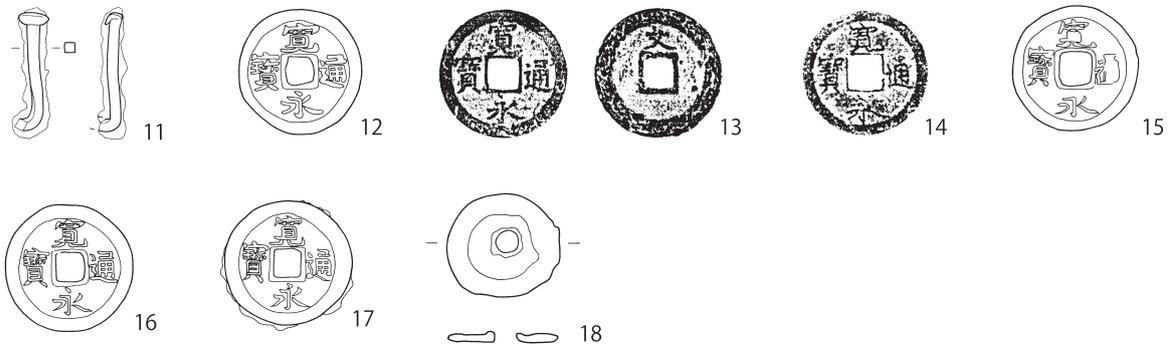
桶 16



桶 17



桶 19



第 390 図 埋設桶出土遺物 (1)

(第 391 図 22)、急須 (同 24) 等、19 世紀後半の所産が多い。埋設桶内と掘り方の出土遺物の年代が逆転しているため、掘り方出土陶磁器は後世の混入の可能性が考えられる。したがって、設置時期は不明であるが、推定廃絶期は 18 世紀末～19 世紀前半と考えられる。

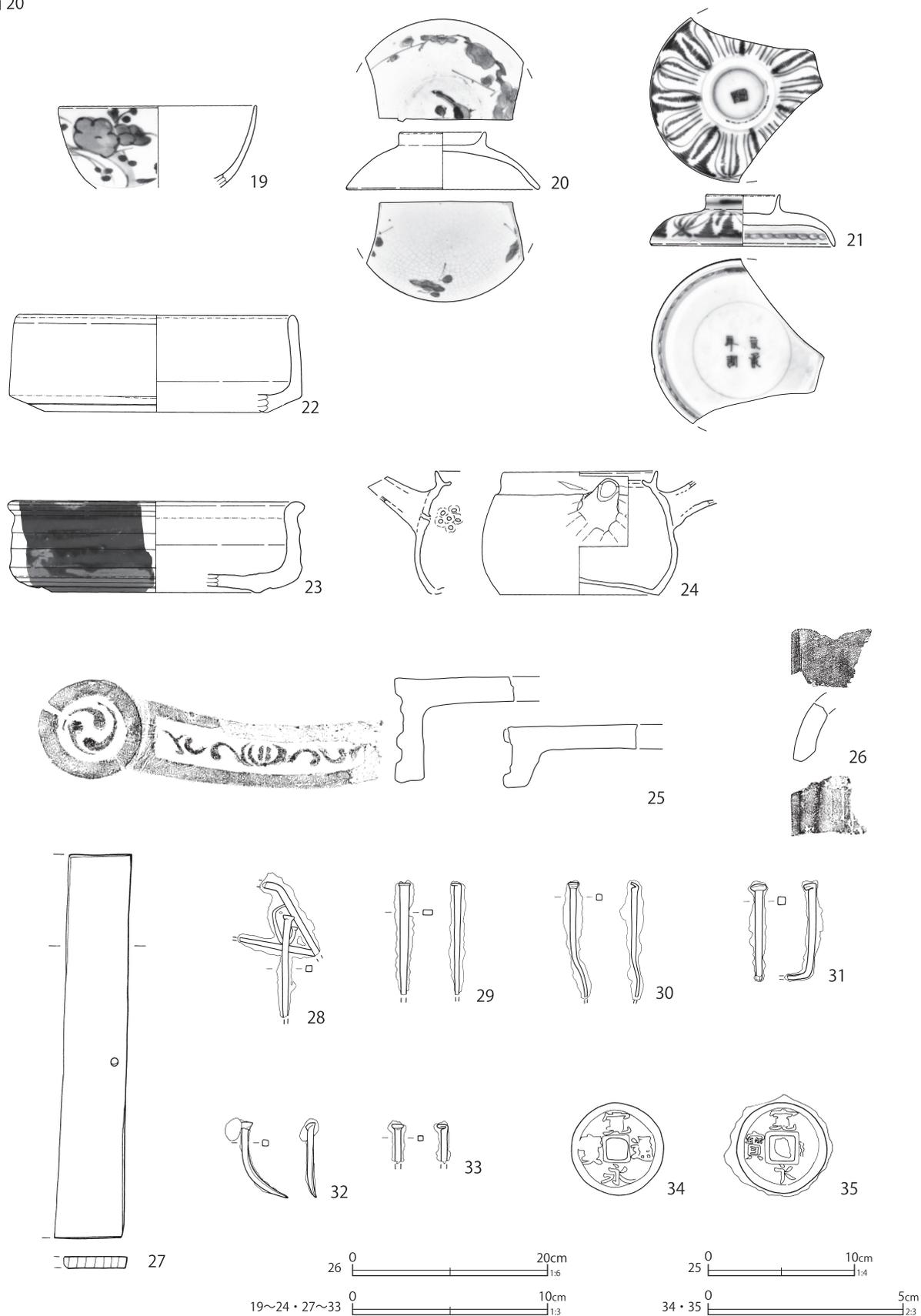
第 391 図 19～35 に出土遺物を図示した。20 は桶内出土の肥前系磁器端反形碗の蓋である。

27 は木製品の木札である。「武州栗橋 / 板屋忠七様 / 谷出」の墨書が書かれる。第 476 号土壙出土の木札に同様の人名が書かれている。

34 は古寛永通寶、35 は新寛永通寶である。底板直上から出土している。

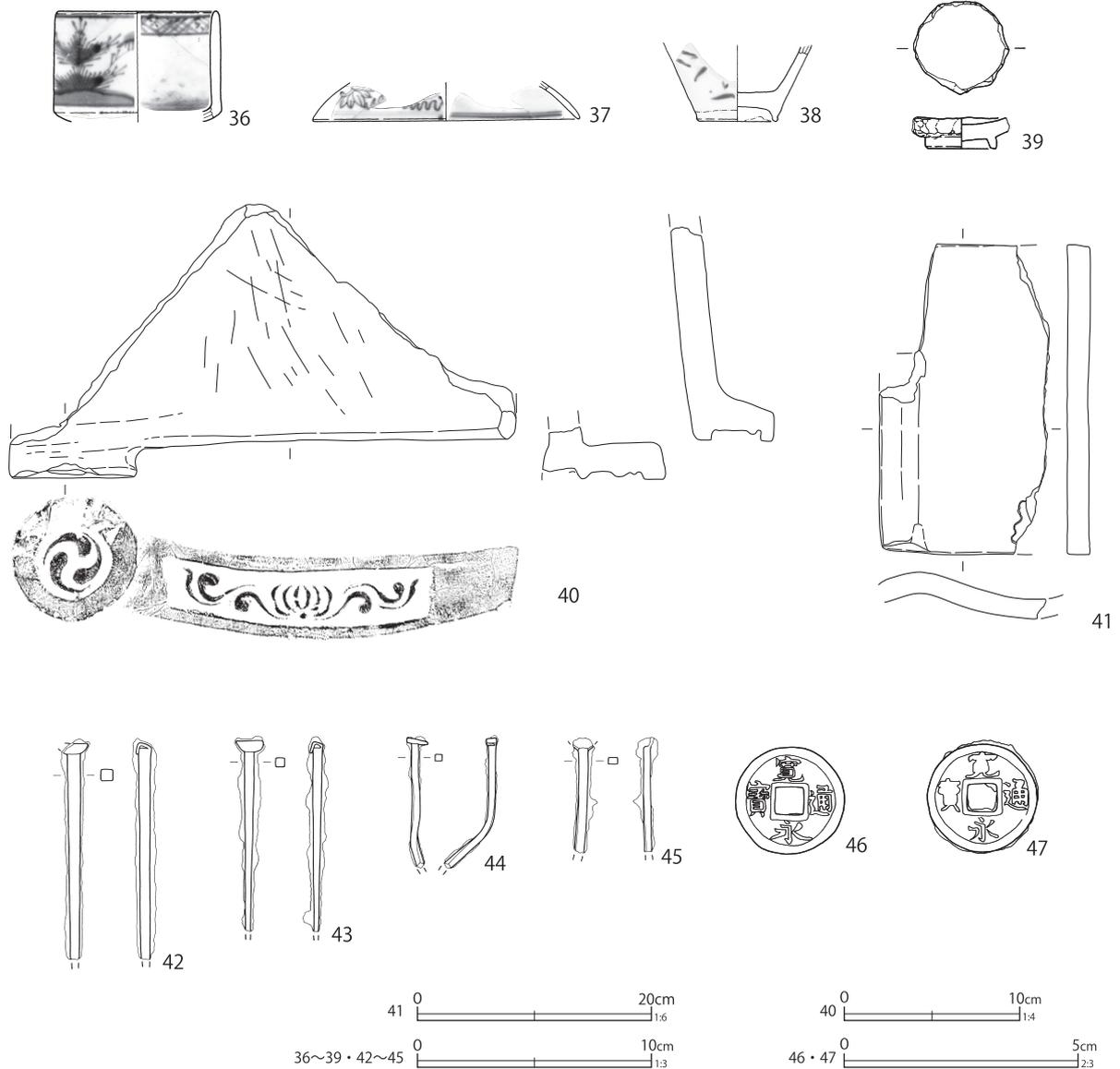
第 21 号埋設桶 (第 389・392 図)

F 7 - B 5 グリッドの区画 AA に位置し、第 491・492・511 号土壙より新しい。第 9 地点との



第 391 図 埋設桶出土遺物 (2)

桶 21



第 392 図 埋設桶出土遺物 (3)

境に位置し、北半部は検出されていない。先に述べたように、第 20 号埋設桶とは同時期の可能性が高い。底板・側版・箍の遺存状態は極めて悪く、部分的にしか残っていない。

陶磁器類の出土は少ないが、桶内から 7860.0g の瓦が出土している。陶磁器類の最新期は、肥前系磁器広東碗の蓋である。推定廃絶期は 18 世紀後葉である。

第 392 図 36 ~ 47 に出土遺物を図示した。36 は肥前系磁器の筒形碗である。37 は肥前系磁器広東碗の蓋である。最新期の陶磁器である。

46 は銅製、47 は鉄製の新寛永通寶である。

第 22 号埋設桶 (第 389 図)

F 7 - B 5 グリッドの区画 AA に位置し、第 491・492・506・511 号土壌より新しい。第 9 地点との境に位置し、北半部は検出されていない。側板は遺存しておらず、底板の一部と箍が遺存する。出土位置は円形の掘り方内のやや東側にずれている。

出土遺物は極めて少なく、瓦が僅かに出土している程度である。推定廃絶期は遺構の重複関係から 18 世紀後半以降である。

第 107 表 埋設桶出土遺物観察表 (第 390 ~ 392 区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	磁器	碗	—	[2.2]	(3.8)	—	5	良好	白	桶 16	肥前系 内外面施釉・染付		
2	磁器	碗	(8.0)	4.3	2.8	K	70	普通	灰白	桶 16	肥前系 内外面施釉 外面染付		
3	陶器	播鉢	—	[9.5]	—	DEIKM	5	良好	赤橙	桶 16	堺明石系 内面播目 9 条 / 単位 底部墨痕 No. 2	86-6	
4	瓦質土器	火鉢	—	[5.3]	(19.4)	CHIK	5	普通	浅黄	桶 16	脚部 やや酸化炎焼成 被熱・煤付着 No. 1		
5	瓦	軒棧瓦	長さ [2.5] 幅 [10.2] 高さ [4.0]			IK	—	普通	灰白	桶 16	燻す No. 3	124-19	
6	銅製品	錢貨	径 23.3 厚さ 1.3 重さ 3.6								桶 16	No. 12 寛永通寶 (新)	
7	銅製品	錢貨	径 23.7 厚さ 1.3 重さ 2.9								桶 16	No. 13 掘方 寛永通寶 (新)	
8	銅製品	煙管	雁首 長さ 4.2 火皿径 1.5 小口径 1.0 重さ 8.5 吸口 長さ 6.1 小口径 0.9 口径径 0.4 重さ 5.9								桶 17	No. 1 羅宇残存 全長約 29 cm	133-1
9	銅製品	錢貨	径 23.3 厚さ 1.3 重さ 3.6								桶 17	寛永通寶 (古)	
10	銅製品	錢貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.5								桶 17	No. 2 寛永通寶 (新)	
11	鉄製品	釘	長さ [4.7] 幅 (0.4) 厚さ (0.4) 重さ 7.7								桶 19	No. 8	
12	銅製品	錢貨	径 24.5 厚さ 1.1 重さ 3.4								桶 19	No. 1 寛永通寶 (古)	
13	銅製品	錢貨	径 25.7 厚さ 1.5 重さ 3.8								桶 19	No. 2 寛永通寶 (新) 背文	
14	銅製品	錢貨	径 24.7 厚さ 1.1 重さ 2.5								桶 19	No. 4 寛永通寶 (新)	
15	銅製品	錢貨	径 24.7 厚さ 1.0 重さ 2.5								桶 19	No. 5 寛永通寶 (新)	
16	銅製品	錢貨	径 25.0 厚さ 1.2 重さ 3.4								桶 19	No. 6 寛永通寶 (新)	
17	銅製品	錢貨	径 24.8 厚さ 1.3 重さ 3.8								桶 19	No. 7 寛永通寶 (新)	
18	銅製品	雁首錢	径 22.2 × 20.4 厚さ 1.8 重さ 4.0								桶 19	No. 3	
19	磁器	碗	(10.0)	[4.2]	—	—	20	良好	白	桶 20	肥前系 内外面施釉 外面染付 掘方		
20	磁器	蓋	4.3	2.9	(9.7)	—	35	良好	白	桶 20	肥前系 内外面施釉・染付 桶内		
21	磁器	蓋	3.6	2.6	9.4	—	60	良好	白	桶 20	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 掘方	81-1	
22	陶器	蓋物	(14.0)	5.0	(11.2)	IK	15	良好	灰白	桶 20	内外面灰釉 外面下位重ね焼痕 掘方		
23	陶器	香炉	(14.4)	4.7	(10.6)	EIK	10	良好	灰白	桶 20	瀬戸美濃系 内外面鉄釉		
24	陶器	急須	7.8	6.4	8.0	—	95	良好	にぶい橙	桶 20	体部中位・把手塗土 被熱・煤付着 胎土緻密・極硬質 掘方	81-2	
25	瓦	軒棧瓦	長さ [11.7] 幅 [24.2] 厚さ 1.8 径 7.2			IK	—	普通	灰白	桶 20	江戸式 燻す 右卷三巴文	125-1	
26	瓦	丸瓦	長さ [6.2] 幅 [3.5] 厚さ 2.0 高さ [5.5]			K	—	普通	灰白	桶 20	燻す		
27	木製品	木札	長さ 19.7 幅 [3.5] 厚さ 0.6			—	—	—	柁目	桶 20	表面墨書 孔 1 No. 1	152-1	
28	鉄製品	釘	縦 [7.0] 横 [4.1] 幅 (0.3) 厚さ (0.3) 重さ 17.6								桶 20	釘 4 本付着	
29	鉄製品	釘	長さ [5.7] 幅 0.5 厚さ 0.3 重さ 5.3								桶 20		
30	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 (0.3) 厚さ (0.3) 重さ 5.1								桶 20		
31	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.3								桶 20		
32	鉄製品	釘	長さ 3.9 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.0								桶 20	石付着	
33	鉄製品	釘	長さ [2.0] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.1								桶 20		
34	銅製品	錢貨	径 23.4 厚さ 1.0 重さ 2.7								桶 20	No. 2 寛永通寶 (古)	
35	鉄製品	錢貨	径 23.2 厚さ 1.5 重さ 4.1								桶 20	No. 6 寛永通寶 (新)	
36	磁器	碗	(6.7)	[4.7]	—	—	15	良好	白	桶 21	肥前系 内外面施釉・染付		
37	磁器	蓋	—	[1.6]	(11.3)	—	5	良好	白	桶 21	肥前系 内外面施釉・染付		
38	磁器	碗	—	[3.2]	(3.3)	—	10	良好	白	桶 21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付		
39	陶器	碗	—	[1.3]	2.9	K	—	良好	灰白	桶 21	京都信楽系 内外面施釉 円盤状製品転用		
40	瓦	軒棧瓦	長さ [15.5] 幅 28.9 厚さ [1.8] 高さ 7.1			ACIK	—	普通	灰白	桶 21	右卷三巴文 燻す 上面二次利用 (線条痕) 被熱 (剥落) 胎土中心灰白	152-2	
41	瓦	棧瓦	長さ 26.7 幅 [14.4] 厚さ 1.9 高さ 4.1			K	—	普通	灰白	桶 21	燻す 被熱 (黒化)		
42	鉄製品	釘	長さ [9.4] 幅 (0.5) 厚さ (0.5) 重さ 16.9								桶 21		
43	鉄製品	釘	長さ [8.2] 幅 (0.4) 厚さ (0.4) 重さ 9.3								桶 21		
44	鉄製品	釘	長さ [5.6] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.7								桶 21		
45	鉄製品	釘	長さ [4.9] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.8								桶 21		
46	銅製品	錢貨	径 22.7 厚さ 1.1 重さ 2.7								桶 21	寛永通寶 (新)	
47	鉄製品	錢貨	径 23.3 厚さ 1.3 重さ 3.7								桶 21	寛永通寶 (新)	

(3) 井戸跡 (第 393 ~ 411 図)

井戸跡は 8 基検出された。区画 AE・AF に集中しており、半数以上は区画 AE で検出されている。また、区画 AB で 1 基検出されている。

掘り方は円形に近い形を呈するものが多く、第 2 号井戸跡のように不整形を呈するものもみられる。また、断面形はラッパ状を呈するものが多く、第 2・7 号井戸跡は漏斗状である。掘り方の底面の多くは、壁面が崩落する危険性により、検出できていない。

井筒は複数段入れ子状に重ねた単純な構造が主体だが、第 8 号井戸跡は杭や板材、竹等組み合わせて井筒を囲う頑丈な作りである。第 108 表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

第 1 号井戸跡 (第 393・406 図)

F 7-D 7 グリッドの区画 AE に位置する。井筒 1 段目は上部構造の大部分が削平されており、箍と側板下部が遺存している。2 段目は側板が完全に遺存しており、長さ 0.75 m 程度の井筒を使用している。3 段目は上端部を僅かに検出している。掘り方の平面形はおおむね円形で、断面はラッパ状を呈する。

出土遺物は少量で、瀬戸美濃系陶器の石皿、柿釉灯明皿が最新期の陶磁器である。被熱した陶磁器が一定量含まれており、そのうち 1 点は第 497 号土壌出土破片と接合関係にある。第三面第 497 号土壌を覆う火災層の一部を壊して構築されているため、被熱陶磁器は火災層からの混入である。

第 108 表 第二面井戸跡一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	井筒			掘り方		備考
			外径	内径	深さ	径	深さ	
1	AE	F7-D7	0.62	0.61	0.98	1.77	0.98	2 段目径 0.62 × 0.60 3 段目径 0.64 × 0.61
2	AE	F7-E6	0.75	0.70	0.95	3.60	1.50	SK428・429 SD16・17 より新
3	AE	F7-E7	0.65	0.60	0.90	2.00	0.90	SK391 より古 SK471 と重複
4	AE	F7-D8	—	—	—	0.95	0.72	SK437・438 と重複
5	AF	F7-E8	0.59	0.56	0.92	2.02	1.52	SK430 より古
6	AB	F7-C6	0.58	—	—	1.5	0.92	SD13、SK351・355 と重複 SK365 より古 SK458 より新
7	AE	F7-E6	0.76	0.72	0.94	2.3	1.68	SK387 より古
8	AF	F7-F・G7	0.34	0.45	1.37	3.02	1.74	2 段目径 0.67 × 0.64

推定廃絶期は 18 世紀後葉である。

第 406 図 1 ~ 11 に出土遺物を図示した。1 は内面に笹文がみられる。肥前系磁器の皿である。強く被熱している。2 は肥前系磁器のそり皿である。被熱しており、同文の被熱した製品が第 497 号土壌火災層等でみられる。3 は肥前系磁器の猪口である。被熱はみられないが、同文製品が第 497 号火災層等で出土している。4 は瀬戸美濃系陶器の丸碗形片口鉢である。灰釉が施釉され、外面に重ね焼き痕がみられる。強く被熱している。

6 は漆椀蓋である。内面赤漆、外面黒漆塗りである。つまみ径は 5.4 cm とやや大きく、つまみがやや外に開く。

第 2 号井戸跡 (第 394・395・406・407 図)

F 7-E 6 グリッドの区画 AE に位置する。第 16・17 号溝跡、第 428・429 号土壌より新しい。

井筒は 1 個体分のみ検出されており、上段部は抜き取られていると考えられる。掘り方がすばまる位置で井筒が検出されていることから、最下段の可能性が高い。井筒上部には箍が巻きついていた痕跡が 2 箇所みられる。

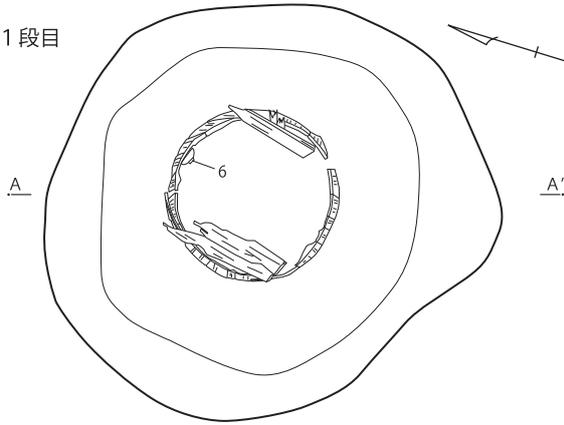
平面形は不整形で、断面は漏斗状を呈する。底面は検出されていない。

出土遺物は一定量出土しており、瀬戸美濃系磁器の端反形碗 2 個体が最新期である。推定廃絶期は 19 世紀前葉である。

第 406 図 12 ~ 19、第 407 図 20 ~ 31 に出土遺物を図示した。第 406 図 14・15 は瀬戸美濃系

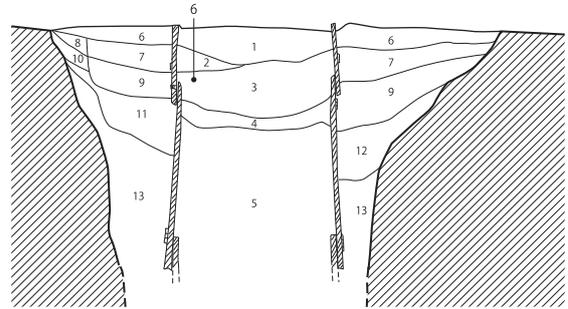
SE 1

桶 1 段目

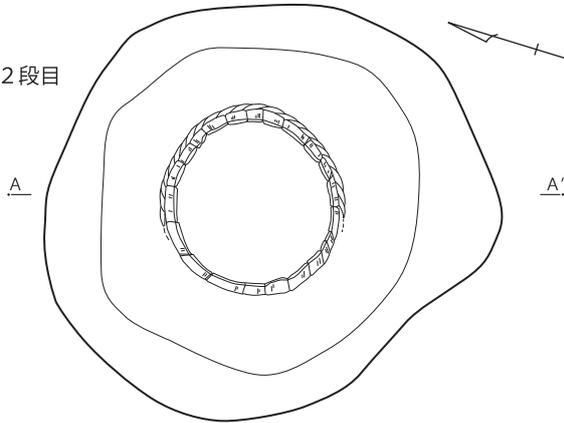


A 9.60m

A'

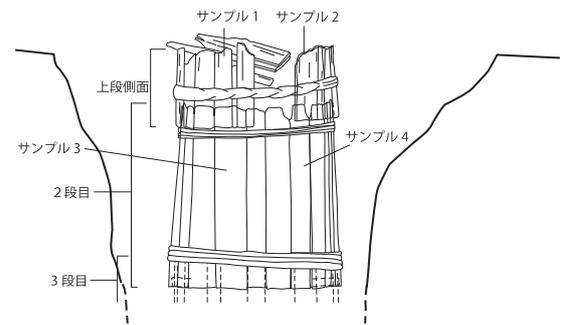


桶 2 段目

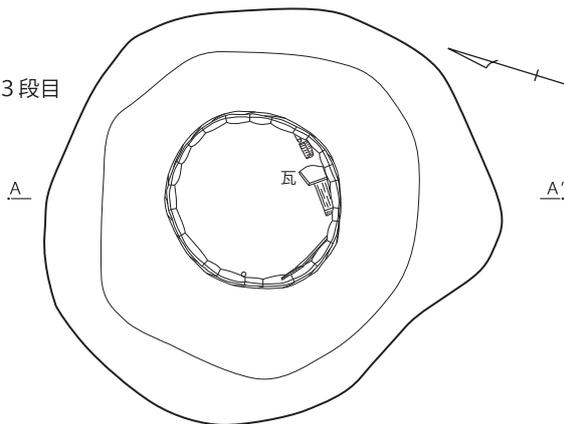


A 9.60m

A'

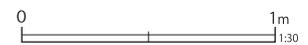


桶 3 段目

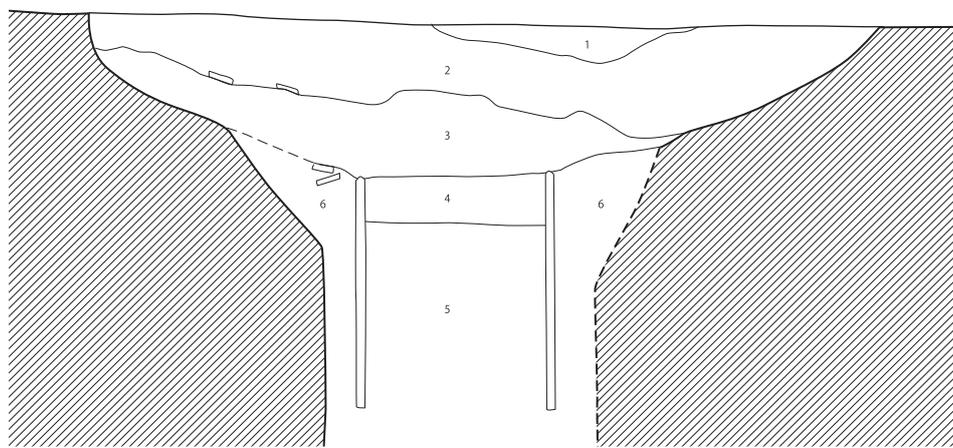
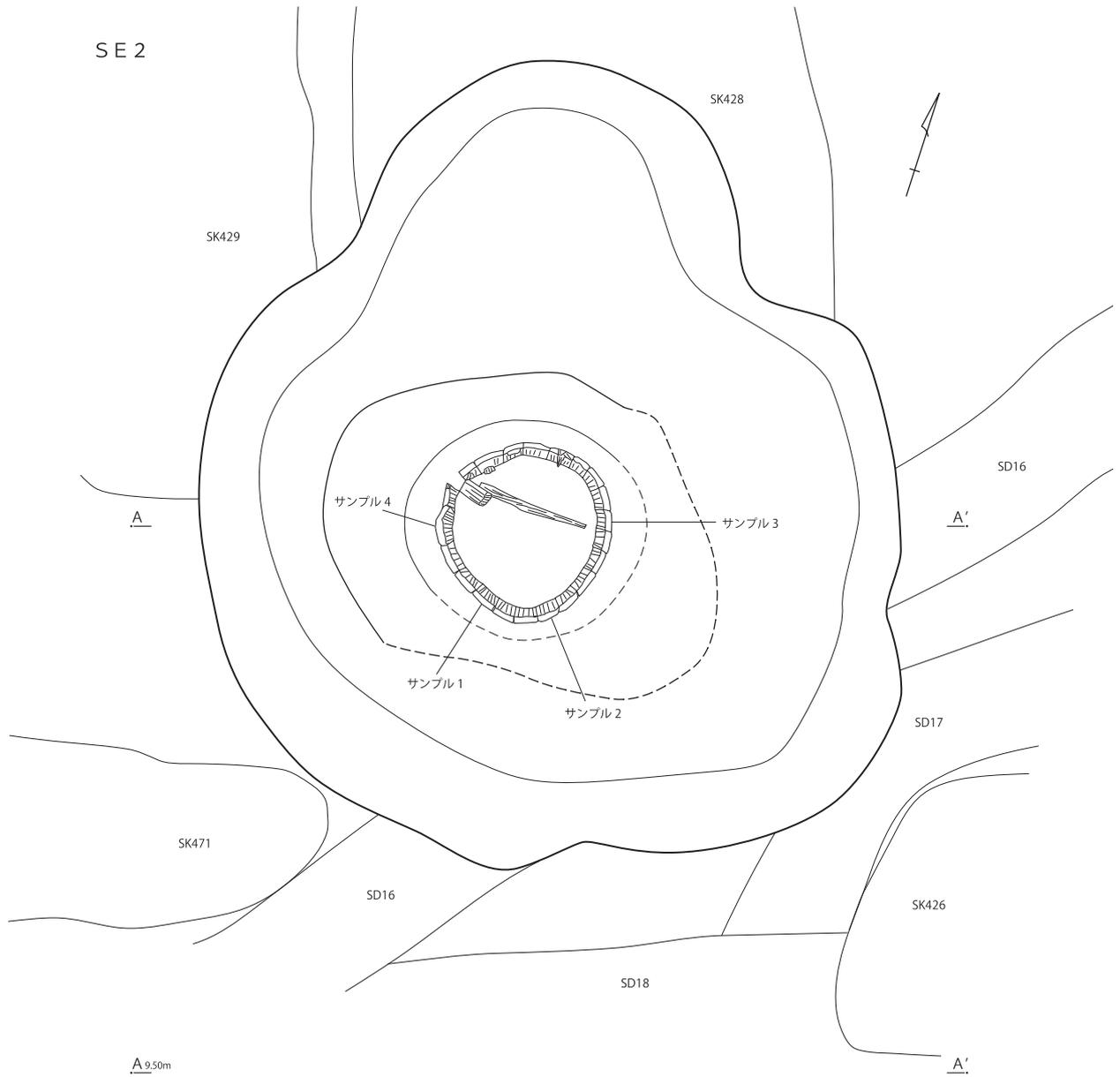


SE 1

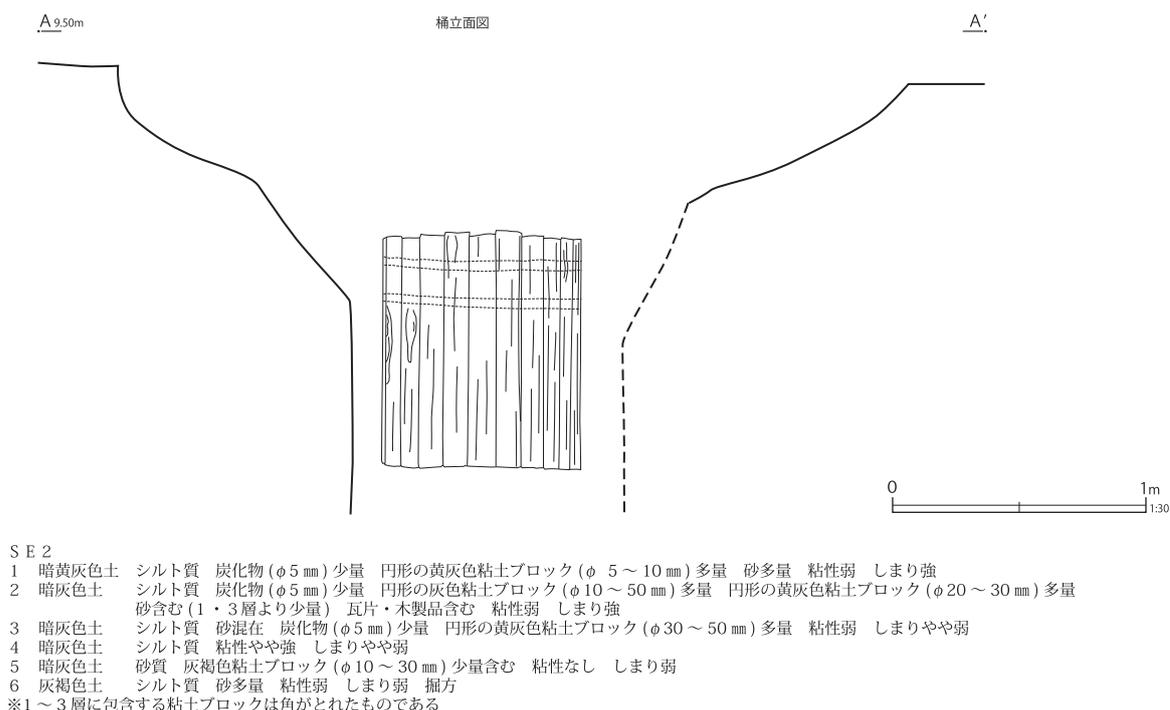
- | | | | |
|----|-------|-------|------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | シルト質 | |
| 2 | 暗灰色土 | シルト質 | やや砂質 |
| 3 | 暗灰褐色土 | シルト質 | 粘性あり |
| 4 | 暗赤褐色土 | 粘層 | しまり弱 |
| 5 | 暗灰色土 | シルト質 | 粘性強 しまり弱 |
| 6 | 灰褐色土 | やや砂質 | 炭化物含む |
| 7 | 褐色土 | 黄白色土 | 微量 |
| 8 | 灰褐色土 | やや砂質 | 炭化物・焼土微量 |
| 9 | 灰色土 | シルト質 | |
| 10 | 灰褐色土 | やや砂質 | 炭化物多量 |
| 11 | 灰黄褐色土 | シルト質 | |
| 12 | 灰黄褐色土 | 砂質 | シルト質 粘性やや強 しまり弱 |
| | | 青灰色粘土 | ブロック多量 |
| 13 | 暗灰色土 | シルト質 | 粘性やや強 しまりやや弱 砂多量 |



第 393 図 井戸跡 (1)



第 394 図 井戸跡 (2)



第 395 図 井戸跡 (3)

磁器の端反形碗で、最新期の陶磁器である。20は産地不詳陶器の鉄釉土瓶である。胎土は硬質で、注口部は「S」字状である。

第 3 号井戸跡 (第 396・407 図)

F 7 - E 7 グリッドの区画 AE に位置し、第 391 号土壌より古く、第 471 号土壌と重複する。

井筒は 1 個体分のみ検出されており、上段部は抜き取られていると考えられる。井筒の遺存状態は良好で、上部に 2 箇所、下部に 1 箇所の箍がみられる。

掘り方は不整形を呈し、断面はラップ状である。底面は検出できていない。

遺物は少量出土しており、京都信楽系陶器小杉碗が最新期である。第 3 号井戸跡より新しい第 391 号土壌は、小丸碗を最新の遺物とする 18 世紀後葉頃の遺構である。そのため、小杉碗は混入の可能性も疑われる。推定廃絶期は 18 世紀中葉である。第 407 図 32・33 に出土遺物を図示した。

第 4 号井戸跡 (第 397・407 図)

F 7 - D 8 グリッドの区画 AE に位置し、第

437・438 号土壌と重複する。井筒は完全に抜き取られており、円形の掘り方のみ遺存している。掘り方の径は他より小さく、断面はラップ状を呈する。底面は検出できていない。

出土遺物は少ない。非掲載遺物に京都信楽系陶器の小杉碗がみられることから、推定廃絶期は 18 世紀後半と推定される。

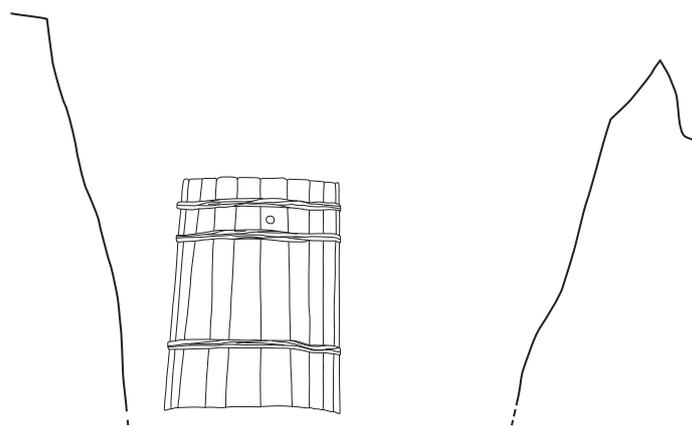
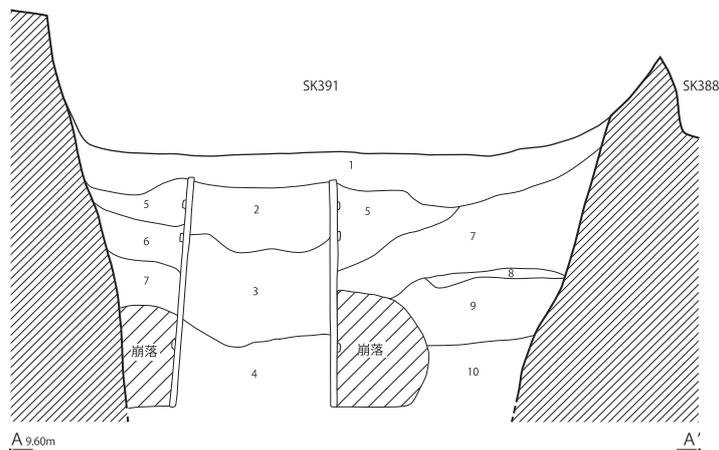
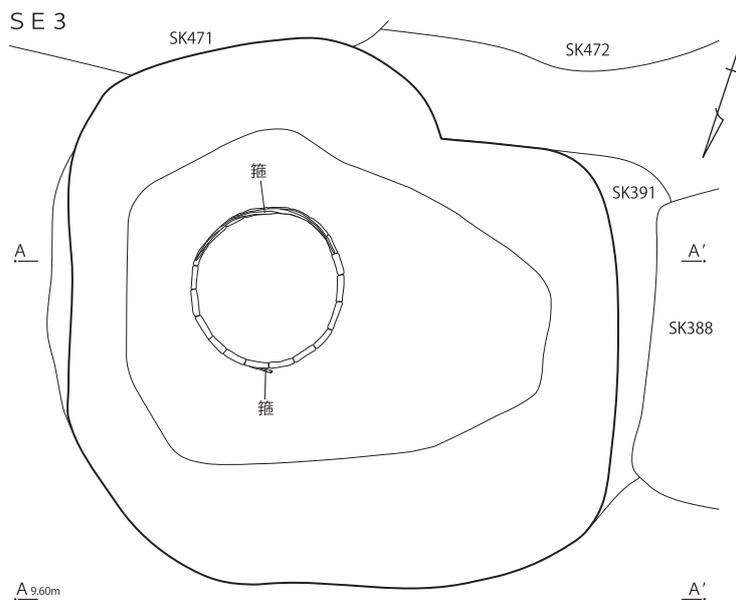
第 407 図 34 ~ 37 に出土遺物を図示した。34 は瀬戸美濃系陶器の水甕である。35 は漆椀蓋である。内外面黒漆塗りである。外面の口縁部近くに稜を持つ。

第 5 号井戸跡 (第 398・408 ~ 410 図)

F 7 - E 8 グリッドの区画 AF に位置し、第 430 号土壌より古い。

井筒は 1 個体分のみ遺存しており、上段は抜き取られていると考えられる。箍は井筒上位に 2 箇所、下位に 1 箇所遺存している。掘り方は円形で、断面は漏斗状を呈する。掘り方の底面は検出できていない。

出土遺物は一定量出土しており、陶磁器は第一



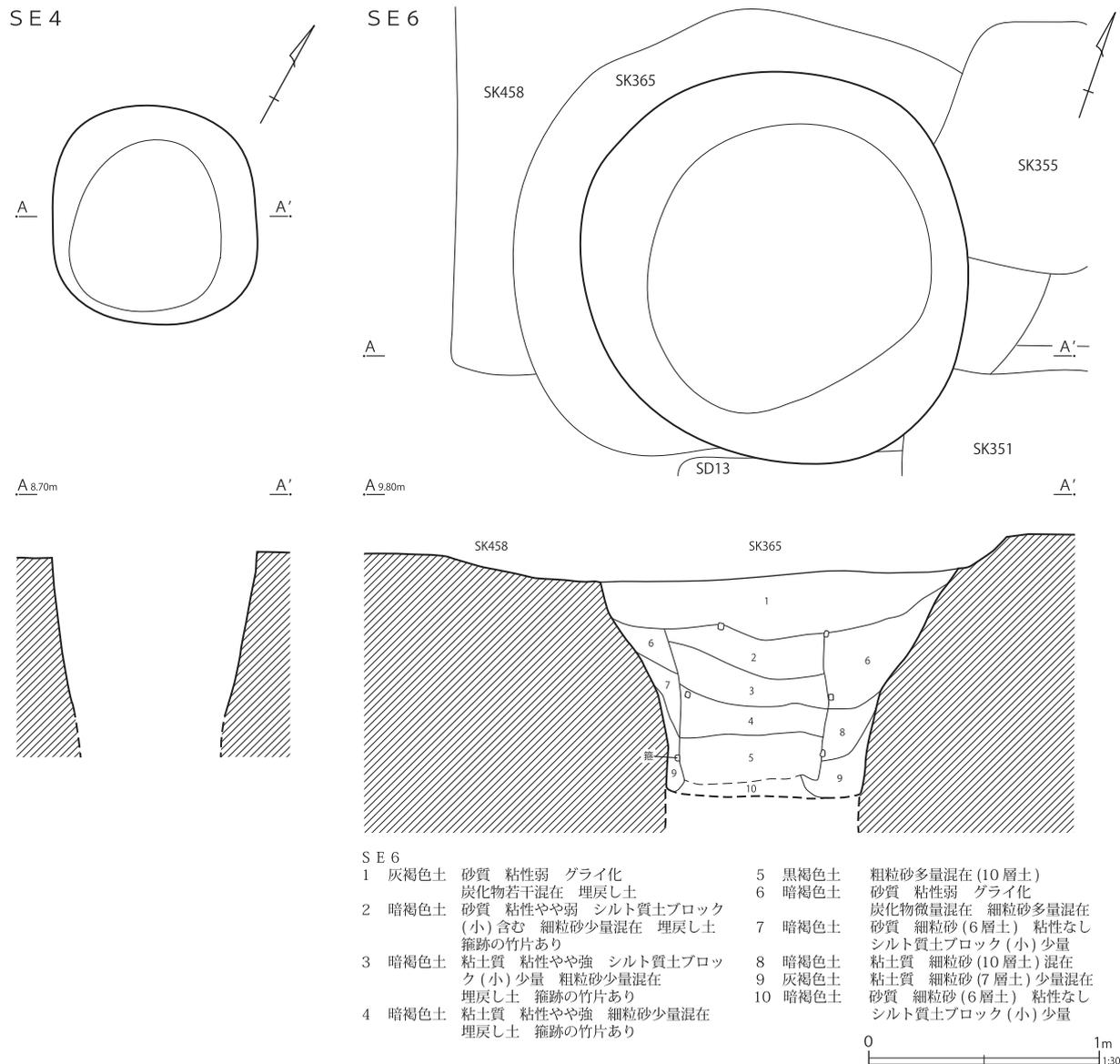
SE 3

- 1 灰黄色土 粘質土 粘性強 しまり強
- 2 暗灰色土 シルト質 粘性やや強 しまり弱 炭化物(φ5mm)微量 砂少量
- 3 黒褐色土 砂多量 白色粒子少量
- 4 黒褐色土 砂質 円形の黄褐色軽石(小)多量 10層からの噴砂
- 5 黒褐色土 砂質
- 6 暗褐色土 粘土層 白色粒子微量

- 7 黒褐色土 シルト層 炭化物微量 白色粒子(軽石か)
- 8 暗褐色土 砂質
- 9 黒褐色土 砂質
- 10 黒褐色土 砂質 円形の黄褐色軽石(小)多量



第 396 図 井戸跡 (4)



第 397 図 井戸跡 (5)

面で検出された第 1 号建物跡の基礎北辺出土遺物と接合関係にある。最新期の陶磁器は、瀬戸美濃系磁器の端反形碗 (第 408 図 39) である。推定廃絶期は 19 世紀前葉である。

第 408 図 42 は瀬戸美濃系磁器の皿である。赤・金・緑で上絵付を施す色絵金襷手である。内面は型押で菊花文が施され、輪花に整形される。

第 409 図 50 は木製の不明品で、これまでの栗橋宿跡の報告でも数点出土している製品である。右半分が欠損している。51 は桶の側板である。焼印で「仝」の文字が押されている。

第 410 図 56 ~ 71 は銭貨である。17 枚出土し

ており、井戸廃絶時に投げ込まれた可能性がある。

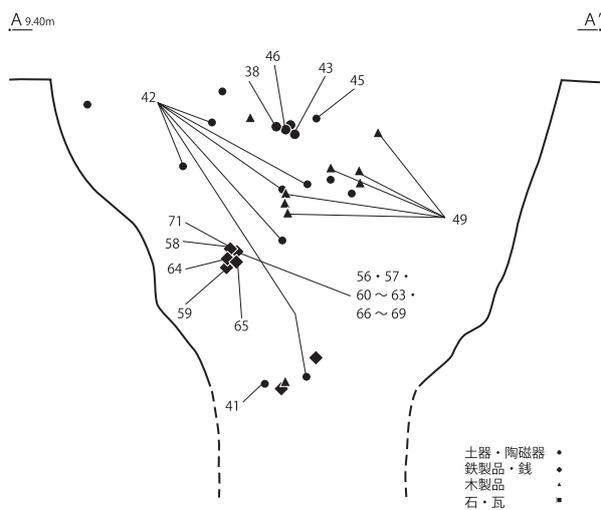
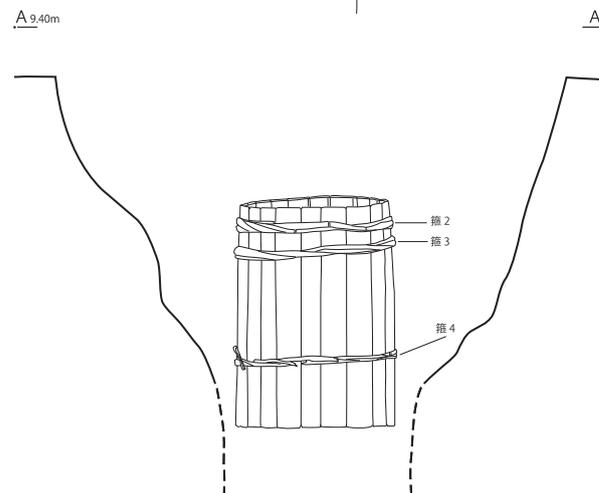
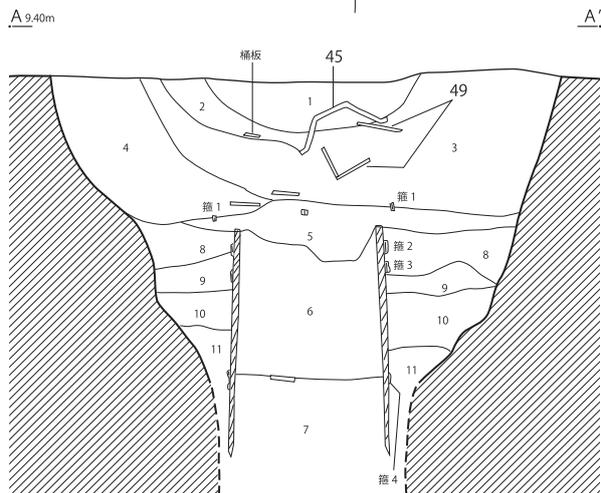
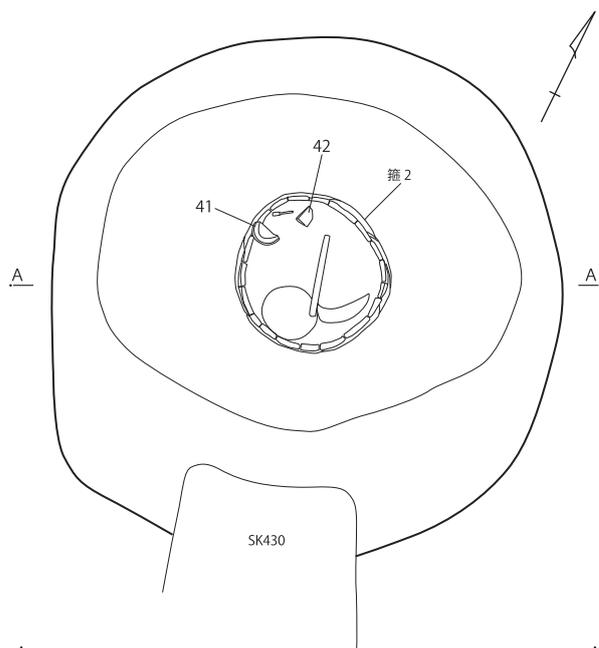
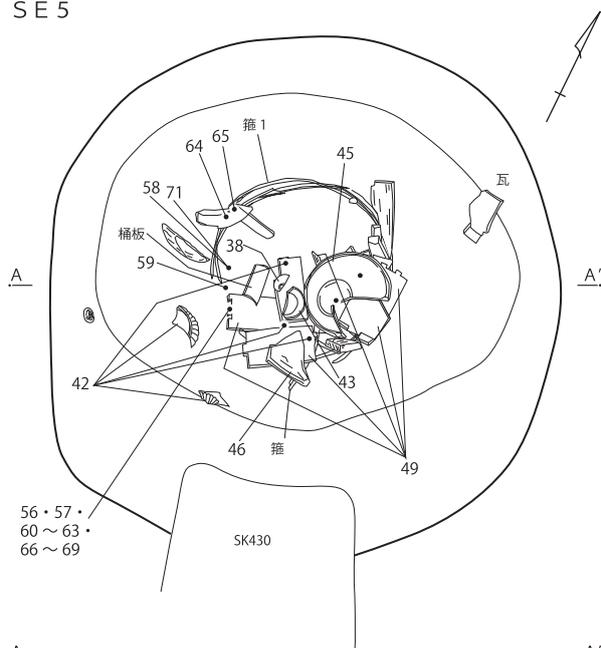
第 6 号井戸跡 (第 397・410 図)

F 7 - C 6 グリッドの区画 AB に位置する。第 365 号土壇より古く、第 458 号土壇より新しい。さらに、第 13 号溝跡、第 351・355 土壇と重複する。

井筒は検出されていないが、籾のみが遺存している。第 2 ~ 5 層は井筒を抜き取った痕跡である。掘り方は円形で、断面はラッパ状を呈する。底面は検出できていない。

出土遺物は極めて少なく、18 世紀の陶磁器が出土している。遺構の重複関係から推定廃絶期は

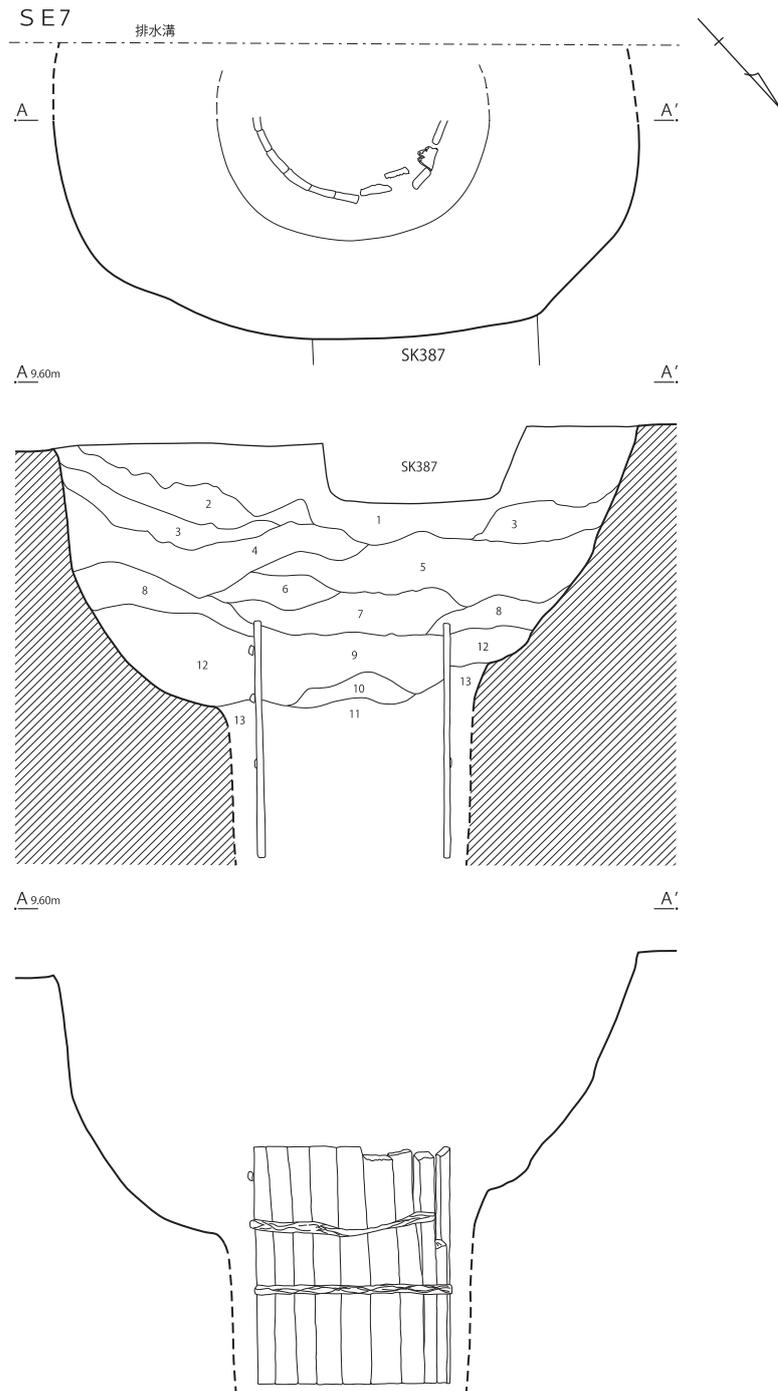
SE 5



- SE 5
- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | シルト質 粘性弱 しまり弱 木細片・陶磁器片含む
空隙多い |
| 2 暗灰色土 | シルト質 粘性弱 しまり強 |
| 3 暗褐色土 | シルト質 粘性弱 しまり強 暗褐色粘土ブロック少量 |
| 4 暗灰黄色土 | シルト質 砂質 粘性弱 しまり非常に強 暗褐色粘土
ブロック多量 黄褐色砂少量 |
| 5 黒褐色土 | 粘土質 暗褐色粒子多量 |
| 6 黒褐色土 | 砂質 小礫(φ10 mm以下)微量 |
| 7 黒褐色土 | シルト質 炭化物粒子少量 |
| 8 黒褐色土 | シルト質 7層より砂質 |
| 9 黒褐色土 | 砂質 粘性強 5層より黒い |
| 10 黒褐色土 | 粘質土 砂粒含む 粘性強 |
| 11 青灰色土 | 砂質 |

0 1m
1:30

第398図 井戸跡(6)

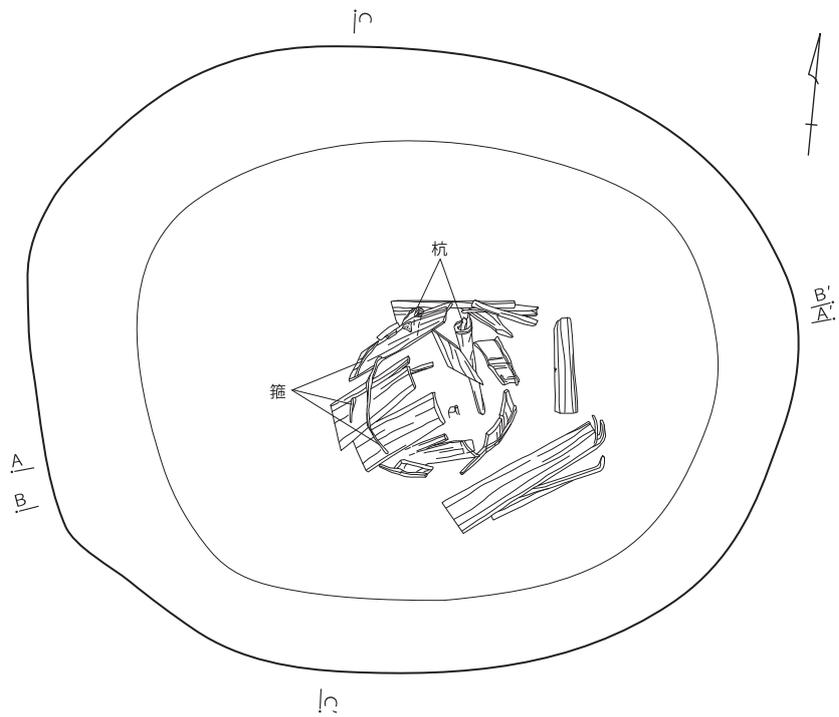


- SE7
- 1 暗褐色土 暗褐色・黒褐色の砂と黒褐色ブロック (φ1~10mm)の混合土 炭化物少量 埋戻しか
 - 2 黒褐色土 砂と粘土の混合土
 - 3 黒褐色土 2に酷似 2より砂少量
 - 4 黒褐色土 砂少量
 - 5 黒褐色土 粘土質 炭化物微量
 - 6 暗褐色土 砂質 粘土ブロック (φ1~3mm)多量
 - 7 暗褐色土 粘土質 砂少量
 - 8 黒褐色土 粘土質
 - 9 黒褐色土 シルト質 砂多量
 - 10 暗褐色土 粘土質 砂質
 - 11 黒褐色土 砂質 粘土ブロック多量
 - 12 暗褐色土 シルト質 砂質
 - 13 黒褐色土 砂質



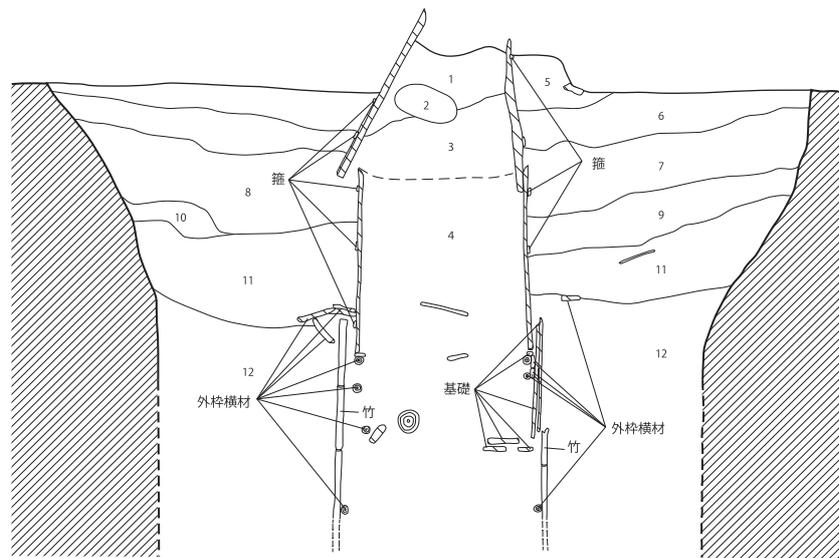
第399図 井戸跡(7)

SE 8



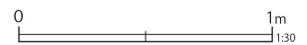
A 9.60m

A'



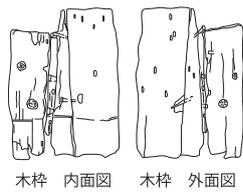
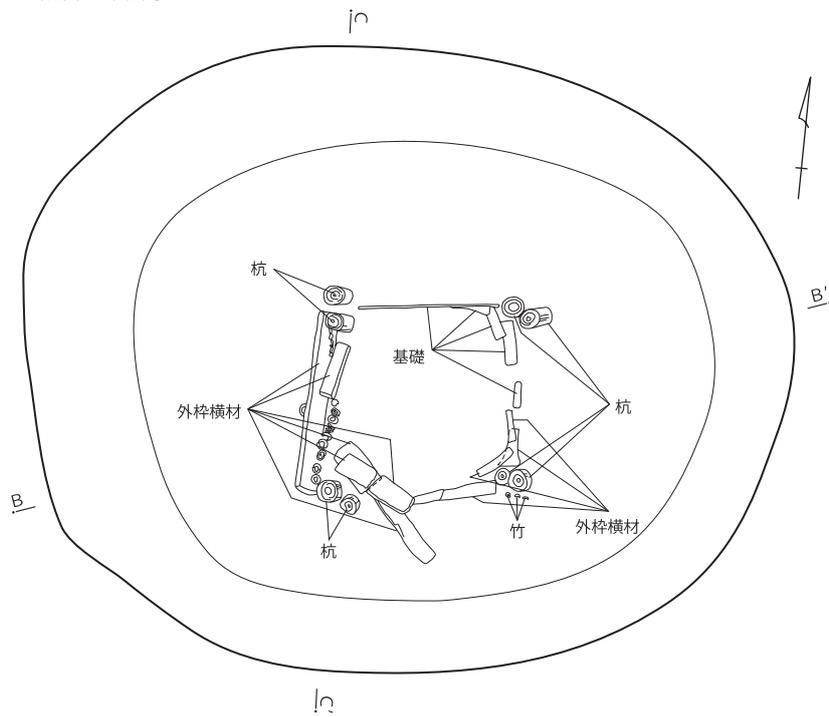
SE 8

- 1 暗褐色土 細粒砂少量混在
- 2 褐色土 酸化鉄少量 ブロック状の細粒砂微量
- 3 黒褐色土 シルト質土 炭化物含む 粘性強
- 4 灰褐色土 粘土質 ベースに細砂大量混在 水分非常に多量
- 5 暗褐色土 地山ブロック(小)・炭化物含む 焼土微量
- 6 暗褐色土 地山ブロック(小)・炭化物含む 白色粒子微量 粘性やや強
- 7 黒褐色土 地山ブロック(小)少量 炭化物含む 白色粒子微量 粘性あり
- 8 暗褐色土 シルト質 炭化物微量 粘性強
- 9 黒褐色土 シルト質 細粒砂微量
- 10 黒褐色土 白色粒子微量 粘性強
- 11 黒褐色土 6層に酷似 色調やや明るい
- 12 黒褐色土 粘土質 細粒砂微量 角礫少量

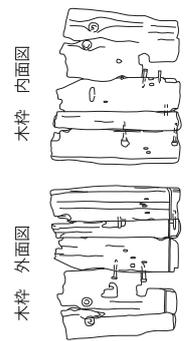
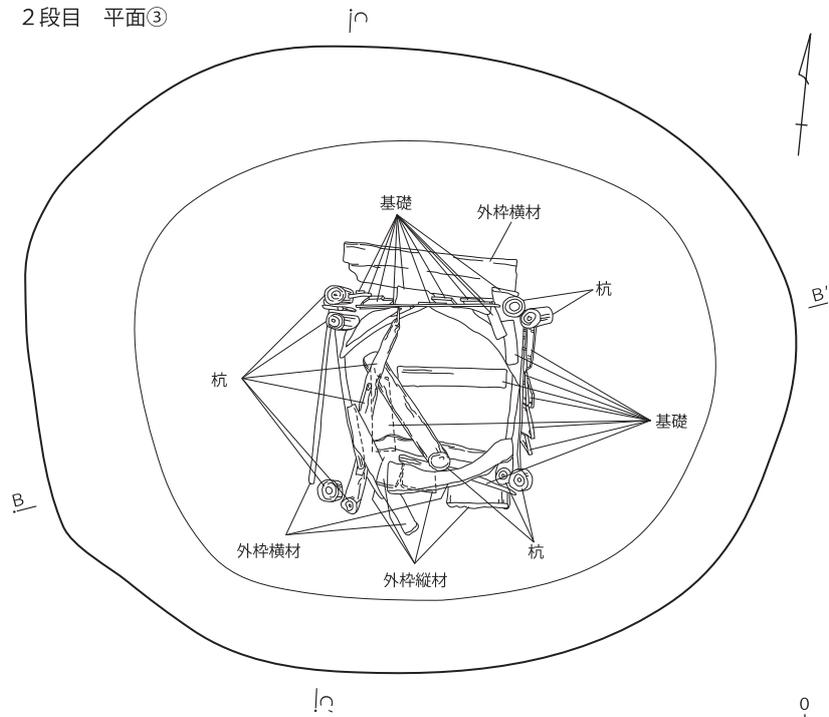


第 400 図 井戸跡 (8)

2段目 平面②



2段目 平面③

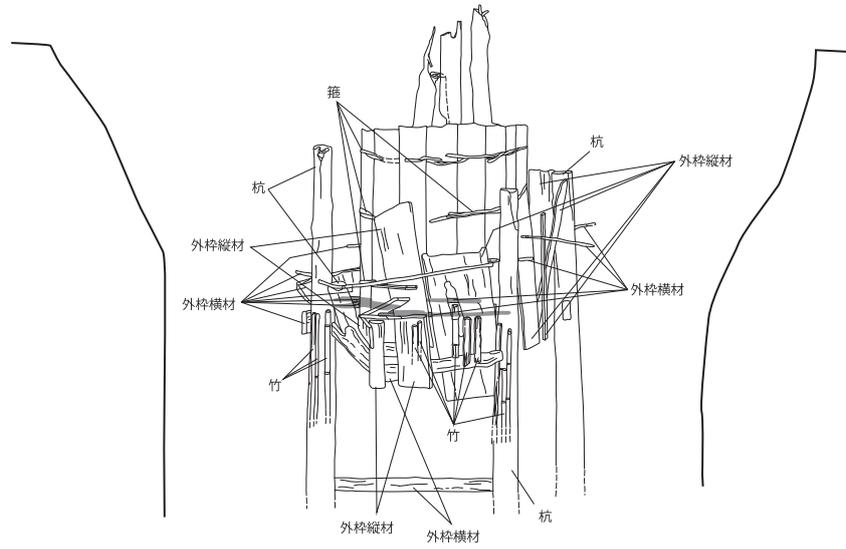


第402図 井戸跡 (10)

2 段目 立面図①

B 9.60m

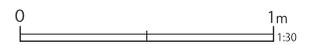
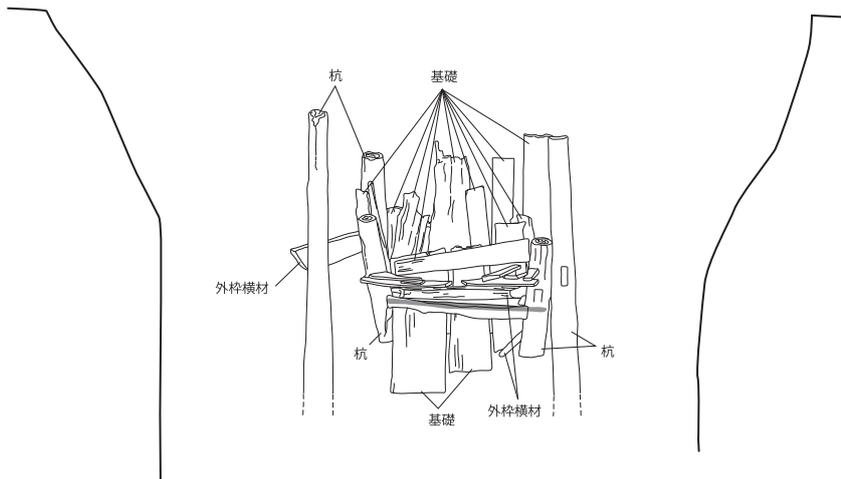
B'



木枠 北側内面図

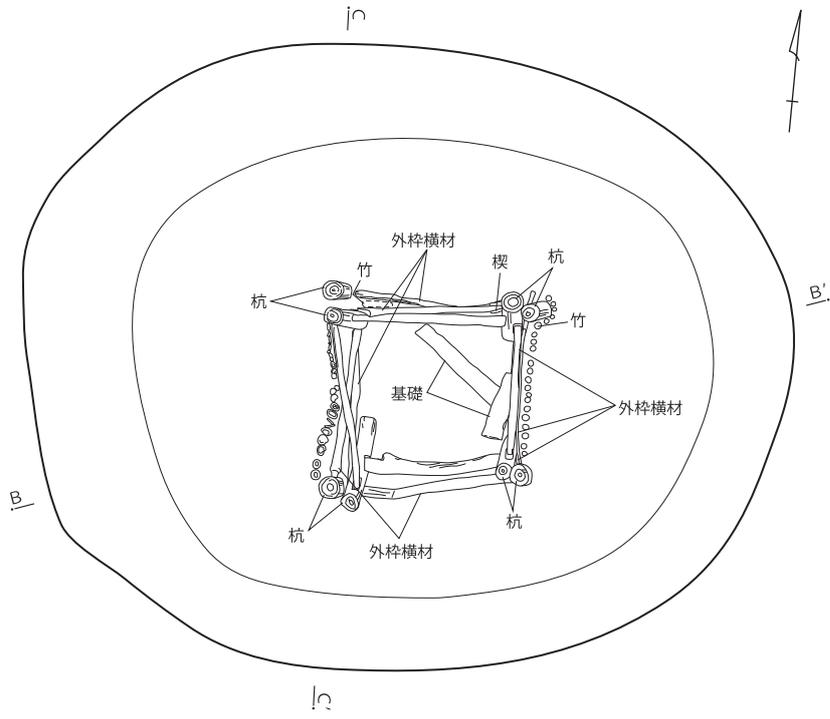
B 9.60m

B'

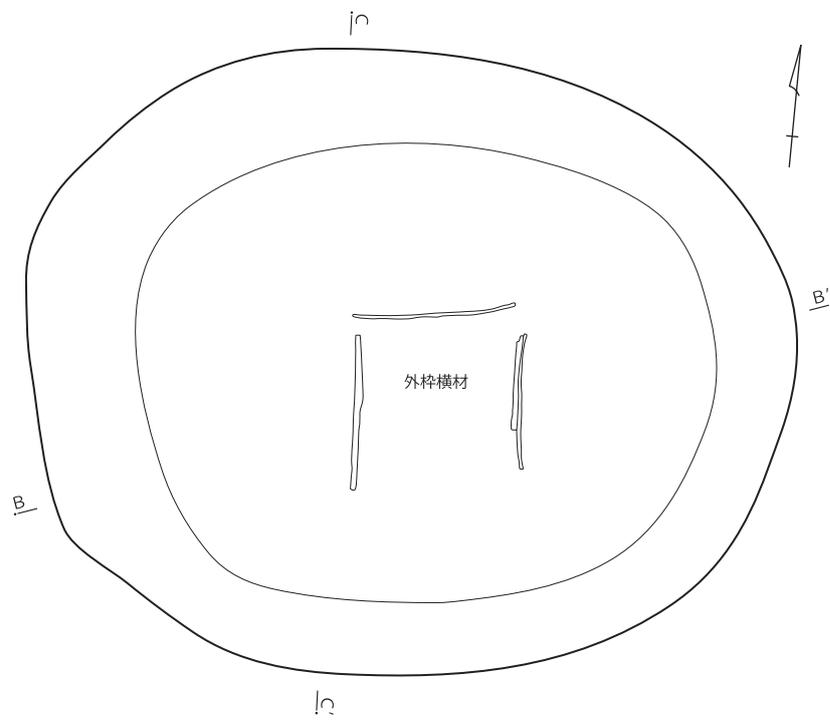


第 403 図 井戸跡 (11)

平面④ 木枠

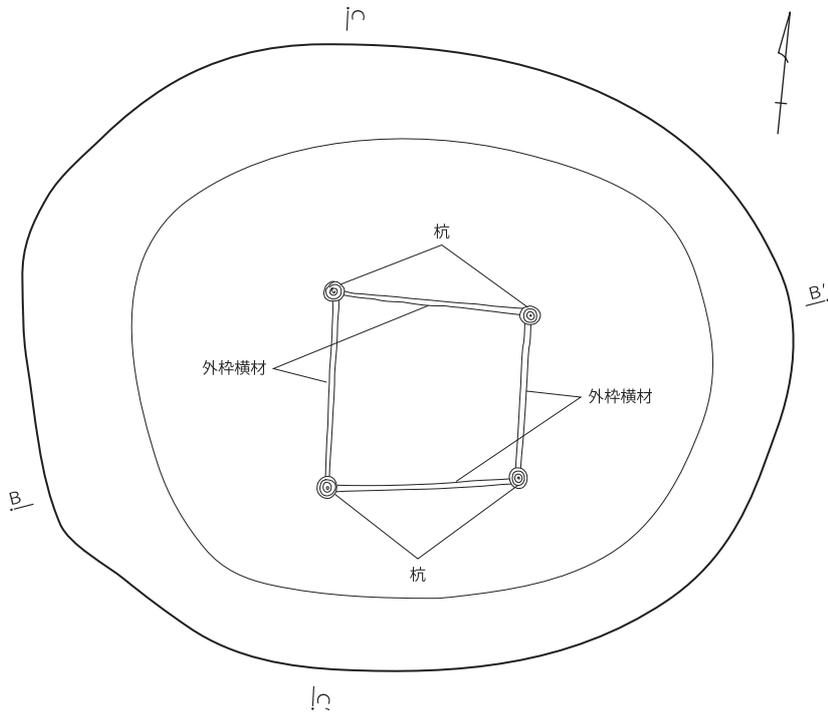


平面④ 木枠 -2

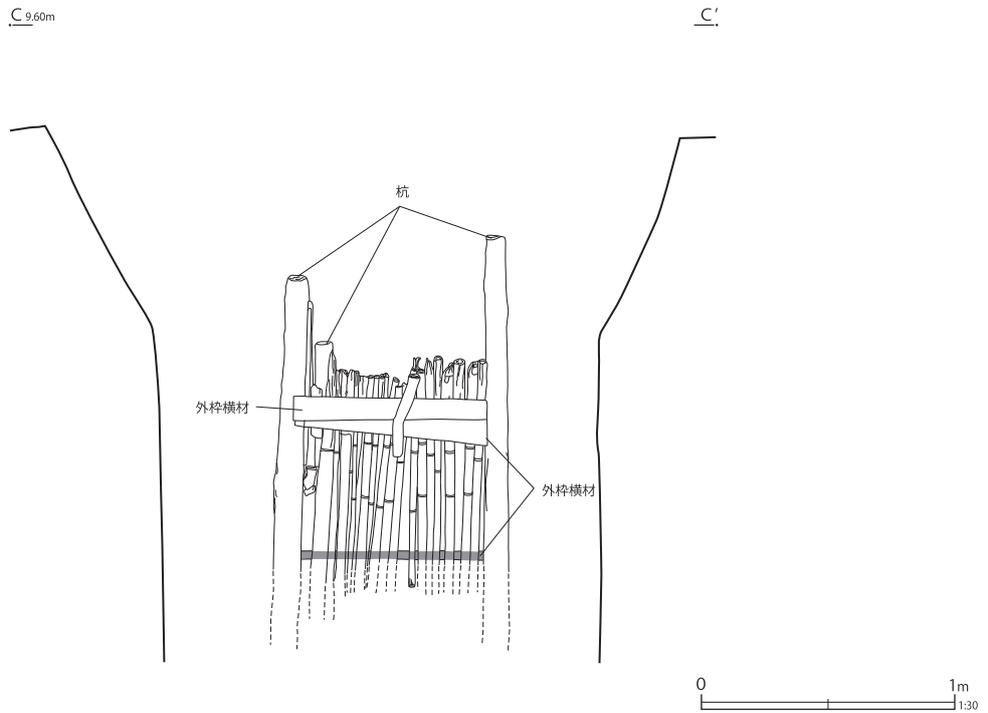


第 404 図 井戸跡 (12)

木柵最下面

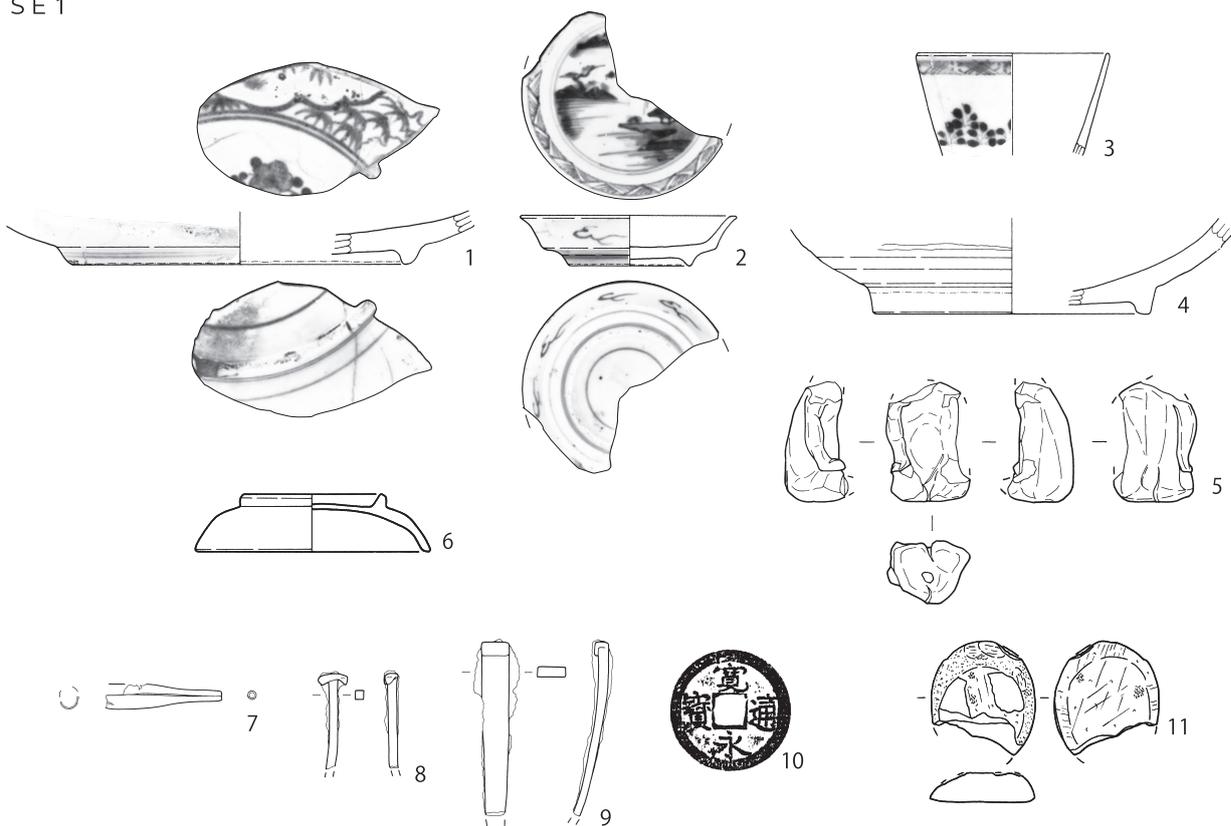


西側立面図

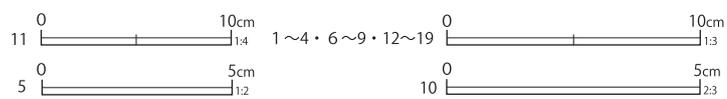
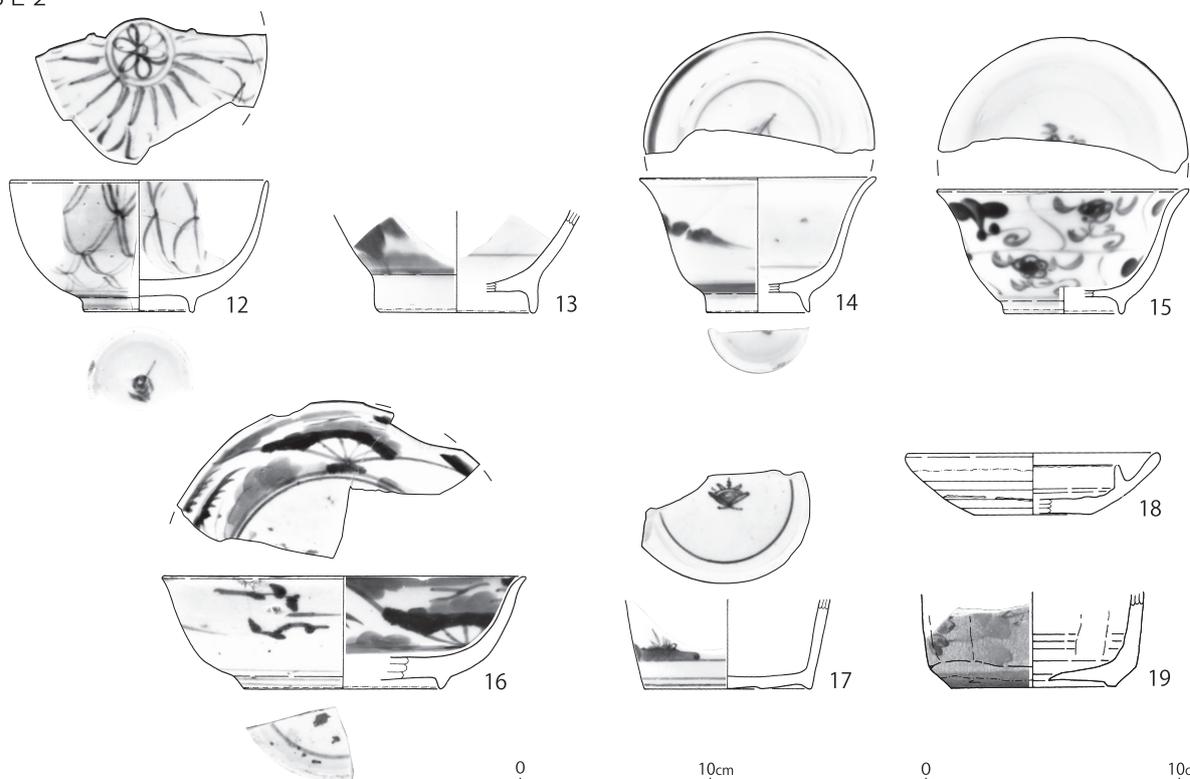


第 405 図 井戸跡 (13)

SE 1

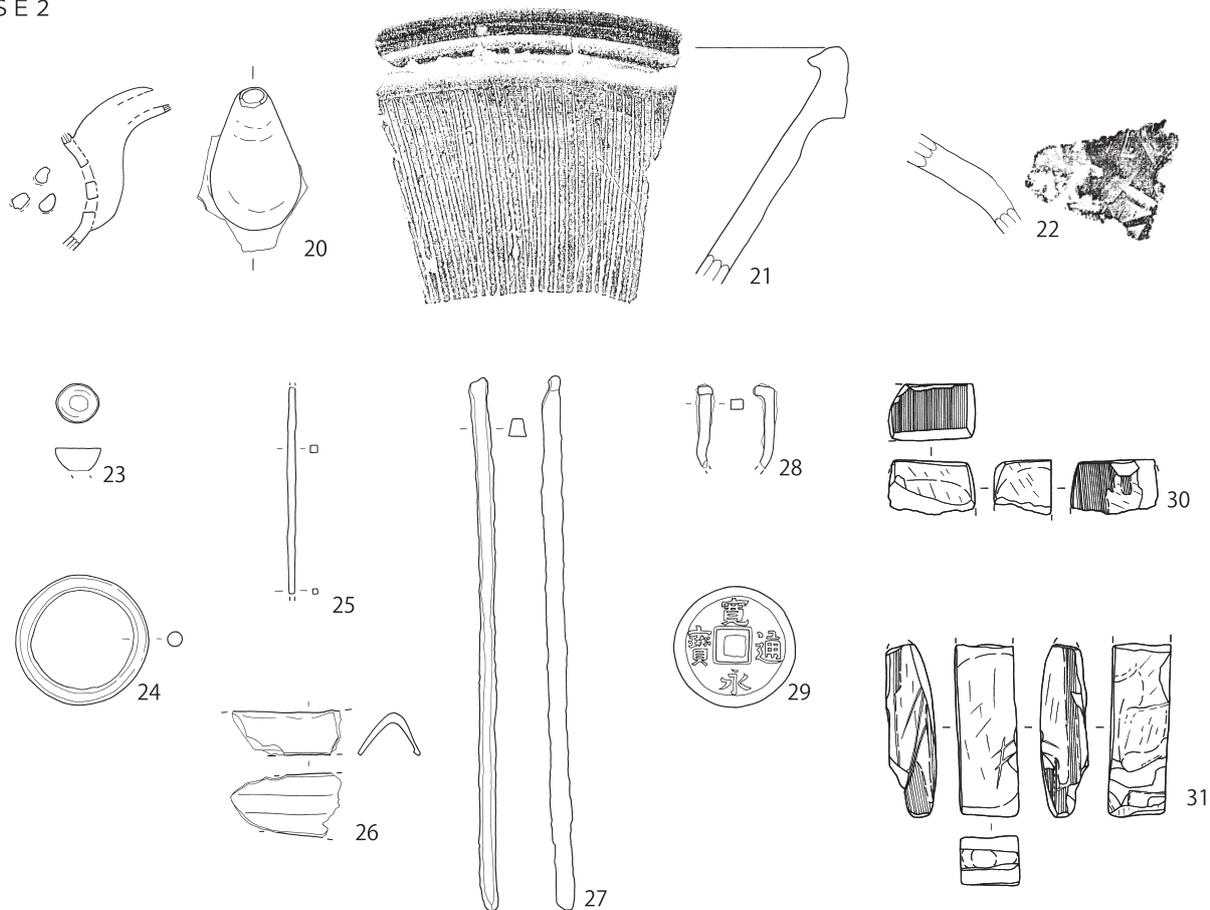


SE 2

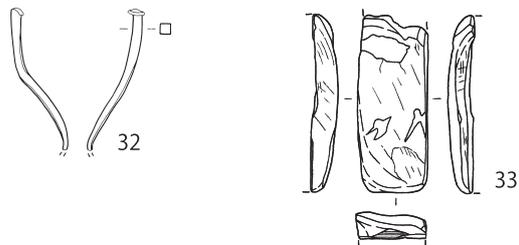


第 406 図 井戸跡出土遺物 (1)

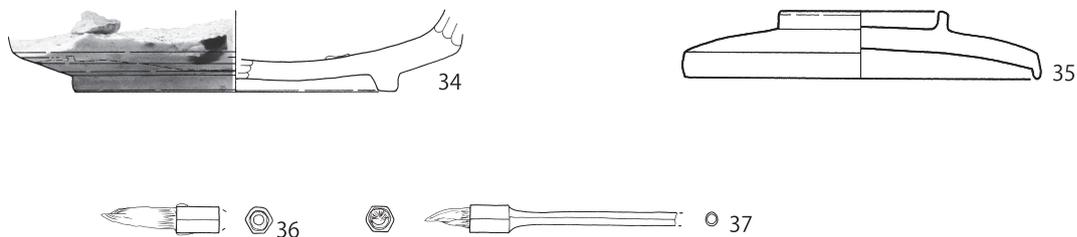
SE 2



SE 3



SE 4



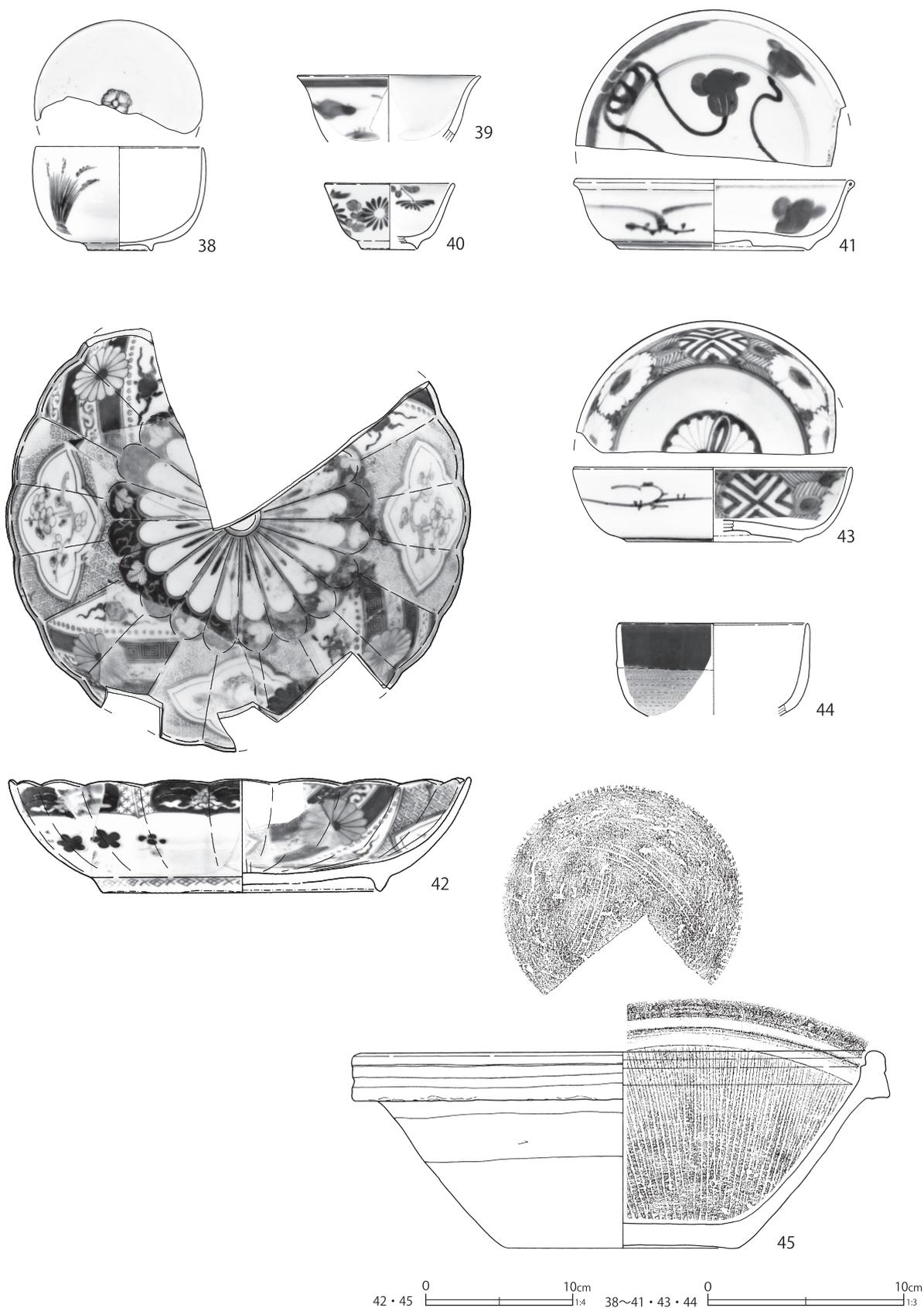
30・31・33・34 0 10cm 1:4

20~28・32・35~37 0 10cm 1:3

29 0 5cm 2:3

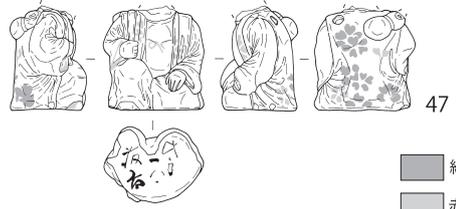
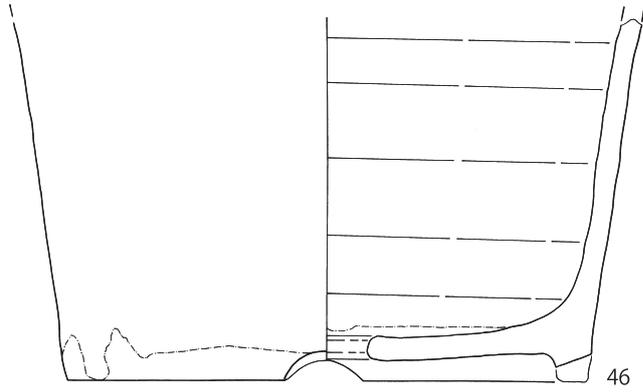
第 407 図 井戸跡出土遺物 (2)

SE 5

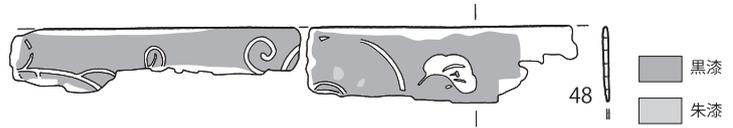
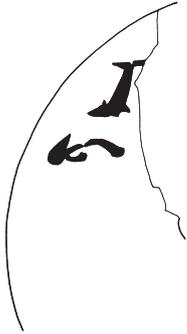


第 408 図 井戸跡出土遺物 (3)

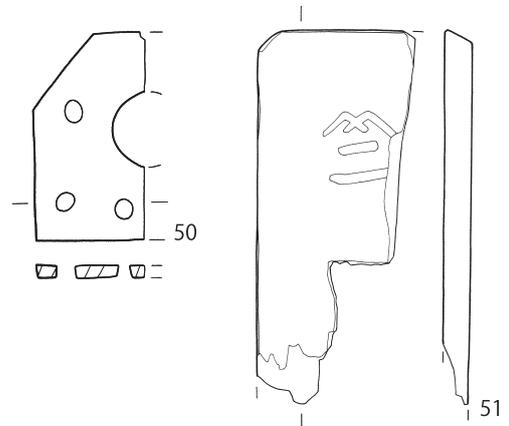
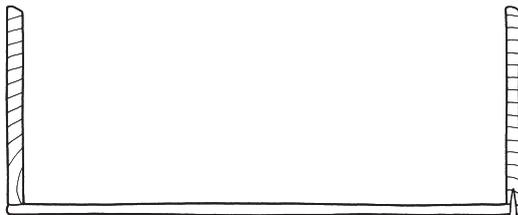
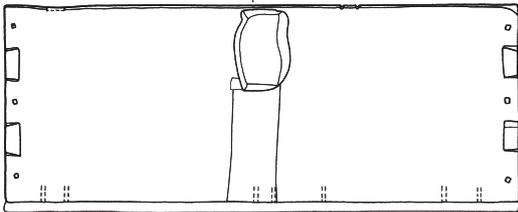
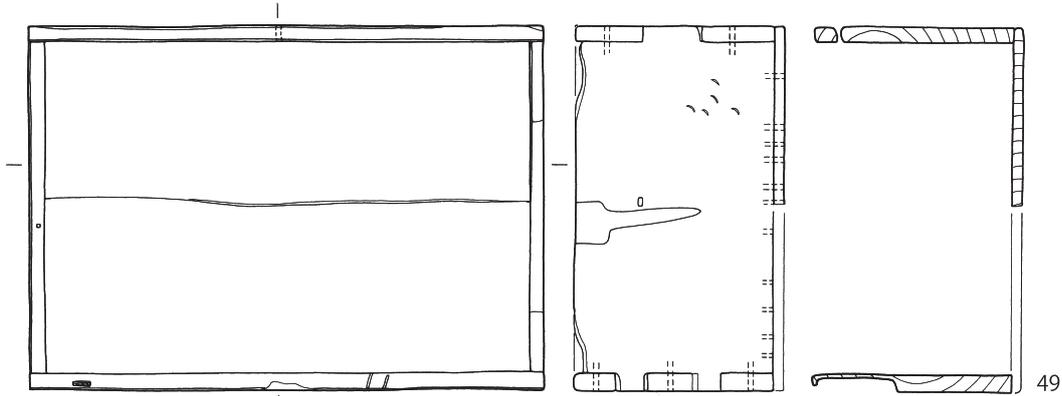
SE 5



■ 緑
■ 赤



■ 黒漆
■ 朱漆



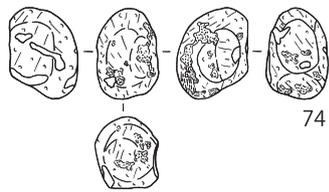
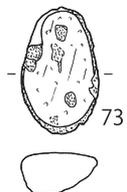
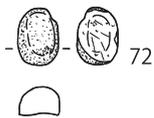
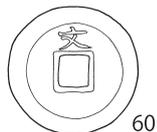
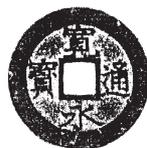
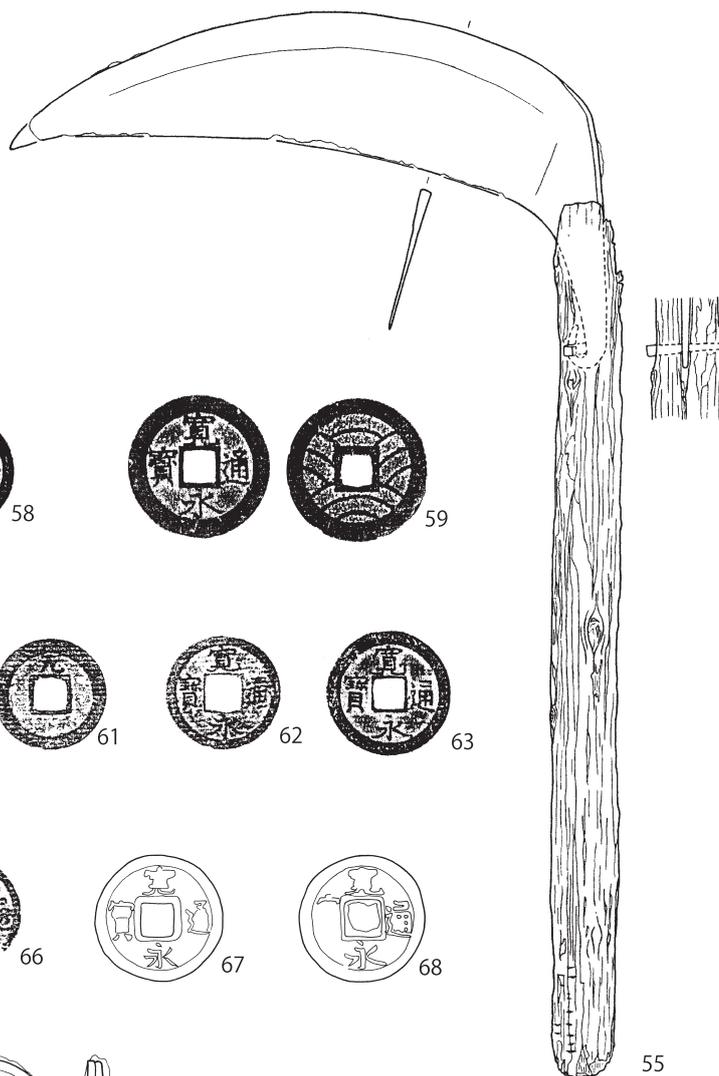
49 0 20cm 1:5

46 0 10cm 1:4

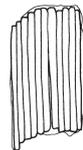
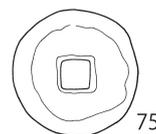
47・48・50・51 0 10cm 1:3

第 409 図 井戸跡出土遺物 (4)

SE 5



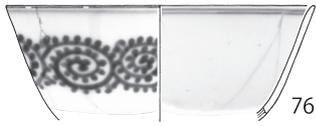
SE 6



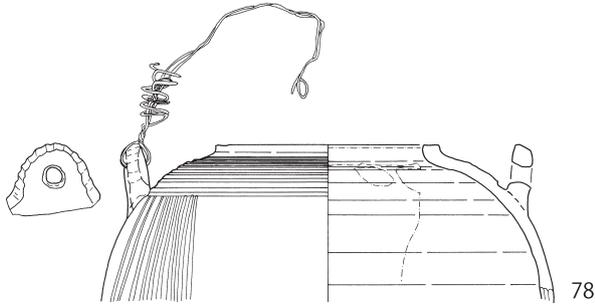
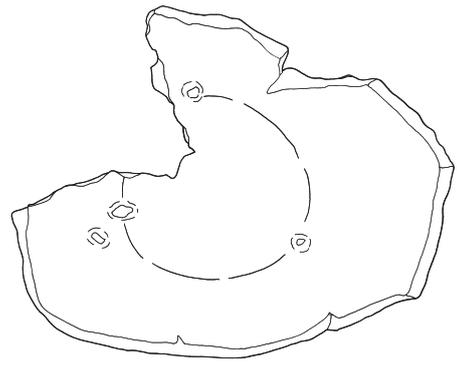
0 5cm 2/3 0 10cm 1/4 52~55・75 0 10cm 1/3

第 410 図 井戸跡出土遺物 (5)

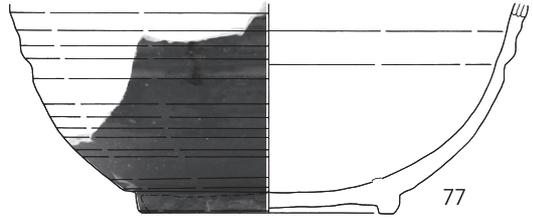
SE 7



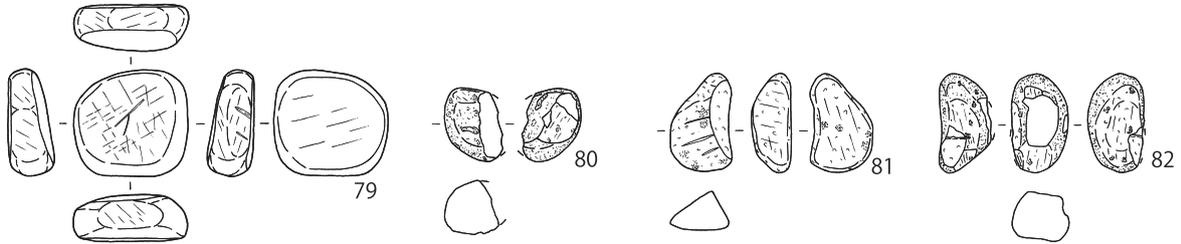
76



78



77



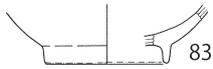
79

80

81

82

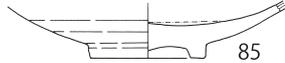
SE 8



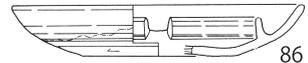
83



84



85



86



87



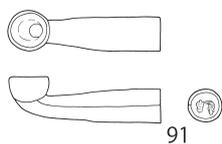
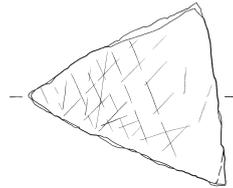
88



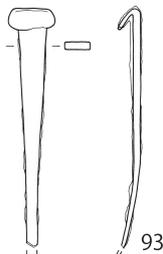
89



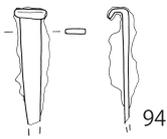
90



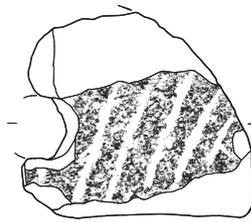
91



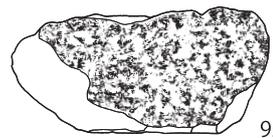
93



94



92



95

79~82・95 0 10cm 1:4 76~78・83~94 0 10cm 1:3

第 411 図 井戸跡出土遺物 (6)

第109表 井戸跡出土遺物観察表(第406～411図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	磁器	皿	—	[2.0]	(13.0)	—	5	良好	白	SE1	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(強)	81-3	
2	磁器	皿	(8.3)	1.9	4.7	—	50	良好	白	SE1	肥前系 内外面施釉・染付 被熱		
3	磁器	猪口	(7.4)	[4.0]	—	—	20	良好	白	SE1	肥前系 内外面施釉 外面染付		
4	陶器	片口鉢	—	[3.8]	(10.8)	IK	10	普通	灰白	SE1	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面重焼痕 被熱(強)		
5	土製品	人形	縦1.7 横 [2.2] 高さ [3.2] 重量8.4			AH	—	良好	にぶい橙	SE1	手捻り成形 中実		
6	木製品	漆椀蓋	つまみ径5.4 口径9.0 高さ2.2			—	—	—	—	SE1	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 No.1		
7	銅製品	煙管	長さ [4.5]	小口径 (0.7) × (0.5)	口付径0.3	重さ2.4				SE1	吸口 小口欠損		
8	鉄製品	釘	長さ [3.8]	幅0.35	厚さ0.35	重さ3.8				SE1			
9	鉄製品	釘	長さ [6.9]	幅1.1	厚さ0.4	重さ14.2				SE1			
10	銅製品	銭貨	径23.9	厚さ1.1	重さ2.9					SE1	寛永通寶(古)		
11	石製品	磨石	長さ [6.0]	幅5.5	厚さ1.5	重さ25.9				SE1	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2 線条痕あり 被熱(剥落)		141-1
12	磁器	碗	(10.0)	5.2	4.2	K	20	良好	白	SE2	肥前系 内外面施釉・染付	81-4	
13	磁器	碗	—	[4.0]	(6.0)	—	5	良好	白	SE2	肥前系 内外面施釉・染付		
14	磁器	碗	(9.2)	5.3	(4.0)	—	45	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
15	磁器	碗	(9.8)	4.9	(4.6)	—	40	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
16	磁器	皿	(14.1)	4.5	(7.7)	K	25	良好	白	SE2	肥前系 内外面施釉・染付		
17	磁器	猪口	—	[3.5]	6.4	—	20	良好	白	SE2	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台		
18	陶器	灯明皿	(9.8)	2.4	(4.6)	IK	40	良好	褐灰	SE2	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面・底部袖拭き取り 輪状重焼痕		
19	陶器	香炉	—	[3.7]	(6.4)	EHIK	20	普通	にぶい黄橙	SE2	瀬戸美濃系 外面施釉・上絵付(熟変)		
20	陶器	土瓶	—	[6.5]	—	K	5	良好	にぶい赤褐	SE2	内外面鉄釉 胎土硬質		
21	陶器	播鉢	—	[9.4]	—	EIK	5	良好	明赤褐	SE2	堺明石系 内面播目9条/単位 外面ケズリ		81-5
22	陶器	甕	—	[3.9]	—	DEIKM	5	普通	灰黄褐	SE2	常滑の型式 14～15 c 肩部外面スタンプ文		
23	銅製品	煙管	径1.6 × 1.5	重さ1.6						SE2	雁首 火皿	134-1	
24	鉄製品	環金具	径5.2 × 5.1	厚さ0.6	重さ28.8					SE2			
25	鉄製品	錐先カ	長さ [8.2]	幅0.3	厚さ0.3	重さ4.0				SE2			
26	鉄製品	不明	縦1.8 横 [4.2]	厚さ0.4	重さ11.0					SE2			
27	鉄製品	不明	長さ21.7	幅0.7	厚さ0.7	重さ44.3				SE2			
28	鉄製品	釘	長さ [3.2]	幅0.5	厚さ0.4	重さ2.5				SE2			
29	鉄製品	銭貨	径24.0	厚さ1.7	重さ3.4					SE2	寛永通寶(新)		
30	石製品	砥石	長さ [2.9]	幅 [4.6]	厚さ [3.0]	重さ63.3				SE2	流紋岩 側・裏面ノコギリ痕 砥面2		
31	石製品	砥石	長さ9.1	幅3.1	厚さ2.4	重さ66.2				SE2	流紋岩 側面ノコギリ痕 裏面幅広工具痕(破損 後再加工) 削痕あり 砥面4		
32	鉄製品	釘	長さ [5.6]	幅0.4	厚さ0.4	重さ5.0				SE3			
33	石製品	砥石	長さ [9.4]	幅3.2	厚さ [1.4]	重さ61.1				SE3	ホルンフェルス 側面ノコギリ痕 砥面3		
34	陶器	水甕	—	[4.3]	(16.8)	EIK	10	良好	灰白	SE4	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面緑釉 流し掛け 内 面目跡2 遺存	81-6	
35	木製品	漆椀蓋	つまみ径6.3 口径13.9 高さ2.6			—	—	—	—	SE4	横木取り 内外面黒漆 横木取り		
36	銅製品	煙管	長さ [1.7]	小口径1.0 × 1.1	重さ5.4					SE4	吸口 口付欠損 羅宇残存		
37	銅製品	煙管	長さ [8.1]	小口径1.1 × 1.2	口付径0.5	重さ9.4				SE4	吸口 口付欠損 羅宇残存		
38	磁器	碗	(8.4)	5.3	(3.3)	—	50	良好	白	SE5	肥前系 内外面施釉・染付		
39	磁器	碗	(9.3)	[3.4]	—	—	5	良好	白	SE5	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
40	磁器	坏	(6.5)	3.4	(2.8)	—	40	良好	白	SE5	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
41	磁器	皿	(13.9)	3.6	9.5	—	50	良好	白	SE5	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台 高台 内輪状に砂粒付着 No.30		
42	磁器	皿	23.5	5.8	14.2	—	60	良好	白	SE5	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・金・緑)部 分的に赤か黒化 高台内ハリ支跡3 遺存		81-7
43	磁器	皿	(14.0)	3.8	(8.8)	—	40	良好	白	SE5	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台 高台 内輪状に砂粒付着 No.3		
44	陶器	碗	(9.6)	[4.7]	—	DEK	15	良好	灰白	SE5	瀬戸美濃系 内面・外面上位鉄釉 外面下位施釉・ トビガンナ状押形文 No.5・8・11・12・22・29		
45	陶器	播鉢	34.9	13.5	15.6	DEHIKM	75	良好	赤	SE5	堺明石系 内面播目9条/単位 No.9		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
46	陶器	植木鉢	—	[14.5]	20.3	EI	20	良好	灰白	SE5	瀬戸美濃系 外面鉄釉 内面柿釉・釉拭き取り 高台決り3遺存 高台内墨書 No.1 SK433 と接合	86-7
47	陶器	水滴	縦4.5 横5.9 高[6.1]			K	90	良好	灰白	SE5	京都信楽系 前後合二枚型成形 外面施釉・上絵付(赤・緑) 下面露胎	
48	木製品	容器	長さ[3.0] 幅[22.1] 厚さ0.2						—	SE5	柎目 外黒漆 下地赤漆 金で文様	
49	木製品	箱	長さ29.3 幅41.3 高さ16.7						—	SE5	板目 表面溝紐の跡が表から底板・反対の側板に2本 孔52 一部炭化 No.14~17・19	
50	木製品	不明品	長さ8.2 幅[4.3] 厚さ0.5						—	SE5	板目 孔4	
51	木製品	桶	長さ[14.8] 幅[6.2] 厚さ1.1						—	SE5	板目 側板 表面焼印「△」	
52	銅製品	煙管	長さ3.0 火皿径1.5×1.4 小口径1.1 重さ4.6							SE5	第9層 雁首 内部羅宇残存	133-1
53	銅製品	煙管	長さ7.8 小口径1.0 口付径0.5 重さ10.3							SE5	No.3 吸口	133-1
54	銅製品	鋌	長さ1.6 幅0.8 重さ0.2							SE5		
55	鉄製品	鎌	長さ41.8 刃長[22.0] 刃幅5.6 背幅0.4 重さ168.7							SE5	No.28 木柄付	134-1
56	銅製品	銭貨	径24.8 厚さ1.0 重さ3.0							SE5	No.23 寛永通寶(古)	
57	銅製品	銭貨	径23.4 厚さ1.2 重さ3.1							SE5	No.23 寛永通寶(古)	
58	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.2 重さ2.4							SE5	No.25 寛永通寶(古)	136-5
59	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.3 重さ5.0							SE5	No.24 寛永通寶(新) 11波	136-3
60	銅製品	銭貨	径25.2 厚さ1.3 重さ3.8							SE5	No.23 寛永通寶(新) 背文	
61	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ0.8 重さ1.8							SE5	No.23 寛永通寶(新) 背元	
62	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.2 重さ2.8							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
63	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ1.5 重さ3.7							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
64	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.1 重さ2.4							SE5	No.26 寛永通寶(新)	136-6
65	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.0 重さ2.6							SE5	No.27 寛永通寶(新)	136-7
66	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.1 重さ2.0							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
67	鉄製品	銭貨	径24.7 厚さ1.3 重さ1.8							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
68	鉄製品	銭貨	径24.7 厚さ1.5 重さ2.5							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
69	鉄製品	銭貨	径23.5 厚さ1.3 重さ2.5							SE5	No.23 寛永通寶(新)	
70	鉄製品	銭貨	径24.6 厚さ1.1 重さ0.9							SE5	寛永通寶(新)	
71	鉄製品	銭貨	径23.7 厚さ2.8 重さ4.3							SE5	No.25 不明 2枚付着	
72	石製品	磨石	長さ3.0 幅2.1 厚さ1.7 重さ5.9							SE5	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	
73	石製品	磨石	長さ[6.7] 幅[4.1] 厚さ[2.2] 重さ15.8							SE5	軽石 使用面1 被熱(剥落)	
74	石製品	磨石	長さ4.8 幅3.2 厚さ3.7 重さ25.2							SE5	角閃石安山岩 多孔質 複數面にわたる使用痕 全面摩耗 一部に線条痕 掘り方	
75	鉄製品	銭貨	径24.7 25.1 厚さ14.6 重さ26.2							SE6	不明 11枚付着	136-4
76	磁器	碗	(12.0)	[4.5]	—	—	20	良好	白	SE7	肥前系 内外面施釉・染付	
77	陶器	鉢	—	[8.2]	9.8	K	15	良好	灰白	SE7	瀬戸美濃系 外面上位灰釉・下底柿釉掛け分け 内面灰釉 目痕4遺存 高台内釉拭き取り1周 SK410 と接合	
78	陶器	土瓶	(7.6)	[6.3]	—	HIK	15	普通	赤褐	SE7	外面沈線・鉄釉 銅線付	
79	石製品	砥石	長さ5.6 幅6.0 厚さ2.5 重さ122.3							SE7	流紋岩 砥面6 被熱(一部黒化)	
80	石製品	磨石	長さ3.9 幅3.1 厚さ2.8 重さ14.6							SE7	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2	
81	石製品	磨石	長さ5.2 幅3.3 厚さ2.1 重さ12.7							SE7	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2	
82	石製品	磨石	長さ5.2 幅3.0 厚さ[2.7] 重さ23.4							SE7	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面3	
83	磁器	碗	—	[2.3]	(4.8)	—	10	良好	白	SE8	肥前系 内外面施釉	
84	磁器	皿	—	[1.8]	(4.0)	—	10	良好	白	SE8	肥前系 内外面施釉 見込み蛇ノ目釉剥ぎ	
85	陶器	皿	—	[2.3]	(4.5)	IK	5	良好	灰白	SE8	肥前系 内外面青緑釉 見込み蛇ノ目釉剥ぎ	
86	陶器	灯明皿	(11.4)	2.0	(6.0)	DIK	40	良好	灰白	SE8	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 外面下位重焼痕遺存	
87	陶器	徳利	—	[5.1]	—	IK	5	良好	にぶい赤褐	SE8	備前系 型成形 胎土石器質 外面陰刻文 肩部・胴部片	
88	陶器	鉢か	—	[2.4]	(5.6)	EFK	10	普通	黄灰	SE8	瀬戸美濃系 内面灰釉	
89	かわらけ	小皿	—	[1.7]	(6.0)	I	5	普通	黄灰	SE8	底部糸切痕遺存 被熱(黒化) 内面タール状物質付着	
90	瓦質土器	火鉢	長辺7.5 短辺6.8 厚さ0.8			CHIK	5	普通	にぶい黄橙	SE8	やや酸化炭焼成 内面煤付着 底部二次利用	
91	銅製品	煙管	長さ6.0 火皿径1.6 小口径1.3 重さ17.3							SE8	柎中 雁首 内部羅宇残存	133-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
92	銅製品	鉤金具	長さ [2.3]	厚さ 0.1	重さ 0.2					SE8	枠中	
93	鉄製品	釘	長さ [9.5]	幅 1.0	厚さ 0.3	重さ 12.2				SE8		
94	鉄製品	釘	長さ [4.6]	幅 0.8	厚さ 0.2	重さ 7.3				SE8		
95	石製品	石臼	長さ [10.9]	幅 [12.2]	厚さ [6.6]	重さ 995.8				SE8	砂岩 上臼 下面摺目 側面ビシャン仕上げ状凹凸	138-15

18世紀代であろう。第410図75に出土した鉄製銭貨11枚を示した。

第7号井戸跡 (第399・411図)

F7-E6グリッドの区画AEに位置し、第387号土壌より古い。西半分は調査区外である。

井筒は1個体分のみ遺存しており、上段は抜き取られていると考えられる。井筒中位に箍が2箇所みられる。掘り方は円形と推定され、断面は漏斗状を呈する。掘り方がすぼまる部分から井筒が検出されていることから最下段と推定される。

出粗遺物は少なく、肥前系磁器の広東碗、陶器の鉄釉鎬土瓶が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀後葉である。

第411図76～82に出土遺物を図示した。76は肥前系磁器の広東碗で、外面は蛸唐草文染付である。78は産地不詳陶器の鉄釉鎬土瓶である。把手には釣り手状に銅線が巻きつく。

第8号井戸跡 (第400～405・411図)

F7-F・G7グリッドの区画AFに位置する。井筒は3段検出されており、2段目は遺存状態が良好である。1段目は遺構確認面から突き出ており、側板の並びは崩れている。井筒の外側には、四方に杭が打たれており、杭同士をつなぐように、横板が渡され、枘形に四方を囲っている。また、外枠の東西面には細い竹材を縦に差し込み、壁面を補強している。類似する構造は、第6地点第3号井戸跡(『栗橋宿跡Ⅲ』)にみられる。

第110表 第二面溝跡一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	備考
13	AB	F7-B7・C6・7	(12.10)	0.25～0.40	0.10	N-74°-E	SK351より古 SE6・SK343と重複
14	AB	F7-B5	(1.50)	0.25	0.10	N-0°-E	SK512と重複
16	AE	F7-E7	5.90	0.55～0.70	0.65	N-40°-E	SE2より古 SD18と重複 SK471と隣接
17	AE	F7-E7・8	(3.40)	0.45～0.65	0.35	N-55°-E	SE2より古 SD18・SK434と重複 SK426と隣接
18	AE	F7-E7	(6.70)	0.50	0.25	N-72°-E	SK426より古 SD16・17・SK472と重複
21	AD/AE	F7-D7	7.60	0.30～0.50	0.10	N-72°-E	SK362より古

出土遺物は少なく、陶磁器は細片が多い。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。推定廃絶期は18世紀後半である。

第411図83～95に出土遺物を図示した。87は備前系陶器の角徳利である。19世紀の所産であり、混入と考えられる。

(4) 溝跡 (第412・413図)

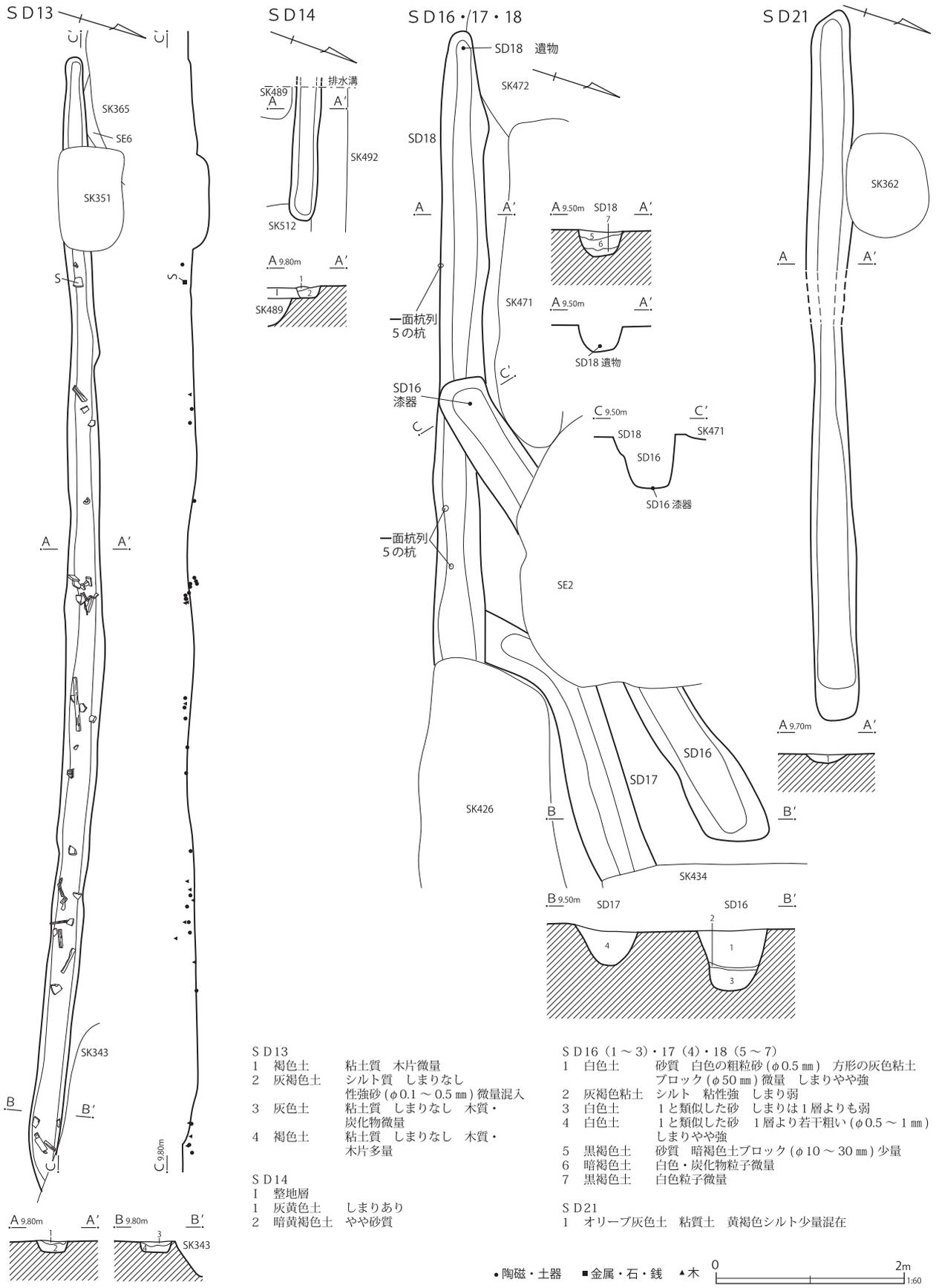
溝跡は6条検出された。第13・14・21号溝跡は日光道中に直交するように延びており、第一面で検出された区画施設に極めて近い位置に掘り込まれている。第一面より古い区画施設の一部を検出した可能性がある。第110表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

第13号溝跡 (第412・413図)

F7-B7、C6・7グリッドの区画ABに位置する。第351号土壌より古く、第6号井戸跡、第343号土壌と重複する。検出長は12.1m、幅0.25～0.4m、深さ0.1mを測る。両端が調査区外へ延びる前に途切れる浅い溝で、第一面の区画施設に平行・隣接することから、より古い時期の区画施設である可能性が高い。出土遺物は一定量あり、瀬戸美濃系磁器の端反形碗、陶器の青土瓶がみられることから推定廃絶期は19世紀中葉である。第413図1～9に出土遺物を示した。

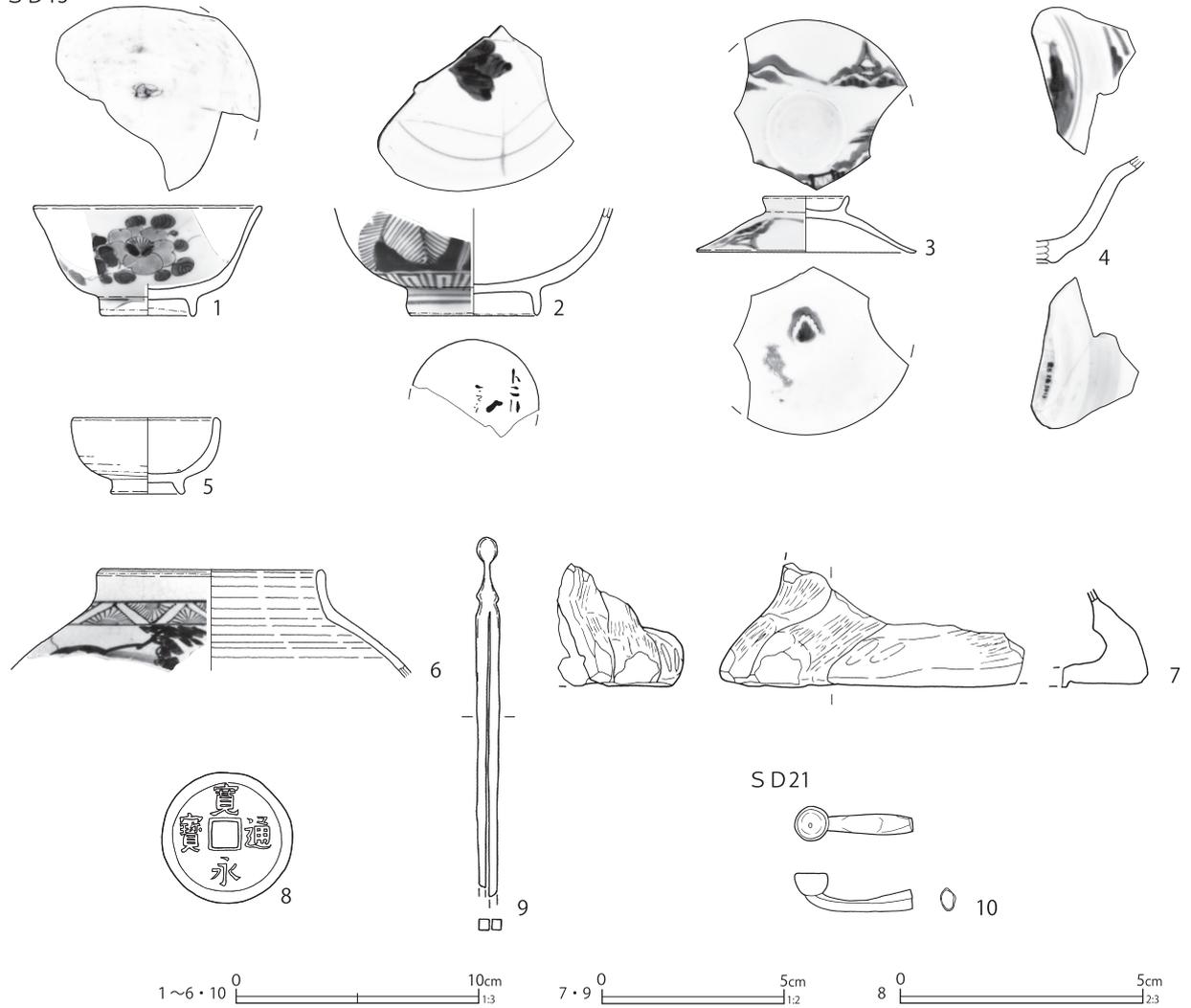
第14号溝跡 (第412図)

F7-B5グリッドの区画ABに位置し、第512号土壌と重複する。検出長1.5m、幅0.25m、



第412図 溝跡

SD13



第 413 図 溝跡出土遺物

第 111 表 溝跡出土遺物観察表 (第 413 図)

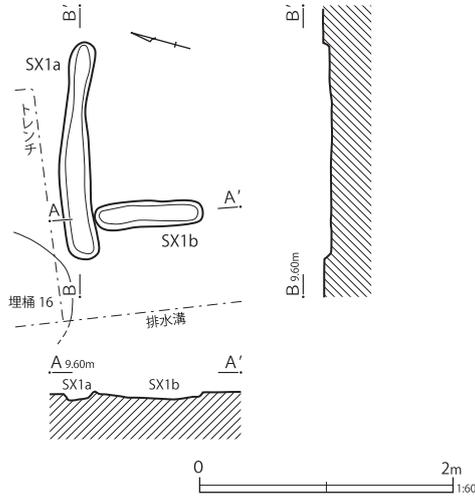
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(9.2)	4.5	3.8	—	20	普通	白	SD13	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・黒・緑・黄)	86-8
2	磁器	碗	—	[4.4]	(5.2)	—	10	良好	白	SD13	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕 高台内焼継印(赤)	
3	磁器	蓋	3.4	2.3	(8.9)	—	50	良好	白	SD13	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	鉢	—	[4.4]	—	—	5	普通	白	SD13	肥前系 外面青磁釉 内面施釉・染付 蛇の目凹形高台	
5	陶器	坏	5.8	3.1	2.8	EIK	60	良好	灰白	SD13	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面ピン痕 3箇所あり	
6	陶器	土瓶	(9.0)	[4.4]	—	K	5	良好	にぶい黄橙	SD13	外面白土染付・鉄絵・施釉	
7	土製品	人形	縦 [8.4] 横 [3.4] 高さ [3.4] 重量 33.3			AIK	—	良好	にぶい橙	SD13	江戸在地系 左右合二枚型成形 中空	
8	鉄製品	錢貨	径 26.8 厚さ 1.5 重さ 3.9							SD13	寛永通寶(新)	
9	骨製品	簪	長さ [10.0] 幅 0.6 厚さ 0.3 重さ 2.5							SD13	表面黒色塗付物付着	142-14
10	銅製品	煙管	長さ 4.9 火皿径 1.4 小口径 0.9×0.6 重さ 4.3							SD21	雁首 つぶれて変形	133-1

第 112 表 第二面性格不明遺構一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
SX1a	AE	F7-E6	長楕円形	1.20	0.25	0.05	N-75° -E	
SX1b	AE	F7-E6	長楕円形	0.85	0.20	0.05	N-15° -W	

SX1a・b



第 414 図 性格不明遺構

深さ 0.1 m を測る。浅く短い溝である。第一面の区画施設に平行・隣接することから、古い時期の区画施設である可能性が高い。遺構が浅いため、東側は検出されなかった可能性が考えられる。出土遺物は極めて少なく、年代を絞り込める陶磁器はみられなかった。推定廃絶期は不明である。

第 16 号溝跡 (第 412 図)

F 7-E 7 グリッドの区画 AE に位置する。第 2 号井戸跡より古く、第 18 号溝跡と重複する。検出長は 5.9 m、幅 0.55 ~ 0.7 m、深さ 0.65 m を測る。第 18 号溝跡の中央部から北東方向に延びている。遺構の性格は不明である。出土遺物は極めて少なく、非掲載遺物に京都信楽系陶器の半球碗がみられる。推定廃絶期は 18 世紀後半である。

第 17 号溝跡 (第 412 図)

F 7-E 7・8 グリッドの区画 AE に位置する。第 2 号井戸跡より古く、第 18 号溝跡、第 434 号土壙と重複する。検出長は 3.4 m、幅 0.45 ~ 0.65 m、深さ 0.35 m を測る。第 18 号溝跡東端

を起点に、クランクしながら北東方向へ延びている。遺構の性格は不明である。出土遺物はない。遺構の重複関係から、推定廃絶期は 19 世紀前葉以前である。

第 18 号溝跡 (第 412 図)

F 7-E 7 グリッドの区画 AE に位置する。第 426 号土壙より古く、第 16・17 号溝跡、第 472 号土壙と重複する。検出長は 6.7 m、幅 0.5 m、深さ 0.25 を測る。第一面で検出された区画施設と平行・隣接するが、遺構が深いため、区画施設であるか判断し得ない。遺構の性格は不明だが、第 16・17 号溝跡と接続していることから一連の遺構の可能性が疑われる。出土遺物は極めて少ない。推定廃絶期は 18 世紀前半以降である。

第 21 号溝跡 (第 412・413 図)

F 7-D 7 グリッドの区画 AD・AE にまたがって位置し、第 362 号土壙より古い。検出長は 7.6 m、幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.1 m を測る。浅い溝跡であるため、掘り込みは途中で途切れている。第一面の区画施設に重なる位置に掘り込まれていることから、古い時期の区画施設であると考えられる。出土遺物は極めて少なく、非掲載遺物に波佐見系磁器のくらわんか手碗、瀬戸美濃系陶器の腰鍔碗がみられる。推定廃絶期は 18 世紀前半である。第 413 図 10 に出土遺物の銅製煙管を図示した。

(5) 性格不明遺構 (第 414 図)

性格不明遺構は 2 基検出された。第 112 表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

溝状の掘り込みが「L」字状に配される。遺構は極めて浅く、覆土は確認することができなかった。一連の遺構である可能性を想定し、東西方向に延びる溝を a、南北方向に延びる溝を b とした。出土遺物はないため、遺構の時期は不詳である。

報 告 書 抄 録

ふりがな	くりはししゆくあと							
書名	栗橋宿跡VI							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第473集							
編著者名	水村 雄功							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2022(令和4)年3月22日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くりはししゆくあと 栗橋宿跡 (第8地点)	さいたまけんくきし 埼玉県久喜市 栗橋中央2丁 目3517-3 他	112321	011	36°08'26"	139°42'11"	20160401～ 20170331 20170401～ 20170930	5,226.00	堤防強化 記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
栗橋宿跡 (第8地点)	宿場跡	江戸時代	建物跡	6棟	陶磁器	町屋跡を調査した。 18世紀前葉の火災処理土壌を 検出した。 18世紀初頭の土壌を検出した。 18世紀前葉の火災層を検出し た。 浅間A降下軽石を検出した。		
			基礎状遺構	6基	土師質土器			
			埋設桶	20基	瓦質土器			
			埋設甕	1基	土製品			
			井戸跡	8基	瓦			
			杭列	4条	木製品			
			木樋	1基	金属製品			
			溝跡	28条	羽口			
			畠跡	3箇所	鉄滓			
			小鍛冶遺構	2基	石製品			
			性格不明遺構	2基	硝子製品(筭)			
			焼土遺構	9基	骨製品			
			土壌	484基	繊維製品			
			ピット	77基				
要 約	<p>栗橋宿跡は利根川右岸に立地する日光道中7番目の宿場街「栗橋宿」の町屋跡である。発掘調査で検出された遺構は19世紀後半以降を中心とする第一面、18世後半～19世紀前半の遺構を中心とする第二面、18世紀前半以前を中心とする第三面に分けられる。</p> <p>調査の結果、第一面では町屋の裏空間に立ち並ぶ土蔵跡と考えられる建物跡とそれらに平行する敷地境と考えられる杭列、溝跡、木樋が検出された。第3・7・8号埋設桶は自然科学分析の結果、便槽としての機能が示唆された。第二面では建物跡が少ない一方で、井戸跡や土壌が多く、第一面とは土地利用が異なっている。第三面では浅間A降下軽石に被覆されている畠跡が検出された。また、多量の羽口や鉄滓が出土し、小鍛冶遺構が検出されたことから鍛冶屋の存在が示唆された。調査区南側では、18世紀前葉に比定される火災層とその直下から18世紀初頭の土壌が検出された。また、18世紀前葉に遡る火災処理土壌が検出され、栗橋宿跡最古級の火災痕跡が認められた。</p> <p>遺物では、僅かなヨーロッパ産、中国産陶磁器類に加え、国産陶磁器が多く検出された。土器類では、江戸で生産されたものがみられたほか、江戸のものとは異なる在地の製品が多く認められた。加えて、18世紀の遺構からは常陸地域の製品が一定量見られ、大甕や火鉢、が確認された。土壌を中心に出土した多種多様な一括遺物は、近世宿場町の実態を示す良好な資料であり、特に18世紀前葉以前の遺構群から出土した遺物は栗橋宿跡の空白期間を埋める貴重な資料となった。</p>							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第473集

栗橋宿跡Ⅵ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第2分冊)

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社